

# 令和3年度男女共同参画に関する市民意識調査

調査結果報告書



令和4年3月

座間市



## 目 次

I. 調査概要 .....	1
II. 回答者の属性 .....	2
III. 集計分析結果 .....	7
1. 男女共同参画社会について .....	7
2. 仕事と家庭の両立について .....	31
3. 女性の活躍推進について .....	60
4. 性の多様性について .....	72
5. 男女の人権について .....	89
6. 新型コロナウイルス感染症拡大による生活環境の変化について .....	111
7. 男女共同参画社会に必要な施策について .....	123
自由記述 .....	127
調査票 .....	130



## I. 調査概要

### ◆調査の目的:

市民の男女共同参画についての意識や実態等を把握し、次期ざま共同参画プランの策定に伴う基礎資料として活用することを目的に、「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施。

### ◆調査対象: 令和3年11月1日時点、座間市在住の満18歳以上の男女個人3,000人

### ◆抽出方法: 住民基本台帳から無作為抽出

### ◆調査方法: 郵送によるアンケート形式(調査票郵送配布、郵送回収)

### ◆調査期間: 令和3年11月25日～12月20日

### ◆回答方式: 無記名、選択式(一部記入式)

### ◆回収数 : 1,180件(回収率39.3%)

### ◆集計結果の見方

- ① 図(グラフ)の中で使用されているアルファベット n は、その設問に対する回答者数、SAは単一回答方式の設問、MAは複数回答方式の設問をあらわす。
- ② 回答の比率(すべて百分率(%))で表示)は、その設問の回答者数を基数(件数)として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。

### ※概要数値の見方

数値はそれぞれ割合(%)を表示。基数の記述があるもの以外は有効回収数を基本としている(n=1,180)。

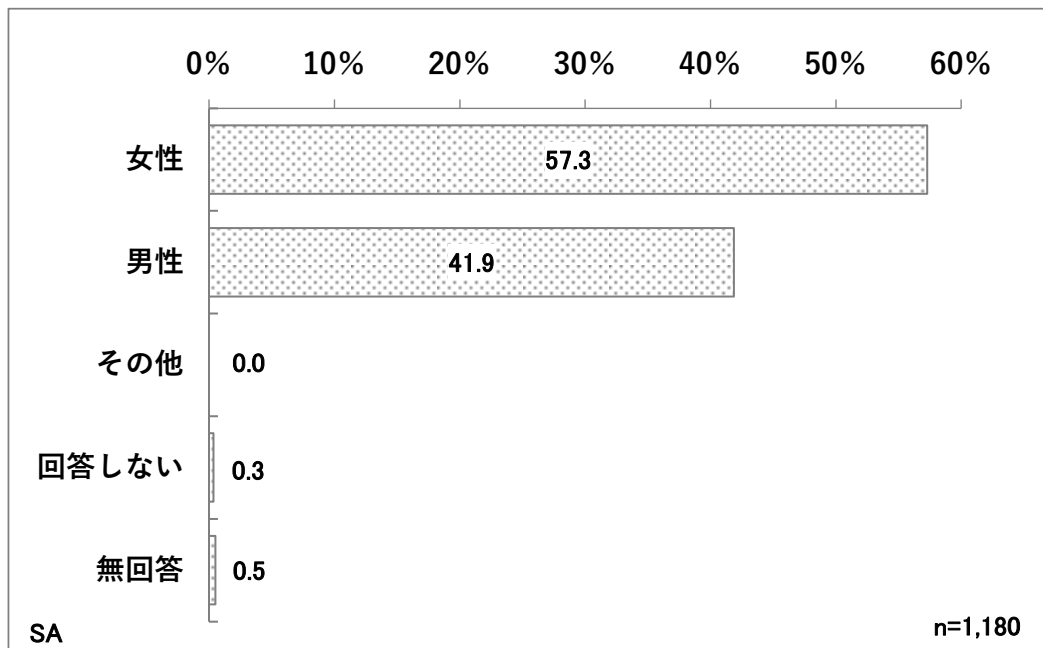
### お読みください

- ・ 報告書内の数字は、集計された数値の小数点以下第2位を四捨五入し、小数第1位まで表記しています。従って、グラフ・表内の数字を合計しても、100.0%にならないことがある。
- ・ 以前との比較や、合算(例えば“賛成” = 「賛成」「やや賛成」の合計値を算出する場合)などについては、元の数値(四捨五入されていない数値)を用いてExcelで算出している。このため、報告書掲載の数値(四捨五入した数値)で計算してみても、結果が合わないことがある。
- ・ サンプル数が20件未満のものについては、コメントの対象としない。

## Ⅱ. 回答者の属性

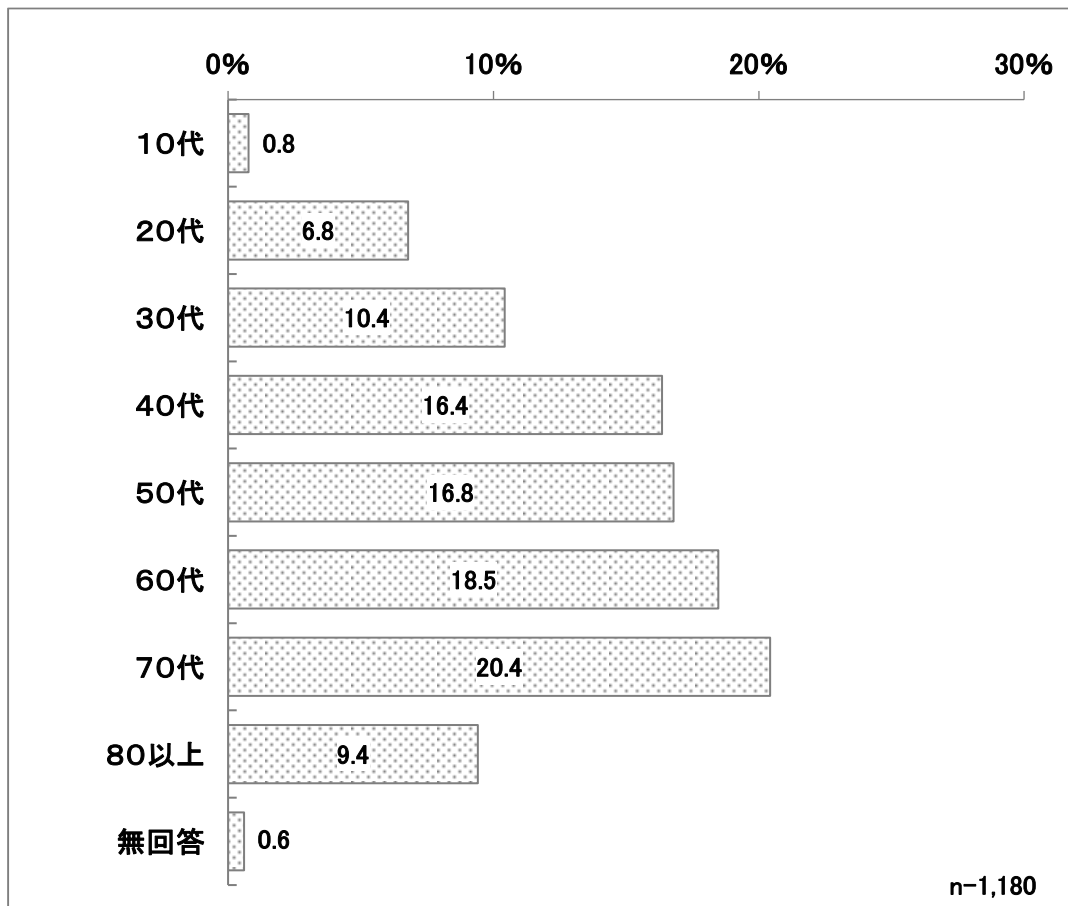
### 問1 性別

・女性（57.3%）が男性（41.9%）より15.4ポイント高い。



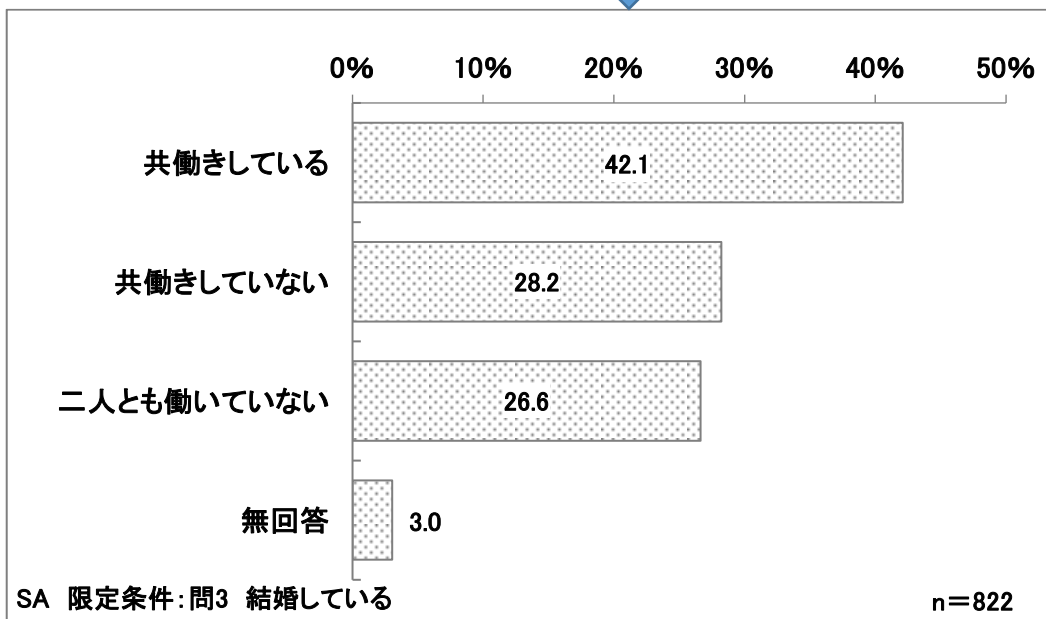
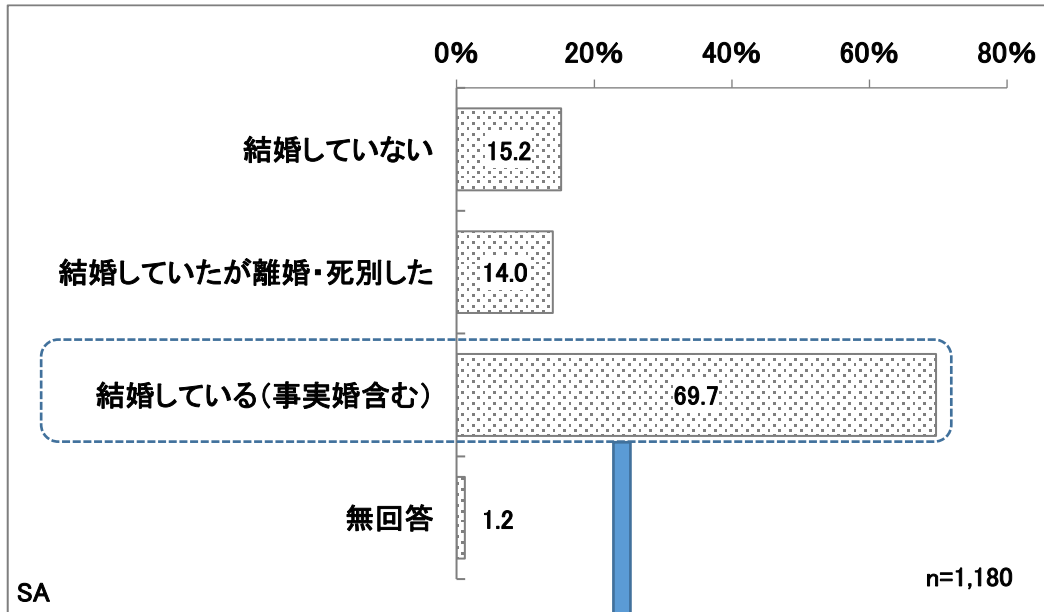
### 問2 年齢

・10歳階級別に見ると、最も多いのは「70代」（20.4%）、少ないのは「10代」（0.8%）である。



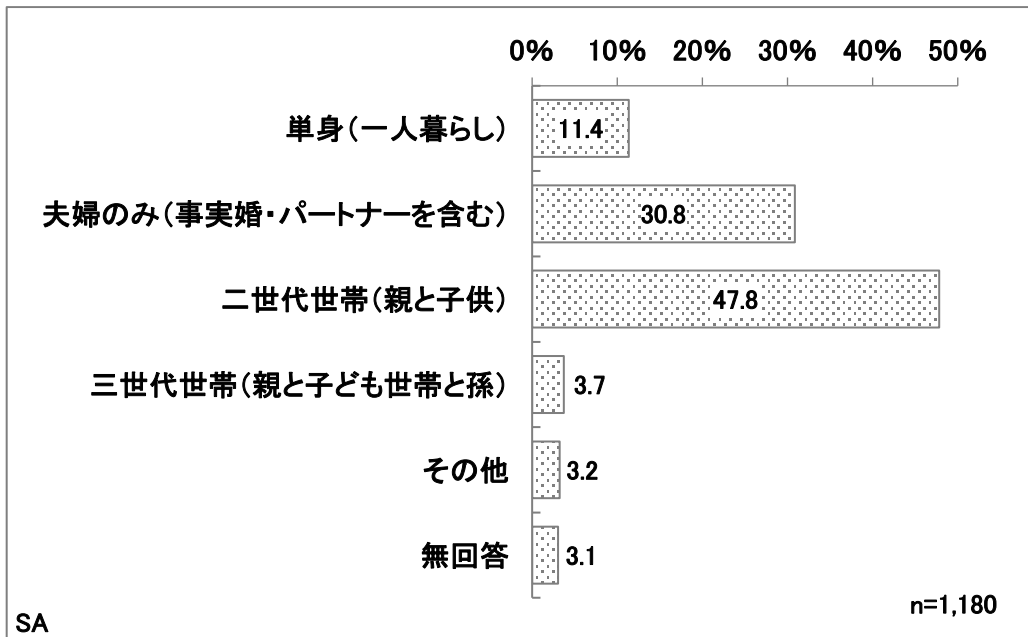
### 問3 結婚

- ・「結婚している（事実婚含む）」（69.7%）が最も多い。
- ・「結婚している（事実婚含む）」の内訳は、「共働きしている」（42.1）、「共働きしていない」（28.2%）、「二人とも働いていない」（26.6%）の順である。



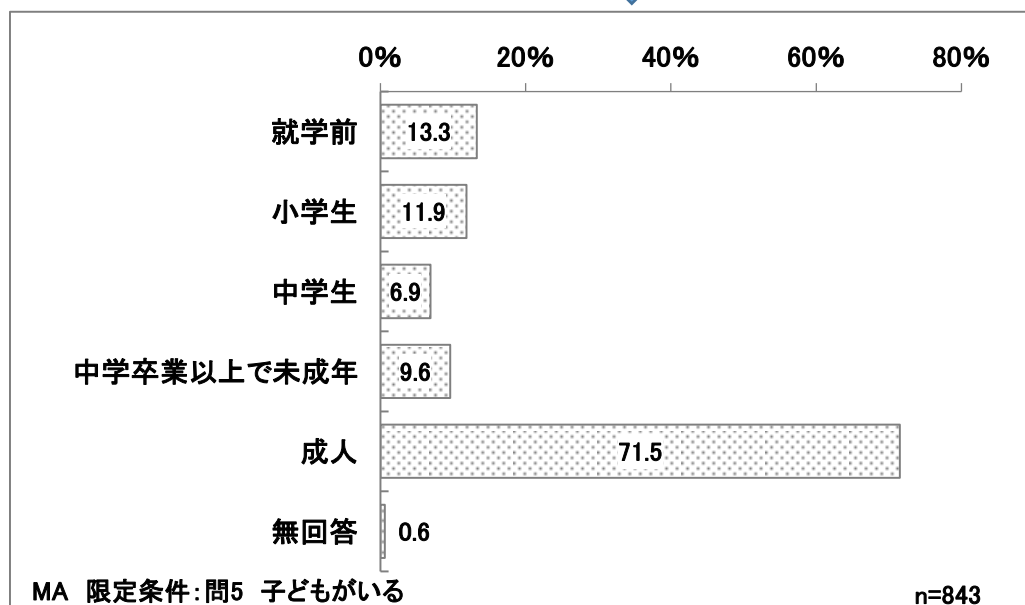
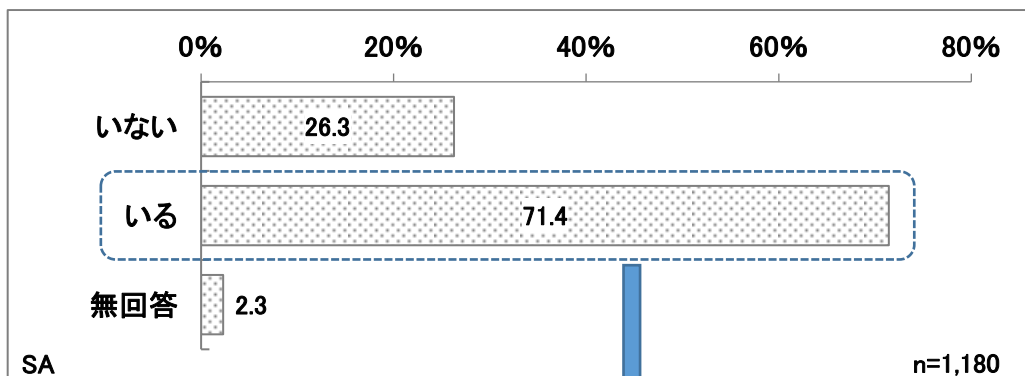
#### 問4 世帯構成

- ・「二世代世帯（親と子供）」（47.8%）が最も多く、次いで「夫婦のみ（事実婚・パートナーを含む）」（30.8%）、「単身（一人暮らし）」（11.4%）の順である。



#### 問5 子ども

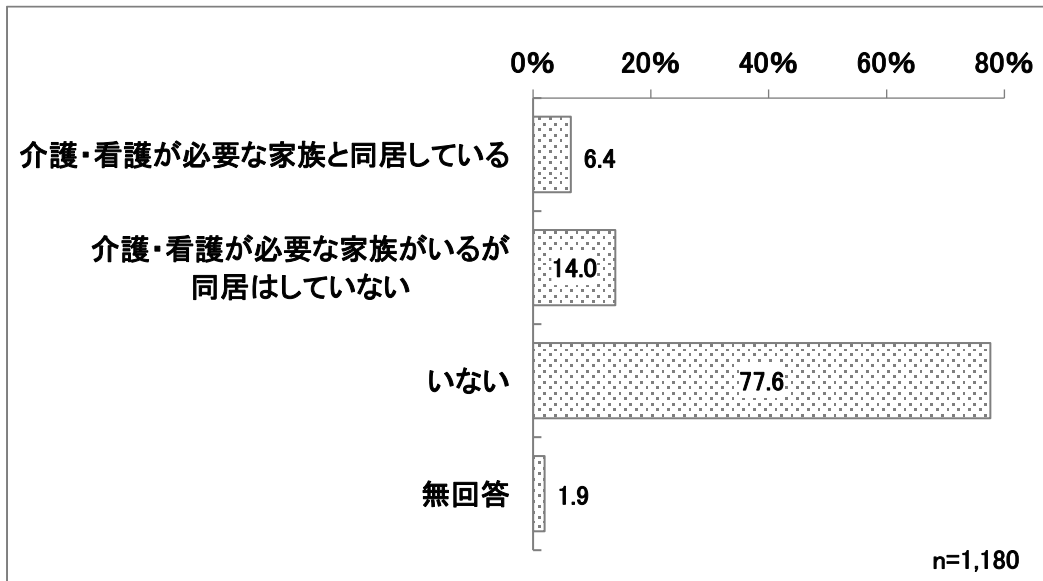
- ・子どもが「いる」（71.4%）が「いない」（26.3%）を上回っている。
- ・子どもの年齢区分は、「成人」（71.5%）が最も多い。





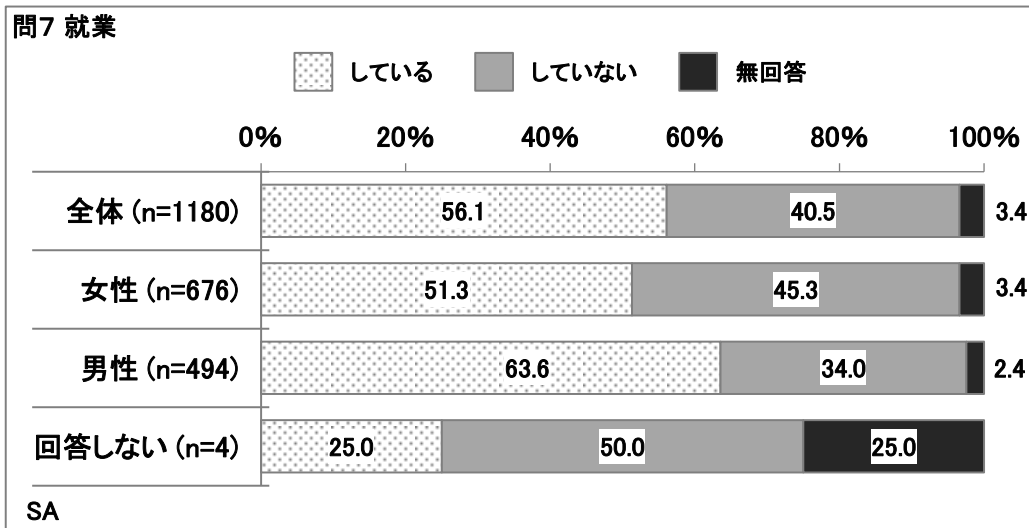
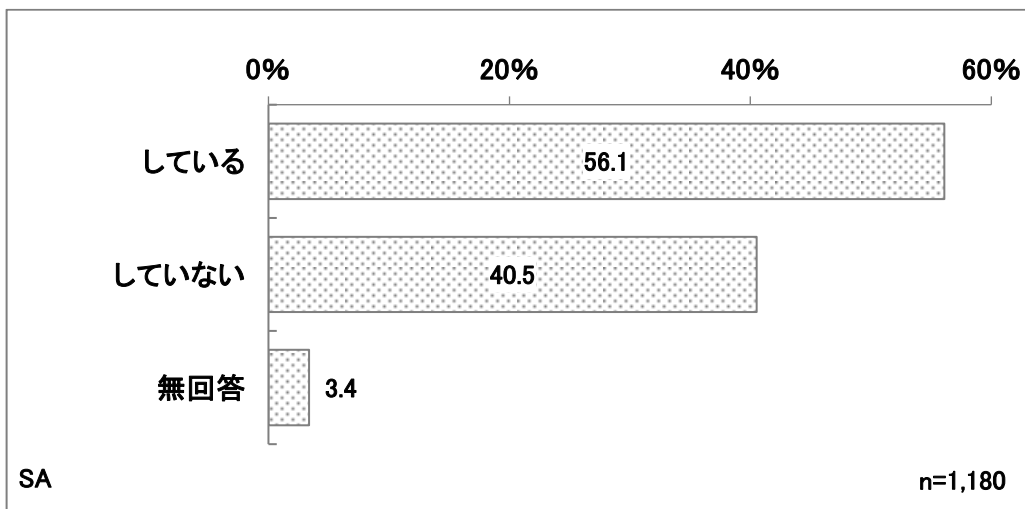
### 問6 介護・看護が必要な家族

- ・「いない」(77.6%)が最も多く、次いで「介護・看護が必要な家族がいるが同居はしていない」(14.0%)、「介護・看護が必要な家族と同居している」(6.4%)の順である。

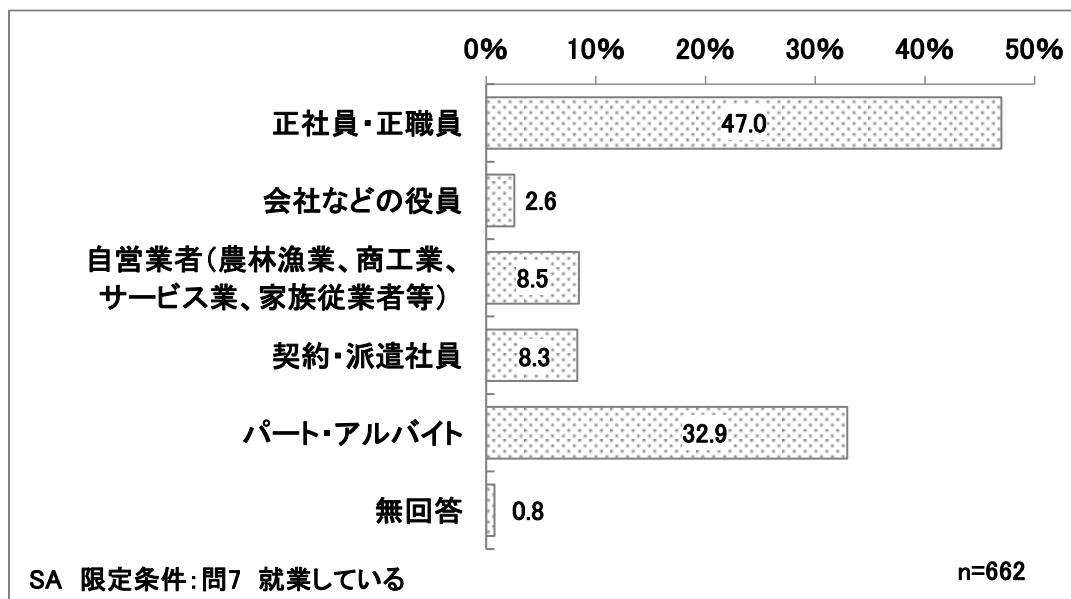


### 問7 就業

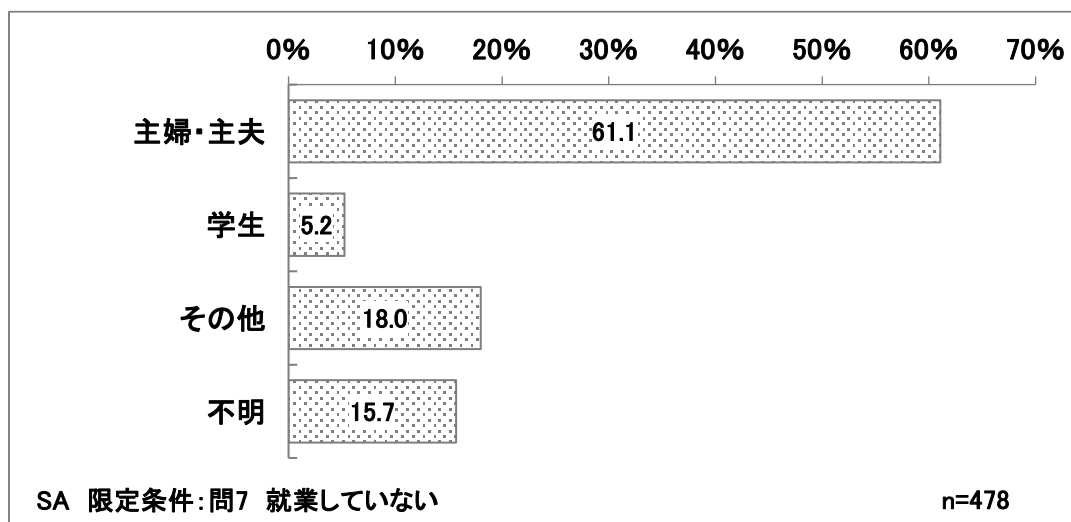
- ・「している」(56.1%)が「していない」(40.5%)を15.6ポイント上回っている。
- ・性別で見ると、女性は男性より「していない」が12.2ポイント高い。



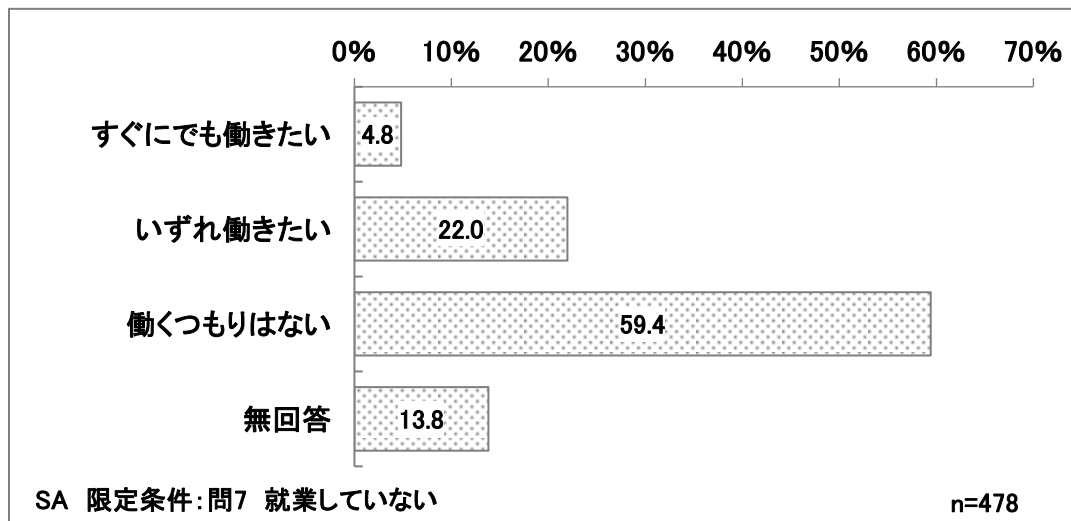
- ・就業している人の職種は「正社員・正職員」（49.5%）が最も多く、次いで「パート・アルバイト」（32.9%）が多い。



- ・就業していない人では「主婦・主夫」（61.1%）が最も多い。



- ・就業していない人の就業希望は、「働くつもりはない」（59.4%）、「いずれ働きたい」（22.0%）、「すぐにでも働きたい」（4.8%）の順である。

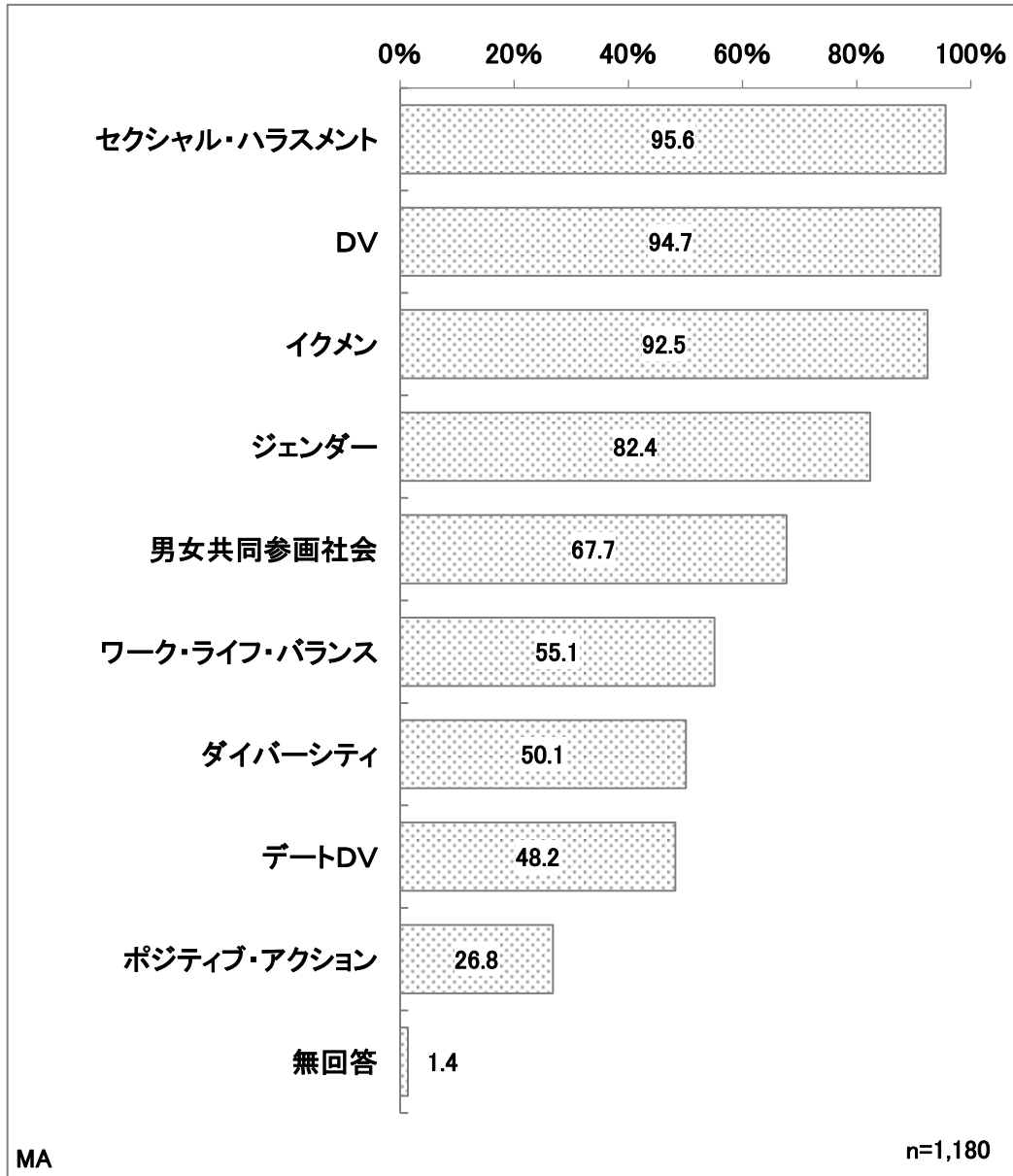


### Ⅲ. 集計分析結果

#### 1. 男女共同参画社会について

問8 次の言葉を知っているまたは、見たり、聞いたことがありますか。【〇は複数可】

・認知度が高い言葉は「セクシャル・ハラスメント」(95.6%)、「DV」(94.7%)、「イクメン」(92.5%)で、いずれも9割以上である。



## ■ 性年代別 問8言葉の認知度（複数回答）

- 「男女共同参画」以外はいずれの言葉も、男性女性ともに80代以上の認知度（知っている割合）以下同様）は他の年代に比べて低い。
- 「ジェンダー」は40代以下の女性と30代、40代の男性の認知度が全体より10ポイント以上高い。
- 「男女共同参画社会」は60代以上の男性の認知度が全体より10ポイント以上高く、40代女性の認知度は全体より10ポイント以上低い。
- 「SDGs」は30代女性と、20代以下及び40～60代の男性の認知度が全体より10ポイント以上高い。
- 「ワーク・ライフ・バランス」は20代以下女性、20代以下～50代男性の認知度が全体より10ポイント以上高い。
- 「ダイバーシティ」は50代女性、60代以下の男性の認知度が全体より10ポイント以上高い。
- 「デートDV」は30代以下女性と20代以下男性の認知度が全体より10ポイント以上高い。
- 「ポジティブ・アクション」は70代女性と50代男性の認知度が全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問8 次の言葉を知っているまたは、見たり、聞いたことがあるか	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
セクシャル・ハラスメント	95.6	0.9	-0.5	-45.6	2.6	4.4	4.4	4.4	1.9	0.5	-17.7	1.3	4.4	3.2	0.2	0.2	-3.7	-7.5		
DV	94.7	0.7	-0.4	-19.7	5.3	5.3	5.3	5.3	0.3	0.6	-22.7	-1.0	2.4	4.0	-1.1	1.1	-2.9	-6.7		
イクメン	92.5	3.0	-3.2	-17.5	7.5	5.3	7.5	6.6	2.6	1.3	-13.0	-11.2	4.7	7.5	2.2	-3.9	-7.8	-23.4		
ジェンダー	82.4	0.2	0.8	-32.4	12.3	14.2	11.2	9.9	-1.2	-8.7	-41.2	-1.1	11.9	10.3	7.0	2.0	-8.5	-15.7		
男女共同参画社会	67.7	-5.0	7.8	-67.7	3.7	-5.2	-18.2	-7.1	-2.1	3.6	-8.9	1.0	-4.9	-6.7	8.9	15.6	14.3	13.2		
SDGs	62.1	-5.3	7.9	12.9	0.4	16.3	3.9	8.1	-1.5	-24.9	-43.0	12.9	6.5	17.1	18.7	16.0	-2.7	-26.4		
ワーク・ライフ・バランス	55.1	-2.0	3.6	-30.1	19.9	6.3	-3.7	1.6	-8.4	-3.9	-18.3	16.8	22.1	12.0	15.1	3.2	-12.7	-17.0		
ダイバーシティ	50.1	-5.6	8.2	-25.1	1.7	4.5	5.9	10.5	-0.9	-26.1	-36.8	15.5	15.6	18.2	21.2	12.4	-9.5	-14.4		
デートDV	48.2	7.1	-8.9	-23.2	28.6	10.9	5.9	9.5	0.1	6.0	-2.6	11.2	-13.9	0.6	-0.3	-17.0	-15.8	-19.6		
ポジティブ・アクション	26.8	1.0	-0.9	-26.8	-8.9	-10.9	-3.8	5.0	5.2	11.2	-0.3	-17.4	-1.1	0.0	10.5	-7.0	-1.6	1.8		
無回答	1.4	-0.0	-0.5	23.6	-1.4	-1.4	-1.4	-1.4	-0.5	-0.6	8.9	-1.4	-1.4	-1.4	-0.3	-1.4	0.4	1.0		

## ■ お子さんの年齢区分、職種、未就業者内訳別 問8言葉の認知度（複数回答）

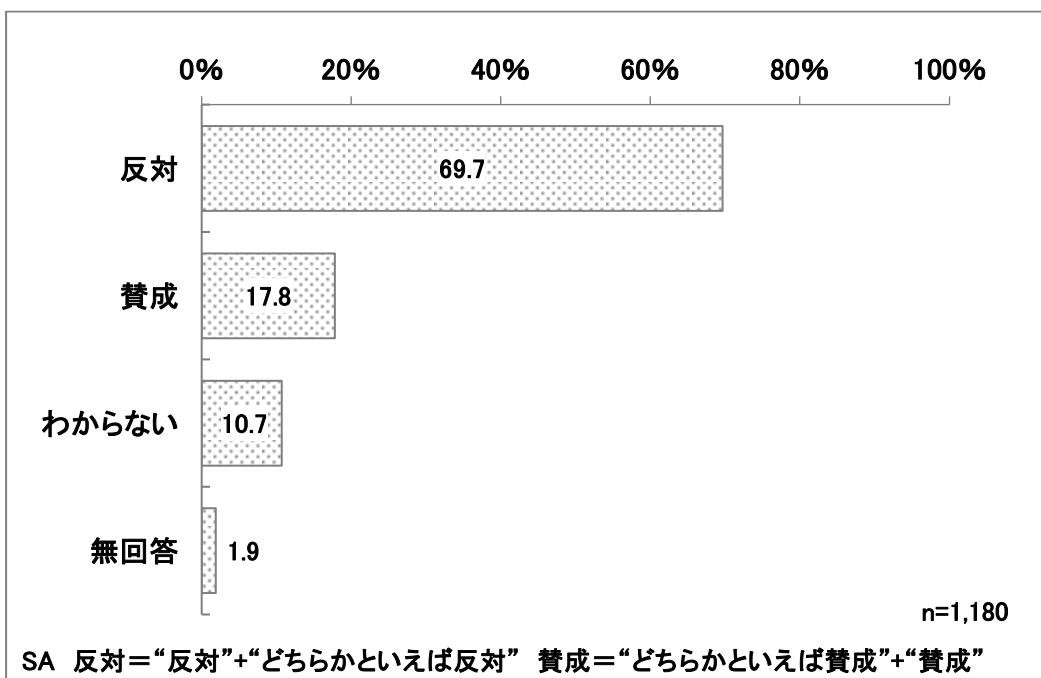
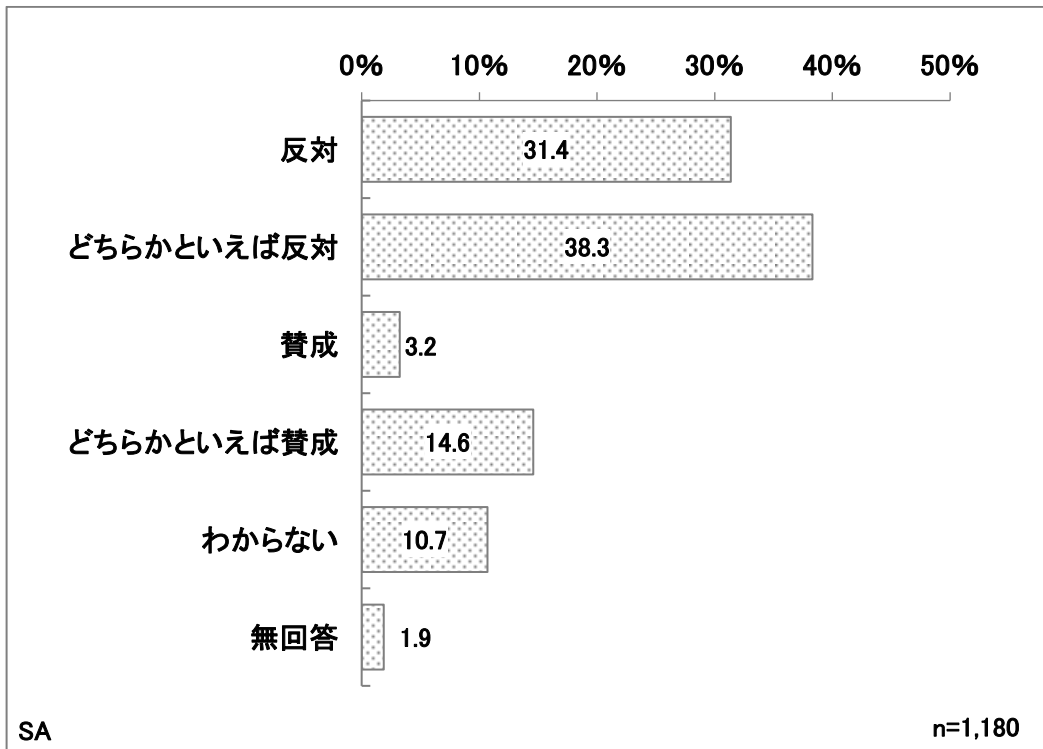
- ・「ジェンダー」は、就学前～中学卒以上で未成年までの子どもがいる人と、学生で全体より10ポイント以上高い。
- ・「SDGs」は、小学生、中学生の子どもがいる人、正社員・正職員、契約・派遣社員、学生で全体より10ポイント以上高く、主婦・主夫では10ポイント以上低い。
- ・「ワーク・ライフ・バランス」は、就学前の子どもがいる人、正社員・正職員、契約・派遣社員、学生で全体より10ポイント以上高い。
- ・「ダイバーシティ」は、小学生、中学生の子どもがいる人、正社員・正職員、契約・派遣社員、学生で全体より10ポイント以上高く、主婦・主夫では10ポイント以上低い。
- ・「デートDV」は中学生の子どもがいる人、学生で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問8 次の言葉を知っているまたは、 見たり、聞いたことがあるか	全体 (%)	お子さんの年齢区分					職種				未就業者			
		就学 前	小学 生	中学 生	中学 卒以上 で未成 年	成人	正社 員 正職 員	自営 業	契約 派遣 社員	パート アルバ イト	主婦 主夫	学生	その他	不明
n=	1,180	112	100	58	81	603	328	56	55	218	292	25	86	75
セクシャル・ハラスメント	95.6	4.4	3.4	2.7	1.9	-0.4	2.6	-1.0	4.4	1.2	0.3	4.4	-0.2	-8.9
DV	94.7	5.3	5.3	5.3	2.8	-1.4	2.8	-1.9	3.4	3.0	-0.6	5.3	-0.6	-8.1
イクメン	92.5	6.6	7.5	7.5	7.5	-1.6	4.5	-6.7	3.9	4.3	-0.7	3.5	-4.1	-9.8
ジェンダー	82.4	10.5	3.6	10.7	1.5	-6.1	9.4	1.6	8.5	3.4	-6.0	17.6	-1.0	-19.7
男女共同参画社会	67.7	-4.3	-10.7	-9.1	-8.5	2.8	3.6	-1.6	6.8	-8.1	0.8	0.3	6.7	7.0
SDGs	62.1	6.6	4.9	15.5	9.5	-6.9	15.9	-8.5	23.3	-0.7	-10.4	25.9	-2.8	-24.8
ワーク・ライフ・バランス	55.1	11.9	5.9	3.5	-0.8	-6.5	16.0	3.8	12.2	-6.9	-7.1	16.9	-14.4	-11.1
ダイバーシティ	50.1	8.8	1.9	17.2	10.4	-7.0	15.8	-3.7	24.5	-3.8	-10.4	25.9	-9.4	-16.8
デートDV	48.2	1.8	4.8	13.8	7.3	-3.4	-0.0	3.6	6.3	5.4	-2.3	15.8	-5.2	-8.2
ポジティブ・アクション	26.8	-3.6	-6.8	-6.1	-2.1	4.1	-0.3	0.0	7.8	-1.6	2.0	-6.8	-1.2	-0.1
無回答	1.4	-1.4	-1.4	-1.4	-1.4	-0.2	-1.4	-1.4	-1.4	-1.4	-0.7	-1.4	1.0	2.6

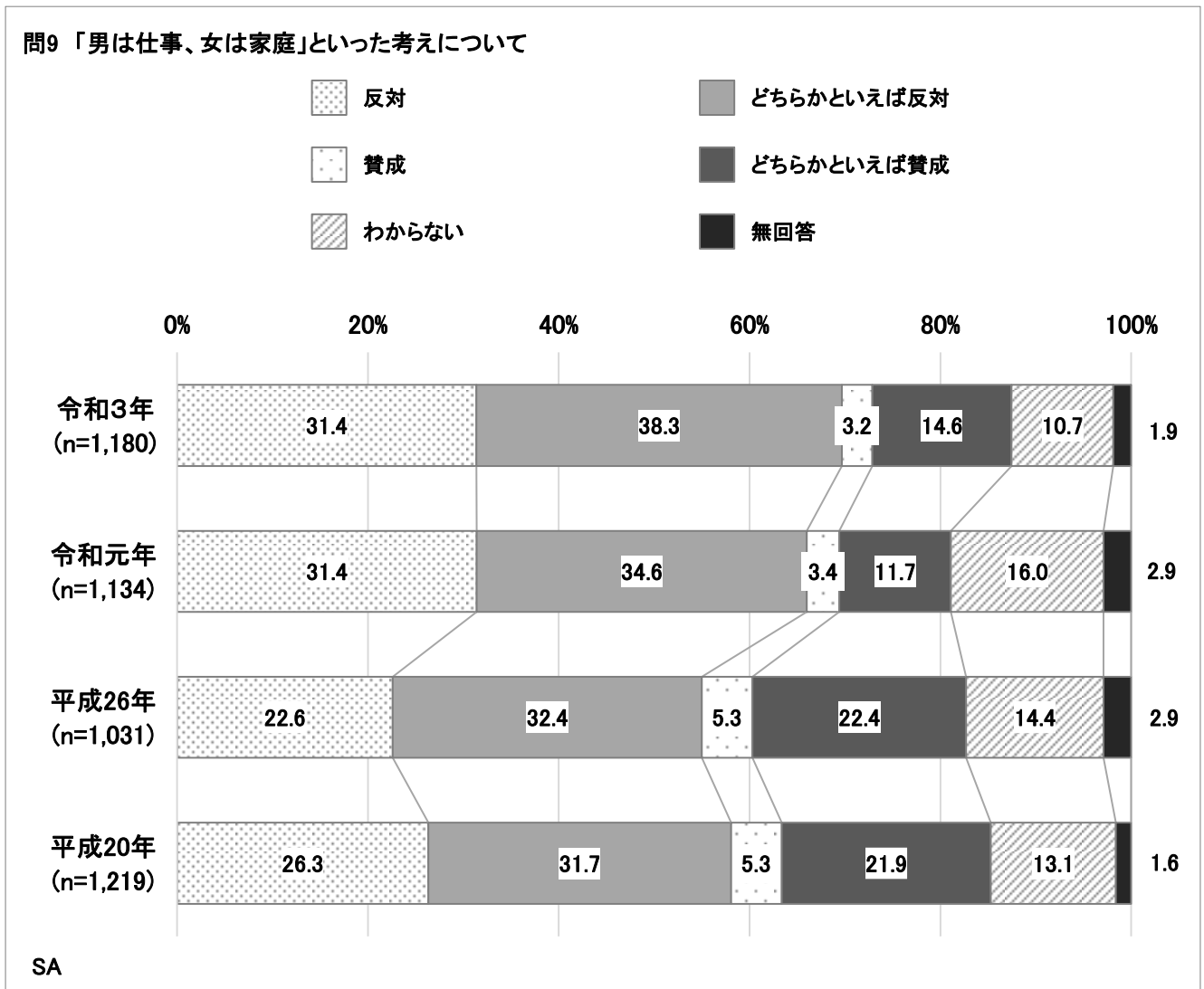
問9 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて、あなたはどのように考えますか。【〇は1つ】

- ・「どちらかといえば反対」(38.3%)が最も多く、次いで「反対」(31.4%)が多い。
- ・「反対」「どちらかといえば反対」を合わせると69.7%、「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると17.8%である。



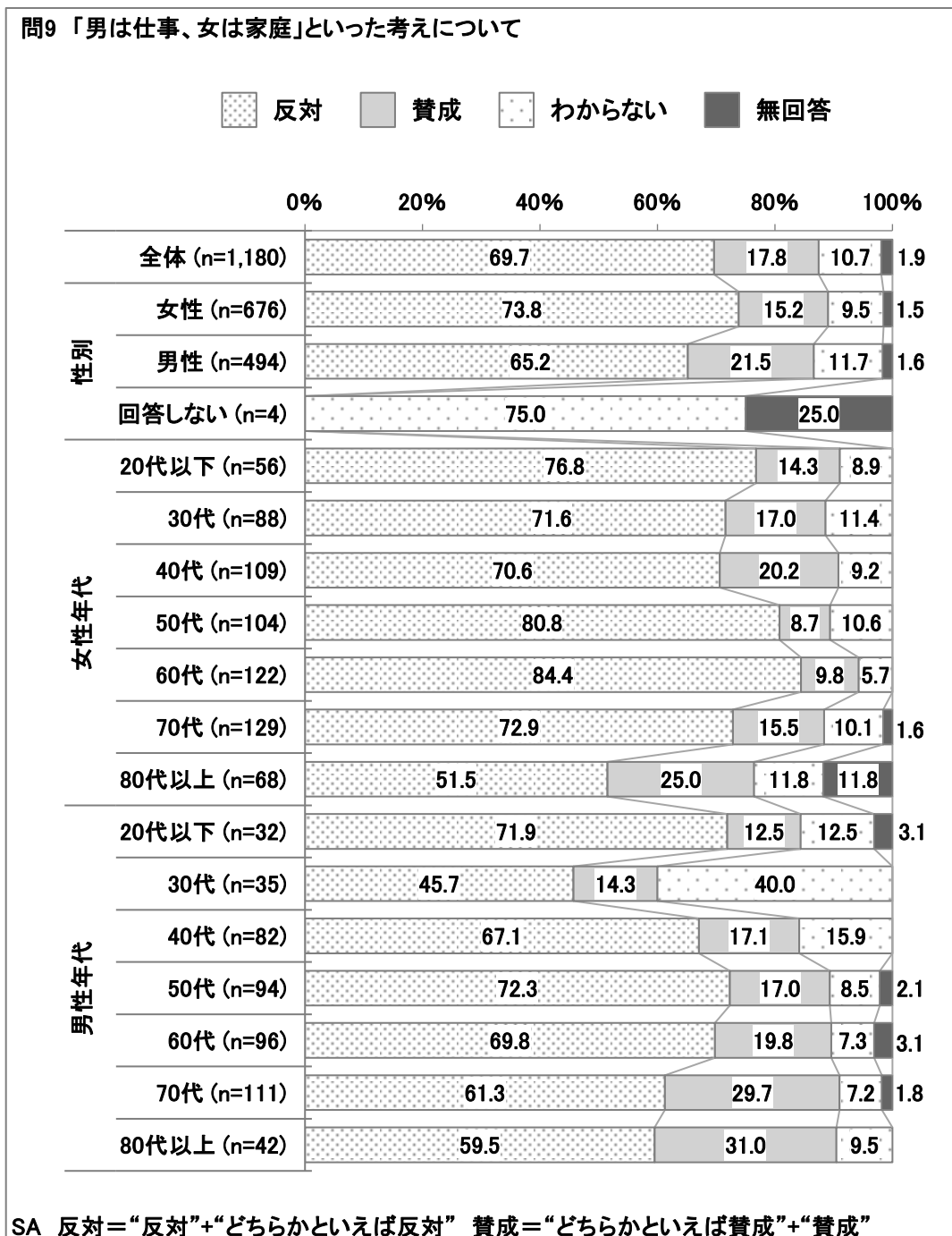
### <以前との比較>

- ・「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”を見ると、平成26年以降増加傾向にあり、特に平成26年から令和元年間での増加が顕著である。「どちらかといえば賛成」と「賛成」を合わせた“賛成”は平成26年と令和元年間で10.7ポイント減少したが、令和元年から令和3年には2.7ポイント増加している。



■ 性年代別 問9「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

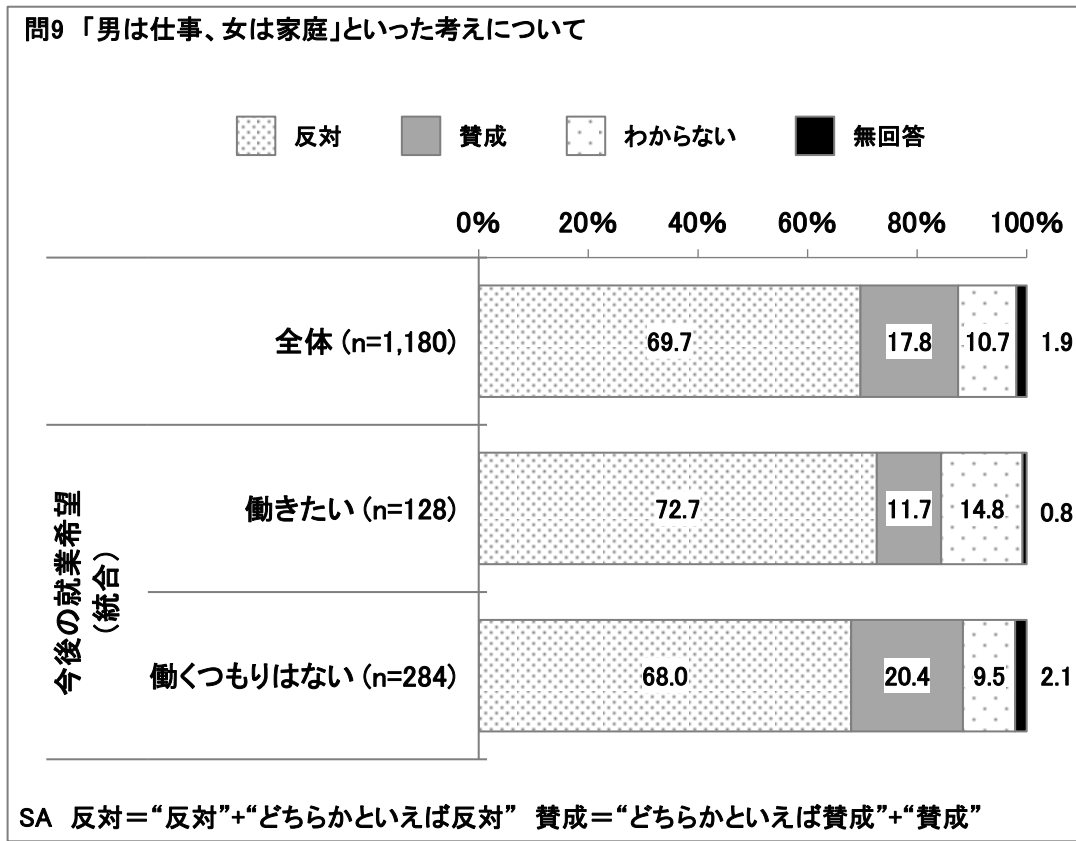
- ・性別に見ると、女性は“反対”が全体より高く、男性は“反対”が全体より低い。
- ・性年代別に見ると、女性の50代・60代で“反対”が全体より10ポイント以上高く、80代の女性は全体より10ポイント以上低い。また、男性の30代は“反対”が全体より10ポイント以上低く、70代以上の男性は“賛成”が全体より10ポイント以上高い。





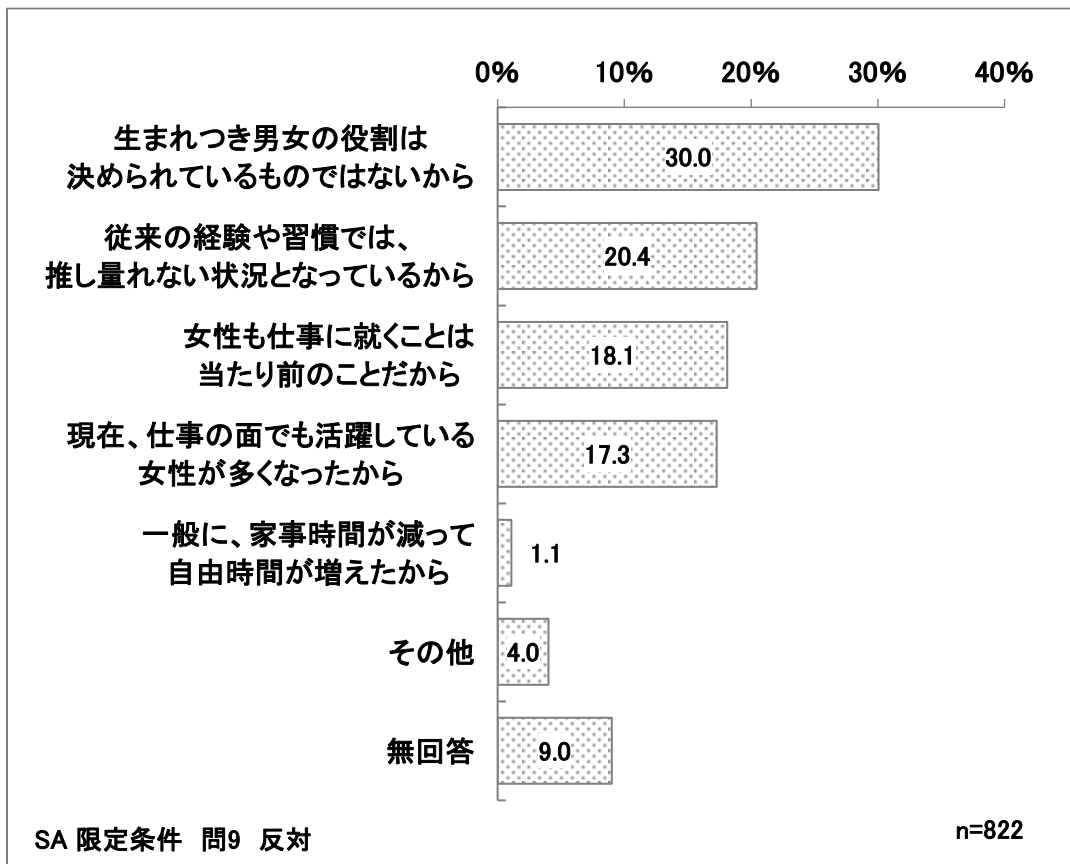
■ 今後の就業希望別 問9「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

- ・ 未就業者の今後の就業希望別に見ると、今後働くつもりはない人は、今後働きたい人より“賛成”が8.7ポイント高い。



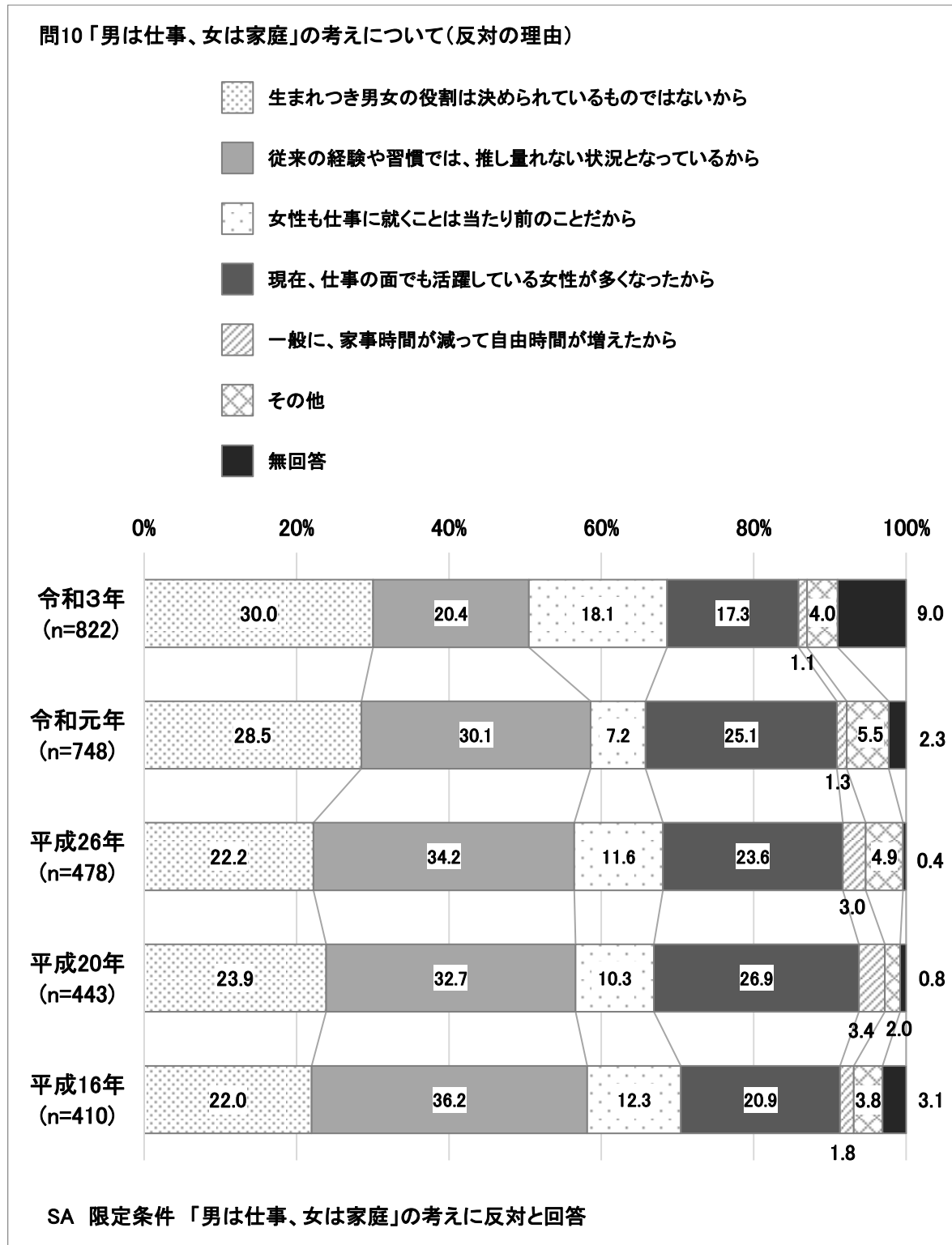
問10 問9で「1 反対」または「2 どちらかといえば反対」を選択された方に伺います。その理由は次のどれですか。【〇は1つ】

- ・反対の理由は、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」(30.0%)が最も多く、次いで「従来の経験や習慣では、押し量れない状況となっているから」(20.4%)が多い。



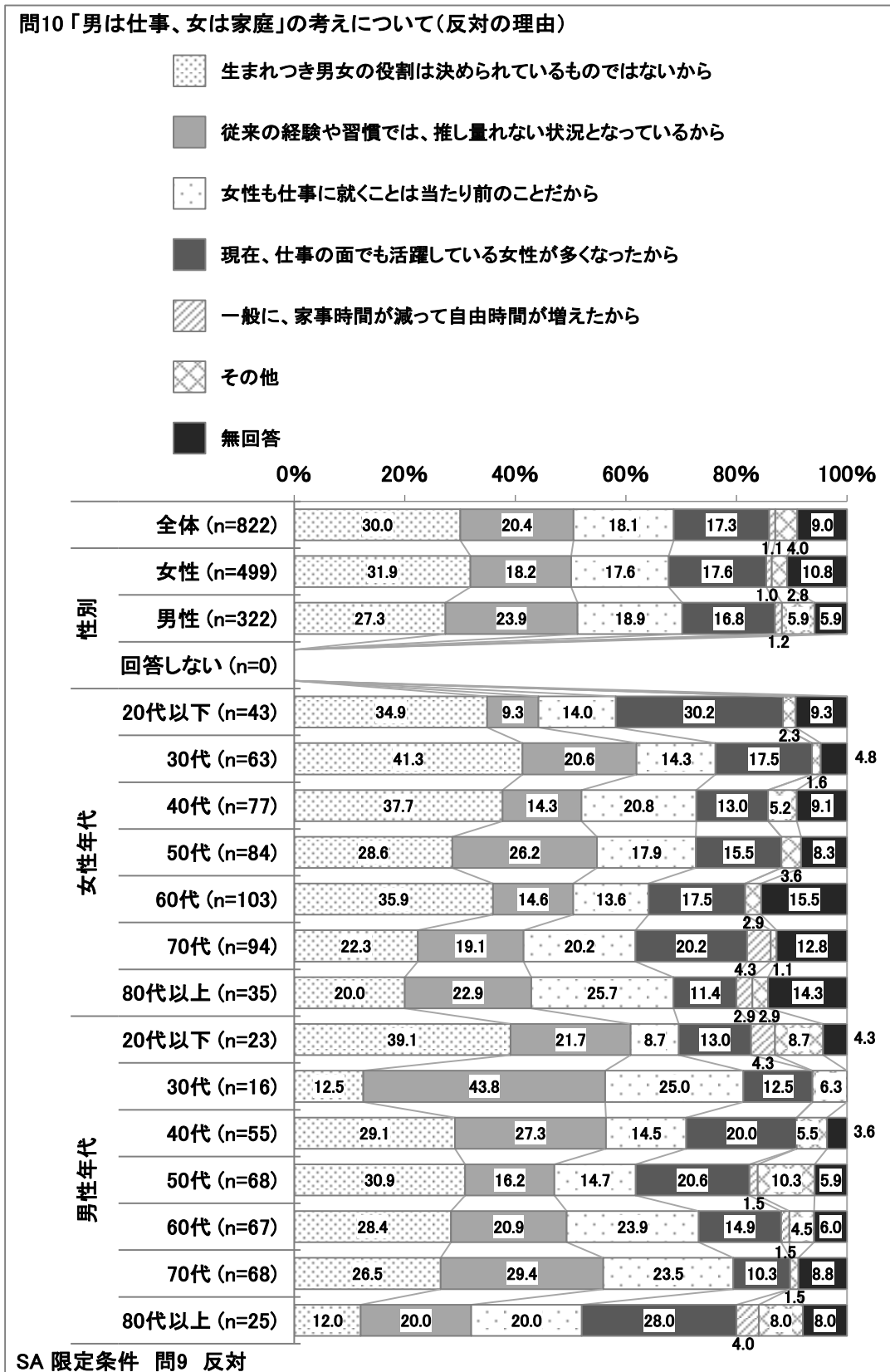
## <以前との比較>

・平成16年から令和元年までは「従来の経験や習慣では、押し量れない状況となっているから」が最も多かったが、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」が増加傾向で、令和3年には第1位となった。また、令和3年では「女性も仕事に就くことは当たり前のことだから」が令和元年に比べて10.9ポイント増加している。



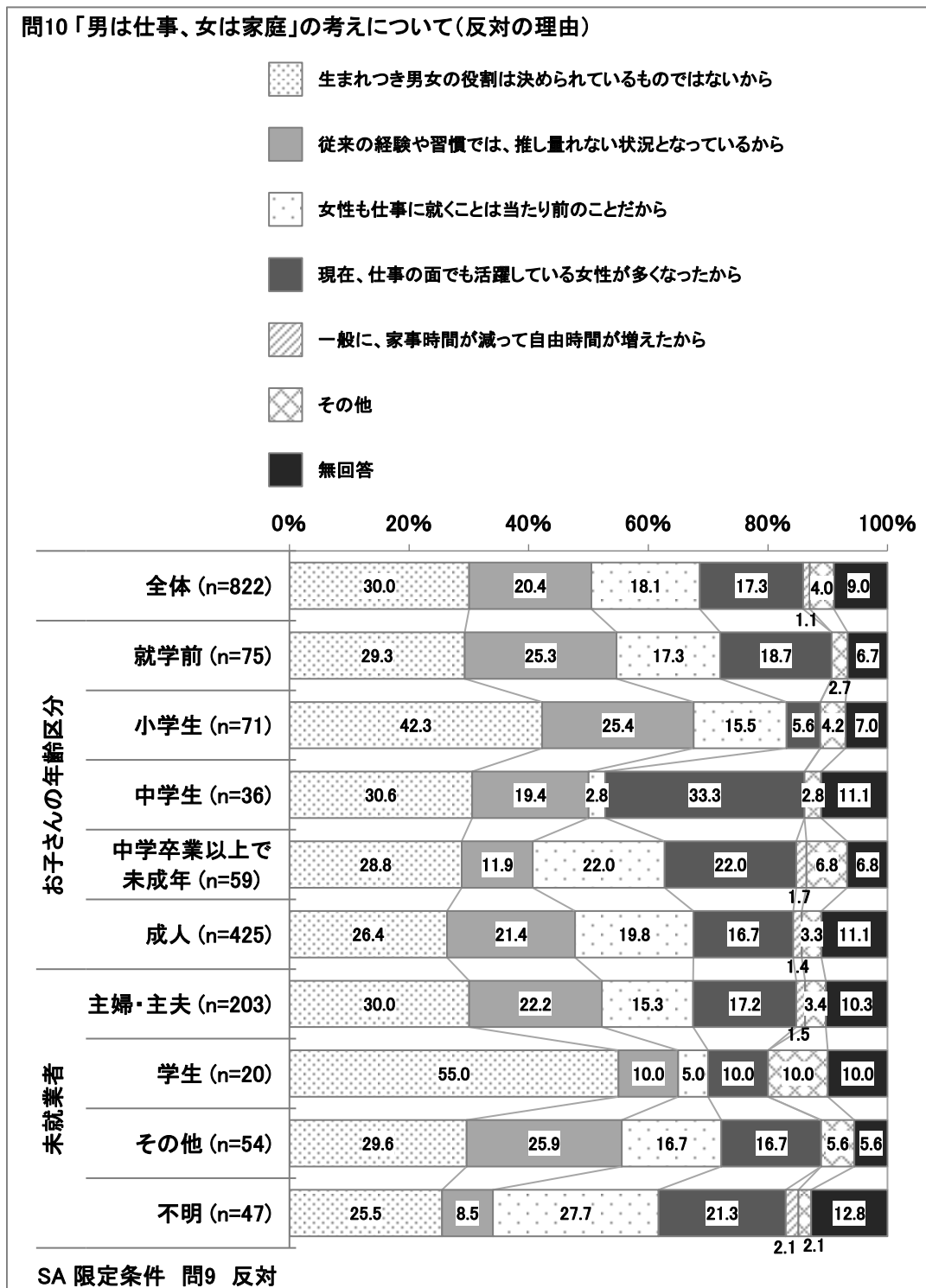
■ 性年代別 問10「男は仕事、女は家庭」の考えについて（反対の理由）

- ・「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の30代、80代以上で低い。
- ・「従来の経験や習慣では、推し量れない状況となっているから」は、男性の30代で全体より10ポイント以上高く、女性の30代で低い。
- ・「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」は、女性の20代以下と男性の80代以上で全体より10ポイント以上高い。



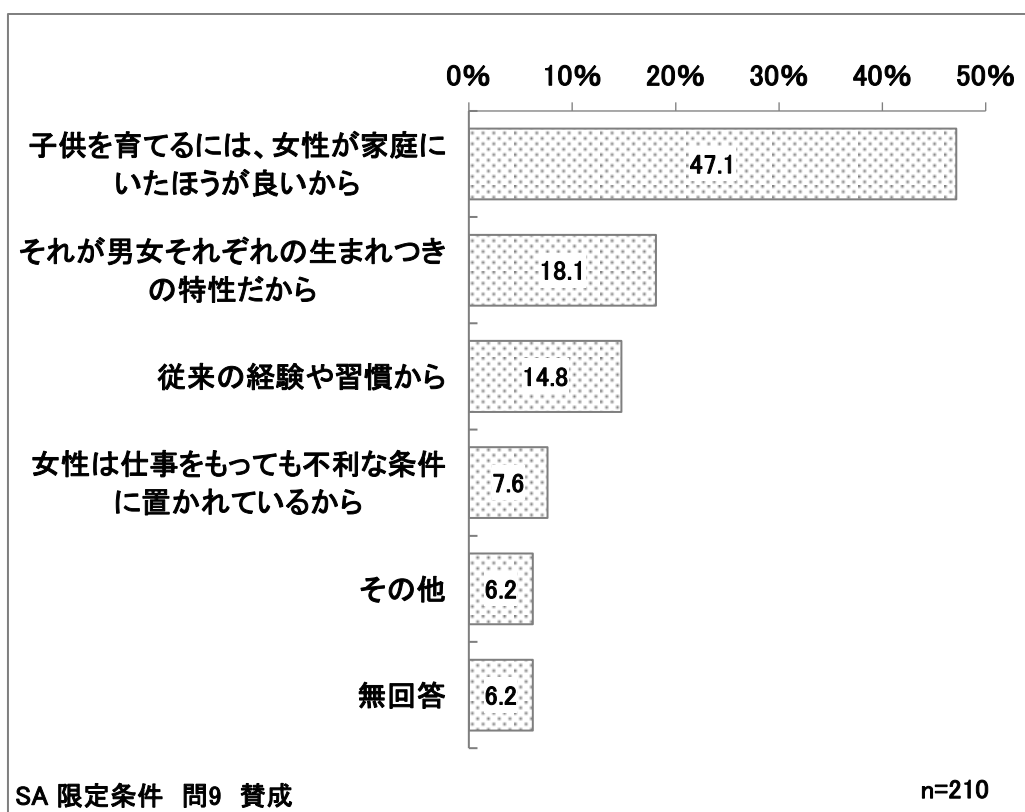
■ お子さんの年齢区分、未就業者内識別 問10「男は仕事、女は家庭」の考えについて（反対の理由）

- ・「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」は、小学生の子どもがいる人、学生で全体より10ポイント以上高い。
- ・「従来の経験や習慣では、押し量れない状況となっているから」は、学生で全体より10ポイント以上低い。
- ・「女性も仕事に就くことは当たり前のことだから」は中学生の子どもがいる人と、学生で全体より10ポイント以上低い。
- ・「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」は、中学生の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、小学生の子どもがいる人で低い。



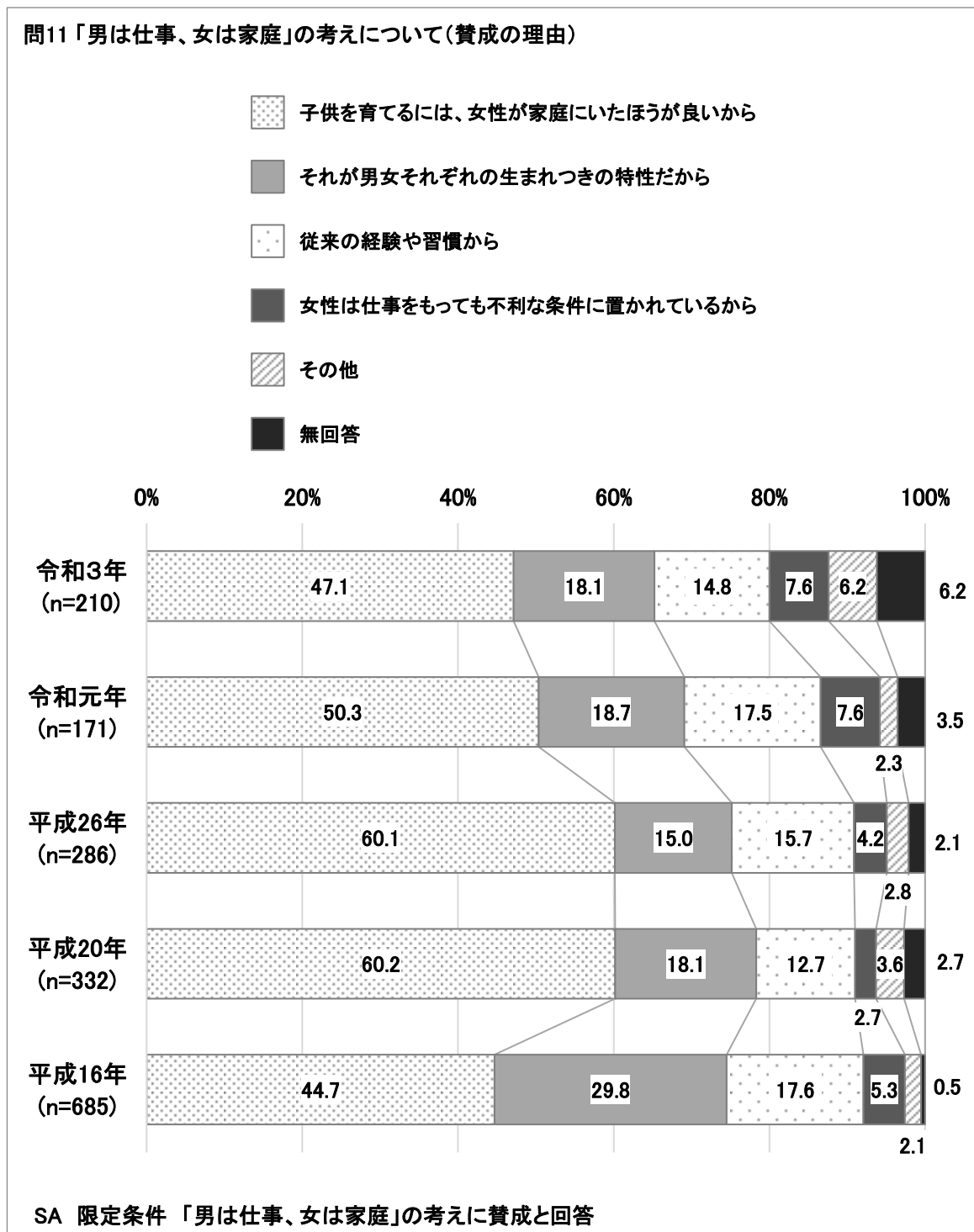
問11 問9で「3 賛成」または「4 どちらかといえば賛成」を選択された方に伺います。その理由は次のどれですか。【〇は1つ】

- ・「子供を育てるには、女性が家庭にいたほうが良いから」（47.1%）が最も多い。次いで「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」（18.1%）が多い。



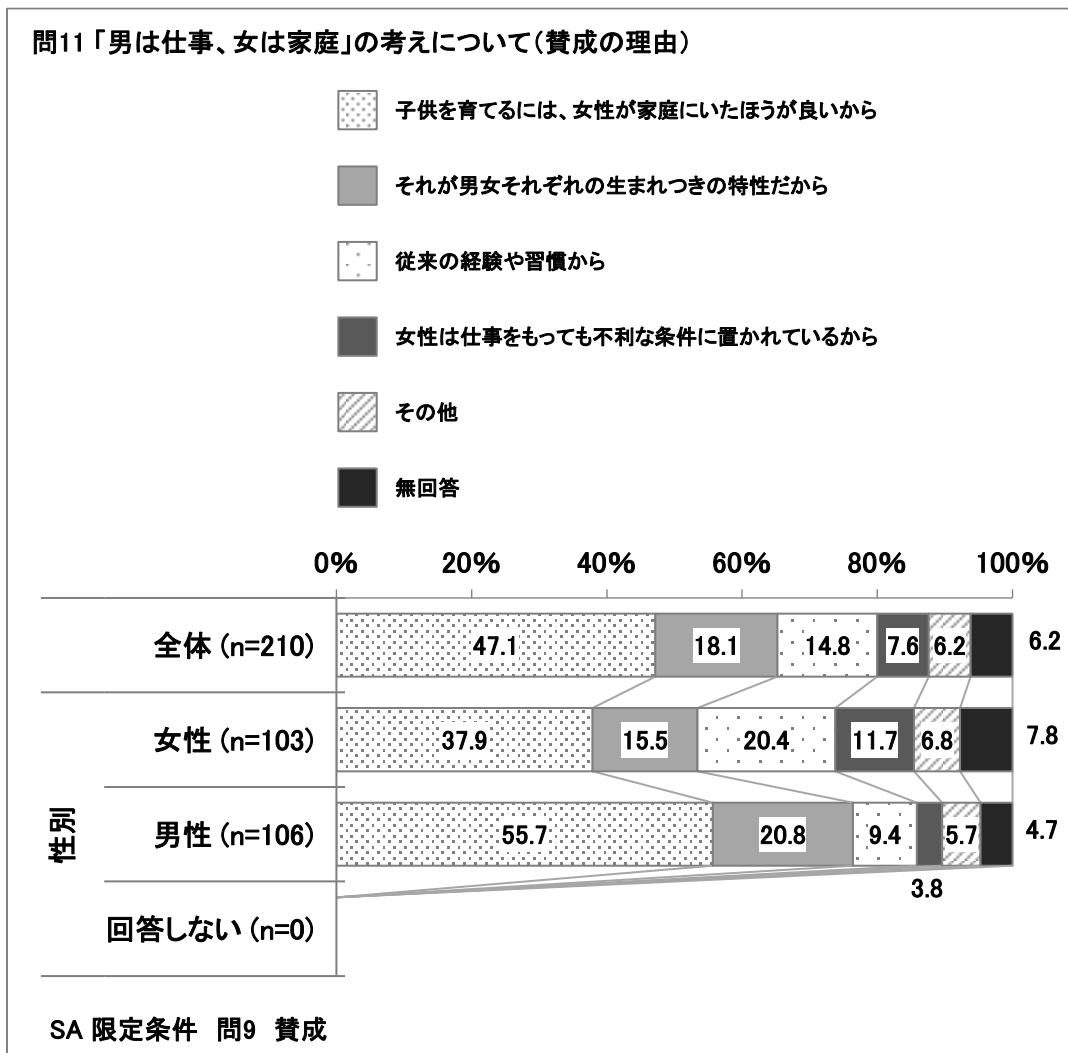
## <以前との比較>

- ・「子供を育てるには、女性が家庭にいたほうが良いから」は平成 16 年以降継続して第 1 位であるが、平成 20 年以降は減少傾向である。第 2 位の「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」は、平成 16 年から平成 20 年で 11.7 ポイント減少し、そのまま推移している。



■ 性別 問11「男は仕事、女は家庭」の考えについて（賛成の理由）

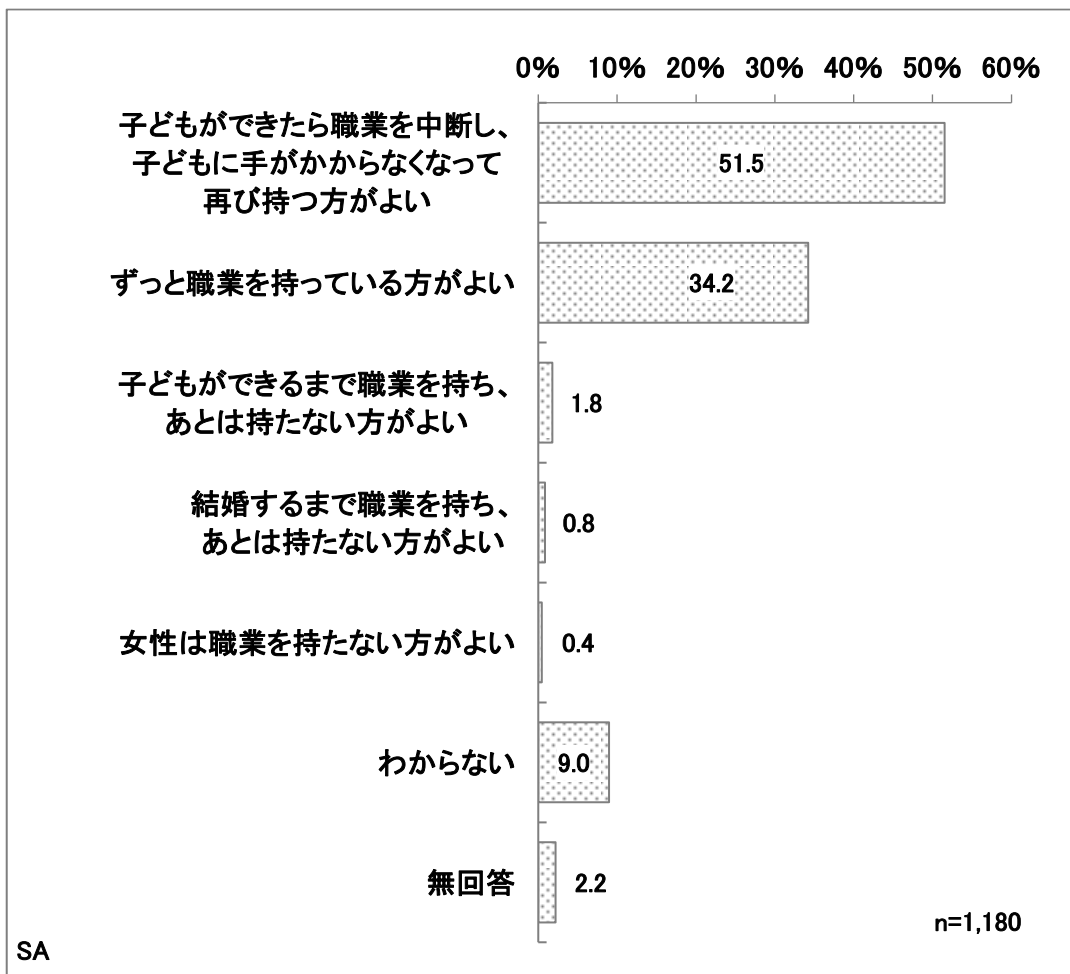
- ・女性も、「子供を育てるには、女性が家庭にいたほうが良いから」（37.9%）、「従来の経験や習慣から」（20.4%）、「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」（15.5%）の順であるが、男性は、「子供を育てるには、女性が家庭にいたほうが良いから」（55.7%）、「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」（20.8%）、「従来の経験や週間から」（9.4%）の順である。
- ・「子供を育てるには、女性が家庭にいたほうが良いから」は男性が女性より10ポイント以上高く、「従来の経験や週間から」は女性が男性より10ポイント以上高い。





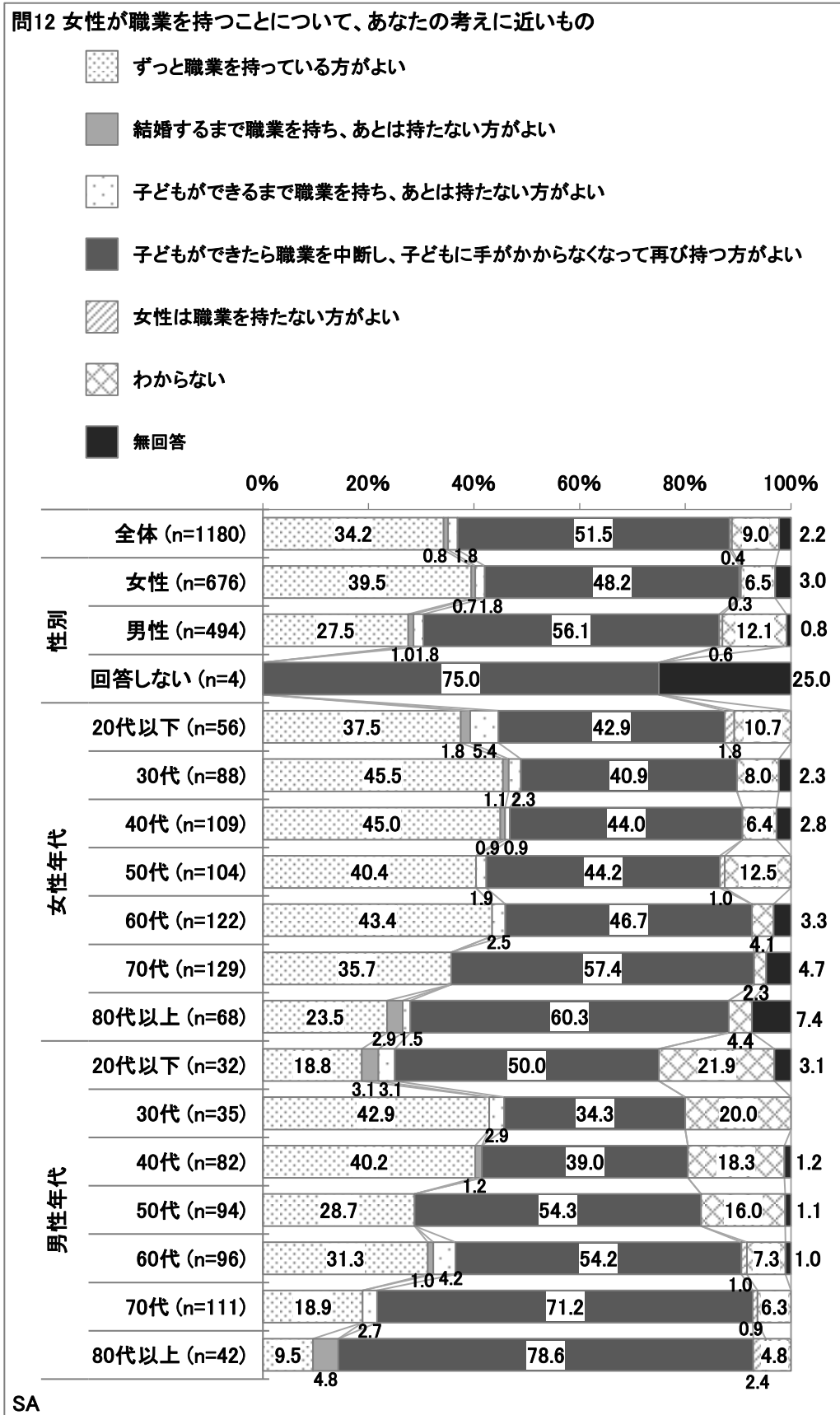
問12 女性が職業を持つことについて、あなたの考えに近いものを次の中から一つだけ選択してください。【〇は1つ】

- ・「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」(51.5%)が最も多く半数以上を占め、次いで「ずっと職業を持っている方がよい」(34.2%)が多い。



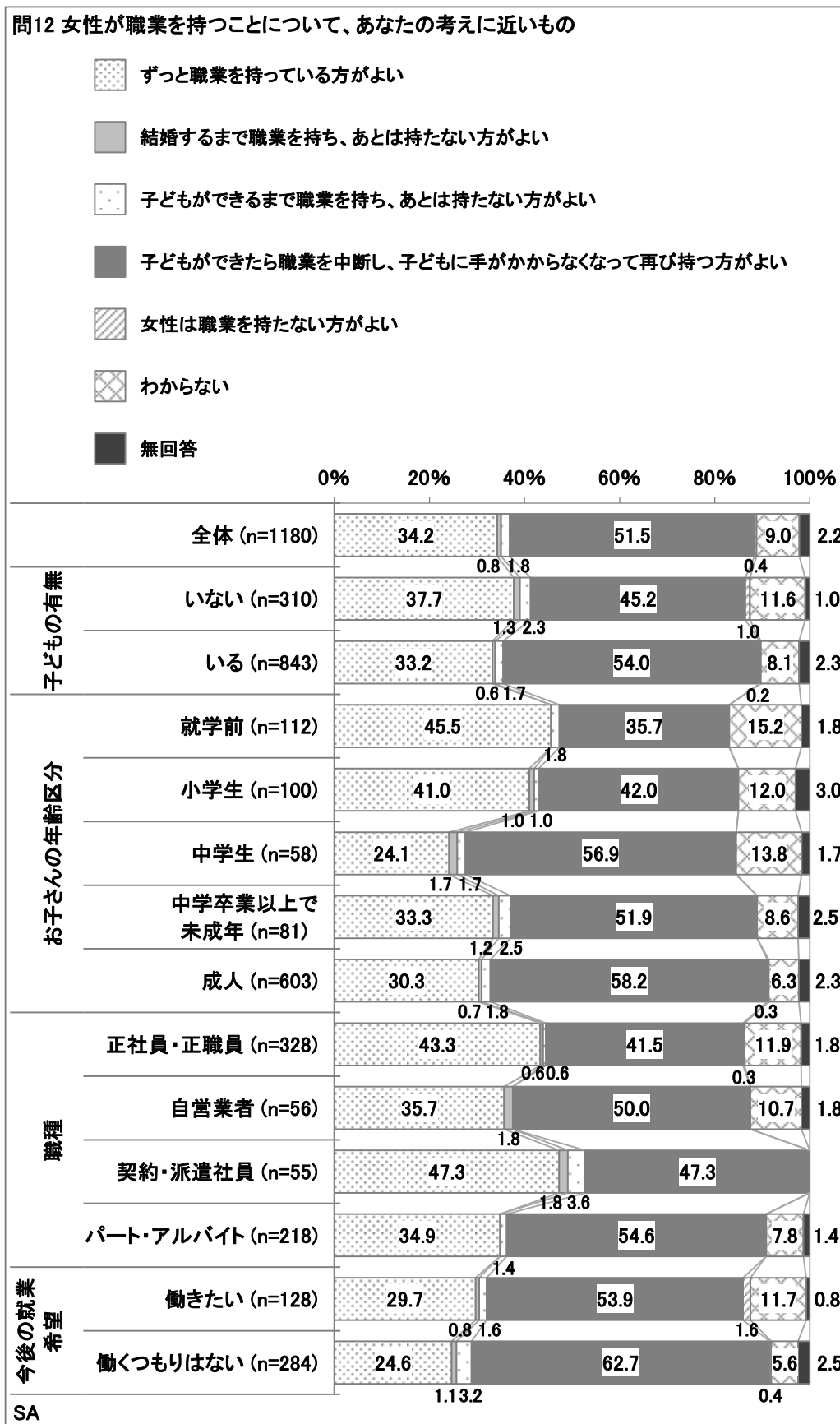
■ 性年代別 問12 女性が職業を持つことについて、あなたの考えに近いもの

- ・「ずっと職業を持っている方がよい」は、女性の30代、40代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上と男性の20代以下、70代、80代以上で低い。
- ・「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」は、男性の70代、80代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の30代、男性の30代、40代で低い。
- ・男性の20代以下、30代では「わからない」が全体より10ポイント以上高い。



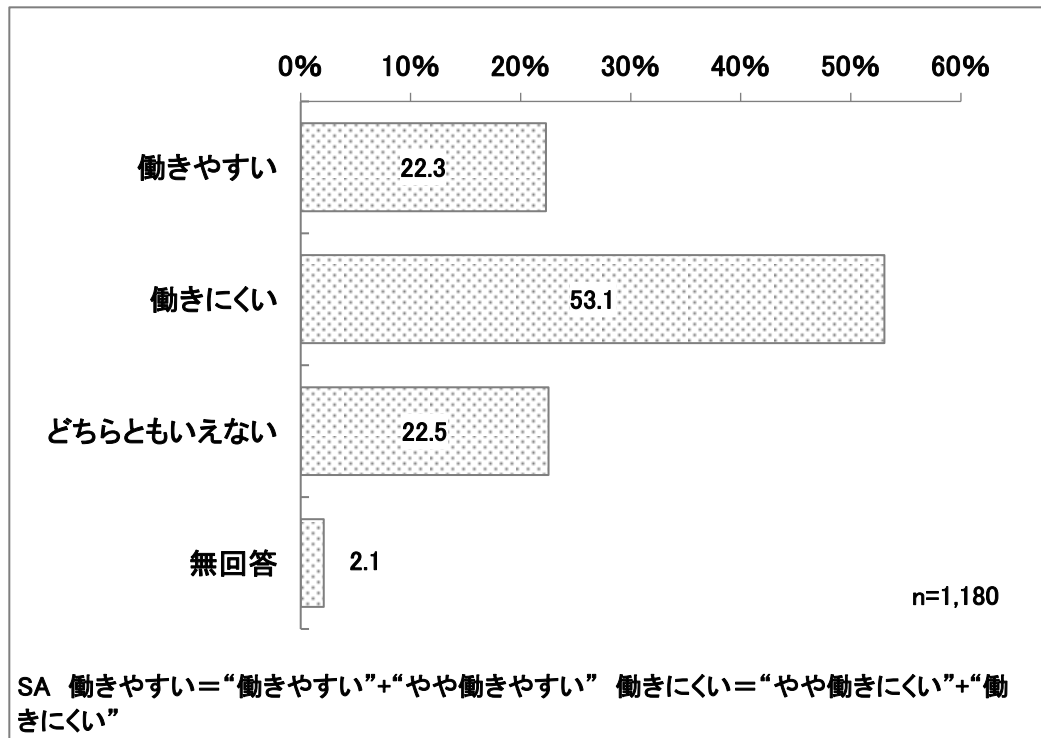
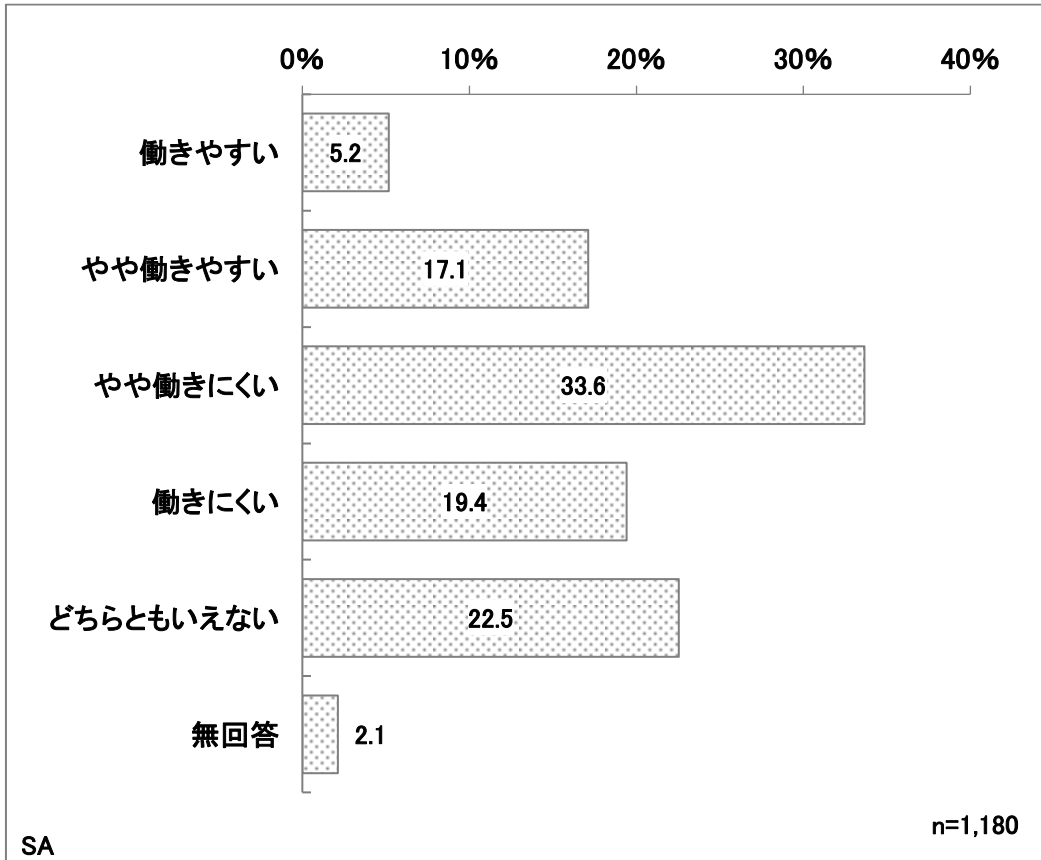
■ 子どもの有無、お子さんの年齢区分、職種、今後の就業希望別 問12 女性が職業を持つことについて、あなたの考えに近いもの

- ・「ずっと職業を持っている方がよい」は、就学前の子どもがいる人、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高く、中学生の子どもがいる人で低い。
- ・「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」は、今後働くつもりはない人で全体より10ポイント以上高く、就学前の子どもがいる人、正社員・正職員で低い。



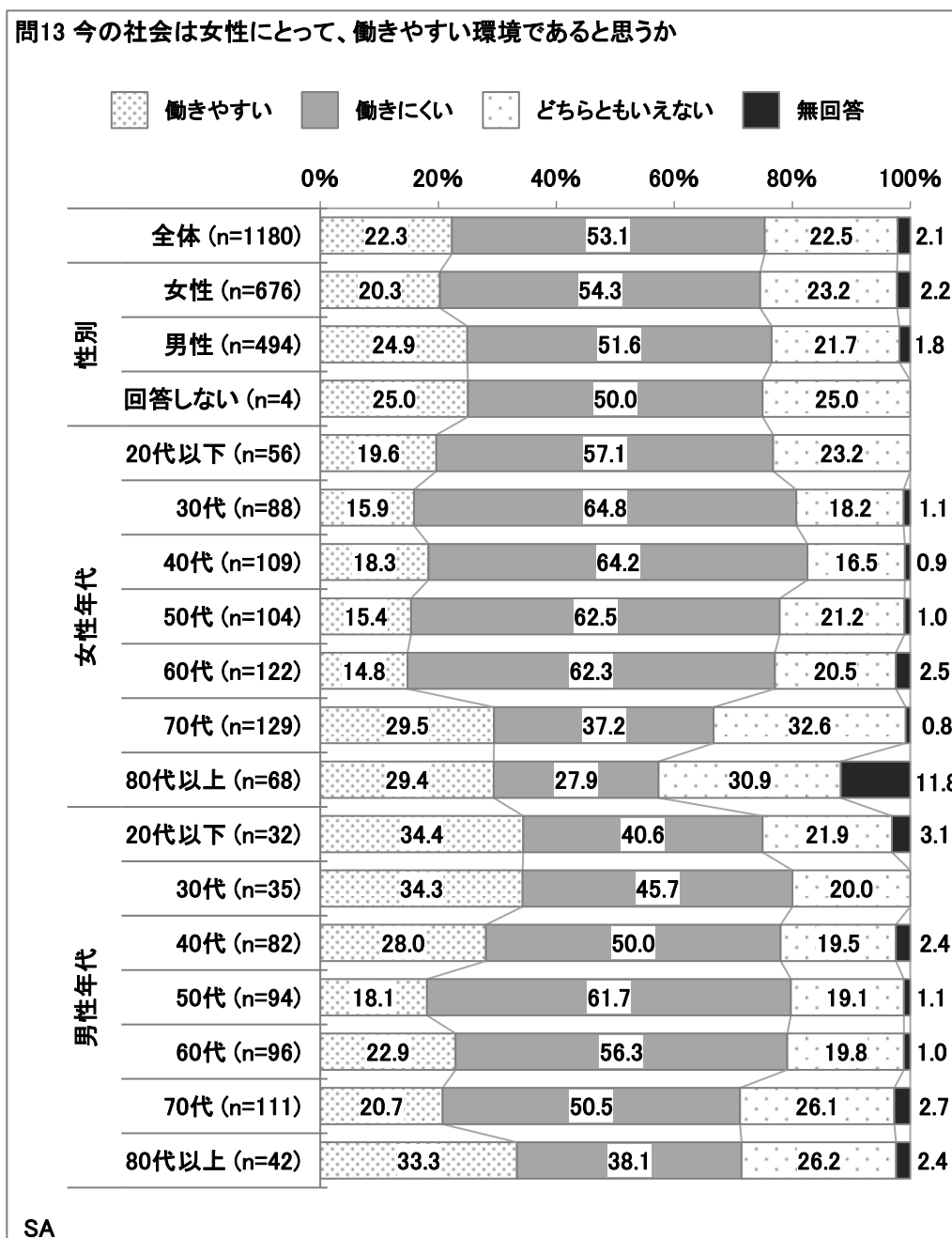
問13 今の社会は女性にとって、働きやすい環境であると思いますか。【〇は1つ】

- ・「やや働きにくい」(33.6%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」(22.5%)が多い。
- ・「働きやすい」「やや働きやすい」を合わせると“働きやすい”は22.3%、「やや働きにくい」「働きにくい」を合わせた“働きにくい”は53.1%である。



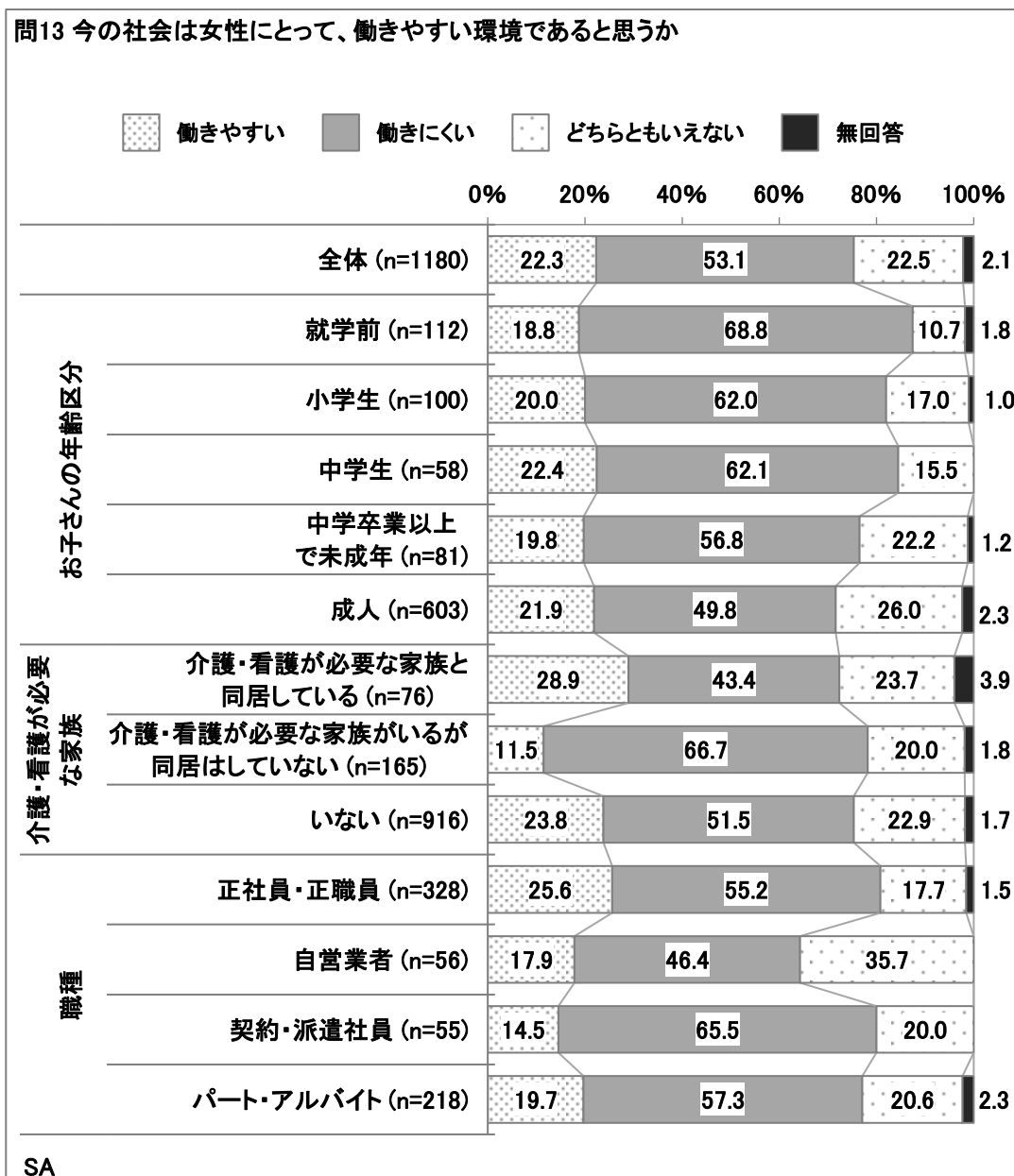
■ 性年代別 問13 今の社会は女性にとって、働きやすい環境であると思うか

- ・ “働きやすい” は、男性の 20 代以下、30 代、80 代以上で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・ “働きにくい” は、女性の 30 代、40 代で全体より 10 ポイント以上高く、女性の 70 代、80 代以上、男性の 80 代以上で低い。



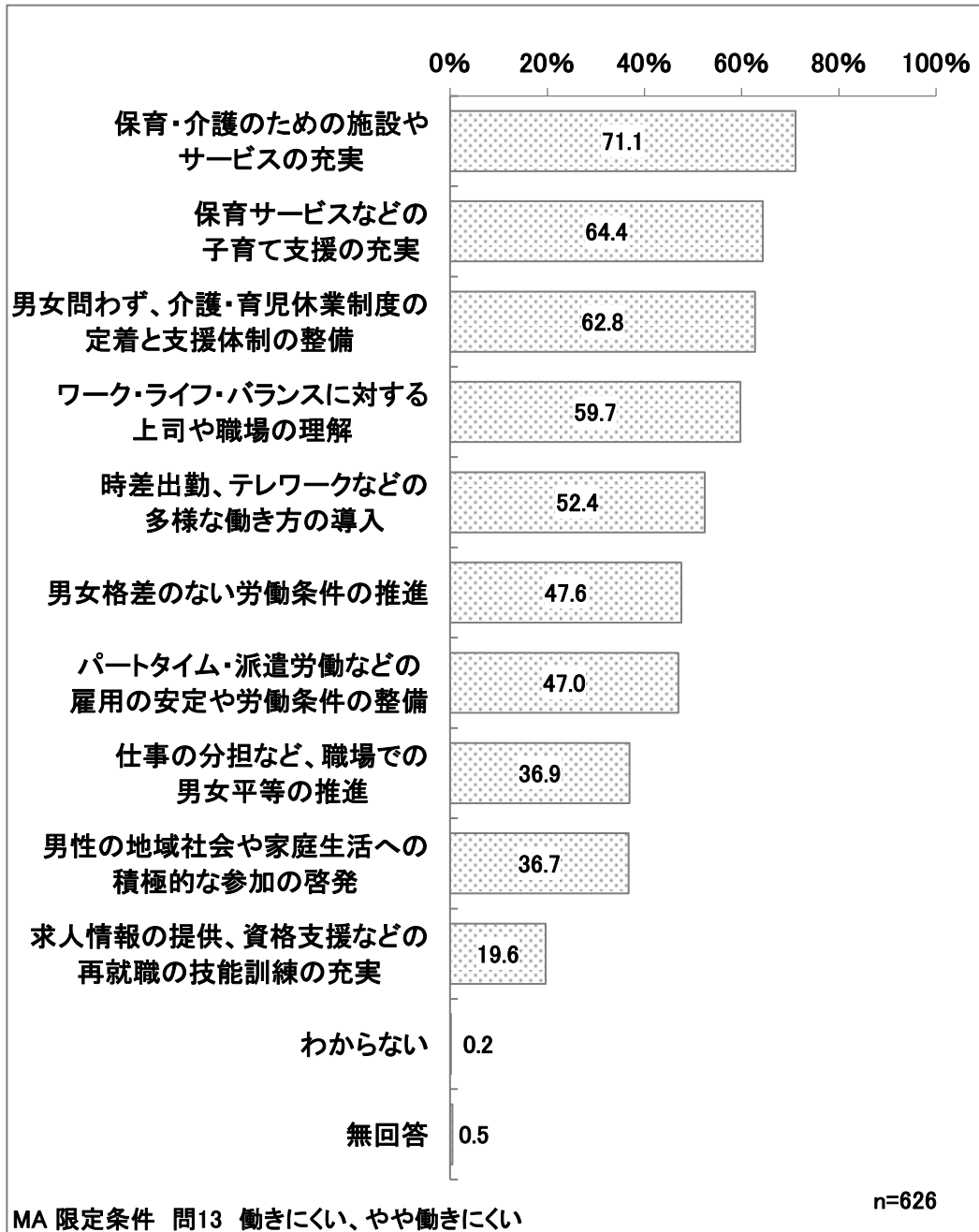
■ お子さんの年齢区分、介護・看護が必要な家族、職種別 問13 今の社会は女性にとって、働きやすい環境であると思うか

- ・介護・看護が必要な家族がいるが同居はしていない人では“働きやすい”が全体より10ポイント以上低い。
- ・“働きにくい”は、就学前の子どもがいる人、介護・看護が必要な家族がいるが同居はしていない人、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高い。
- ・“どちらともいえない”は、自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、家族従業者等）で全体より10ポイント以上高く、就学前の子どもがいる人で低い。



問 14 問 13 で 3、4 と答えた方にお伺いします。女性が働きやすい環境になるには、どのような取組や支援が必要だと思いますか。【〇は複数可】

- ・「保育・介護のための施設やサービスの充実」(71.1%) が最も多く、次いで「保育サービスなどの子育て支援の充実」(64.4%)、「男女問わず、介護・育児休業制度の定着と支援体制の整備」(62.8%) が多く、これらは6割以上の人が挙げている。



■ 性年代別 問14 女性が働きやすい環境になるには、どのような取組や支援が必要だと思うか (複数回答)

- ・「男性の地域社会や家庭生活への積極的参加の啓発」は、女性に比べて男性の割合が10ポイント以上低い。
- ・「保育サービスなどの子育て支援の充実」、「男女問わず、介護・育児休業制度の定着と支援体制の整備」、「ワーク・ライフ・バランスに対する上司や職場の理解」、「時差出勤、テレワークなどの多様な働き方の導入」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高く、「ワーク・ライフ・バランスに対する上司や職場の理解」、「時差出勤、テレワークなどの多様な働き方の導入」は、男性の30代でも全体より10ポイント以上高い。
- ・「男女問わず、介護・育児休業制度の定着と支援体制の整備」は60代70代の女性が全体より10ポイント以上高い。
- ・「男女格差のない労働条件の推進」、「仕事の分担など、職場での男女平等の推進」は70代男性で高い。
- ・「パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備」は70代女性が全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問14 女性が働きやすい環境になるには、どのような取組や支援が必要だと思うか	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	626	367	255	2	32	57	70	65	76	48	19	13	16	41	58	54	56	16		
保育・介護のための施設やサービスの充実	71.1	1.4	-2.1	-21.1	-11.7	9.6	-5.4	-0.3	6.5	3.9	2.6	-17.2	10.2	-12.5	-5.6	6.7	-1.4	3.9		
保育サービスなどの子育て支援の充実	64.4	-1.4	1.9	-14.4	-5.0	14.6	-5.8	-13.2	0.1	6.5	4.0	-2.8	4.4	3.8	-10.9	4.1	3.5	16.9		
男女問わず、介護・育児休業制度の定着と支援体制の整備	62.8	2.9	-4.0	-62.8	-0.3	10.9	-12.8	-7.4	12.2	16.4	5.6	-8.9	6.0	-6.7	-9.3	-1.7	-0.3	-6.5		
ワーク・ライフ・バランスに対する上司や職場の理解	59.7	0.7	-1.3	-9.7	9.0	17.4	-1.2	1.8	-11.1	-3.5	-1.8	-36.7	21.5	-1.2	0.6	-0.5	-2.6	2.8		
時差出勤、テレワークなどの多様な働き方の導入	52.4	-0.6	0.5	-2.4	0.7	10.8	-8.1	-1.6	0.2	-3.6	10.8	-21.6	10.1	13.5	-0.7	6.9	-7.8	-14.9		
再雇用制度の充実	47.9	-0.8	1.1	-47.9	2.1	-7.6	-16.5	4.4	4.7	6.2	15.2	-1.8	-22.9	-4.0	2.1	0.2	7.4	14.6		
男女格差のない労働条件の推進	47.6	-2.1	3.4	-47.6	-10.1	-3.7	-10.5	-4.5	5.0	2.4	15.6	-24.5	-10.1	-15.9	7.6	9.8	11.3	21.1		
パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備	47.0	2.1	-3.4	3.0	-9.5	-3.1	-2.7	3.4	-0.9	13.5	16.2	-39.3	-15.7	-12.8	3.0	-2.5	8.4	-3.2		
仕事の分担など、職場での男女平等の推進	36.9	-2.0	2.7	-36.9	-11.9	-1.8	-6.9	-3.1	1.3	2.7	10.5	-21.5	0.6	-12.5	4.5	3.8	18.5	0.6		
男性の地域社会や家庭生活への積極的な参加の啓発	36.7	7.7	-11.3	-36.7	0.8	3.9	9.0	15.6	6.7	7.0	-10.4	-21.4	0.8	-19.7	-7.4	-10.8	-13.5	0.8		
求人情報の提供、資格支援などの再就職の技能訓練の充実	19.6	1.1	-2.0	-19.6	2.2	-9.1	-1.1	9.6	-3.9	7.4	11.9	-12.0	5.4	-7.5	-5.9	2.6	-1.8	11.6		
わからない	0.2	0.1	-0.2	-0.2	3.0	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2		
無回答	0.5	-0.2	-0.1	49.5	-0.5	-0.5	-0.5	-0.5	-0.5	-0.5	4.8	-0.5	-0.5	-0.5	-0.5	1.4	-0.5	-0.5		



■ **お子さんの年齢区分、介護・看護が必要な家族、職種、未就業者内訳、今後の就業希望別 問 14**  
**女性が働きやすい環境になるには、どのような取組や支援が必要だと思うか（複数回答）**

- ・「保育・介護のための施設やサービスの充実」は、就学前の子どもがいる人、介護・看護が必要な家族と同居している人で全体より 10 ポイント以上高く、契約・派遣社員で低い。
- ・「保育サービスなどの子育て支援の充実」は、就学前の子どもがいる人で全体より 10 ポイント以上高く、中学生の子どもがいる人、自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、家族従業者等）、パート・アルバイトで低い。
- ・「男女問わず、介護・育児休業制度の定着と支援体制の整備」は、就学前の子どもがいる人、介護・看護が必要な家族と同居している人、今後働くつもりはない人で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「ワーク・ライフ・バランスに対する上司や職場の理解」は、就学前の子どもがいる人で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「時差出勤、テレワークなどの多様な働き方の導入」は、就学前の子どもがいる人、介護・看護が必要な家族と同居している人、契約・派遣社員で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「再雇用制度の充実」は、今後働きたい人で全体より 10 ポイント以上高く、就学前、小学生の子どもがいる人、正社員・正職員で低い。
- ・「男女格差のない労働条件の推進」は、就学前、中学生、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人で全体より 10 ポイント以上低い。
- ・「パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備」は、介護・看護が必要な家族と同居している人、契約・派遣社員、主婦・主夫で全体より 10 ポイント以上高く、正社員・正職員で低い。
- ・「仕事の分担など、職場での男女平等の推進」は、主婦・主夫で全体より 10 ポイント以上高く、小学生、中学生の子どもがいる人で低い。
- ・「男性の地域社会や家庭生活への積極的な参加の啓発」は、中学生の子どもがいる人、介護・看護が必要な家族と同居している人で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「求人情報の提供、資格支援などの再就職の技能訓練の充実」は、介護・看護が必要な家族と同居している人で全体より 10 ポイント以上高い。

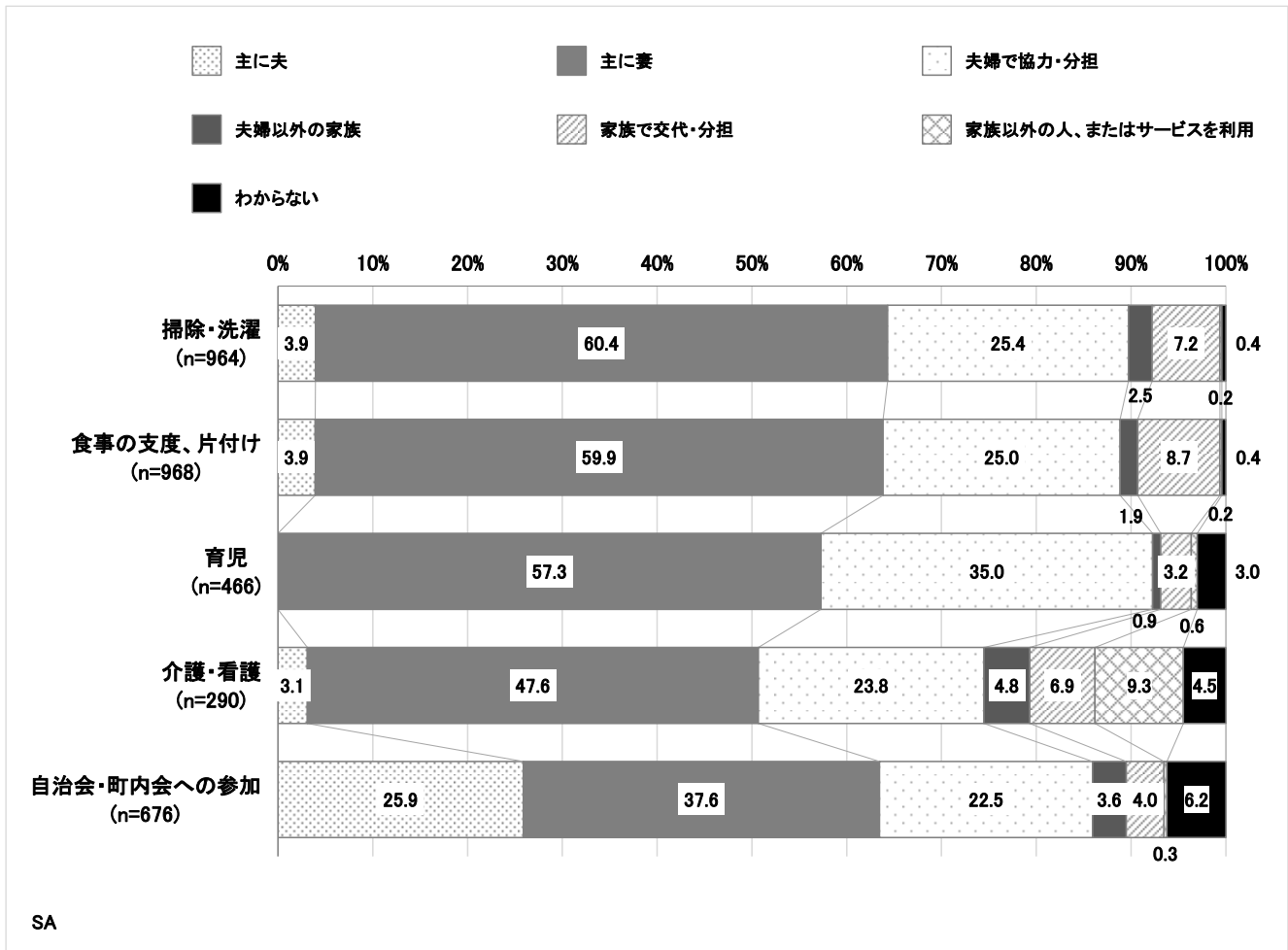
※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問14 女性が働きやすい環境になるには、どのような取組や支援が必要だと思うか	全体 (%)	お子さんの年齢区分					介護・看護が必要な家族			職種					未就業者			今後の就業希望	
		就学前	小学生	中学生	未成年 中学卒業以上	成人	同居している	同居していない	いない	正社員 正職員	自営業	社員 契約派遣	アルバイト	主婦 主夫	学生	その他	不明	働きたい	働かないつもりは
n=	626	77	62	36	46	300	33	110	472	181	26	36	125	159	14	40	26	80	136
保育・介護のための施設やサービスの充実	71.1	14.6	-5.0	1.1	-5.9	2.6	10.7	-2.0	-0.1	-0.4	5.8	-15.5	-1.5	6.3	-35.4	11.4	-9.5	-3.6	6.1
保育サービスなどの子育て支援の充実	64.4	17.4	1.8	-11.6	-5.7	2.6	-0.7	-3.5	0.5	4.1	-14.4	-0.5	-11.6	5.4	-0.1	3.1	-6.7	0.6	5.5
男女問わず、介護・育児休業制度の定着と支援体制の整備	62.8	12.5	-4.7	-4.4	0.3	1.6	16.0	3.6	-2.0	-4.2	2.6	-1.7	-3.6	7.0	1.5	-2.8	-1.2	-5.3	10.0
ワーク・ライフ・バランスに対する上司や職場の理解	59.7	13.0	9.6	-7.0	-1.0	-1.4	6.9	0.3	-0.6	3.8	-2.1	4.1	-2.1	-1.9	-16.9	10.3	-9.7	1.5	-3.1
時差出勤、テレワークなどの多様な働き方の導入	52.4	13.8	4.1	3.2	3.5	-5.1	14.3	2.1	-1.3	4.0	5.3	14.3	-3.4	-2.1	-23.8	5.1	-6.2	-2.4	-3.1
再雇用制度の充実	47.9	-15.5	-17.3	-9.0	-3.8	6.1	9.7	-3.4	-0.0	-10.4	-5.6	7.6	-2.3	4.3	23.5	17.1	-5.6	10.8	2.8
男女格差のない労働条件の推進	47.6	-12.5	-3.9	-28.2	-12.8	6.1	10.0	1.5	-0.6	-4.5	-1.4	3.0	-6.0	2.7	-4.7	14.9	6.2	-1.4	3.3
パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備	47.0	-4.1	-3.3	-2.5	-1.3	2.7	19.7	-2.4	-0.8	-17.7	-3.5	16.9	6.6	10.9	-32.7	10.5	3.0	3.0	3.0
仕事の分担など、職場での男女平等の推進	36.9	-4.4	-14.3	-20.2	-4.3	4.8	3.6	-3.3	0.2	-5.4	-6.1	4.8	-7.3	11.5	-3.3	3.1	-2.3	5.6	3.7
男性の地域社会や家庭生活への積極的な参加の啓発	36.7	3.5	5.2	10.5	2.4	-1.4	11.7	-0.4	-0.5	-4.1	-2.1	4.9	-2.3	7.3	-15.3	-6.7	-6.0	2.0	1.5
求人情報の提供、資格支援などの再就職の技能訓練の充実	19.6	-0.2	-5.1	-0.2	4.3	0.7	22.8	-1.5	-1.0	-9.2	-4.3	2.6	-4.4	7.4	1.8	7.9	11.1	4.1	7.6
わからない	0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	0.1	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	-0.2	7.0	-0.2	-0.2	1.1	-0.2
無回答	0.5	-0.5	-0.5	-0.5	-0.5	-0.1	-0.5	0.4	-0.3	-0.5	-0.5	2.3	-0.5	-0.5	-0.5	-0.5	3.4	-0.5	-0.5

## 2. 仕事と家庭の両立について

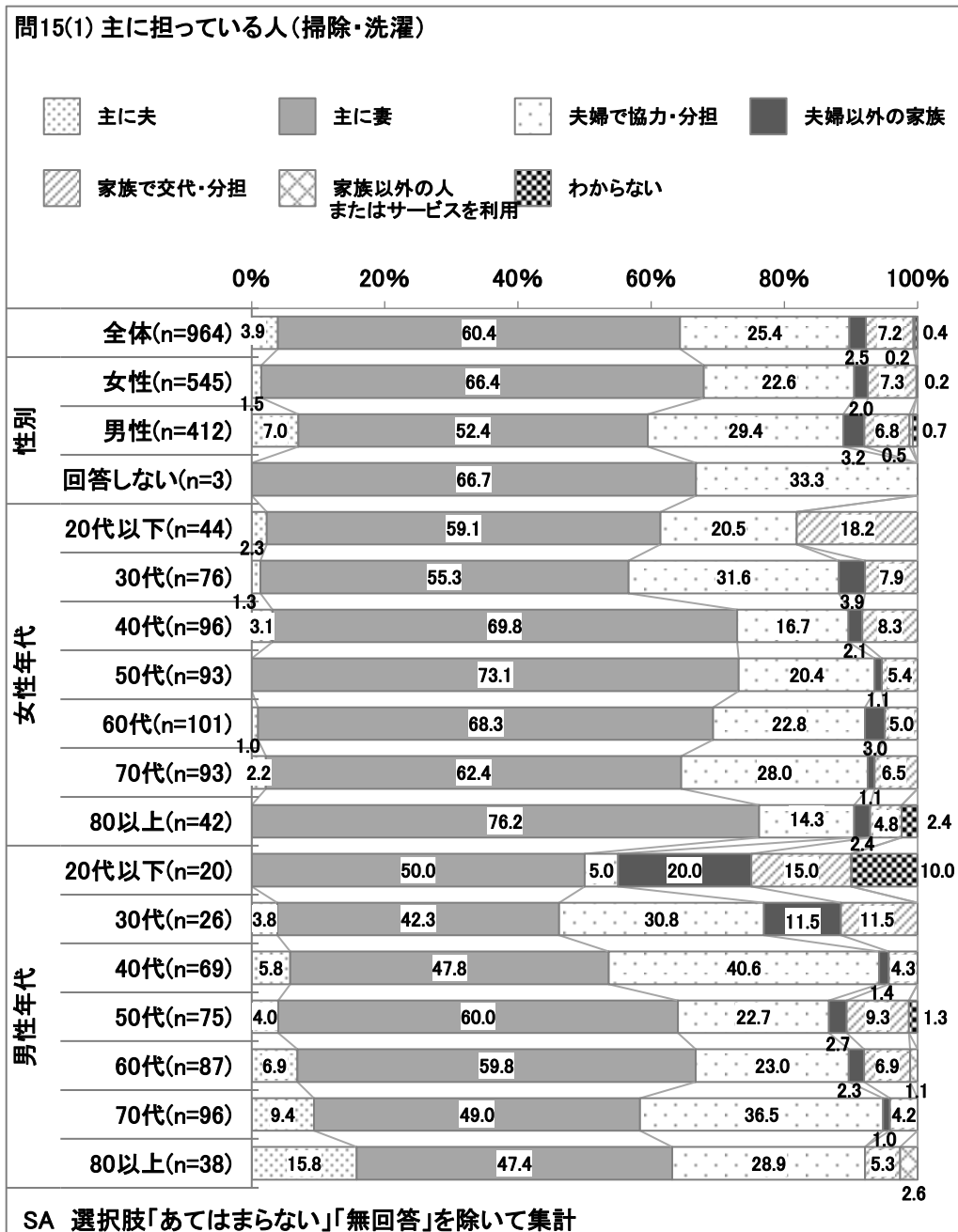
問 15 あなたの家庭（単身者を除く）では次における家庭の仕事について、主に現在誰が担っていますか。【それぞれ、あてはまる番号に○】

- ・「あてはまらない」「無回答」を除いてみると、いずれも「主に妻」が最も多く、特に「掃除・洗濯」では60.4%、「食事の支度・片付け」では59.9%となっている。次に多いのは「自治会・町内会への参加」を除いて「夫婦で協力・分担」である。「自治会・町内会への参加」のみ「主に夫」であるが2番目に多い。
- ・「介護・看護」では「家族以外の人、またはサービスを利用」が他に比べて多い。



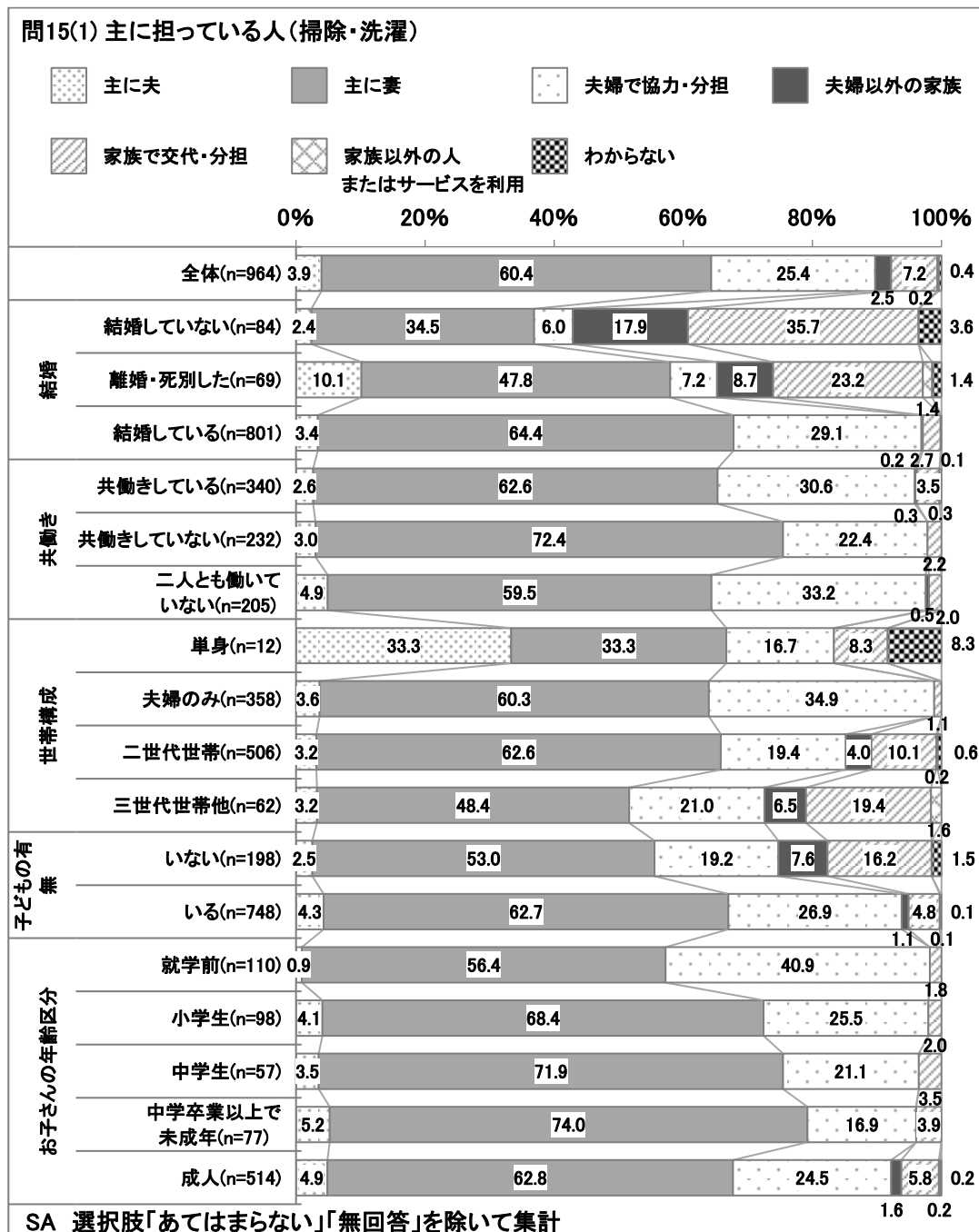
## ■ 性年代別 問15(1)主に担っている人(掃除・洗濯)

- ・「あてはまらない」「無回答」を除いてみると、「主に夫」は男性の80代以上で全体より10ポイント以上高い。
- ・「主に妻」は、女性の50代、80代以上で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下から40代、70代以上で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、男性の40代、70代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の20代以下で低い。
- ・「夫婦以外の家族」は、男性の20代以下で全体より10ポイント以上高い。
- ・「家族で交代・分担」は、女性の20代以下で全体より10ポイント以上高い。



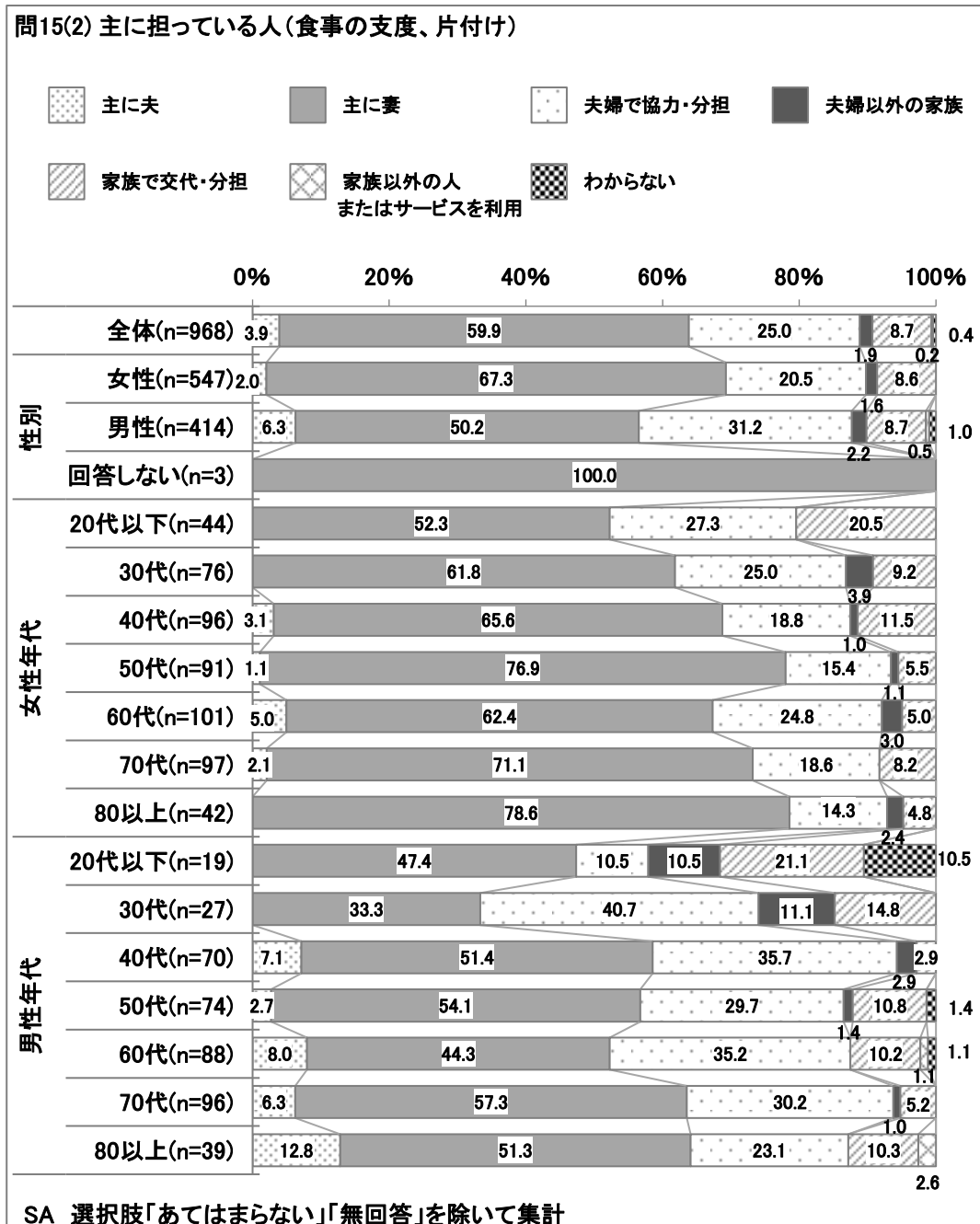
■ 結婚、共働き、世帯構成、子どもの有無、お子さんの年齢区分別 問15(1)主に担っている人(掃除・洗濯)

- ・「主に妻」は、共働きしていない人、中学生、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、三世帯世帯他で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、就学前の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人で低い。
- ・「夫婦以外の家族」は、結婚していない人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「家族で交代・分担」は、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、三世帯世帯他で全体より10ポイント以上高い。



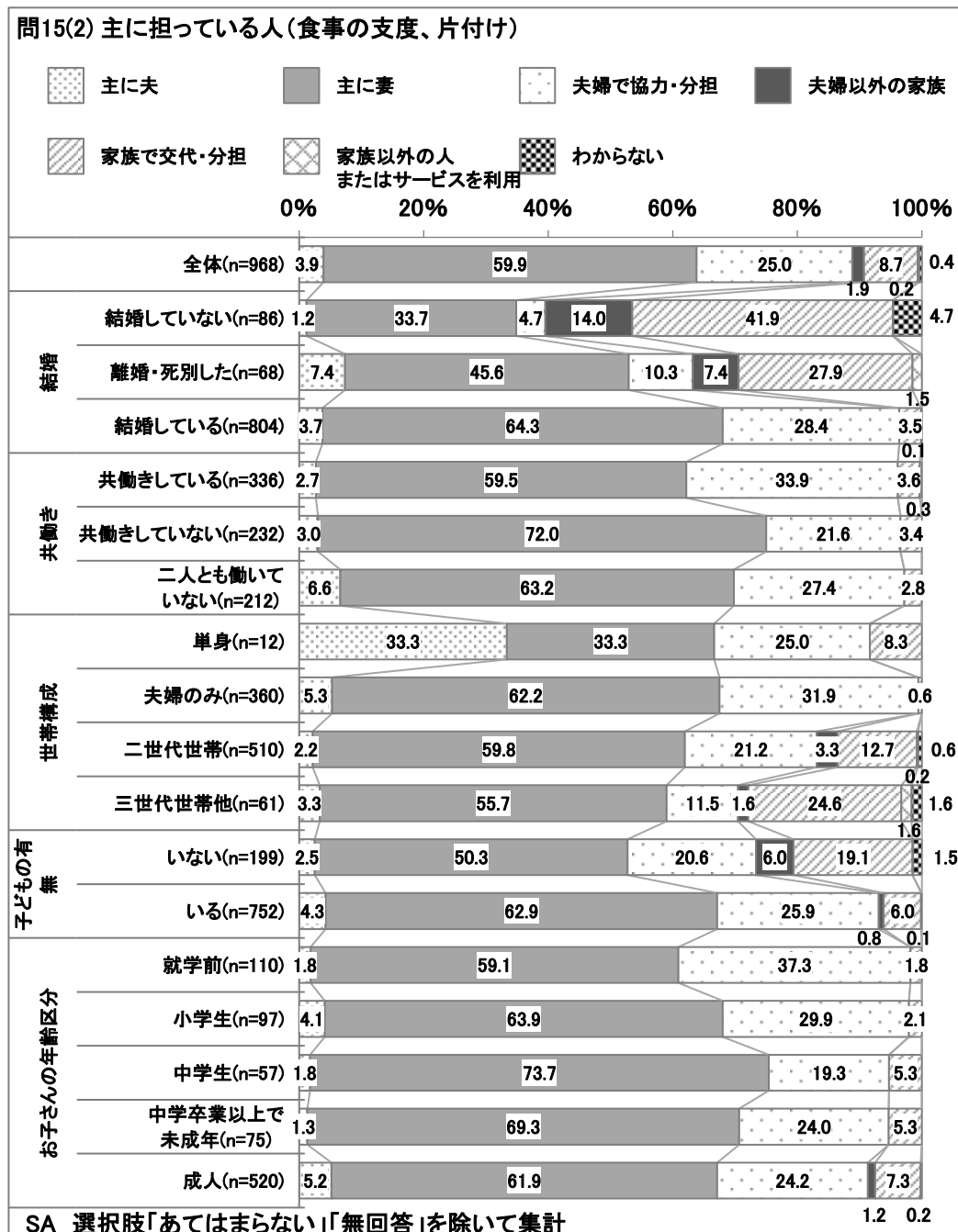
■ 性年代別 問15(2)主に担っている人(食事の支度・片付け)

- ・「主に妻」は、女性の50代、70代以上で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下、30代、60代で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、男性の30代、40代、60代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の20代以下で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、男女とも20代以下で全体より10ポイント以上高い。
- ・「わからない」は、男性の20代以下で全体より10ポイント以上高い。



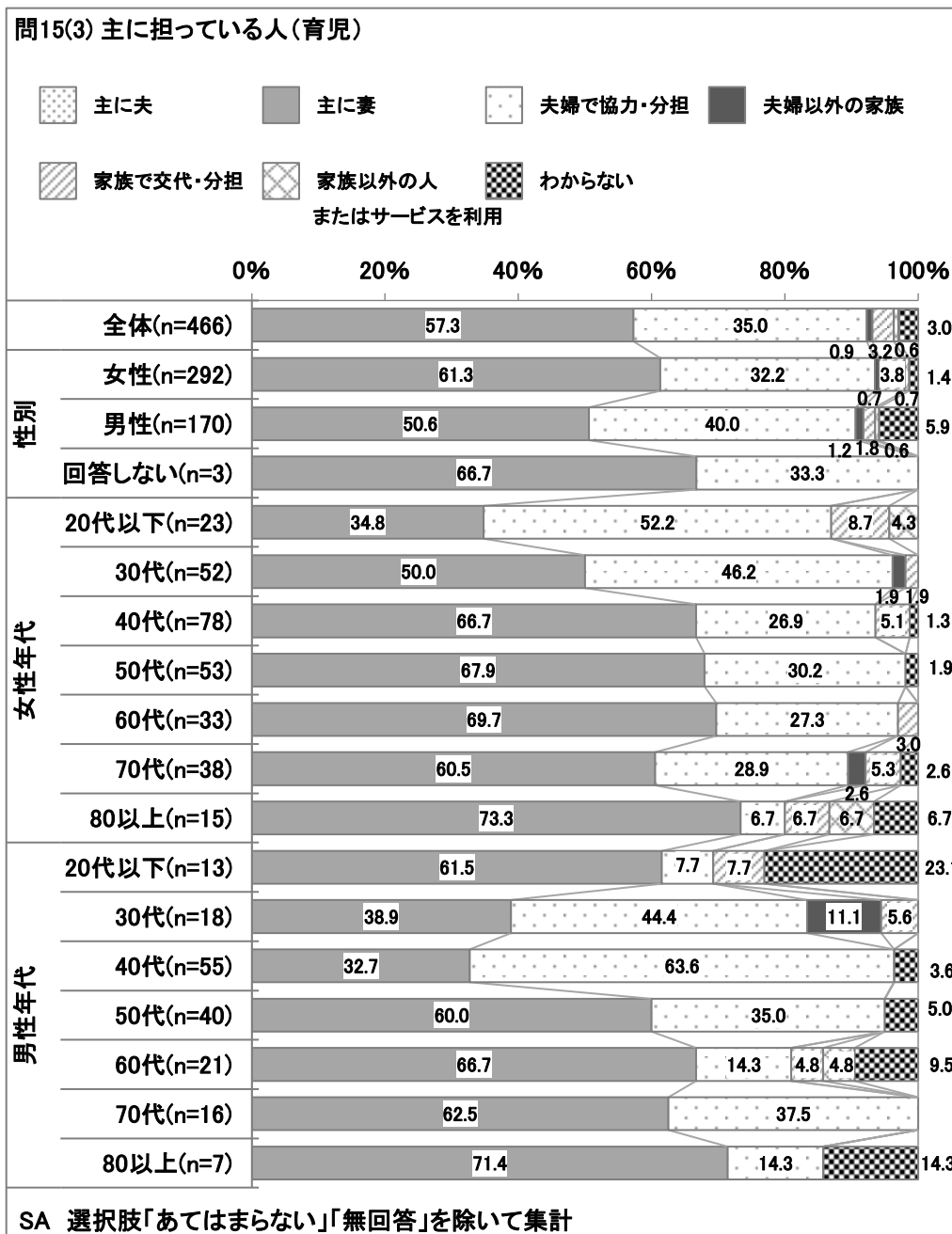
■ 結婚、共働き、世帯構成、子どもの有無、お子さんの年齢区分別 問15(2)主に担っている人(食事の支度・片付け)

- ・「主に妻」は、共働きしていない人、中学生の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、就学前の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、三世代世帯他で低い。
- ・「夫婦以外の家族」は、結婚していない人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「家族で交代・分担」は、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、三世代世帯他、子どもがいない人で全体より10ポイント以上高い。



## ■ 性年代別 問15(3)主に担っている人(育児)

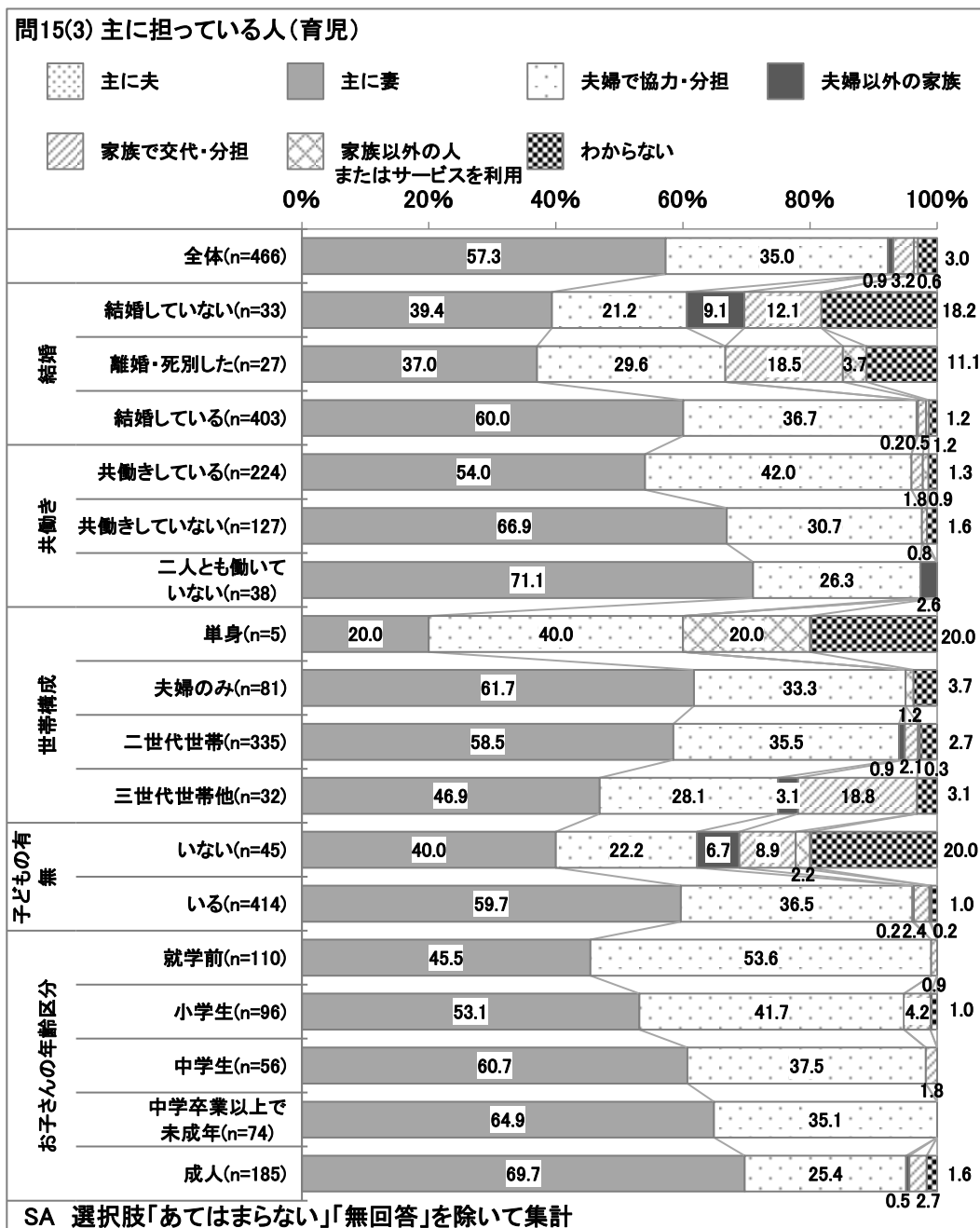
- ・「主に妻」は、女性の50代、60代、男女とも80代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の20代以下、男性の30代、40代で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、女性の20代以下、30代、男性の40代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の20代以下、60代、80代以上で低い。
- ・「夫婦以外の家族」は、男性の30代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「わからない」は、男性の20代以下、80代以上で全体より10ポイント以上高い。





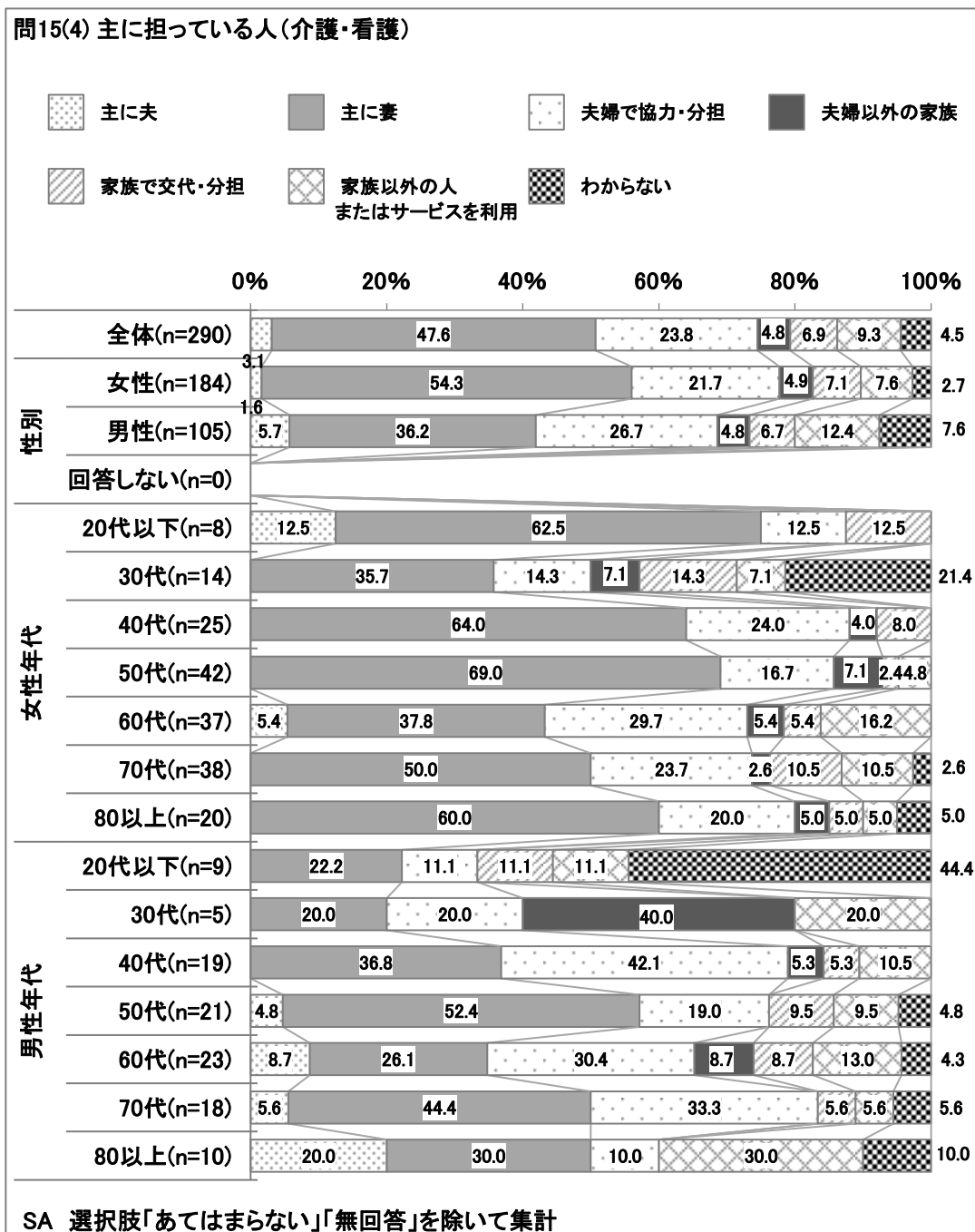
■ 結婚、共働き、世帯構成、子どもの有無、お子さんの年齢区分別 問15(3)主に担っている人(育児)

- ・「主に妻」は、結婚していて二人とも働いていない人、成人の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、三世代世帯他、子どもがいない人、就学前の子どもがいる人で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、就学前の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、子どもがいない人で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、結婚していたが離婚・死別した人、三世代世帯他で全体より10ポイント以上高い。
- ・「わからない」は、結婚していない人、子どもがいない人で全体より10ポイント以上高い。



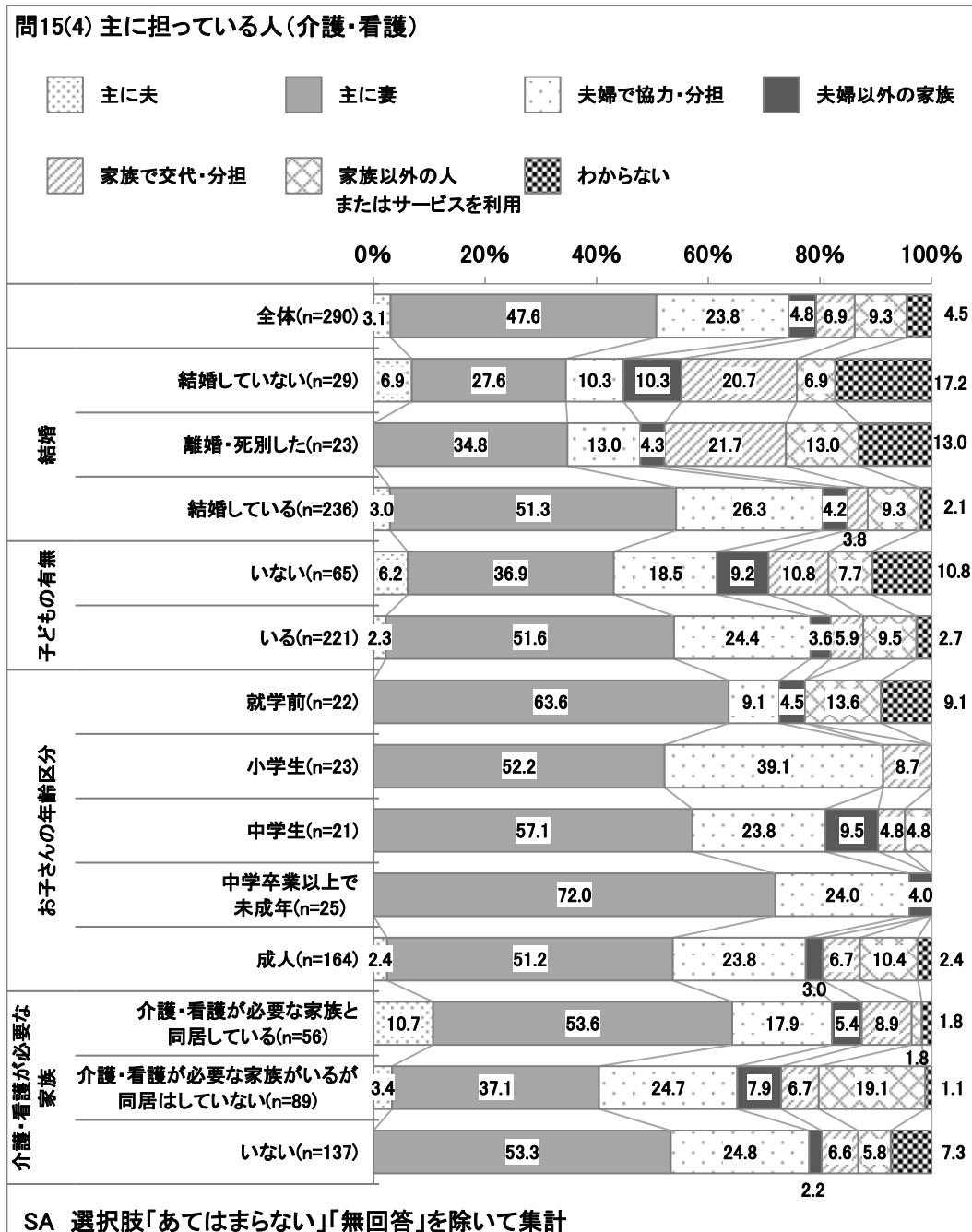
■ 性年代別 問15(4)主に担っている人(介護・看護)

- ・「主に妻」は、性別で見ると男性が全体より10ポイント以上低い。性年代別では女性の20代以下、40代、50代、80代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の30代、男性の20代以下、30代、40代、60代、80代以上で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、男性の40代で全体より10ポイント以上高く、男女とも20代以下、男性の80代以上で低い。
- ・「夫婦以外の家族」は、男性の30代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「家族以外の人、またはサービスを利用」は、男性の30代、80代以上で全体より10ポイント以上高い。
- ・「わからない」は、女性の30代、男性の20代以下で全体より10ポイント以上高い。



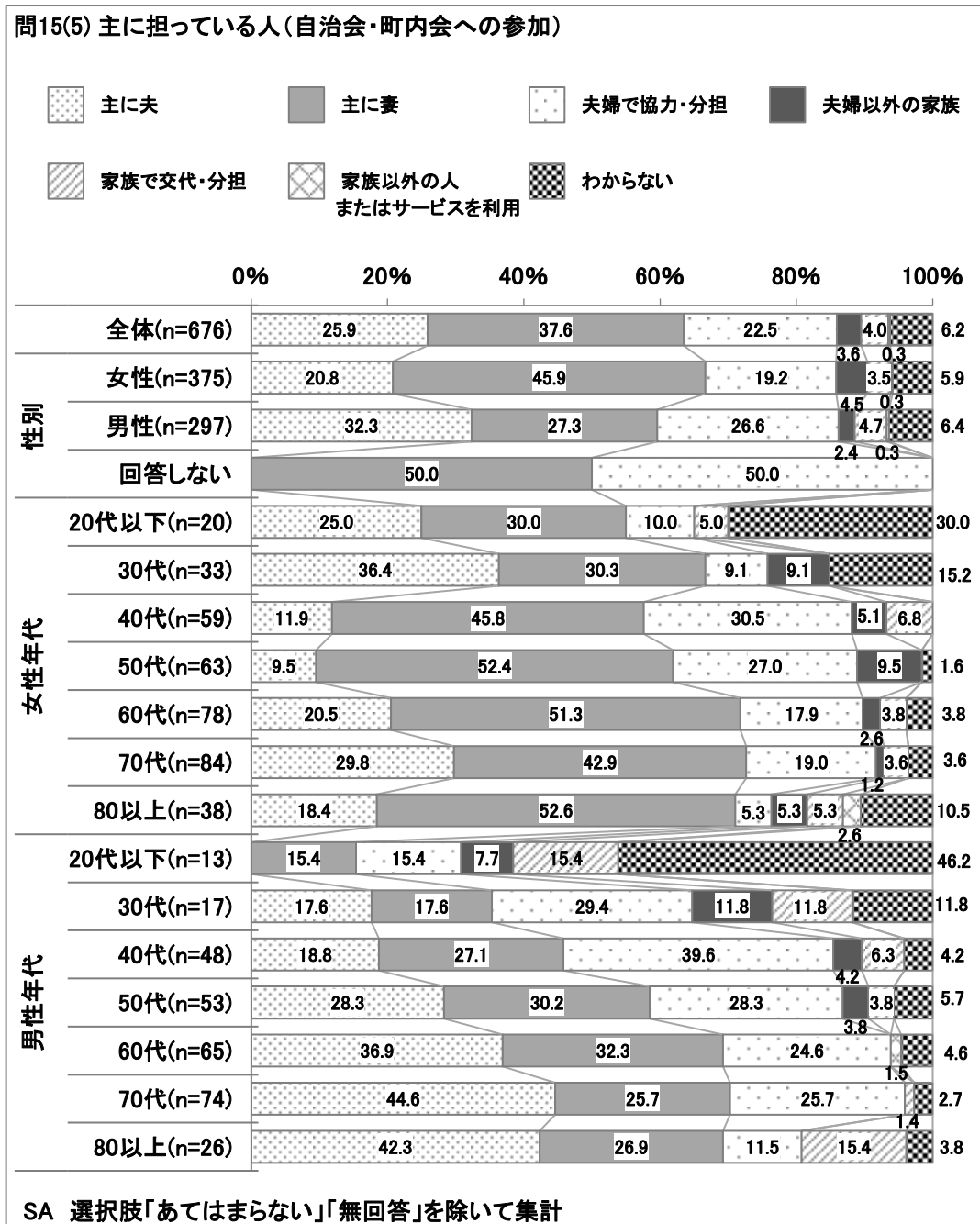
■ 結婚、子どもの有無、お子さんの年齢区分、介護・看護が必要な家族別 問15(4)主に担っている人(介護・看護)

- ・「主に妻」は、就学前、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、子どもがいない人で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、小学生の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、就学前の子どもがいる人で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「わからない」は、結婚していない人で全体より10ポイント以上高い。



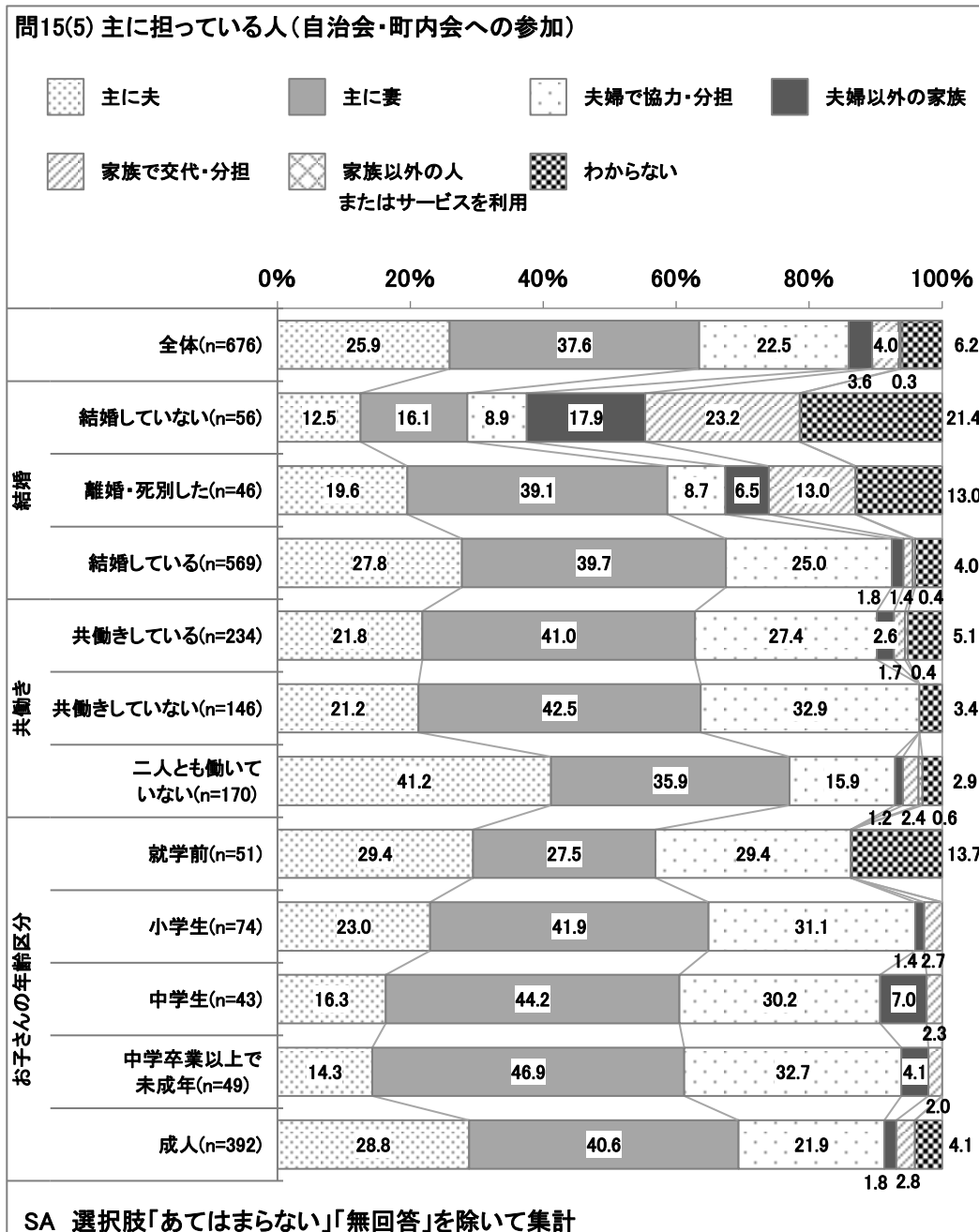
■ 性年代別 問15(5)主に担っている人（自治会・町内会への参加）

- ・「主に夫」は、女性の30代、男性の60代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の40代、50代、男性の20代以下で低い。
- ・「主に妻」は、性別で見ると男性が全体より10ポイント以上低い。性年代別では女性の50代、60代、80代以上で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下から40代、70代以上で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、男性の40代で全体より10ポイント以上高く、女性の20代以下、30代、男女とも80代以上で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、男性の20代以下、80代以上で全体より10ポイント以上高い。
- ・「わからない」は、男女とも20代以下で全体より10ポイント以上高い。



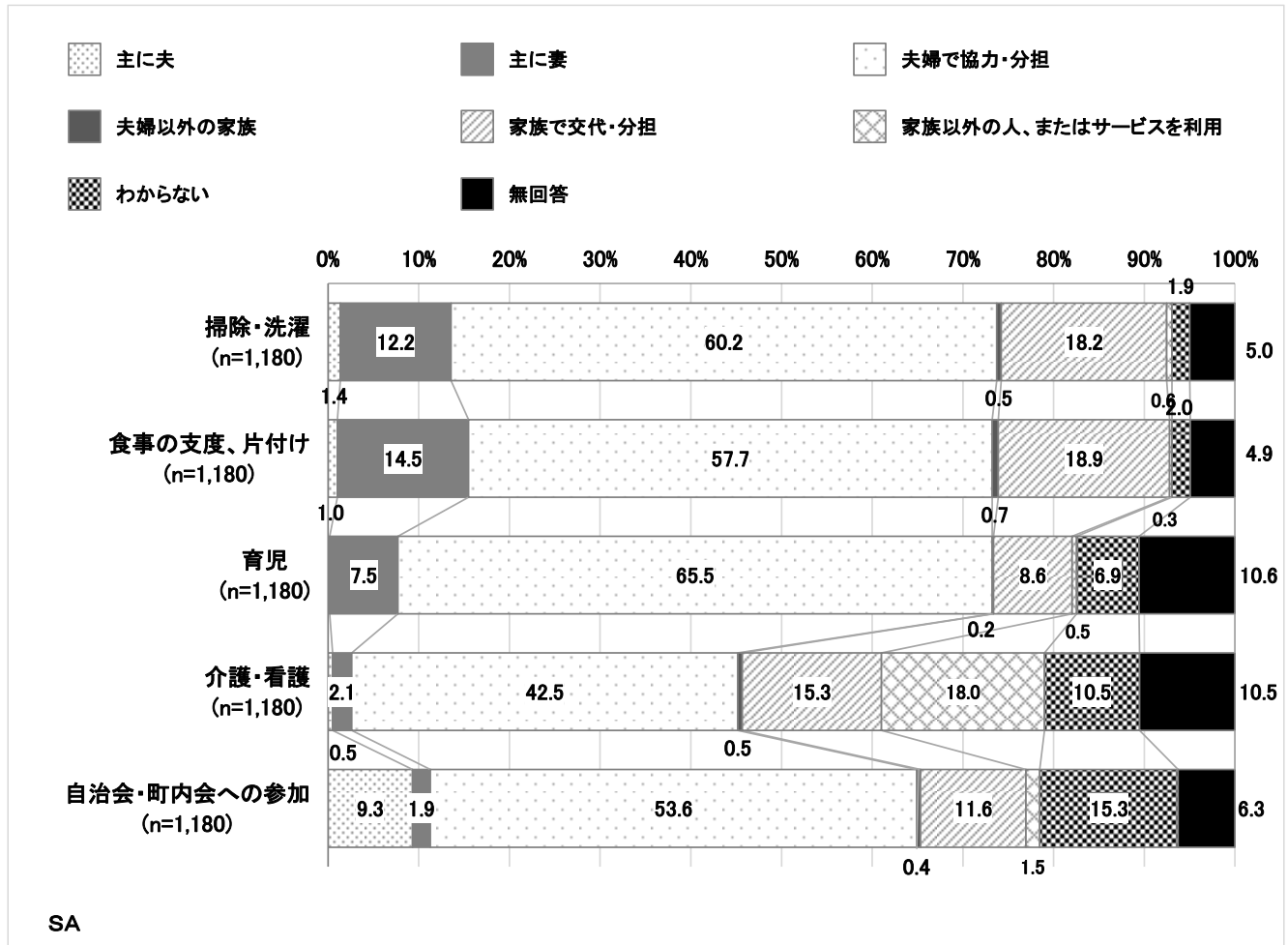
■ 結婚、共働き、お子さんの年齢区分別 問15(5)主に担っている人(自治会・町内会への参加)

- ・「主に夫」は、結婚していて二人とも働いていない人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人で低い。
- ・「主に妻」は、結婚していない人、就学前の子どもがいる人で全体より10ポイント以上低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、共働きしていない人、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人で低い。
- ・結婚していない人の回答は、他に比べ、ばらついた回答となった。



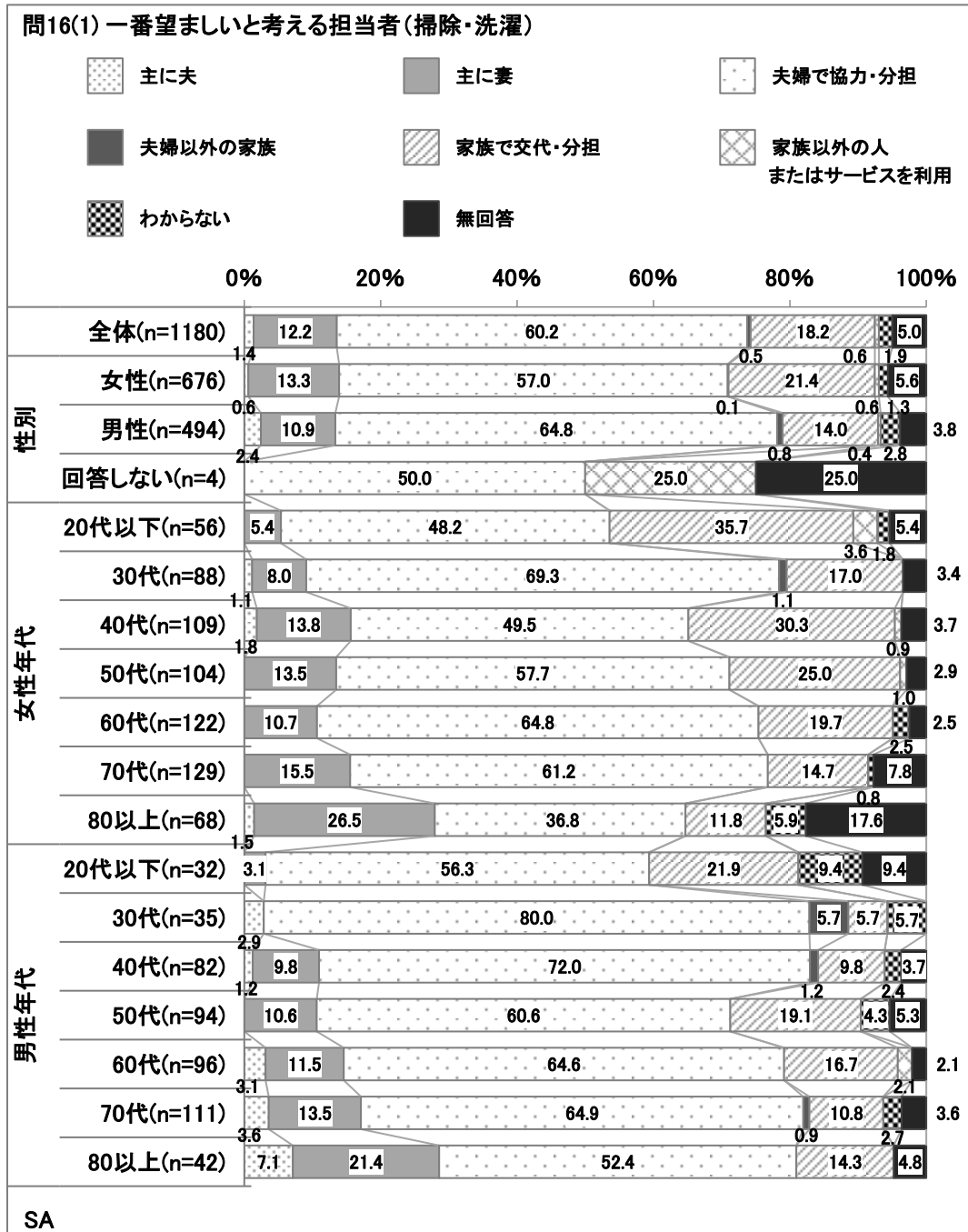
問 16 あなたは、次における家庭の仕事について、主に誰が担当するのが、一番望ましいと考えますか。すべての方がお答えください。【それぞれ、あてはまる番号に○】

・いずれも「夫婦で協力・分担」が最も多く、特に「育児」(65.5%)、「掃除・洗濯」(60.2%)、「食事の支度・片付け」(57.7%)、「自治会・町内会への参加」(53.6%)と半数以上である。次いで、「介護・看護」で「家族以外の人、またはサービスを利用」(18.0%)、「自治会・町内会への参加」で「わからない」(15.3%)、それ以外では「家族で交代・分担」が多い。



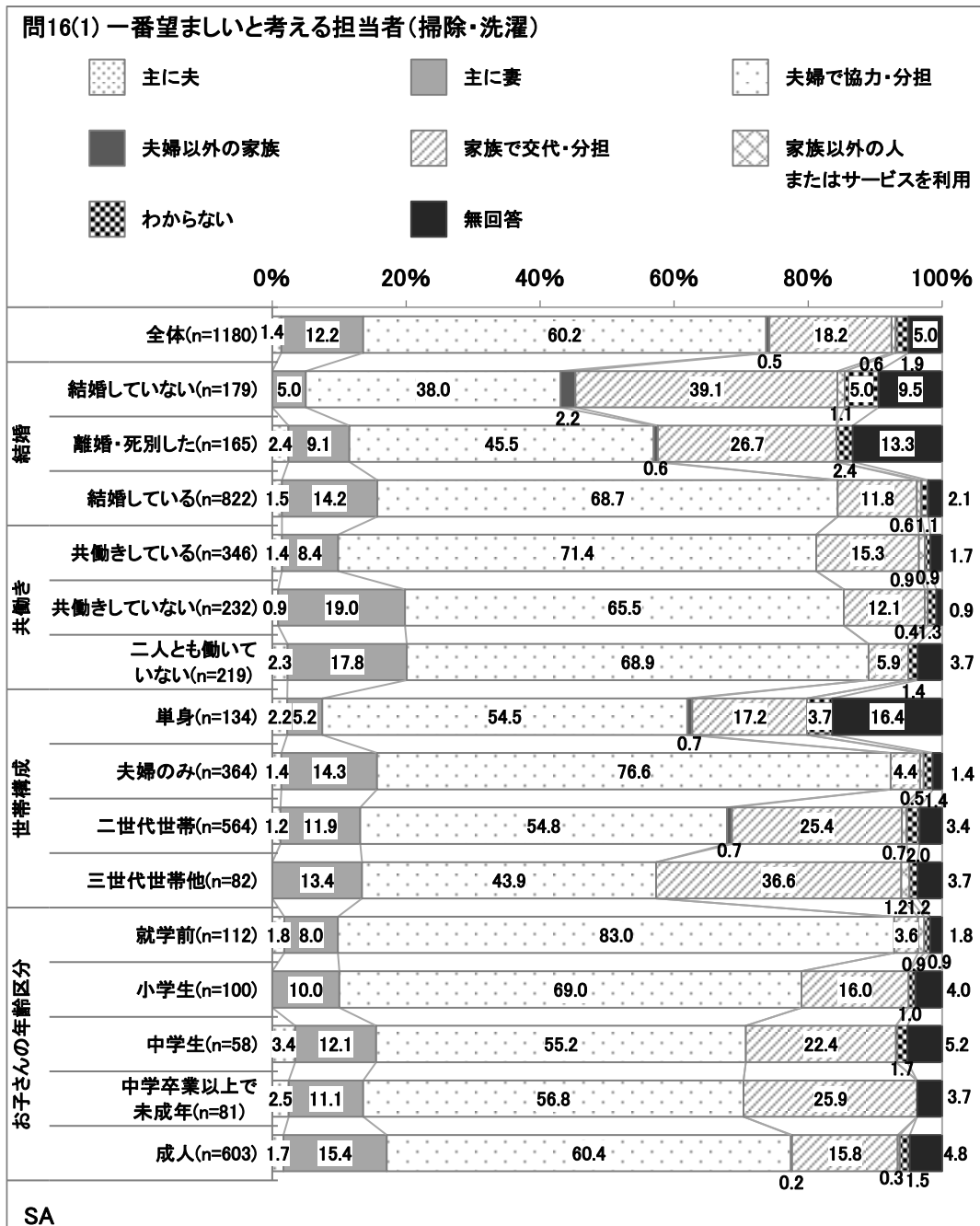
■ 性年代別 問16(1)一番望ましいと考える担当者(掃除・洗濯)

- ・「主に妻」は、女性の80代以上で全体より10ポイント以上高く、男性の30代で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、男性の30代、40代で全体より10ポイント以上高く、女性の20代以下、40代、80代以上で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、女性の20代以下、40代で全体より10ポイント以上高く、男性の30代で低い。



■ 結婚、共働き、世帯構成、お子さんの年齢区分別 問16(1)一番望ましいと考える担当者(掃除・洗濯)

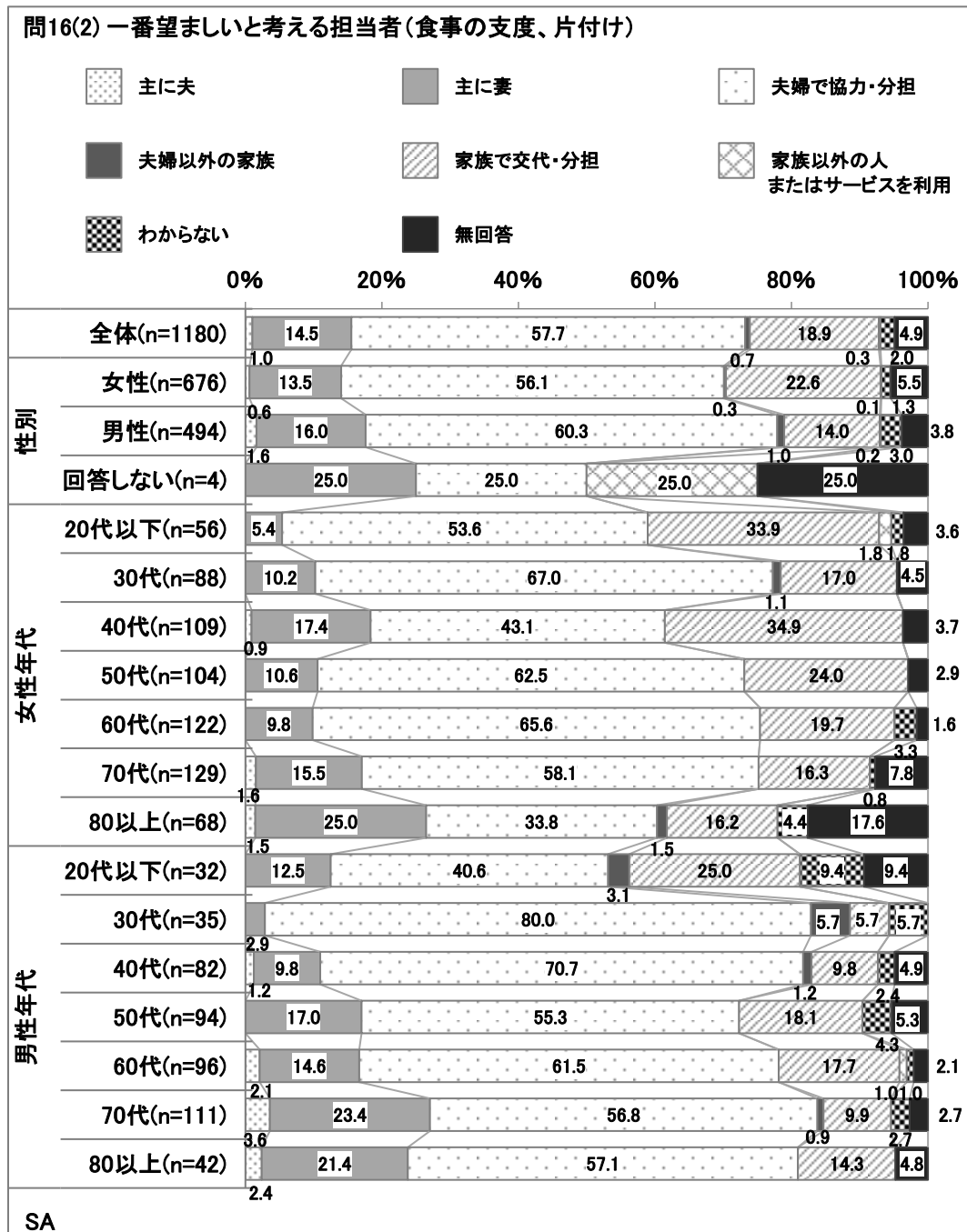
- ・「夫婦で協力・分担」は、共働きしている人、夫婦のみ(事実婚・パートナーを含む)世帯、就学前の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、三世代世帯他で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、結婚していない人、三世代世帯他で全体より10ポイント以上高く、結婚していて二人とも働いていない人、夫婦のみ(事実婚・パートナーを含む)世帯、就学前の子どもがいる人で低い。





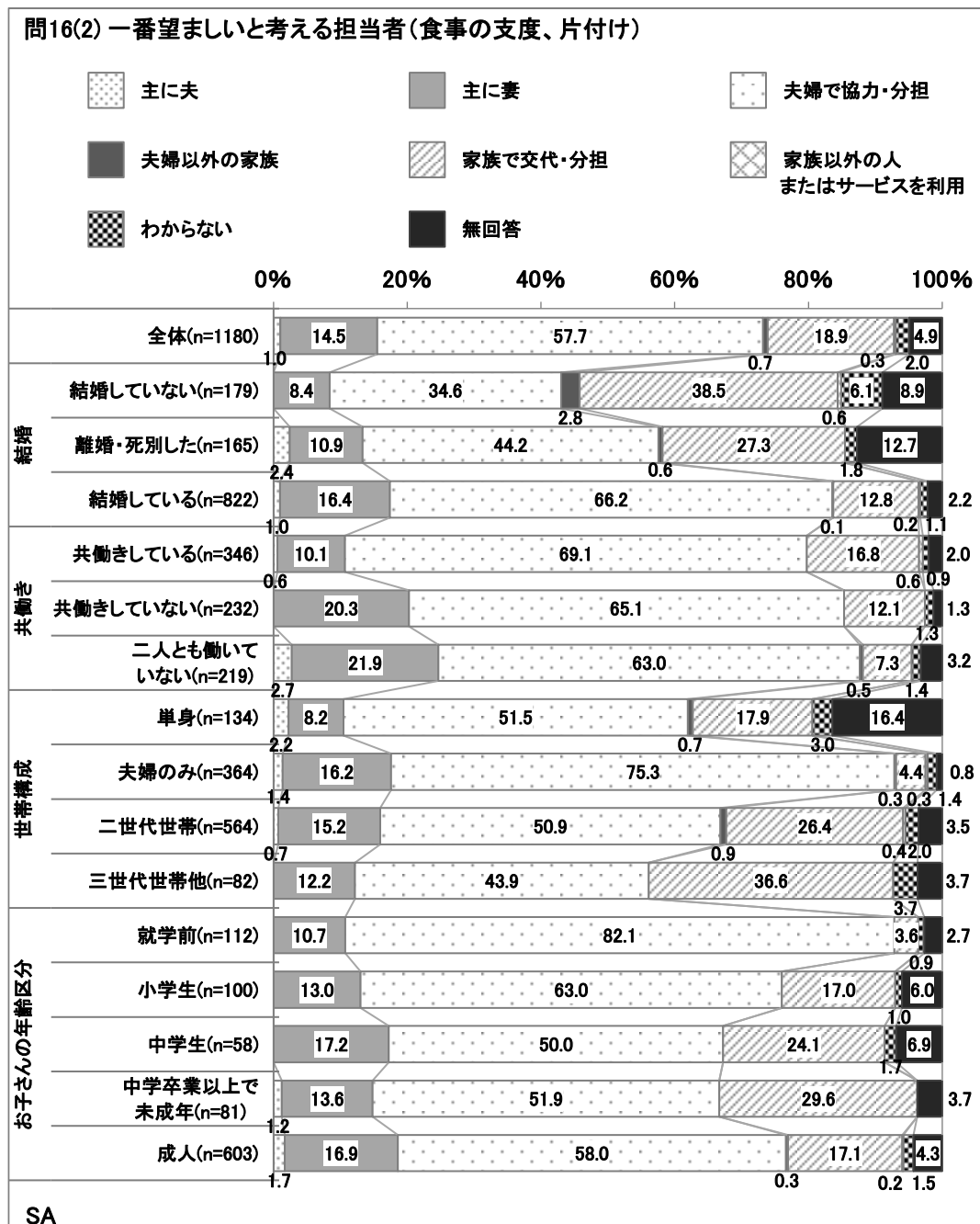
■ 性年代別 問16(2)一番望ましいと考える担当者(食事の支度・片付け)

- ・「主に妻」は、女性の80代以上で全体より10ポイント以上高く、男性の30代で低い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、男性の30代、40代で全体より10ポイント以上高く、女性の40代、80代以上、男性の20代以下で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、女性の20代以下、40代で全体より10ポイント以上高く、男性の30代で低い。



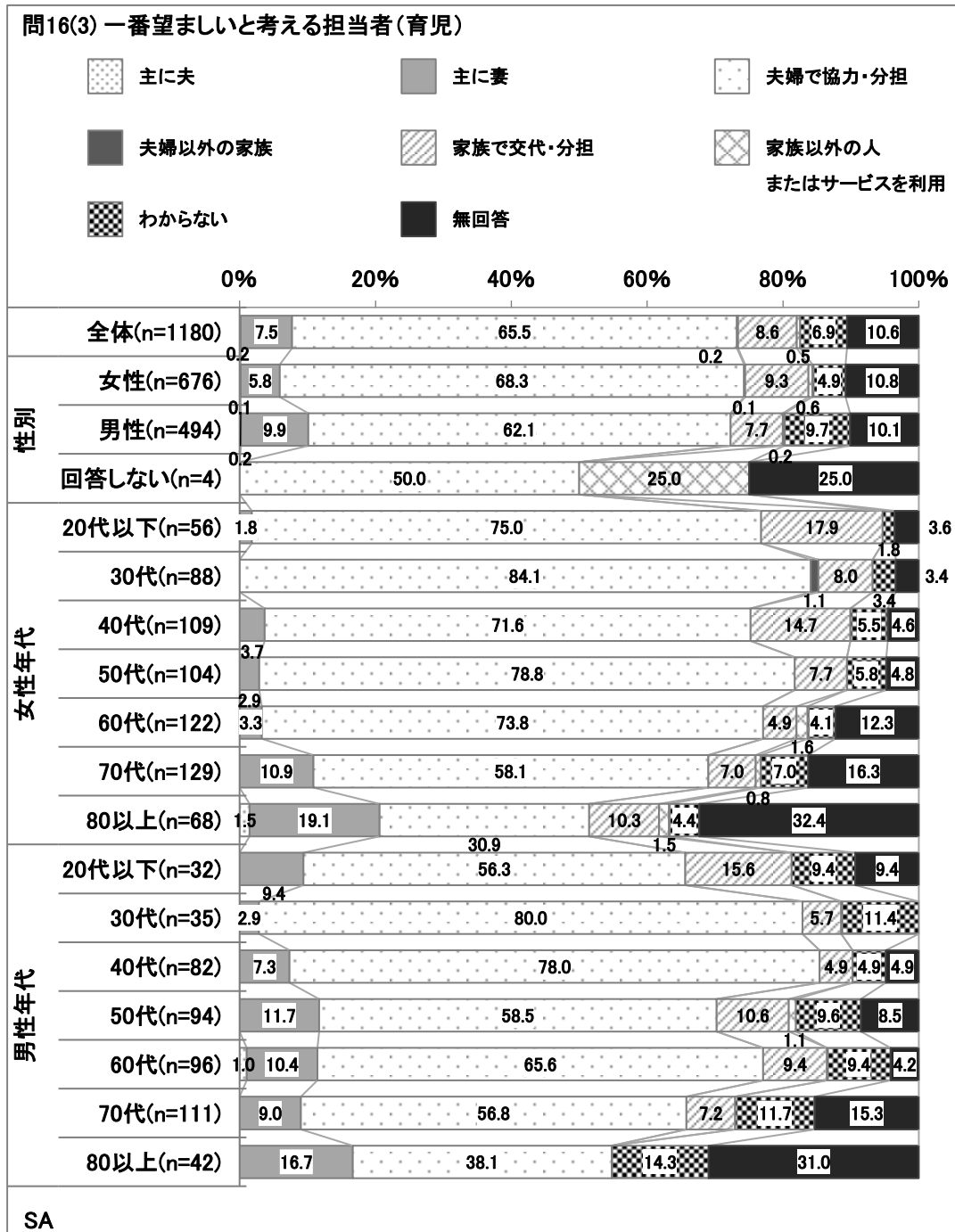
■ 結婚、共働き、世帯構成、お子さんの年齢区分別 問 16(2) 一番望ましいと考える担当者（食事の支度・片付け）

- ・「夫婦で協力・分担」は、共働きしている人、夫婦のみ（事実婚・パートナーを含む）世帯、就学前の子どもがいる人で全体より 10 ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、三世代世帯他で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、結婚していない人、三世代世帯他、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人で全体より 10 ポイント以上高く、結婚していて二人とも働いていない人、夫婦のみ（事実婚・パートナーを含む）世帯、就学前の子どもがいる人で低い。



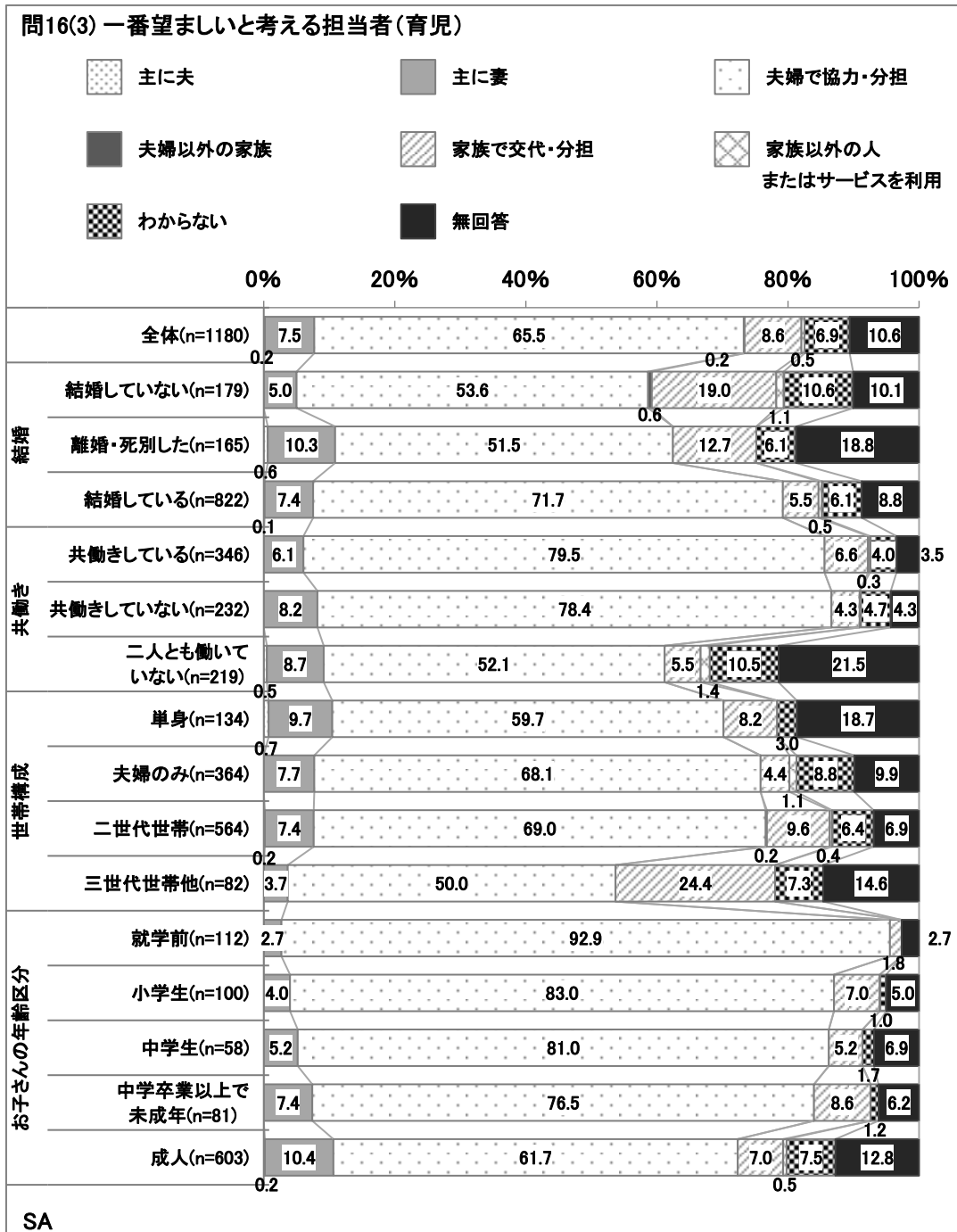
■ 性年代別 問16(3)一番望ましいと考える担当者(育児)

- ・「主に妻」は、女性の80代以上で全体より10ポイント以上高い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、女性の30代、50代、男性の30代、40代で全体より10ポイント以上高く、男女とも80代以上で低い。



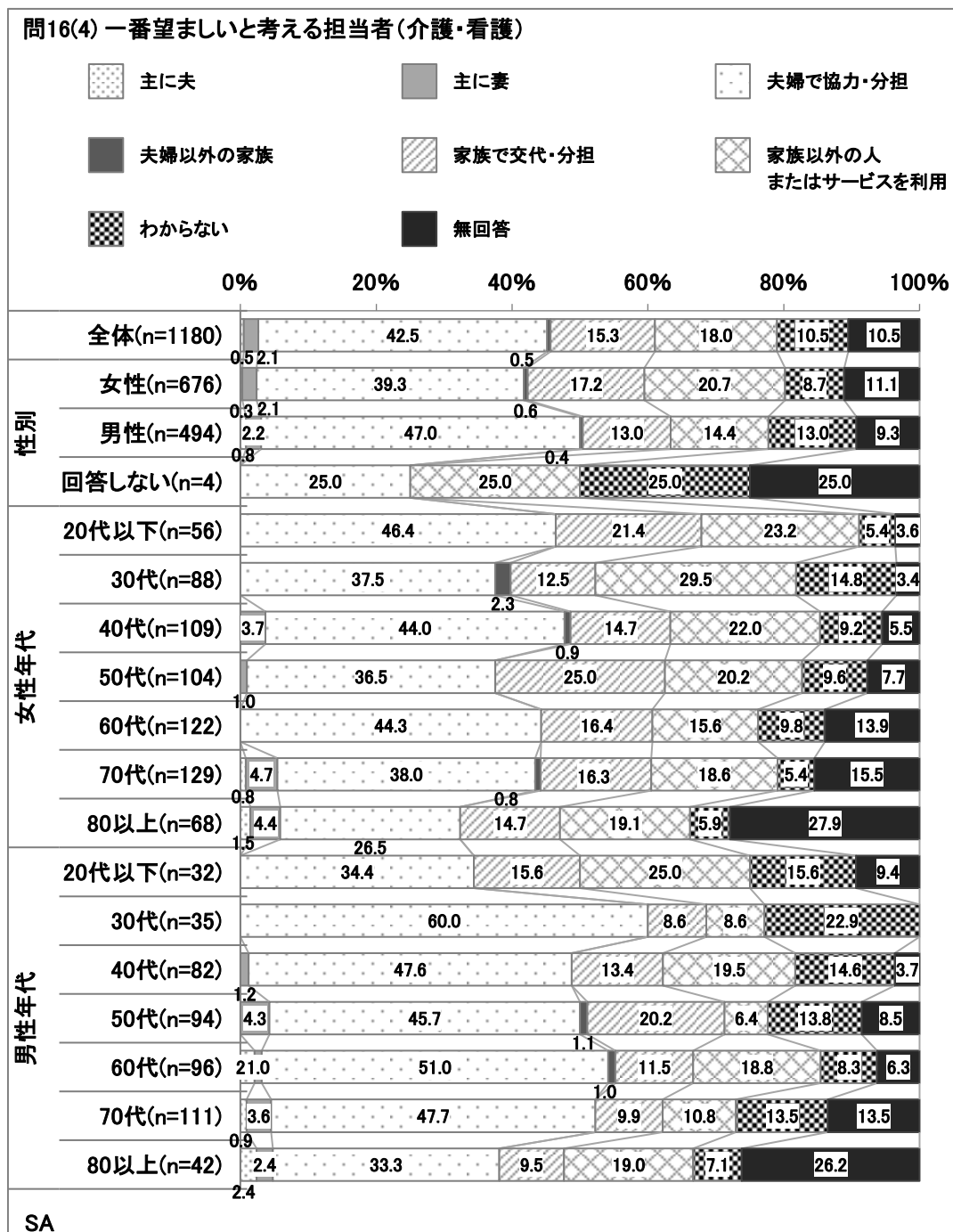
■ 結婚、共働き、世帯構成、お子さんの年齢区分別 問16(3)一番望ましいと考える担当者(育児)

- ・「夫婦で協力・分担」は、共働きしている人、共働きしていない人、就学前から中学卒業以上で未成年までの子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、二人とも働いていない人、三世代世帯他で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、三世代世帯他で全体より10ポイント以上高い。



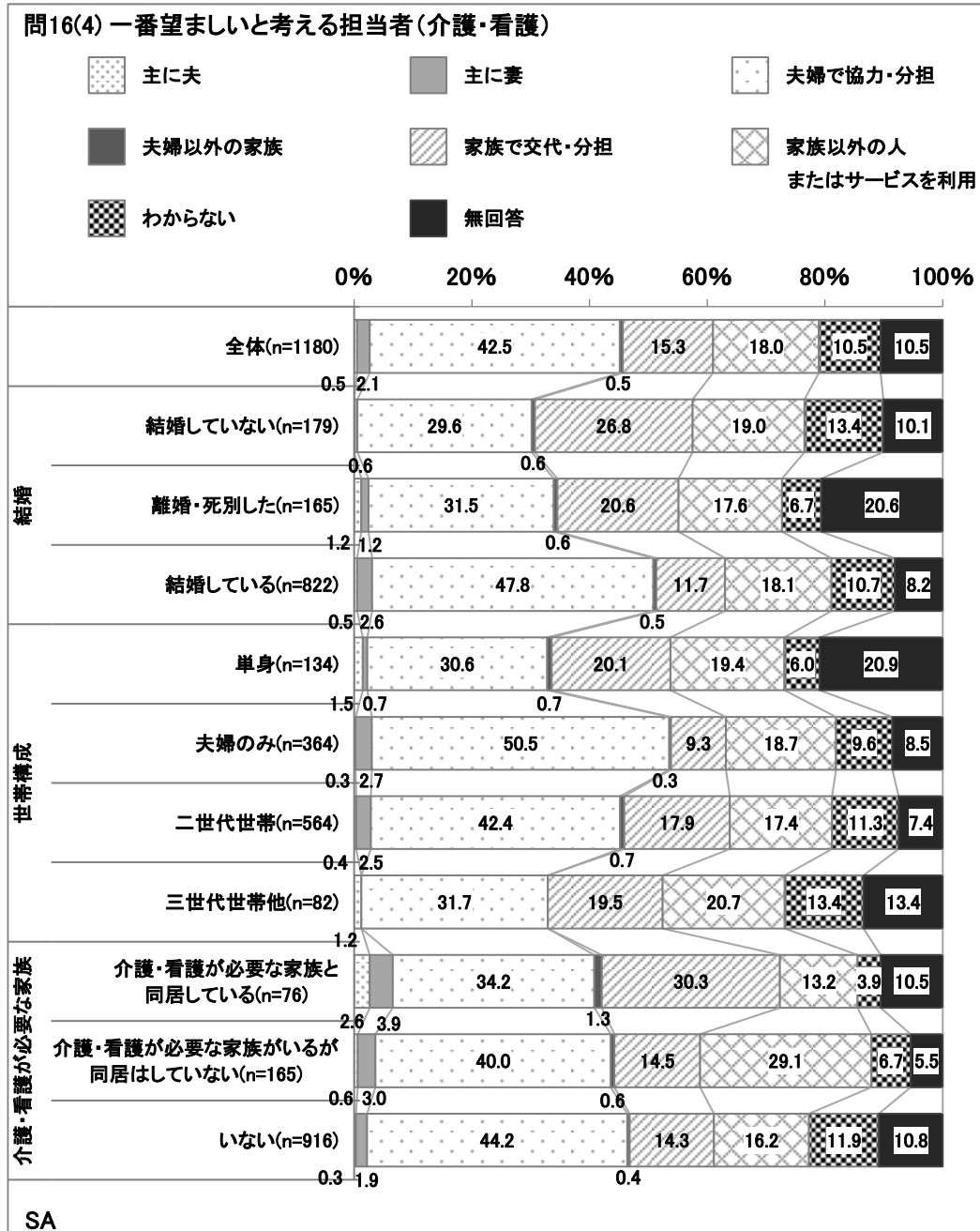
■ 性年代別 問16(4)一番望ましいと考える担当者(介護・看護)

- ・「夫婦で協力・分担」は、男性の30代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上で低い。
- ・「家族以外の人、またはサービスを利用」は、女性30代で全体より10ポイント以上高く、男性の50代で低い。
- ・「わからない」は男性の30代で全体より10ポイント以上高い。



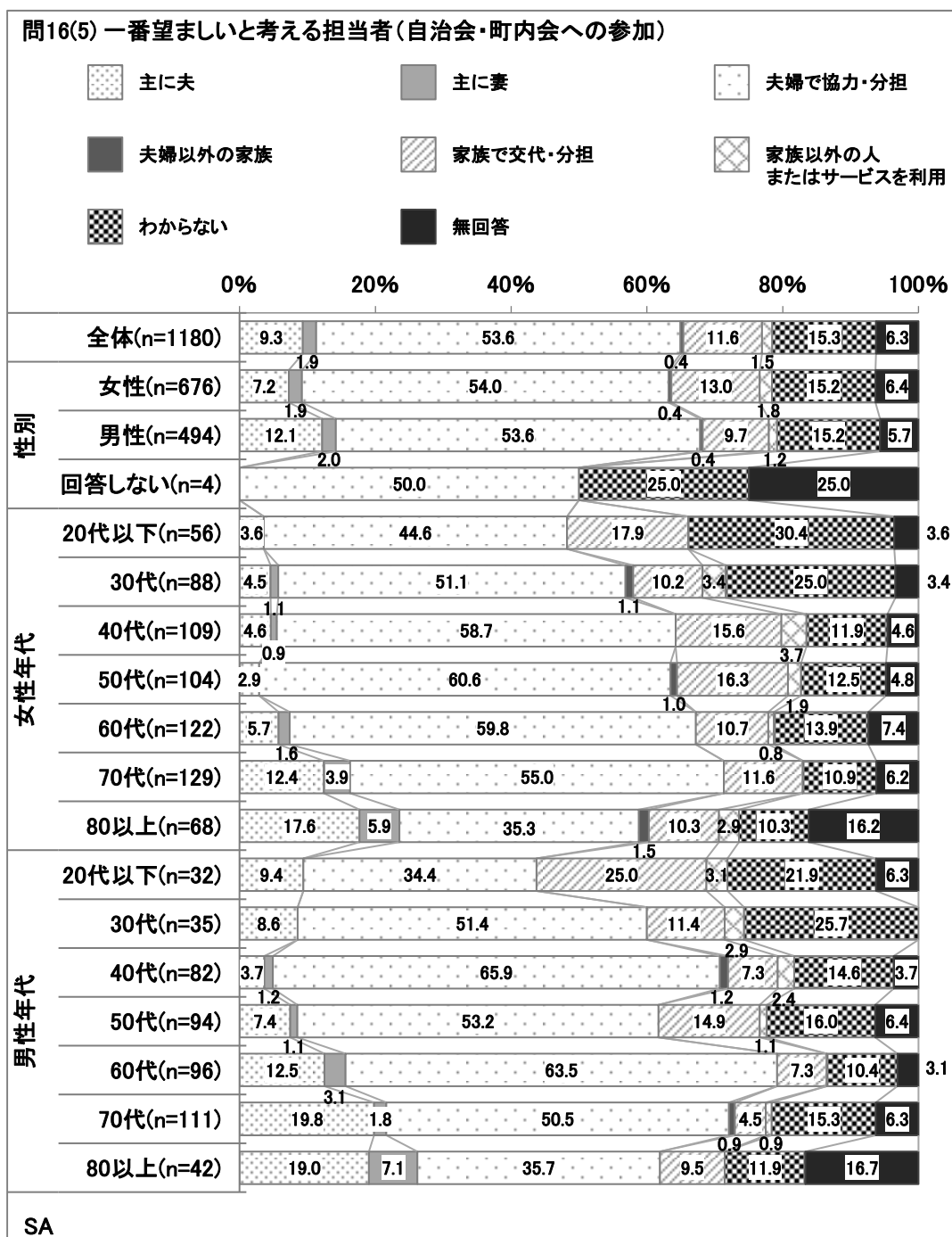
■ 結婚、世帯構成、介護・看護が必要な家族別 問16(4)一番望ましいと考える担当者 (介護・看護)

- ・「夫婦で協力・分担」は、就学前の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、単身(一人暮らし)、三世帯世帯他で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、結婚していない人で全体より10ポイント以上高い。



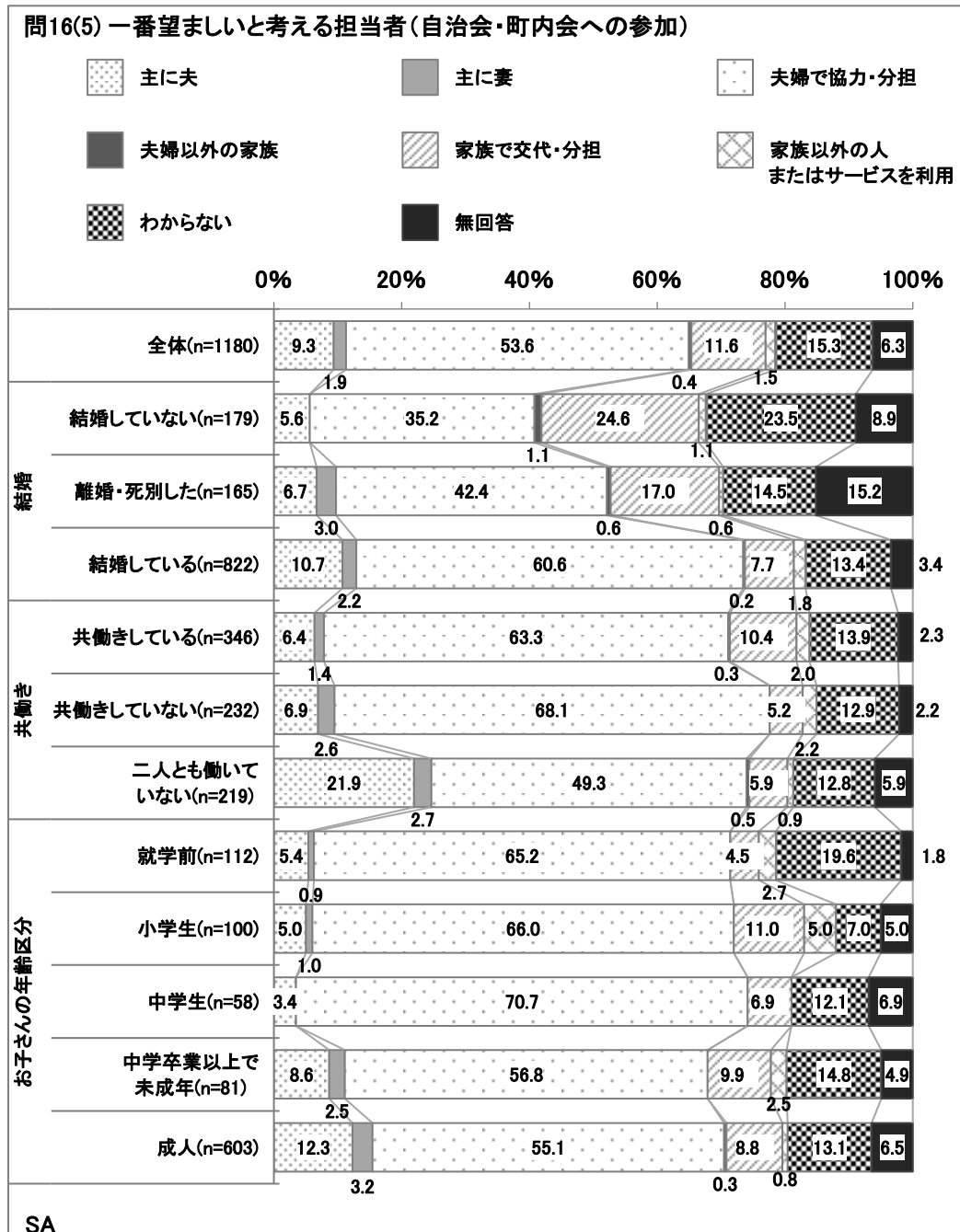
■ 性年代別 問16(5)一番望ましいと考える担当者（自治会・町内会への参加）

- ・「夫婦で協力・分担」は、男性の40代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の20代以下、80代以上で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、男性の20代以下で全体より10ポイント以上高い。
- ・「わからない」は、女性の20代以下、男性の30代で全体より10ポイント以上高い。



■ 結婚、共働き、お子さんの年齢区分別 問16(5)一番望ましいと考える担当者（自治会・町内会への参加）

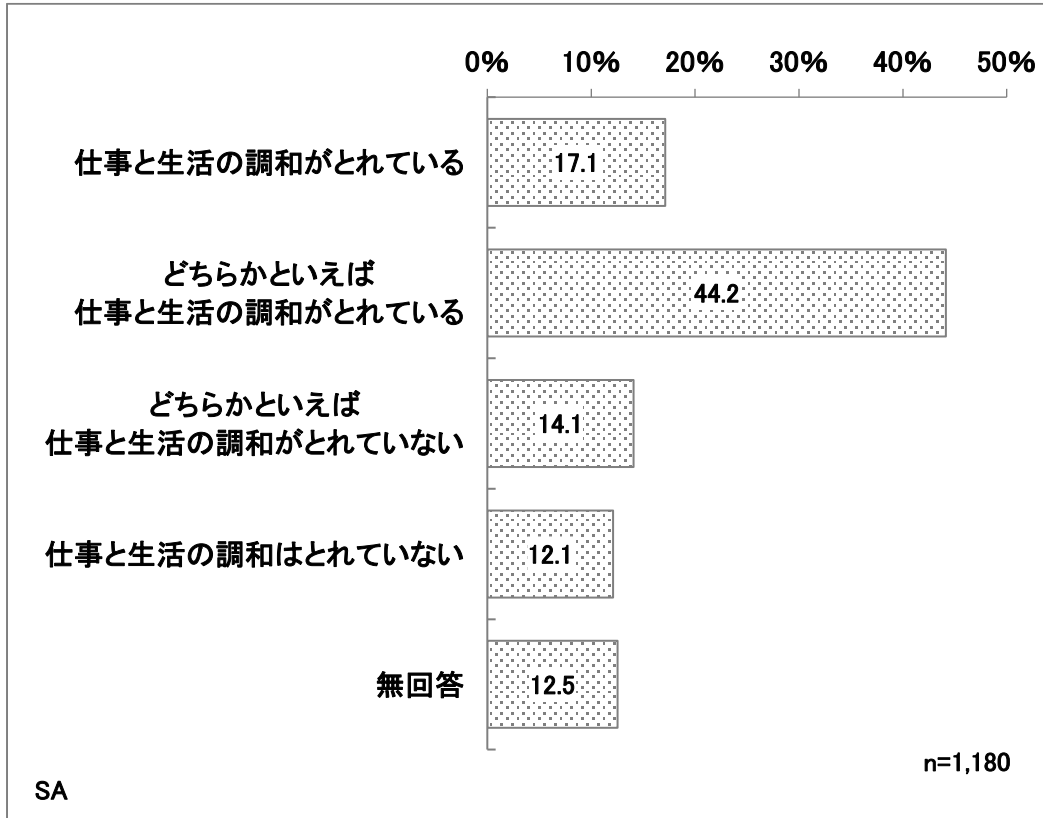
- ・「主に夫」は、結婚していて二人とも働いていない人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「夫婦で協力・分担」は、共働きしていない人、就学前、小学生、中学生の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高く、結婚していない人、結婚していたが離婚・死別した人、単身（一人暮らし）、三世帯世帯他で低い。
- ・「家族で交代・分担」は、結婚していない人、三世帯世帯他で全体より10ポイント以上高い。





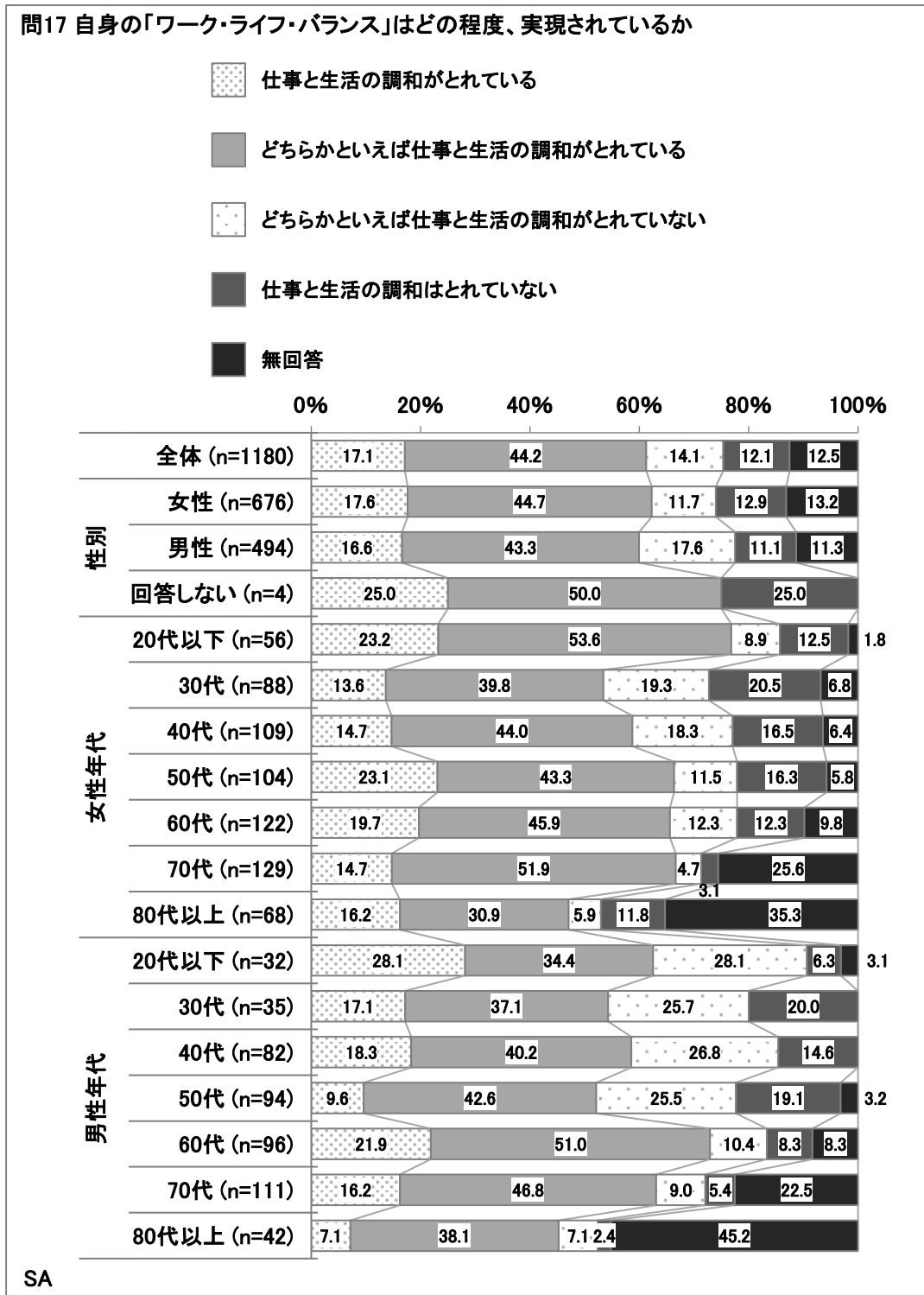
**問 17 あなた自身の「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」はどの程度、実現されていますか。【〇は1つ】**

- ・「どちらかといえば仕事と生活の調和がとれている」（44.2%）が最も多く、次いで「仕事と生活の調和がとれている」が17.1%である。
- ・「仕事と生活の調和がとれている」（17.1%）と「どちらかといえば仕事と生活の調和がとれている」（44.2%）を合わせた“仕事と生活の調和がとれている”割合は61.3%と6割を超えている。



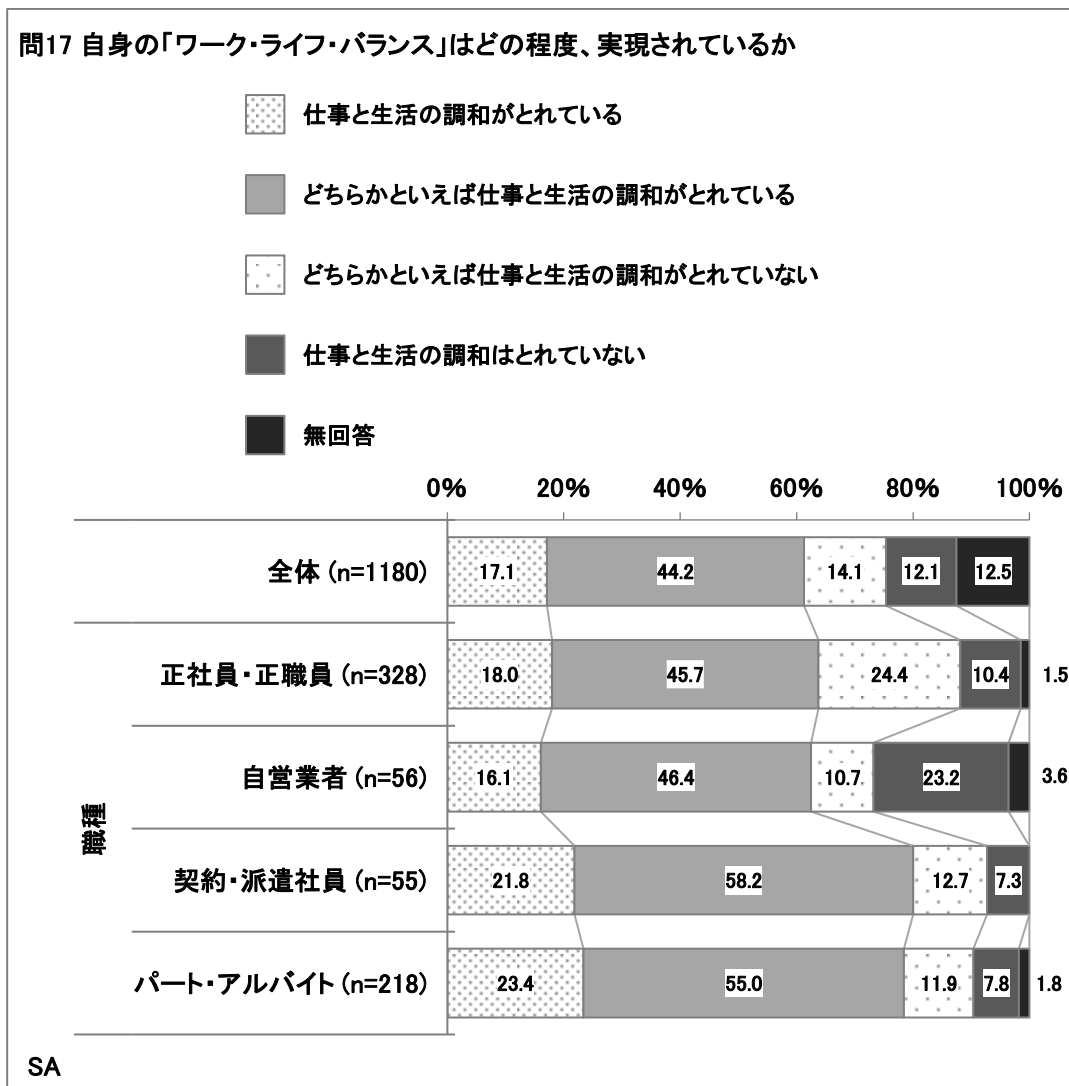
■ 性年代別 問17 自身の「ワーク・ライフ・バランス」はどの程度、実現されているか

- ・「仕事と生活の調和がとれている」は、男性の20代以下で全体より10ポイント以上高い。
- ・「どちらかといえば仕事と生活の調和がとれている」は、女性の80代以上で全体より10ポイント以上低い。
- ・「どちらかといえば仕事と生活の調和がとれていない」は、男性の20代以下から50代で全体より10ポイント以上高い。



■ 職種別 問17 自身の「ワーク・ライフ・バランス」はどの程度、実現されているか

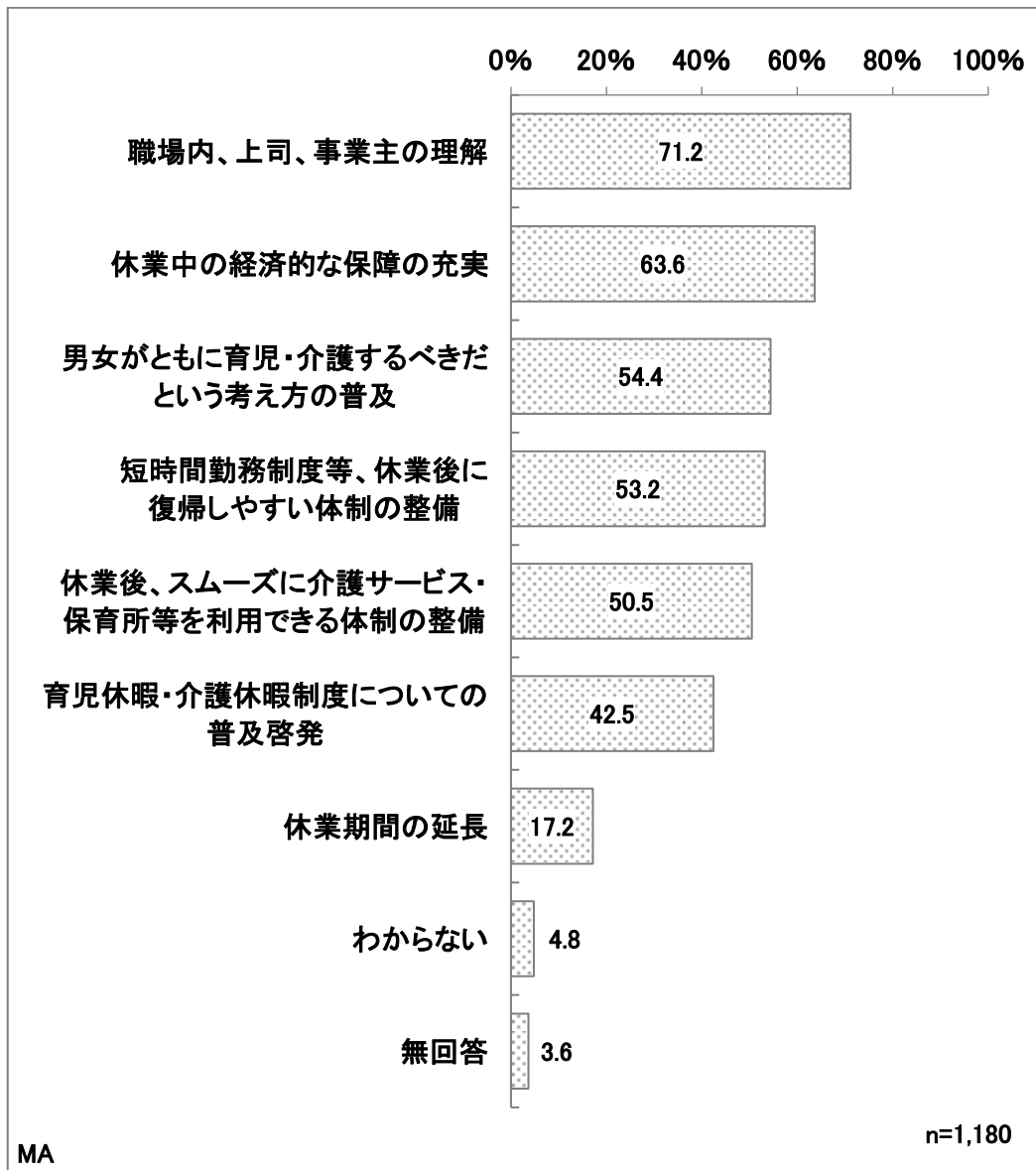
- ・「どちらかといえば仕事と生活の調和がとれている」は、契約・派遣社員、パート・アルバイトで全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「どちらかといえば仕事と生活の調和がとれていない」は、正社員・正職員で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「仕事と生活の調和はとれていない」は、自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、家族従業者等）で全体より 10 ポイント以上高い。



問 18 男女ともに育児休暇・介護休暇の取得率を上げるにはどのような対策が必要だと思いますか。

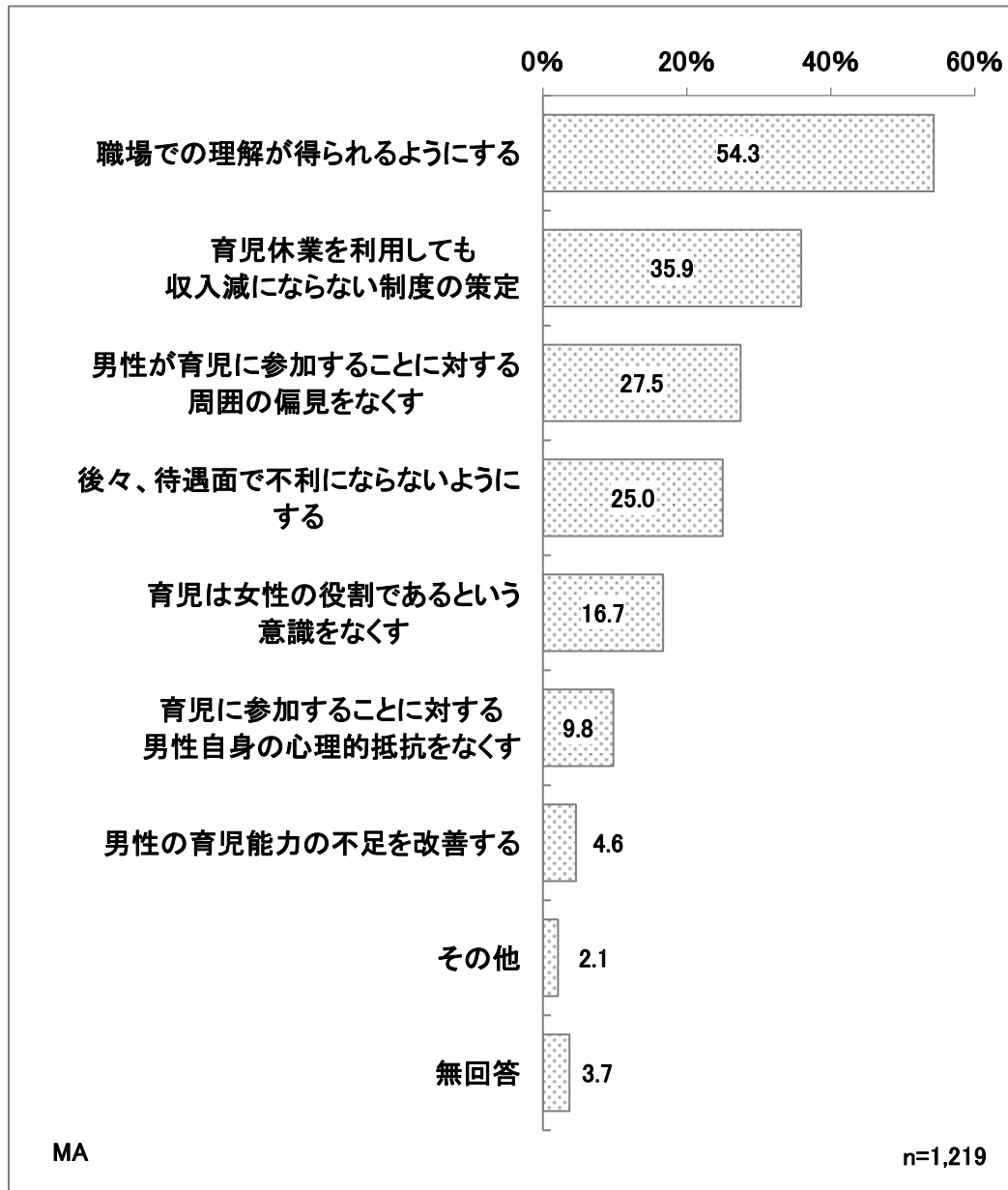
【○は複数可】

- ・「職場内、上司、事業主の理解」(71.2%)が最も多く、次いで「休業中の経済的な保障の充実」(63.6%)が多い。



### <参考 平成 20 年調査>

・選択肢の内容が異なるため、参考として平成 20 年調査をみて見ると、最も多いのは「職場での理解が得られるようにする」(54.3%)、次いで「育児休業を利用しても収入減にならない制度の策定」(35.9%)、「男性が育児に参加することに対する周囲の偏見をなくす」(27.5%)で、職場の理解・経済面の保障・男性が育児に携わるという考えの普及が上位3位という結果になっており、令和3年と同様の傾向にある。



設問 育児休業制度は男性も利用できるようになっていますが、男性の利用者が極めて少ないのが現実です。どうすれば利用できるようになると思いますか【2つまで選択】

## ■ 性年代別 問18 男女ともに育児休暇・介護休暇の取得率を上げるにはどのような対策が必要だと思うか（複数回答）

- ・「職場内、上司、事業主の理解」は、女性の30代、60代で全体より10ポイント以上高く、男女とも80代以上で低い。
- ・「休業中の経済的な保障の充実」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高く、80代以上で低い。
- ・「男女がともに育児・介護するべきだという考え方の普及」は、女性の30代、50代、60代で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下、30代、60代で低い。
- ・「短時間勤務制度等、休業後に復帰しやすい体制の整備」は、女性の30代、50代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の20代以下、70代、80代以上で低い。
- ・「休業後、スムーズに介護サービス・保育所等を利用できる体制の整備」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の20代以下、30代、80代以上で低い。
- ・「育児休暇・介護休暇制度についての普及啓発」は、男性の80代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の20代以下で低い。
- ・「休業期間の延長」は、男性の80代以上で低い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問18 男女ともに育児休暇・介護休暇の取得率を上げるにはどのような対策が必要だと思うか	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
職場内、上司、事業主の理解	71.2	1.6	-1.6	-46.2	3.8	11.8	8.6	12.5	0.1	-6.8	-22.7	-2.4	-2.6	9.3	1.2	0.7	-5.4	-21.2		
休業中の経済的な保障の充実	83.6	-0.5	0.7	11.4	2.4	11.4	-0.3	1.7	-3.8	-2.4	-12.2	8.2	4.9	1.0	0.2	8.2	-5.1	-8.9		
男女がともに育児・介護するべきだという考え方の普及	54.4	5.7	-7.2	-54.4	-0.8	14.9	5.2	10.0	13.6	-2.5	-5.9	-10.7	-20.1	-2.0	-3.3	-10.7	-6.7	-4.4		
短時間勤務制度等、休業後に復帰しやすい体制の整備	53.2	2.7	-3.8	-3.2	9.3	13.8	-0.9	11.2	-1.6	-0.5	-10.6	-15.7	1.1	6.5	4.2	3.0	-11.8	-29.4		
休業後、スムーズに介護サービス・保育所等を利用できる体制の整備	50.5	3.8	-5.2	-0.5	-5.9	17.7	-0.0	8.1	6.0	5.3	-13.7	-16.1	-13.4	-9.0	-4.8	-5.7	5.3	-10.0		
育児休暇・介護休暇制度についての普及啓発	42.5	-1.9	2.9	-42.5	-6.7	7.5	-1.2	1.8	3.4	-9.9	-11.6	-14.3	3.3	-3.4	1.2	5.5	8.9	12.3		
休業期間の延長	17.2	-0.3	0.2	7.8	9.6	-4.7	1.1	-0.9	0.8	-3.2	-1.0	7.8	2.8	-0.1	4.1	0.5	-1.9	-10.1		
わからない	4.8	-0.5	0.6	-4.8	0.5	-4.8	-2.1	-1.9	0.1	-0.2	6.9	4.5	-2.0	-3.6	2.6	-0.7	3.3	-0.1		
無回答	3.6	0.9	-1.6	21.4	-3.6	-0.2	0.0	-1.7	-1.2	0.2	16.9	-3.6	-3.6	-3.6	-2.6	-2.6	-1.8	8.3		

■ お子さんの年齢区分、介護・看護が必要な家族、職種、未就業者内訳別 問18 男女ともに育児休暇・介護休暇の取得率を上げるにはどのような対策が必要だと思うか（複数回答）

- ・「職場内、上司、事業主の理解」は、中学生、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人、契約・派遣社員、学生で全体より10ポイント以上高い。
- ・「休業中の経済的な保障の充実」は、就学前の子どもがいる人、介護・看護が必要な家族と同居している人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「男女がともに育児・介護するべきだという考え方の普及」は、就学前の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「短時間勤務制度等、休業後に復帰しやすい体制の整備」は、就学前の子どもがいる人、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高い。
- ・「休業後、スムーズに介護サービス・保育所等を利用できる体制の整備」は、就学前の子どもがいる人、主婦・主夫で全体より10ポイント以上高い。

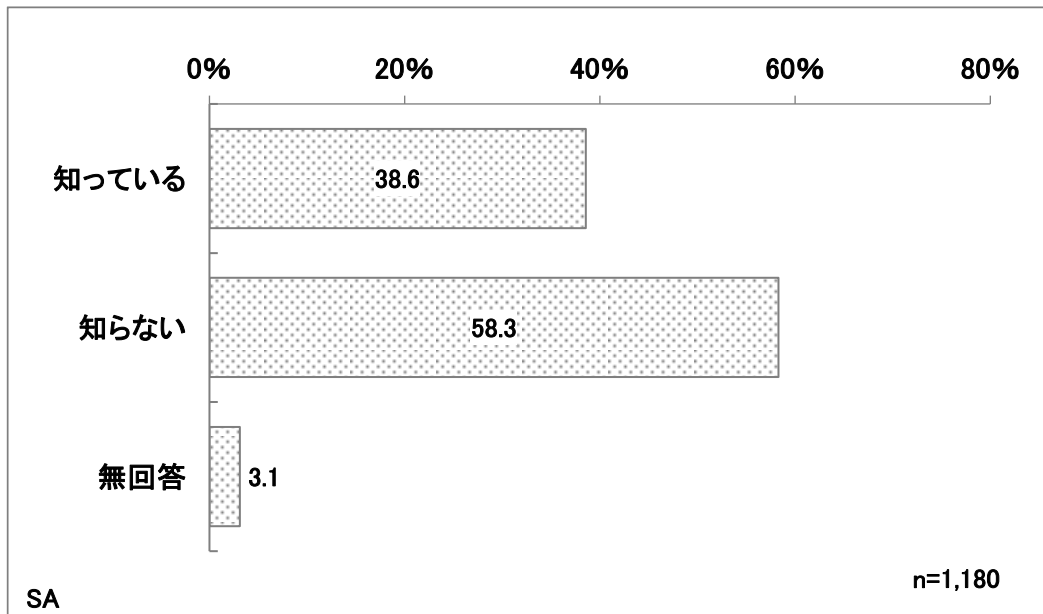
※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問18 男女ともに育児休暇・介護休暇の取得率を上げるにはどのような対策が必要だと思うか	全体 (%)	お子さんの年齢区分					介護・看護が必要な家族			職種				未就業者			
		就学前	小学生	中学生	未成年卒業以上	成人	同居している	同居していない	いない	正社員正職員	自営業	社員契約派遣	アルバイト	主婦主夫	学生	その他	不明
n=	1,180	112	100	58	81	603	76	165	916	328	56	55	218	292	25	86	75
職場内、上司、事業主の理解	71.2	9.2	5.8	11.6	10.3	-1.9	-1.4	5.8	-0.2	4.4	-5.1	10.6	3.6	1.4	6.8	-9.6	-20.5
休業中の経済的な保障の充実	63.6	14.9	8.4	3.6	-1.9	-1.5	14.0	1.2	-0.9	4.0	0.6	3.6	-0.8	0.1	8.4	-6.7	-5.0
男女がともに育児・介護するべきだという考え方の普及	54.4	14.3	5.6	5.9	4.9	0.5	-3.1	2.6	0.3	-2.0	-6.2	3.8	5.2	5.5	-2.4	-5.6	-9.1
短時間勤務制度等、休業後に復帰しやすい体制の整備	53.2	12.0	0.8	-1.5	-2.6	-1.3	-1.9	2.5	0.2	2.3	-5.0	21.3	3.2	1.6	2.8	-16.0	-15.9
休業後、スムーズに介護サービス・保育所等を利用できる体制の整備	50.5	11.1	-1.5	-4.0	-3.6	2.9	2.1	5.9	-0.8	-1.4	-4.1	2.2	-3.7	11.1	-18.5	-4.0	-9.2
育児休暇・介護休暇制度についての普及啓発	42.5	5.8	-4.5	-1.1	3.2	2.0	-0.4	1.2	-0.1	0.8	-3.2	-0.6	-0.7	1.7	-6.5	4.1	0.2
休業期間の延長	17.2	6.0	-5.2	-5.1	2.5	0.2	-0.1	-0.2	0.3	1.4	7.8	-0.8	-2.1	1.3	6.8	0.2	-9.2
わからない	4.8	-3.9	-0.8	-4.8	-2.4	0.3	1.7	-3.0	0.2	-3.3	4.1	-4.8	-0.2	1.0	-0.8	4.5	0.5
無回答	3.6	-2.8	-3.6	-1.9	-1.2	0.5	-2.3	-0.6	-0.3	-2.4	-0.1	-3.6	-1.8	-0.2	-3.6	3.3	7.0

### 3. 女性の活躍推進について

問 19 国では「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位に女性が占める割合を 30% 程度にする」という目標を掲げていましたが、そのことを知っていましたか。【〇は 1 つ】

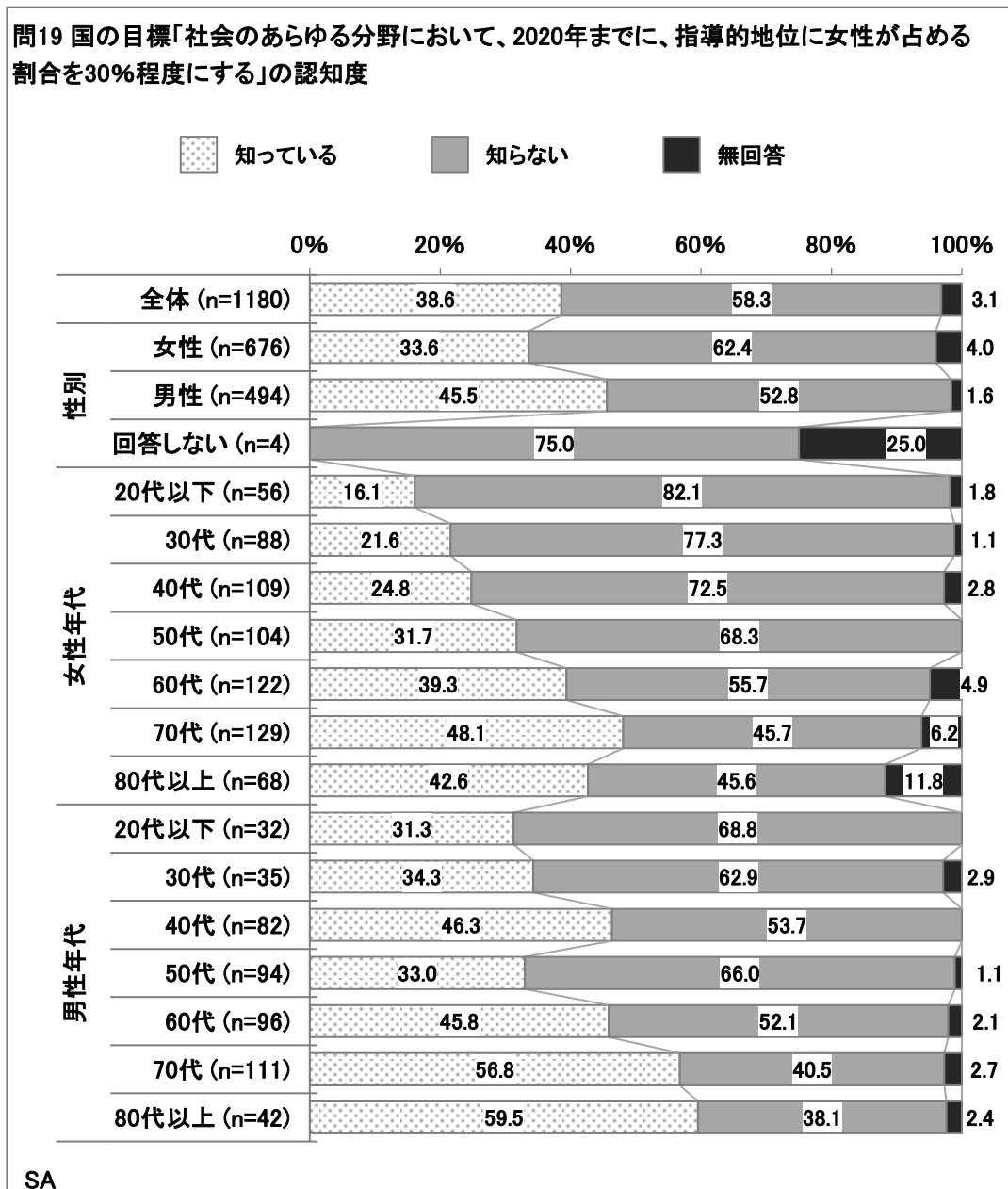
- ・「知らない」(58.3%) が「知っている」(38.6%) を 19.7 ポイント上回っている。





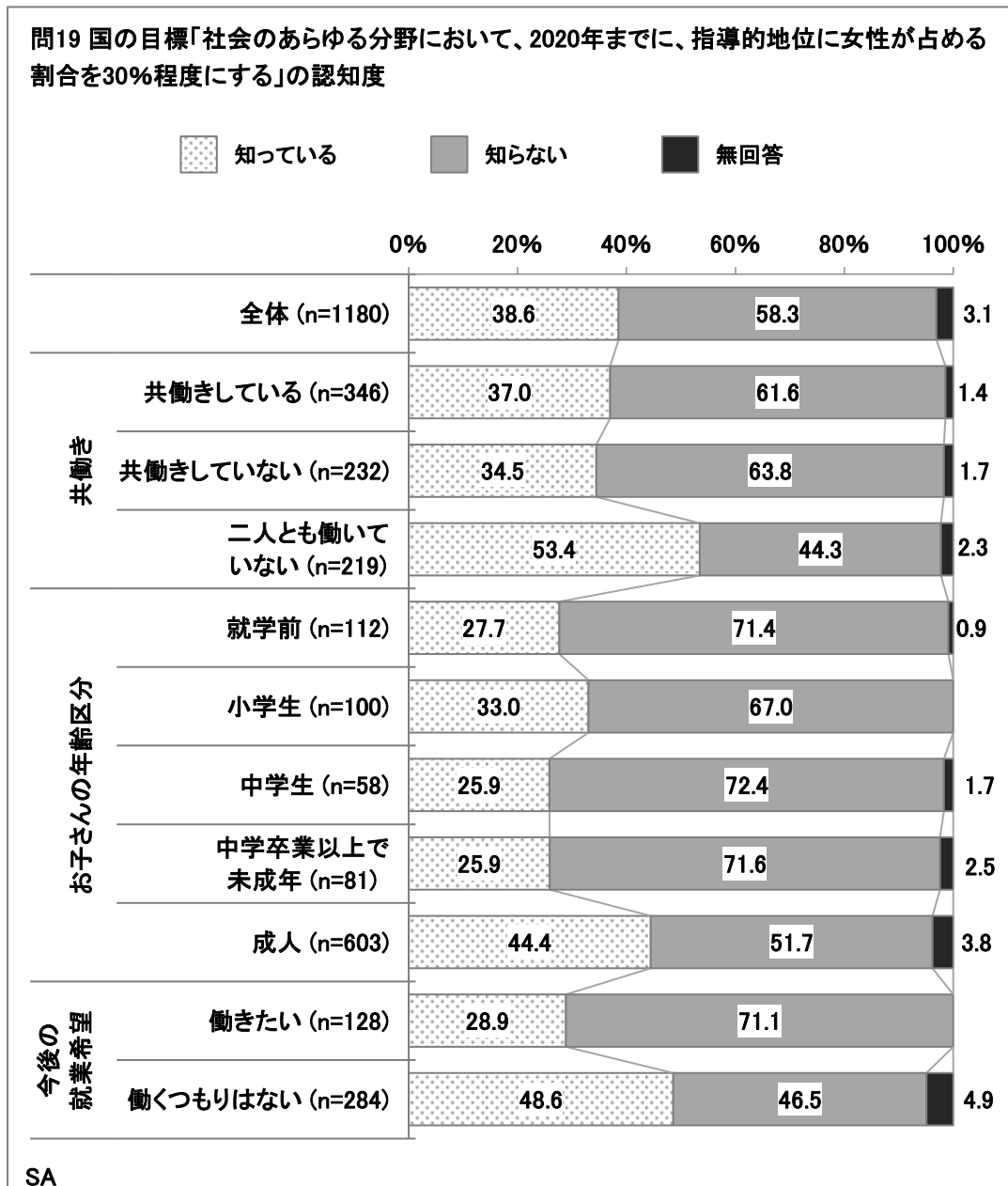
■ 性年代別 問19 国の目標「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合を30%程度にする」の認知度

- ・「知っている」は、男性の70代、80代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の20代以下から40代で低い。
- ・「知らない」は、女性の20代以下から40代、男性の20代以下で全体より10ポイント以上高く、男性の70代、80代以上で低い。



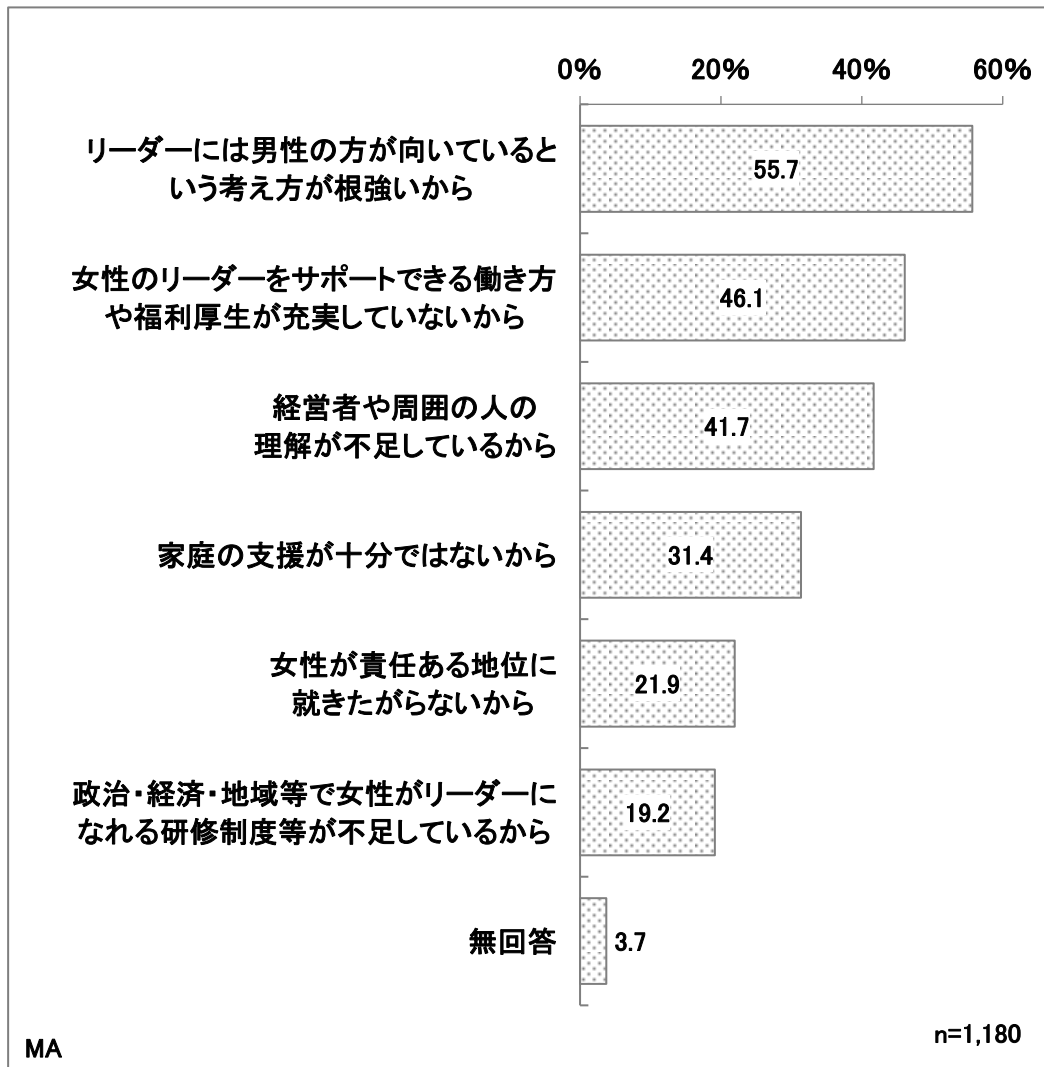
■ 共働き、お子さんの年齢区分、今後の就業希望別 問19 国の目標「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合を30%程度にする」の認知度

- ・「知っている」は、結婚していて二人とも働いていない人、今後働くつもりはない人で全体より10ポイント以上高く、就学前、中学生、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人で低い。
- ・「知らない」は、就学前、中学生、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人、今後働きたい人で全体より10ポイント以上高く、結婚していて二人とも働いていない人、今後働くつもりはない人で低い。



問 20 あなたは、政治・経済・地域などのあらゆる分野で女性のリーダーが少ない理由について、あなたの考えとして近いものを選択してください。【〇は複数可】

- ・「リーダーには男性の方が向いているという考え方が根深いから」(55.7%)が最も多く、以下「女性のリーダーをサポートできる働き方や福利厚生が充実していないから」(46.1%)、「経営者や周囲の人の理解が不足しているから」(41.7%)と続く。



■ 性年代別 問20 政治・経済・地域などのあらゆる分野で女性のリーダーが少ない理由（複数回答）

- ・「リーダーには男性の方が向いているという考え方が根強いから」は、男性の20代以下、30代で全体より10ポイント以上低い。
- ・「女性のリーダーをサポートできる働き方や福利厚生が充実していないから」は、女性の20代以下で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下、30代で低い。
- ・「経営者や周囲の人の理解が不足しているから」は、女性の30代、50代で全体より10ポイント以上高く、女性の40代で低い。
- ・「家庭の支援が十分ではないから」は、女性の50代で全体より10ポイント以上高く、男性の50代で低い。
- ・「女性が責任ある地位に就きたがらないから」は、男性の30代、50代、60代、70代で全体より10ポイント以上高く、女性の20代以下で低い。
- ・「政治・経済・地域等で女性がリーダーになれる研修制度等が不足しているから」は、男女とも80代で全体より10ポイント以上高く、男性の30代で低い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問20 政治・経済・地域などのあらゆる分野で女性のリーダーが少ない理由について、あなたの考えとして近いもの	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
リーダーには男性の方が向いているという考え方が根強いから	55.7	2.9	-3.7	-5.7	-2.1	8.0	4.9	7.8	8.3	-3.0	-8.6	-15.1	-21.4	-6.9	-5.7	0.6	3.8	1.5		
女性のリーダーをサポートできる働き方や福利厚生が充実していないから	46.1	5.5	-7.4	3.9	2.8	2.8	4.4	4.9	1.4	9.7	5.4	-27.4	-17.5	-4.6	-9.9	-3.4	-1.1	-8.0		
経営者や周囲の人の理解が不足しているから	41.7	0.9	-1.0	-6.7	-0.6	7.4	-10.5	11.2	2.6	-9.9	1.0	-7.3	-4.6	-3.9	-3.4	-1.1	5.2	1.2		
家庭の支援が十分ではないから	31.4	1.8	-2.6	18.6	-8.1	6.1	1.7	11.0	-1.8	1.2	-1.9	-6.4	5.8	-0.9	-11.1	-3.2	2.9	-2.8		
女性が責任ある地位に就きたがらないから	21.9	-7.7	10.6	3.1	-3.0	-3.8	-8.2	-8.5	-5.6	-9.5	-7.2	6.2	15.2	3.7	18.5	11.4	11.4	4.2		
政治・経済・地域等で女性がリーダーになれる研修制度等が不足しているから	19.2	-0.8	0.9	5.8	-4.9	-1.0	-8.1	-5.7	2.2	2.6	10.3	-3.5	-13.4	1.6	-3.2	0.6	4.3	16.6		
無回答	3.7	0.3	-0.9	21.3	-3.7	-2.6	-0.1	-3.7	0.4	4.0	6.6	-0.6	-0.9	-0.1	-0.5	-2.7	-0.1	-1.3		

■ お子さんの年齢区分別 問 20 政治・経済・地域などのあらゆる分野で女性のリーダーが少ない理由（複数回答）

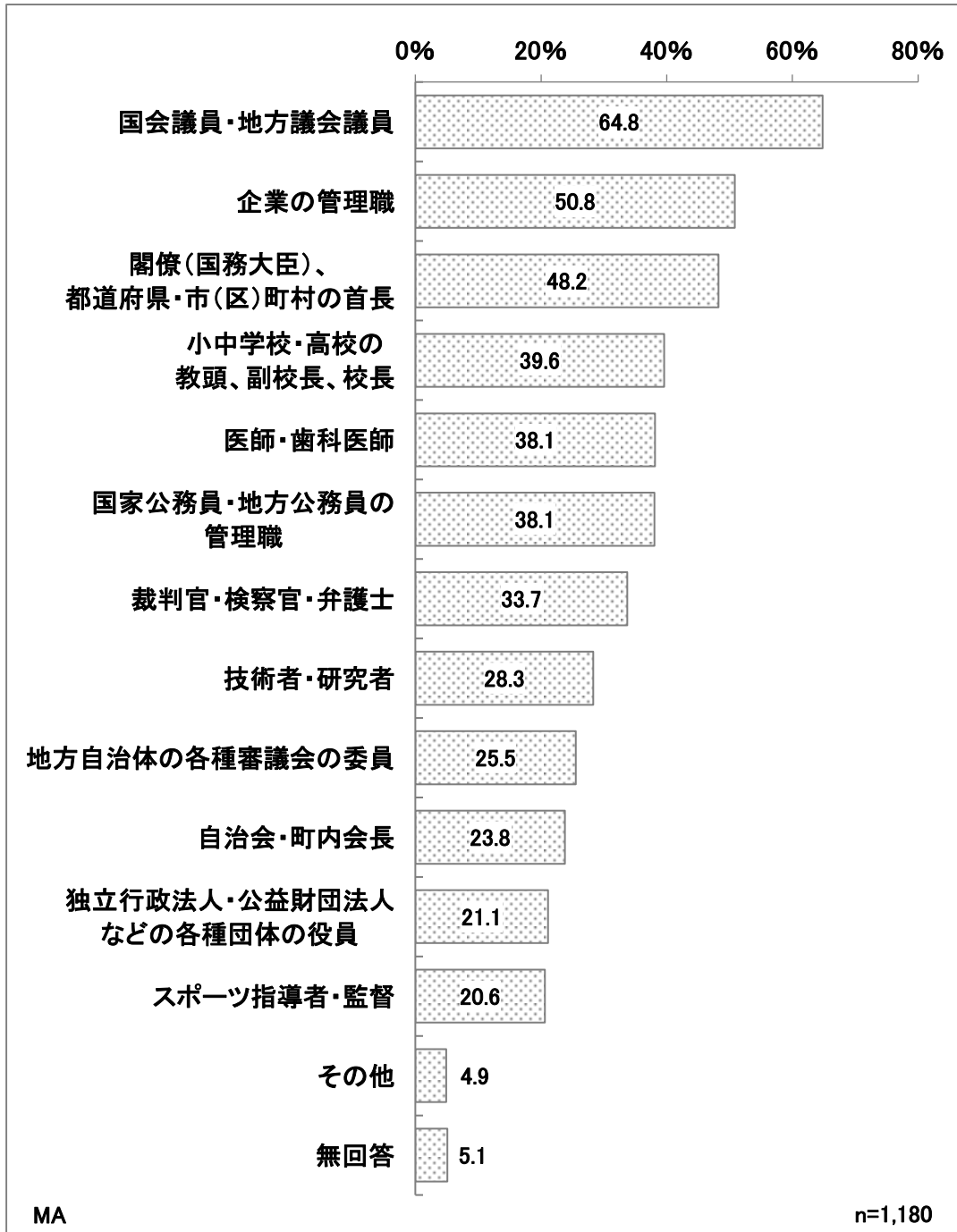
- ・「家庭の支援が十分ではないから」は、就学前、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■：全体より高い/■：全体より低い)

問20 政治・経済・地域などのあらゆる分野で女性のリーダーが少ない理由について、あなたの考えとして近いもの	全体 (%)	お子さんの年齢区分				
		就学前	小学生	中学生	中学卒業以上で未成年	成人
n=	1,180	112	100	58	81	603
リーダーには男性の方が向いているという考え方が根深いから	55.7	-1.2	-2.7	4.7	-3.8	0.0
女性のリーダーをサポートできる働き方や福利厚生が充実していないから	46.1	-1.5	-2.1	-6.4	-1.7	3.0
経営者や周囲の人の理解が不足しているから	41.7	2.1	0.3	-0.3	7.7	0.1
家庭の支援が十分ではないから	31.4	11.5	-2.4	3.1	15.6	0.5
女性が責任ある地位に就きたがらないから	21.9	-5.9	-0.9	-6.4	-1.0	-0.7
政治・経済・地域等で女性がリーダーになれる研修制度等が不足しているから	19.2	-8.4	-5.2	-5.4	-3.1	1.2
無回答	3.7	-1.9	-2.7	1.4	-0.0	0.3

問 21 女性が増えた方が良いと思う職業や役職はなんですか。【〇は複数可】

・「国会議員・地方議会議員」(64.8%)が最も多く、以下「企業の管理職」(50.8%)、「閣僚(国務大臣)、都道府県・市(区)町村の首長」(48.2%)と続く。



## ■ 性年代別 問21 女性が増えた方が良いと思う職業や役職（複数回答）

- 「国会議員・地方議会議員」は、女性の80代以上、男性の20代以下、30代で全体より10ポイント以上低い。
- 「企業の管理職」は、女性の40代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の30代で低い。
- 「閣僚（国務大臣）、都道府県・市（区）町村の首長」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の30代、80代以上で低い。
- 「小中学校・高校の教頭、副校長、校長」は、男性の80代以上で全体より10ポイント以上高い。
- 「医師・歯科医師」は、女性の80代以上で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下、60代で低い。
- 「国家公務員・地方公務員の管理職」は、女性の20代以下で全体より10ポイント以上低い。
- 「裁判官・検察官・弁護士」は、女性の80代以上、男性の30代で全体より10ポイント以上低い。
- 「技術者・研究者」は、女性の20代以下で全体より10ポイント以上低い。
- 「地方自治体の各種審議会の委員」は、男性の80代以上で全体より10ポイント以上高い。
- 「自治会・町内会長」は、男女とも80代以上で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■：全体より高い/■：全体より低い)

問21 女性が増えた方が良いと思う職業や役職	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
国会議員・地方議会議員	64.8	-0.3	1.2	-39.8	1.2	6.8	-1.5	9.2	-1.7	0.3	-22.2	-14.8	-13.4	-0.2	-4.2	9.1	6.3	9.0		
企業の管理職	50.8	1.7	-1.9	-25.8	0.9	8.2	11.5	7.8	4.9	-9.8	-15.6	2.3	-19.4	-3.3	-0.8	0.2	1.4	-0.8		
閣僚(国務大臣)、都道府県・市(区)町村の首長	48.2	-0.4	1.0	1.8	1.8	10.9	2.2	9.5	-3.1	-5.6	-21.7	-1.3	-13.9	3.0	5.0	7.0	1.3	-12.5		
小中学校・高校の教頭、副校長、校長	39.6	-1.0	1.7	-39.6	-5.6	-0.9	-3.8	4.7	-2.7	-2.4	4.5	1.0	-5.3	4.3	1.9	3.1	-1.7	10.4		
医師・歯科医師	38.1	4.8	-5.9	-13.1	2.9	6.2	4.1	8.0	2.8	-0.2	13.3	-16.3	-6.7	-0.3	-7.3	-10.0	-3.9	-4.8		
国家公務員・地方公務員の管理職	38.1	-1.8	2.8	-13.1	-1.3	-0.6	-5.9	1.4	3.8	-0.1	-7.2	-3.7	-9.5	-0.2	2.4	9.9	7.0	0.0		
裁判官・検察官・弁護士	33.7	0.6	-0.5	-33.7	-6.9	-1.9	-1.6	5.7	4.0	6.6	-11.7	0.6	-10.9	-4.5	0.3	-1.4	5.9	-0.4		
技術者・研究者	28.3	-0.9	1.7	-28.3	-10.4	-3.3	-1.7	1.5	8.6	-1.9	-7.7	2.9	3.1	-5.1	4.7	5.0	4.1	-6.9		
地方自治体の各種審議会の委員	25.5	-0.5	1.0	-25.5	-4.1	-8.5	-7.2	-3.4	8.1	2.4	6.8	-9.9	-8.4	-7.2	-3.2	2.6	8.7	17.3		
自治会・町内会長	23.8	-0.6	1.3	-23.8	-4.2	-5.6	-6.4	-2.7	3.2	-2.9	18.8	-5.1	-3.8	5.5	-0.4	-4.0	1.4	19.0		
独立行政法人・公益財団法人などの各種団体の役員	21.1	-0.2	0.6	-21.1	-3.2	-1.8	-2.8	-2.8	8.4	1.4	-6.4	-8.6	-1.1	-4.0	6.6	-1.3	5.0	-2.1		
スポーツ指導者・監督	20.6	0.1	0.3	-20.6	-2.7	4.4	4.2	0.6	1.5	-5.9	-1.5	7.5	-0.6	2.6	0.7	1.3	-1.7	-6.3		
その他	4.9	-2.0	2.4	20.1	0.4	0.8	-3.1	-3.0	1.6	-4.9	-4.9	7.6	3.7	6.1	5.7	0.3	-1.3	-2.5		
無回答	5.1	1.1	-2.0	19.9	-1.5	-2.8	0.4	-3.2	4.8	1.9	8.2	-2.0	-2.2	-5.1	0.2	-3.0	-0.6	-2.7		

■ 介護・看護が必要な家族、職種、未就業者内訳、今後の就業希望別 問21 女性が増えた方が良いと思う職業や役職（複数回答）

- ・「閣僚（国務大臣）、都道府県・市（区）町村の首長」は、学生で全体より10ポイント以上高い。
- ・「小中学校・高校の教頭、副校長、校長」は、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高い。
- ・「技術者・研究者」は、介護・看護が必要な家族と同居している人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「地方自治体の各種審議会の委員」は、介護・看護が必要な家族と同居している人、今後働くつもりがない人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「自治会・町内会長」は、介護・看護が必要な家族と同居している人で全体より10ポイント以上高い。

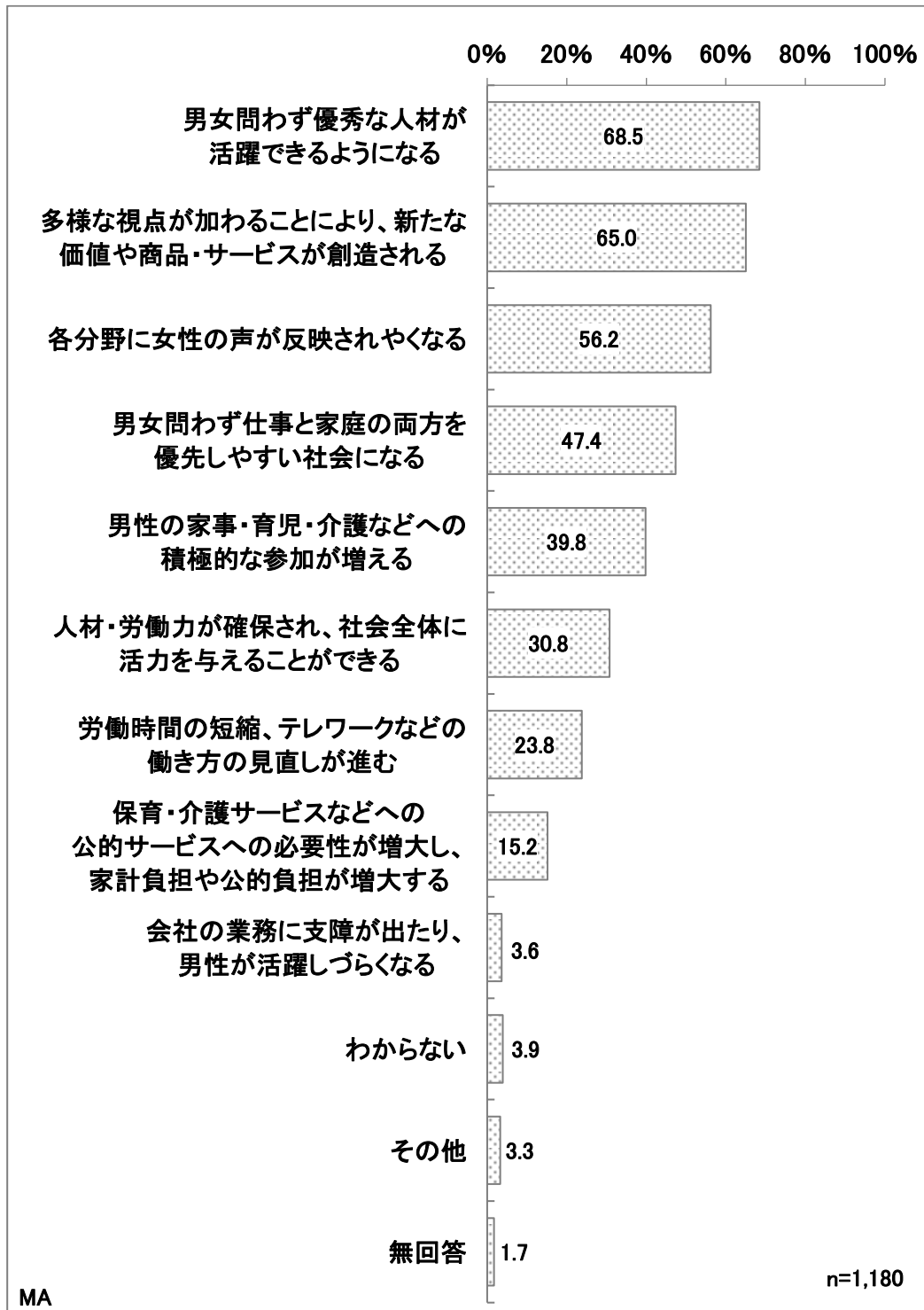
※全体は回答の%、区別は全体との差を表す（■：全体より高い／■：全体より低い）

問21 女性が増えた方が良いと思う職業や役職	全体 (%)	介護・看護が必要な家族			職種				未就業者				今後の就業希望	
		同居している	同居はしていない	いない	正社員 正職員	自営業	契約派遣社員	パートアルバイト	主婦主夫	学生	その他	不明	働きたい	働くつもりはない
n=	1,180	76	165	916	328	56	55	218	292	25	86	75	128	284
国会議員・地方議会議員	64.8	-0.4	0.6	0.5	-2.0	-0.5	7.9	0.8	4.0	3.2	-0.9	-2.2	5.5	3.1
企業の管理職	50.8	7.0	3.7	-0.4	0.4	-6.2	7.3	5.1	1.9	5.2	0.3	-8.2	9.3	-3.0
閣僚（国務大臣）、都道府県・市（区）町村の首長	48.2	-0.9	2.7	0.5	2.4	3.6	6.3	-4.6	4.9	11.8	-5.2	-12.2	6.5	0.0
小中学校・高校の教頭、副校長、校長	39.6	9.1	4.7	-1.4	-1.2	5.1	11.3	-2.4	0.1	-3.6	2.3	1.8	1.8	0.6
医師・歯科医師	38.1	4.0	2.5	-0.6	-6.1	6.5	-1.8	-1.4	7.1	1.9	1.4	4.5	9.5	2.7
国家公務員・地方公務員の管理職	38.1	5.4	5.6	-0.7	-0.2	-4.1	-1.7	0.5	3.4	1.9	2.6	-7.4	-0.6	6.0
裁判官・検察官・弁護士	33.7	7.1	-0.4	-0.1	-4.5	3.8	9.9	-0.2	0.9	6.3	8.1	3.6	3.0	2.9
技術者・研究者	28.3	13.8	0.2	-0.9	-2.7	5.6	8.1	2.4	1.1	3.7	-1.6	-3.0	0.6	-1.2
地方自治体の各種審議会の委員	25.5	21.9	2.4	-1.9	-5.7	6.6	1.8	-3.0	3.3	-1.5	10.5	7.8	-6.8	10.1
自治会・町内会長	23.8	13.0	-0.8	-0.9	-3.7	8.3	-3.8	-4.5	3.2	0.2	4.1	8.2	-1.2	6.1
独立行政法人・公益財団法人などの各種団体の役員	21.1	6.5	-0.5	-0.0	-1.3	7.5	-2.9	-0.9	2.5	-1.1	-1.3	2.9	-0.0	3.5
スポーツ指導者・監督	20.6	1.8	-1.2	0.4	-0.2	4.4	4.9	1.0	-0.7	7.4	-2.0	-0.6	1.3	-0.9
その他	4.9	0.3	1.1	-0.2	2.1	5.8	0.5	-0.8	-3.5	7.1	2.1	-3.6	-0.2	-2.5
無回答	5.1	-1.1	1.6	-0.8	-1.4	0.3	-1.4	0.4	-2.0	-5.1	0.7	2.9	-3.5	-0.5



問 22 あらゆる分野において女性の参画が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響がある  
 と思いますか。【○は複数可】

- ・「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」(68.5%)が最も多く、次いで「多様な視点が加わる  
 ことにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(65.0%)、「各分野に女性の声が反映され  
 やくなる」(56.2%)と続く。



■ 性年代別 問22 あらゆる分野において女性の参画が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響があると思うか（複数回答）

- ・「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」は、女性の50代、男性の80代以上で全体より10ポイント以上高く、男性の30代で低い。
- ・「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の30代で低い。
- ・「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」は女性の30代、40代で全体より10ポイント以上高く、男性の30代、50代、60代、80代以上で低い。
- ・「男性の家事・育児・介護などへの積極的な参加が増える」は、男性の20代以下、30代、50代で全体より10ポイント以上低い。
- ・「人材・労働力が確保され、社会全体に活力を与えることができる」は、男性の70代、80代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の40代、男性の30代で低い。
- ・「労働時間の短縮、テレワークなどの働き方の見直しが進む」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「保育・介護サービスなどへの公的サービスへの必要性が増大し、家計負担や公的負担が増大する」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■：全体より高い/■：全体より低い)

問22 あらゆる分野において女性の参画が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響があると思うか	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	68.5	2.4	-2.5	-68.5	8.0	7.7	4.9	11.3	1.2	-8.5	-3.8	-9.1	-13.3	-5.1	-4.6	1.3	-1.8	12.5		
多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	65.0	-0.2	0.8	-40.0	-8.1	12.3	-3.5	9.1	2.2	-1.4	-20.9	-5.6	-13.6	3.3	2.0	1.7	4.4	1.7		
各分野に女性の声が反映されやすくなる	56.2	1.9	-2.5	-31.2	4.5	7.4	-1.1	-1.4	2.8	6.6	-7.7	0.1	-8.8	-3.7	-0.9	1.1	-4.8	-5.2		
男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	47.4	7.4	-9.3	-47.4	9.8	17.4	14.1	9.4	1.8	4.6	-4.7	-3.6	-10.2	-7.1	-11.2	-14.0	-4.1	-14.0		
男性の家事・育児・介護などへの積極的な参加が増える	39.8	5.1	-3.8	-14.8	1.2	3.4	7.9	-2.3	9.3	7.5	5.8	-13.0	-13.3	-5.7	-12.2	-3.6	2.5	-4.1		
人材・労働力が確保され、社会に活力を与えることができる	30.8	-1.5	2.0	-5.8	6.7	-1.2	-11.5	-3.9	-2.9	2.6	3.1	-5.8	-13.6	-3.8	-4.2	2.6	14.3	21.6		
労働時間の短縮、テレワークなどの働き方の見直しが進む	23.8	2.5	-3.2	-23.8	3.3	11.4	-0.9	-3.6	-0.0	4.1	2.7	-5.1	-3.7	3.0	-3.6	-3.0	-4.9	-4.8		
保育・介護サービスなどへの公的サービスへの必要性が増大し、家計負担や公的負担が増大する	15.2	0.8	-0.8	-15.2	-8.2	12.1	1.3	2.1	0.4	-2.8	-3.4	0.5	-0.9	-3.0	-2.4	-0.6	1.0	1.5		
会社の業務に支障が出たり、男性が活躍しづらくなる	3.6	-0.7	1.0	-3.6	-1.9	-1.4	0.0	-0.8	-0.4	-1.3	0.8	5.7	2.1	-1.2	1.7	1.6	0.9	-3.6		
わからない	3.9	-0.6	0.6	21.1	-2.1	-3.9	-0.2	-2.0	1.8	-1.6	3.5	5.5	4.7	-1.5	4.6	-2.9	-0.3	-1.5		
その他	3.3	-0.6	0.9	-3.3	0.3	0.1	0.4	-1.4	-1.7	-0.2	-1.8	-0.2	3.1	1.6	3.1	0.9	-2.4	-0.9		
無回答	1.7	0.2	-0.7	23.3	0.1	-1.7	-1.7	-3.7	-0.1	1.4	7.1	-1.7	-3.7	-1.7	-1.7	-0.7	1.0	0.7		

■ お子さんの年齢区分別 問22 あらゆる分野において女性の参画が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響があると思うか（複数回答）

- ・「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」は、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」は、就学前、小学生の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「労働時間の短縮、テレワークなどの働き方の見直しが進む」は、就学前の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高い。

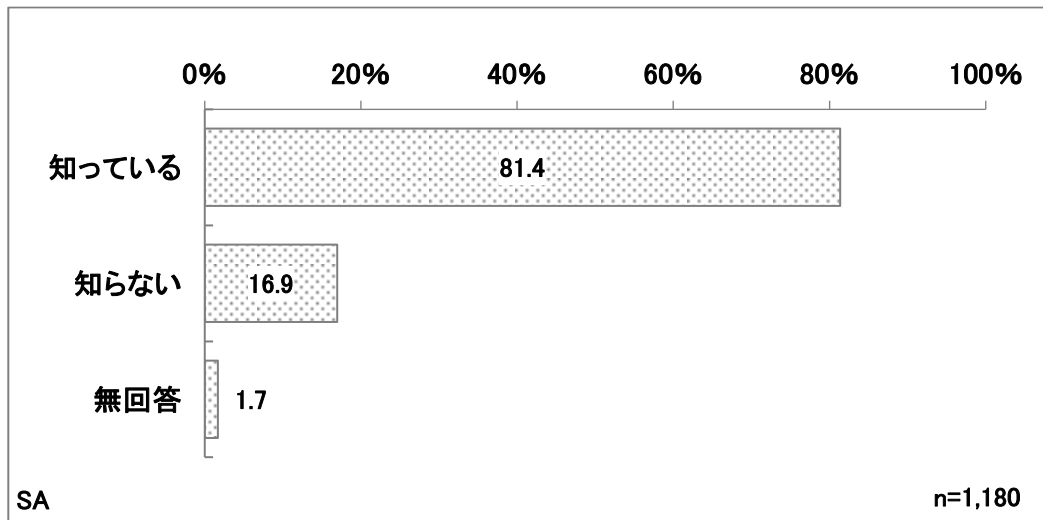
※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問22 あらゆる分野において女性の参画が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響があると思うか	全体 (%)	お子さんの年齢区分				
		就学前	小学生	中学生	中学卒業以上で未成年	成人
n=	1,180	112	100	58	81	603
男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	68.5	-3.3	4.5	3.9	11.8	1.8
多様な視点加わりにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	65.0	3.8	2.0	-1.2	-2.0	1.5
各分野に女性の声が反映されやすくなる	56.2	3.6	8.8	5.9	-3.1	-0.5
男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	47.4	16.9	0.6	-0.8	5.7	-0.6
男性の家事・育児・介護などへの積極的な参加が増える	39.8	4.8	3.2	-5.3	-1.6	2.3
人材・労働力が確保され、社会に活力を与えることができる	30.8	-4.0	-8.8	-8.3	3.8	2.9
労働時間の短縮、テレワークなどの働き方の見直しが進む	23.8	11.0	3.2	-3.1	-4.1	0.2
保育・介護サービスなどへの公的サービスへの必要性が増大し、家計負担や公的負担が増大する	15.2	4.5	4.8	3.8	-2.8	0.4
会社の業務に支障が出たり、男性が活躍しづらくなる	3.6	-2.8	0.4	1.5	-1.2	0.3
わからない	3.9	-1.2	-3.9	-3.9	-0.2	-0.4
その他	3.3	0.3	2.7	0.1	1.6	-1.1
無回答	1.7	-1.7	-1.7	-1.7	-1.7	0.3

#### 4. 性の多様性について

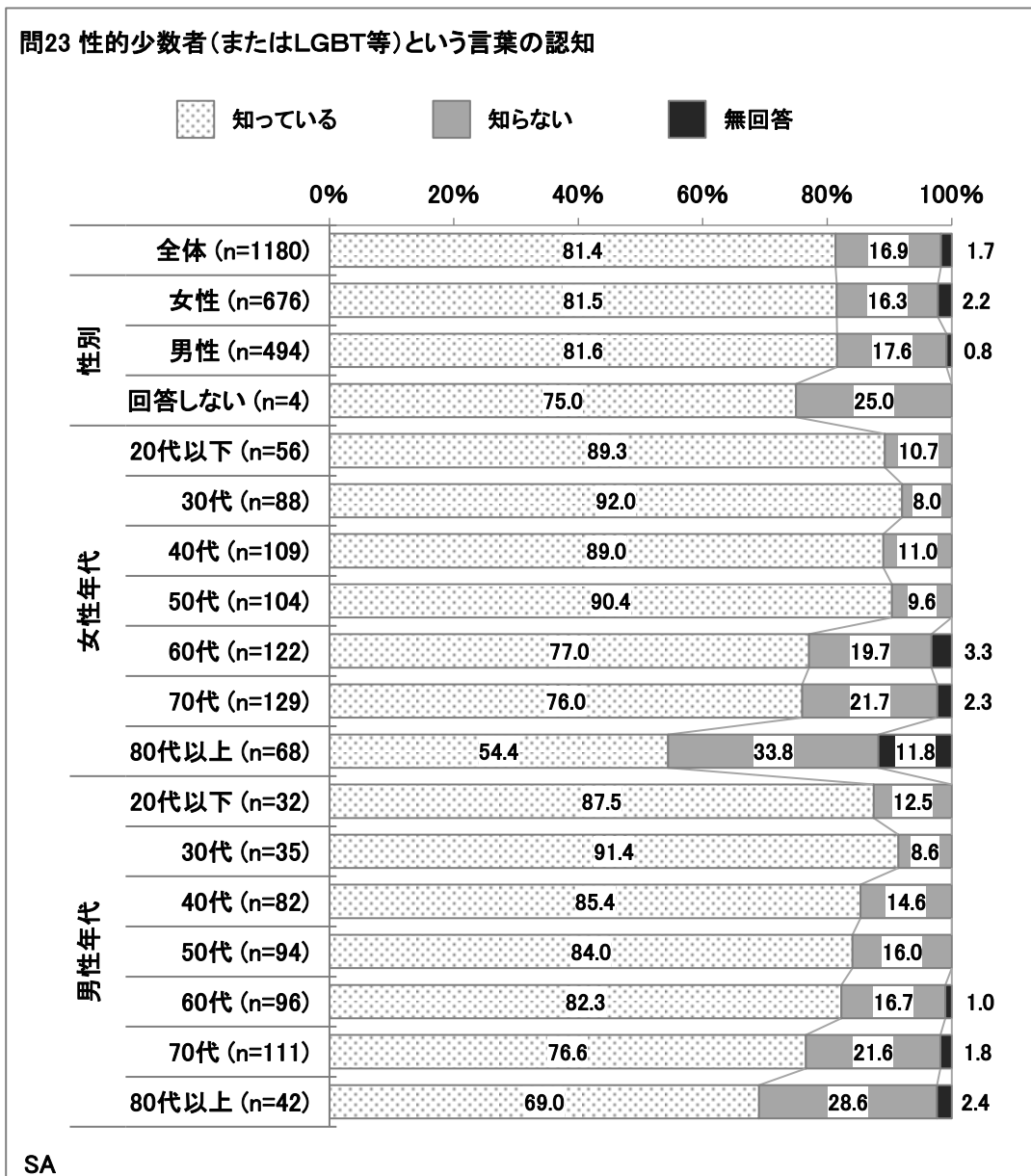
##### 問 23 性的少数者（またはLGBT等）という言葉を知っていますか。【〇は1つ】

- ・「知っている」（81.4%）が全体の8割以上を占め、「知らない」（16.9%）を64.4ポイント上回っている。



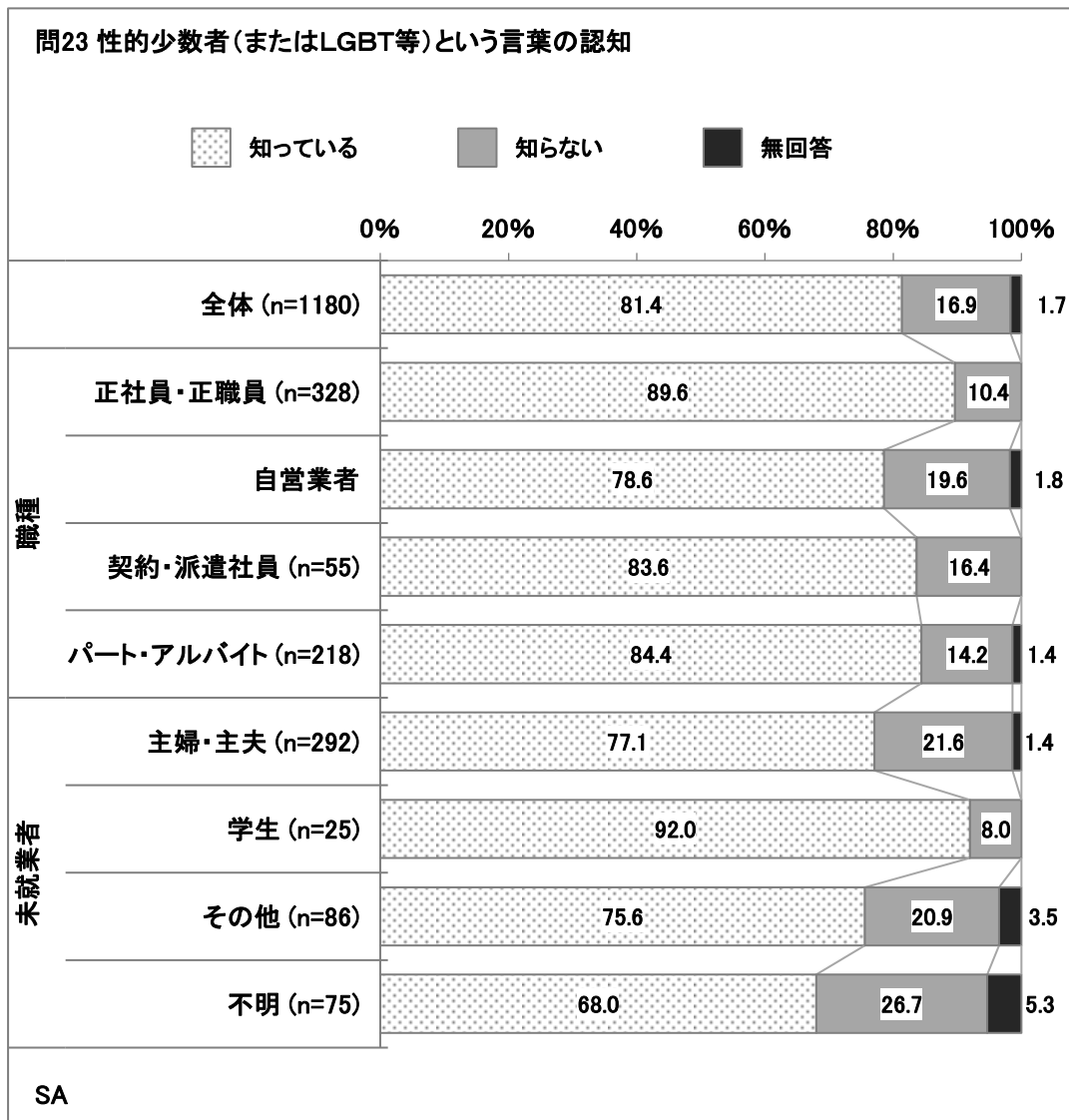
■ 性年代別 問23 性的少数者（またはLGBT等）という言葉の認知

- ・「知っている」は、男女とも30代で全体より10ポイント以上高く、80代以上で低い。
- ・「知らない」は男性の80代以上で全体より10ポイント以上低い。



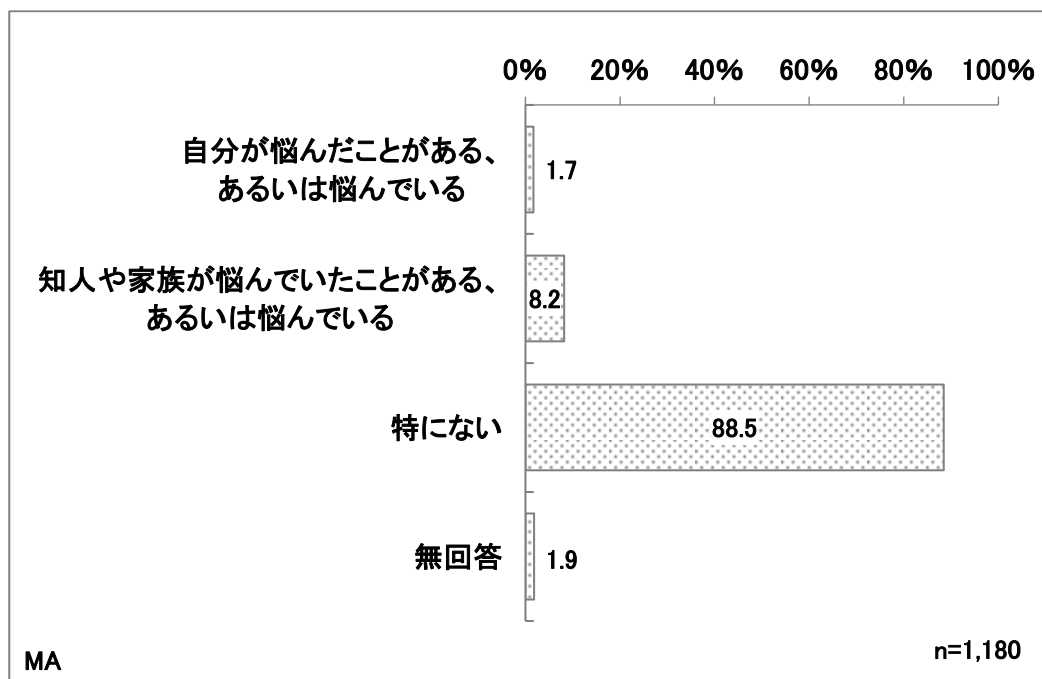
■ 職種、未就業者内訳別 問23 性的少数者（またはLGBT等）という言葉の認知

- ・「知っている」は、学生で全体より10ポイント以上高い。職種で見ると、「知っている」が最も高いのは正社員・正職員、低いのは自営業者である。



**問 24 今までに、自分や身近な人の身体の性や心の性、または性的指向（好きになる性）に悩んだり、あなたの周りに悩んでいる人はいましたか。【○は複数可】**

- ・「特にない」が 88.5%と最も多いが、「知人や家族が悩んでいたことがある、あるいは悩んでいる」(8.2%)、「自分が悩んだことがある、あるいは悩んでいる」(1.7%)を合わせた“悩んでいたことがある、あるいは悩んでいる”人が9.9%いる。



■ 性年代別 問24 今までに、自分や身近な人の身体の性や心の性や性的指向に悩んだり、あなたの周りに悩んでいる人はいたか（複数回答）

- ・「知人や家族が悩んでいたことがある、あるいは悩んでいる」は、女性の20代以下で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■：全体より高い/■：全体より低い)

問24 今までに、自分や身近な人の身体の性や心の性や性的指向に悩んだり、あなたの周りに悩んでいる人はいたか	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
自分が悩んだことがある、あるいは悩んでいる	1.7	0.1	-0.3	-1.7	7.2	1.7	-0.8	-0.7	-1.7	-0.9	-0.2	1.4	-1.7	-0.5	2.6	-1.7	-0.8	-1.7		
知人や家族が悩んでいたことがある、あるいは悩んでいる	8.2	2.1	-2.8	-8.2	15.0	7.7	6.5	2.4	-0.0	-6.7	-2.3	1.2	-2.5	4.0	-0.8	-5.1	-6.4	-8.2		
特にない	88.5	-2.2	3.4	-13.5	-20.6	-7.8	-3.2	-0.0	0.9	7.6	-6.1	-1.0	5.8	-3.1	2.0	6.3	6.1	6.8		
無回答	1.9	-0.1	-0.2	23.1	-1.9	-1.9	-1.9	-1.9	0.6	-0.3	8.4	-1.9	-1.9	-0.6	-1.9	0.2	0.8	2.9		

■ 子どもの有無、お子さんの年齢区分別 問24 今までに、自分や身近な人の身体の性や心の性や性的指向に悩んだり、あなたの周りに悩んでいる人はいたか（複数回答）

- ・「知人や家族が悩んでいたことがある、あるいは悩んでいる」は、就学前、小学生の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■：全体より高い/■：全体より低い)

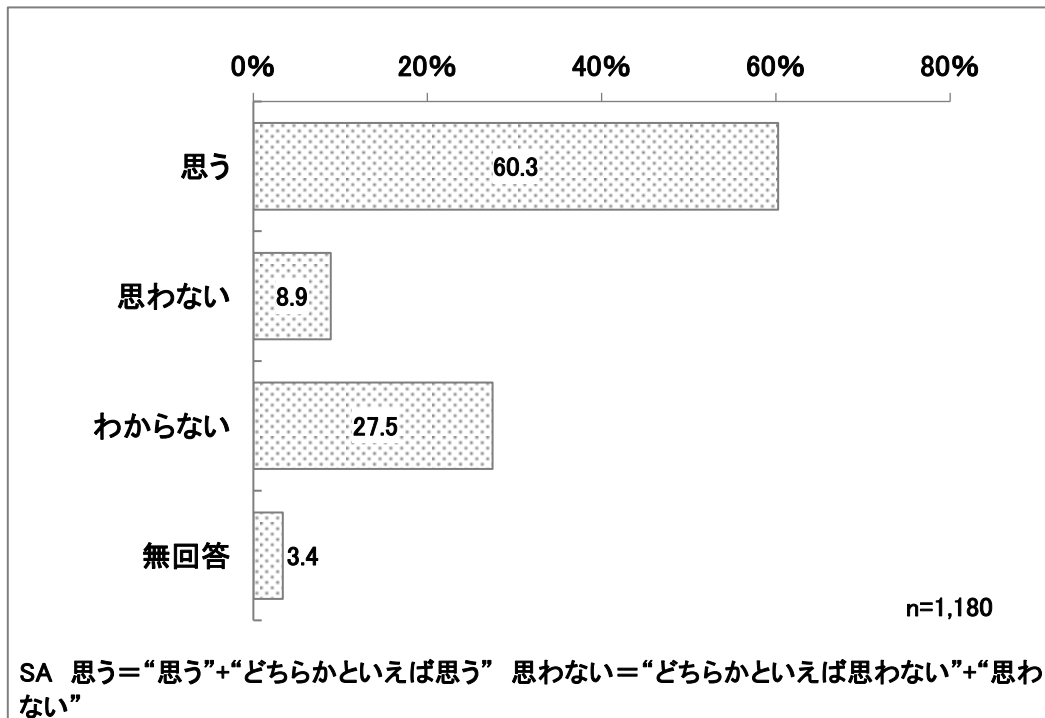
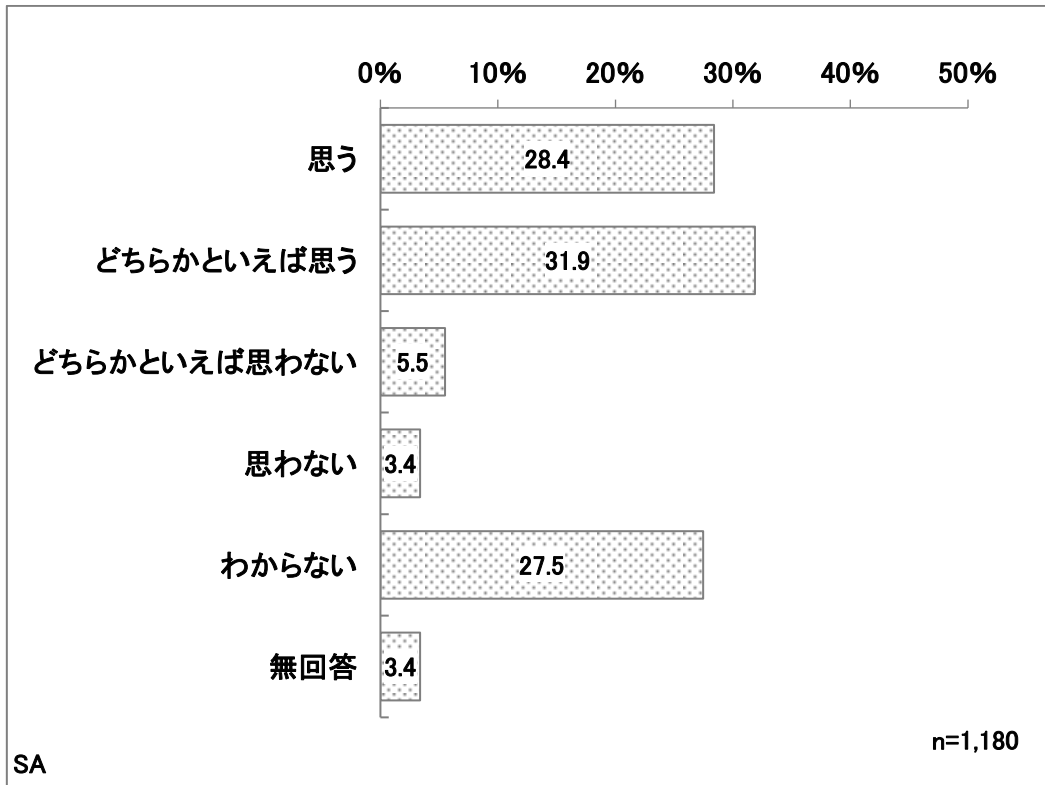
問24 今までに、自分や身近な人の身体の性や心の性や性的指向に悩んだり、あなたの周りに悩んでいる人はいたか	全体 (%)	子どもの有無		お子さんの年齢区分				
		いない	いる	就学前	小学生	中学生	中学卒業以上で未成年	成人
n=	1,180	310	843	112	100	58	81	603
自分が悩んだことがある、あるいは悩んでいる	1.7	2.5	-1.0	-0.8	0.3	-1.7	-1.7	-1.4
知人や家族が悩んでいたことがある、あるいは悩んでいる	8.2	1.8	-0.5	10.5	10.8	3.8	-3.3	-3.7
特にない	88.5	-3.3	1.6	-8.1	-9.5	-0.5	6.6	4.6
無回答	1.9	-0.6	-0.2	-1.9	-0.9	-1.9	-1.9	0.3



問 25 性的少数者（またはLGBT等）の方々にとって、今の社会は生活しづらいと思いますか。

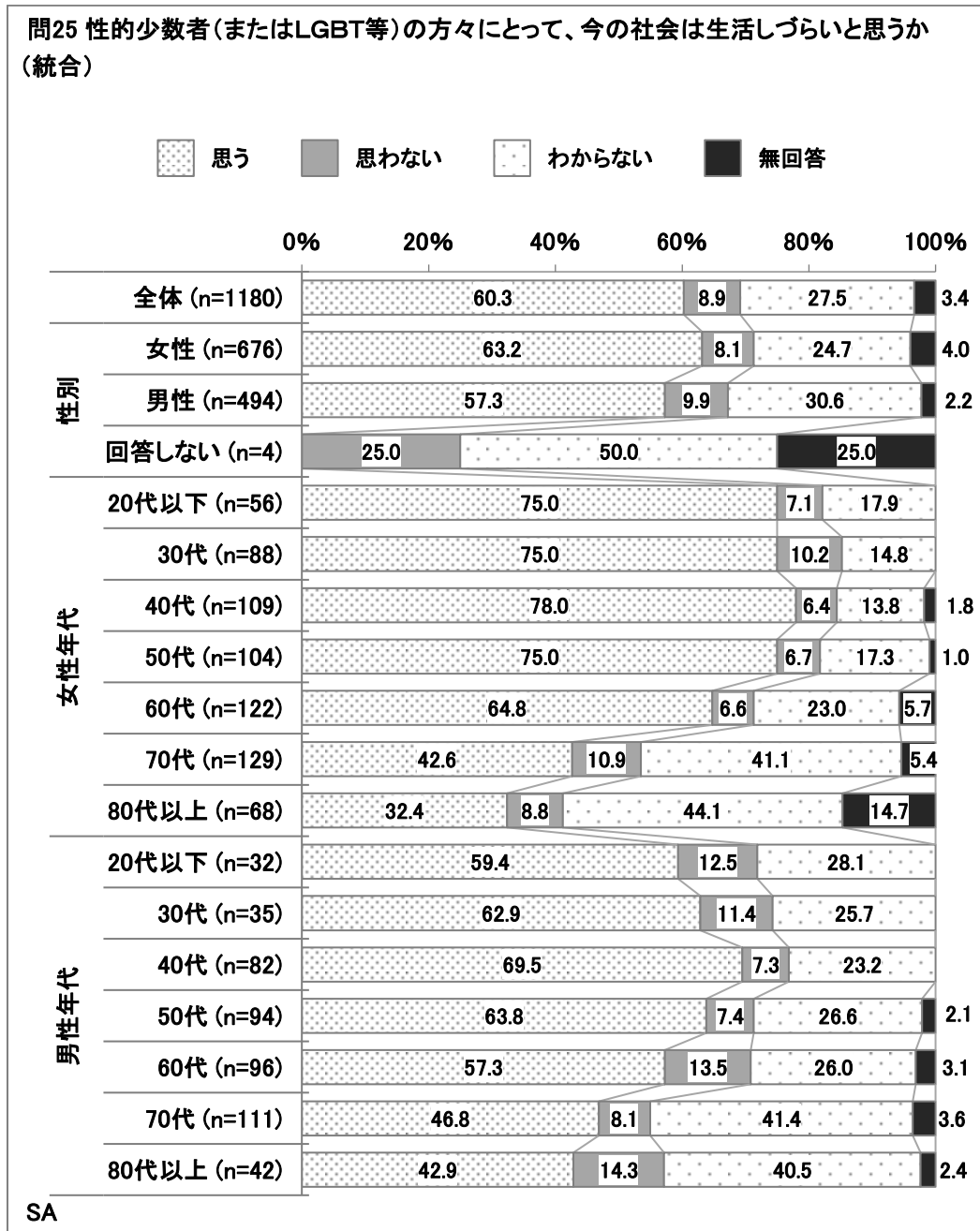
【〇は1つ】

- ・「どちらかといえば思う」（31.9%）が最も多く、次いで「思う」（28.4%）、「わからない」（27.5%）である。
- ・「思う」「どちらかといえば思う」を合わせた“思う”は60.3%で、「どちらかといえば思わない」「思わない」を合わせた“思わない”は8.9%である。

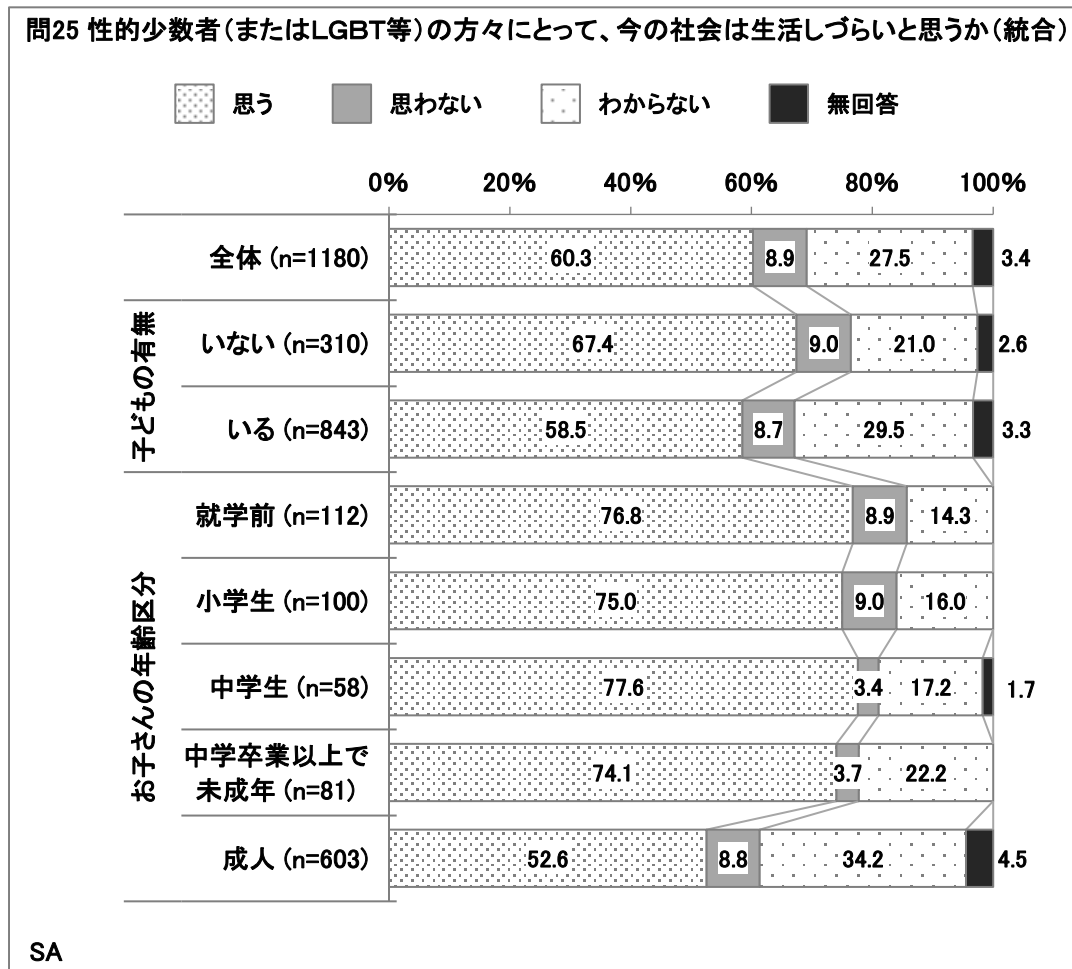


■ 性年代別 問25 性的少数者（またはLGBT等）の方々にとって、今の社会は生活しづらいと思うか

- ・「思う」「どちらかといえば思う」を合わせて“思う”、「どちらかといえば思わない」「思わない」を合わせて“思わない”として見ると、女性の20代以下、30代、40代、50代では“思う”が全体より10ポイント以上高く、男女とも70代、80代以上で低い。
- ・「わからない」は男女とも70代、80代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の30代、40代、50代では低い。

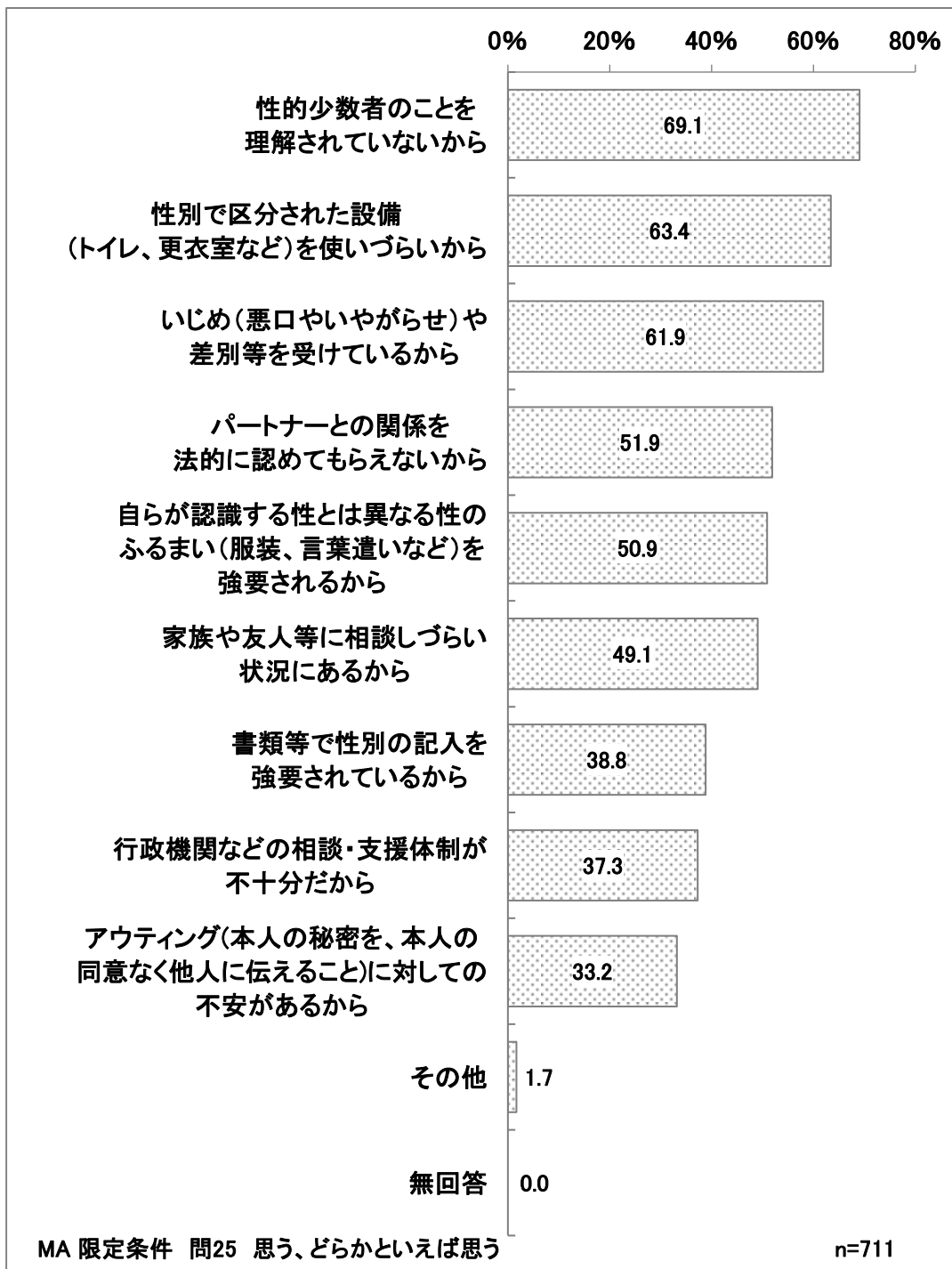


- **子どもの有無、お子さんの年齢区分別 問 25 性的少数者(またはLGBT等)の方々にとって、今の社会は生活しづらいと思うか**
- ・子どもがいない人は、いる人より“思う”が高く「わからない」が低い傾向にある。
  - ・就学前から中学卒業以上で未成年までの子どもがいる人では、“思う”が全体より10ポイント以上高い。
  - ・「わからない」は、就学前から中学生の子どもがいる人で全体より10ポイント以上低い。



問 26 問 25 で「1 思う」「2 どちらかといえば思う」と答えた方にお伺いします。それは、どのような理由からですか。【〇は複数可】

- ・「性的少数者のことを理解されていないから」(69.1%) が最も多く、次いで「性別で区分された設備(トイレ、更衣室など)を使いづらいから」(63.4%)、「いじめ(悪口やいやがらせ)や差別等を受けているから」(61.9%) と続く。



■ 性年代別 問26 性的少数者の方々にとって、今の社会は生活しづらいと思う理由（複数回答）

- ・「性的少数者のことを理解されていないから」は、男性の80代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の20代以下、80代以上、男性の20代以下、30代で低い。
- ・「性別で区分された設備（トイレ、更衣室など）を使いづらいから」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下で低い。
- ・「いじめ（悪口やいやがらせ）や差別等を受けているから」は、男性の30代、60代で全体より10ポイント以上高く、女性の60代、男性の80代以上で低い。
- ・「パートナーとの関係を法的に認めてもらえないから」は、女性の20代以下、30代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の40代、70代、80代以上で低い。
- ・「自らが認識する性とは異なる性のふるまい（服装、言葉遣いなど）を強要されるから」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の20代以下、80代以上で低い。
- ・「家族や友人等に相談しづらい状況にあるから」は、男性の30代、70代で全体より10ポイント以上低い。
- ・「書類等で性別の記入を強要されているから」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高く、男性の40代、80代以上で低い。
- ・「行政機関などの相談・支援体制が不十分だから」は、女性の80代以上で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下、30代で低い。
- ・「アウティング(本人の秘密を、本人の同意なく他人に伝えること)に対する不安があるから」は、女性の80代以上と男性の20代以下で全体より10ポイント以上低い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問26 性的少数者の方々にとって、今の社会は生活しづらいと思う理由	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	711	427	283	0	42	66	85	78	79	55	22	19	22	57	60	55	52	18		
性的少数者のことを理解されていないから	69.1	-1.6	2.3	-69.1	-13.7	9.7	-5.5	-9.2	9.9	5.5	-14.5	-13.4	-29.1	-0.6	9.3	7.3	7.9	14.3		
性別で区分された設備(トイレ、更衣室など)を使いづらいから	63.4	2.8	-8.4	-63.4	-3.7	18.9	3.0	2.0	-0.1	0.2	-8.9	-13.1	-8.3	-3.8	-0.1	-5.2	-5.7	-2.3		
いじめ(悪口やいやがらせ)や差別等を受けているから	61.9	-3.3	4.9	-61.9	-7.1	1.8	1.6	2.2	-11.3	-9.2	-7.3	1.3	10.8	1.3	6.4	13.3	3.5	-23.0		
パートナーとの関係を法的に認めてもらえないから	51.9	5.2	-7.7	-51.9	24.3	20.8	9.3	1.9	-1.3	-2.8	-33.3	3.0	-6.4	-13.8	4.8	-4.6	-15.4	-24.1		
自らが認識する性とは異なる性のふるまい(服装、言葉遣いなど)を強要されるから	50.9	2.7	-4.3	-50.9	6.2	14.2	4.4	-2.2	3.5	-1.8	-19.1	-14.1	-5.5	-3.8	2.4	-1.8	-2.8	-12.0		
家族や友人等に相談しづらい状況にあるから	49.1	1.5	-2.4	-49.1	-1.5	5.5	-4.4	3.0	2.8	3.6	-3.2	-7.0	-12.7	7.1	-0.8	0.0	-12.5	0.9		
書類等で性別の記入を強要されているから	38.8	3.1	-4.9	-38.8	1.7	15.7	3.5	2.2	0.4	-2.5	-7.0	-7.2	-2.5	-10.7	-2.2	-0.6	-0.4	-22.2		
行政機関などの相談・支援体制が不十分だから	37.3	0.4	-0.5	-37.3	0.8	5.2	-7.9	2.5	0.7	-0.9	12.7	-13.2	-14.5	-9.2	9.4	-2.7	8.9	7.2		
アウティング(本人の秘密を、本人の同意なく他人に伝えること)に対する不安があるから	33.2	-0.2	0.4	-33.2	4.9	3.2	0.9	1.4	-0.3	-4.1	-23.6	3.9	-10.5	-3.4	3.5	-0.5	-4.3	5.7		
その他	1.7	-0.8	1.1	-1.7	0.7	-1.7	-0.5	-1.7	-1.7	0.1	2.9	3.6	-1.7	3.6	3.3	0.1	-1.7	-1.7		
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

■ 子どもの有無、お子さんの年齢区分、職種、未就業者内訳別 問26 性的少数者の方々にとって、今の社会は生活しづらいと思う理由（複数回答）

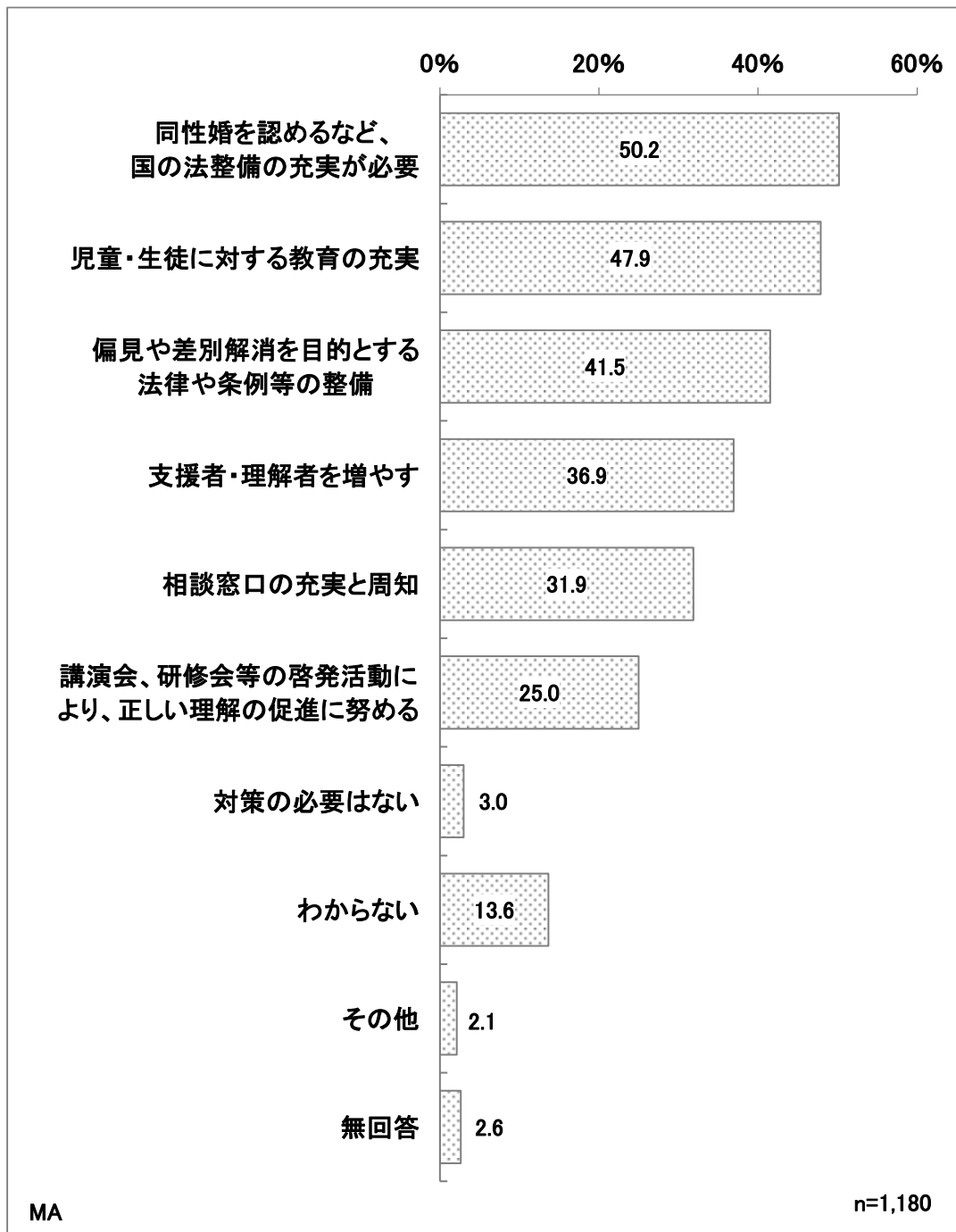
- ・「性別で区分された設備（トイレ、更衣室など）を使いづらいから」は、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「いじめ（悪口やいやがらせ）や差別等を受けているから」は、学生で低い。
- ・「パートナーとの関係を法的に認めてもらえないから」は、就学前の子どもがいる人、学生、今後働きたい人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「自らが認識する性とは異なる性のふるまい（服装、言葉遣いなど）を強要されるから」は、自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、家族従業者等）、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高い。
- ・「行政機関などの相談・支援体制が不十分だから」は、自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、家族従業者等）で全体より10ポイント以上高く、中学生の子どもがいる人で低い。
- ・「アウトティング（本人の秘密を、本人の同意なく他人に伝えること）に対しての不安があるから」は、自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、家族従業者等）で全体より10ポイント以上高く、小学生の子どもがいる人で低い。

※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■：全体より高い/□：全体より低い)

問26 性的少数者の方々にとって、今の社会は生活しづらいと思う理由	全体 (%)	子どもの有無		お子さんの年齢区分					職種				未就業者			
		いない	いる	就学前	小学生	中学生	未成年卒業以上	成人	正社員	自営業	契約派遣社員	アルバイト	主婦主夫	学生	その他	不明
n=	711	209	493	86	75	45	60	317	234	29	42	135	165	18	43	28
性的少数者のことを理解されていないから	69.1	-7.8	3.4	-1.6	-2.4	-9.1	-0.7	6.7	-5.0	-3.5	2.4	-0.2	8.5	3.2	0.7	-7.5
性別で区分された設備(トイレ、更衣室など)を使いづらいから	63.4	0.7	-0.8	0.5	7.2	5.5	13.2	-3.8	2.8	-4.8	0.9	0.3	0.8	8.8	-9.9	-9.6
いじめ(悪口やいやがらせ)や差別等を受けているから	61.9	4.1	-1.8	6.7	2.1	-1.9	-6.9	-1.6	2.6	7.1	-7.1	-1.9	-0.7	-11.9	-3.7	-0.3
パートナーとの関係を法的に認めてもらえないから	51.9	0.3	0.0	13.2	-1.2	5.9	6.4	-4.6	3.2	6.7	7.6	-1.5	-2.8	20.3	-14.7	-9.6
自らが認識する性とは異なる性のふるまい(服装、言葉遣いなど)を強要されるから	50.9	1.2	-0.6	2.6	2.4	2.4	-0.9	-2.6	-3.9	18.1	22.9	-5.7	3.6	4.6	-6.7	-8.6
家族や友人等に相談しづらい状況にあるから	49.1	-0.3	-0.2	9.1	-5.1	2.0	-7.4	-0.8	0.1	9.5	-1.5	-3.9	0.0	-4.6	11.4	0.9
書類等で性別の記入を強要されているから	38.8	-1.0	0.3	3.0	3.8	-3.3	2.8	-1.9	-2.1	9.5	8.8	2.7	-1.2	5.6	-6.3	-8.0
行政機関などの相談・支援体制が不十分だから	37.3	-4.3	1.9	-0.1	-3.9	-12.8	-5.6	5.0	-2.7	11.0	5.6	-9.1	6.4	1.6	11.6	-2.7
アウトティング(本人の秘密を、本人の同意なく他人に伝えること)に対しての不安があるから	33.2	4.1	-1.5	5.2	-10.5	-2.1	-1.5	-1.3	-1.6	11.6	9.7	-1.3	-2.3	5.7	1.7	-2.4
その他	1.7	1.2	-0.5	-0.5	-1.7	-1.7	-1.7	-0.1	1.3	1.8	-1.7	-1.7	-0.5	9.4	-1.7	-1.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

**問 27 性的少数者（またはLGBT等）の方が生活しやすい社会になるには、どのような対策が必要だと思いますか。【〇は複数可】**

- ・「同性婚を認めるなど、国の法整備の充実が必要」（50.2%）が最も多く、次いで「児童・生徒に対する教育の充実」（47.9%）、「偏見や差別解消を目的とする法律や条例等の整備」（41.5%）と続く。



## ■ 性年代別 問27 性的少数者（またはLGBT等）の方が生活しやすい社会になるために必要な対策（複数回答）

- ・「同性婚を認めるなど、国の法整備の充実が必要」は、女性の20代以下、30代、40代で全体より10ポイント以上高く、女性の70代、80代以上、男性の80代以上で低い。
- ・「児童・生徒に対する教育の充実」は、女性の20代以下から50代で全体より10ポイント以上高く、女性の70代、80代以上、男性の20代以下、80代以上で低い。
- ・「偏見や差別解消を目的とする法律や条例等の整備」は、女性の80代以上と、男性の20代以下、30代で全体より10ポイント以上低い。
- ・「支援者・理解者を増やす」は、女性の20代以下、男性の20代以下、30代で全体より10ポイント以上高く、男女とも80代以上で低い。
- ・「相談窓口の充実と周知」は、女性の80代以上で全体より10ポイント以上低い。
- ・「講演会、研修会等の啓発活動により、正しい理解の促進に努める」は、女性の50以上で全体より10ポイント以上高く、男性の30代、40代で低い。
- ・「わからない」は、男性の80代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の20代以下で低い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問27 性的少数者(またはLGBT等)の方が生活しやすい社会になるために必要な対策	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
同性婚を認めるなど、国の法整備の充実が必要	50.2	2.8	-3.4	-0.2	28.4	21.4	12.2	8.6	-0.2	-16.1	-22.2	-6.4	-1.6	5.9	2.0	-0.2	-9.6	-21.6		
児童・生徒に対する教育の充実	47.9	3.9	-4.6	-22.9	27.1	24.8	10.8	15.6	1.3	-19.2	-22.9	-13.5	-7.9	4.6	-2.1	-2.0	-7.3	-14.5		
偏見や差別解消を目的とする法律や条例等の整備	41.5	0.3	-0.2	8.5	-4.0	-2.9	4.3	6.6	8.5	-0.4	-20.9	-16.5	-21.5	-1.3	9.5	4.3	1.7	-3.4		
支援者・理解者を増やす	36.9	1.5	-1.3	-36.9	13.1	9.6	6.2	3.4	1.6	-6.7	-13.4	16.2	11.6	0.9	2.4	-1.5	-8.1	-17.9		
相談窓口の充実と周知	31.9	2.2	-2.7	-6.9	-5.1	1.1	8.5	7.6	-0.7	6.1	-11.3	-10.0	-6.2	-9.9	-4.2	2.5	4.2	-5.7		
講演会、研修会等の啓発活動により、正しい理解の促進に努める	25.0	0.9	-0.7	-25.0	0.0	0.0	0.7	10.6	0.4	-0.2	-8.8	-3.1	-10.7	-12.8	-1.6	2.1	9.2	3.6		
対策の必要はない	3.0	-0.9	1.3	-3.0	-3.0	0.4	-0.2	-2.0	-1.3	0.1	-1.5	3.3	5.6	3.1	-1.9	1.2	-0.3	1.8		
わからない	13.6	-1.1	1.3	-13.6	-11.9	-8.0	-5.4	-6.0	1.9	7.3	9.9	-7.4	-5.1	-6.3	4.4	0.9	3.5	17.3		
その他	2.1	-0.2	0.3	-2.1	-0.3	3.6	-1.2	-0.2	-1.3	-0.6	-0.6	-2.1	-2.1	2.8	1.1	1.0	-0.3	-2.1		
無回答	2.6	0.0	-0.4	22.4	-2.6	-2.6	-2.6	-0.7	-1.0	1.2	10.6	-2.6	-2.6	-1.4	-0.5	-1.6	1.9	-0.2		



■ 子どもの有無、お子さんの年齢区分、職種、未就業者内訳、今後の就業希望別 問27 性的少数者（またはLGBT等）の方が生活しやすい社会になるために必要な対策（複数回答）

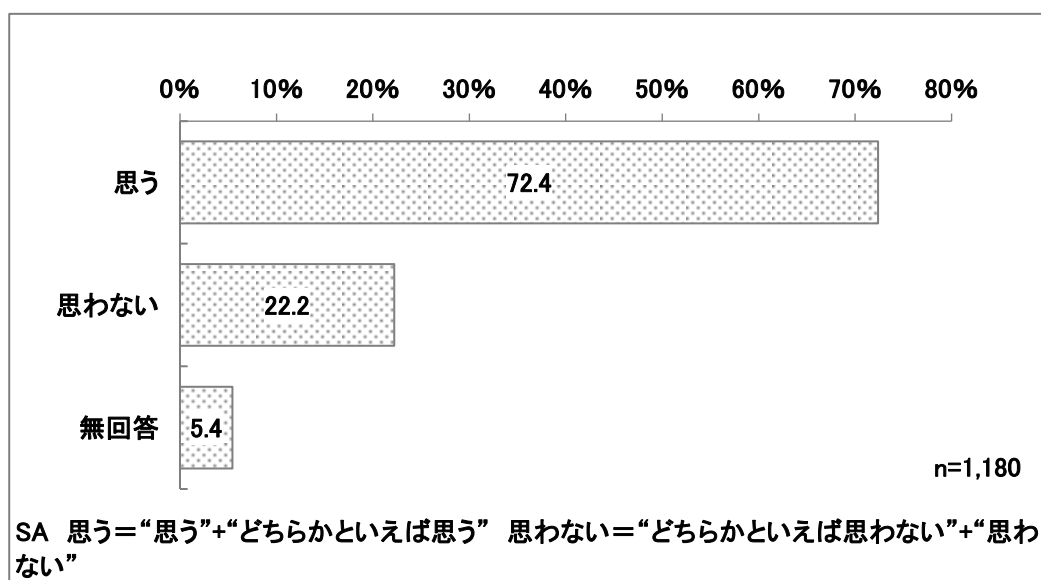
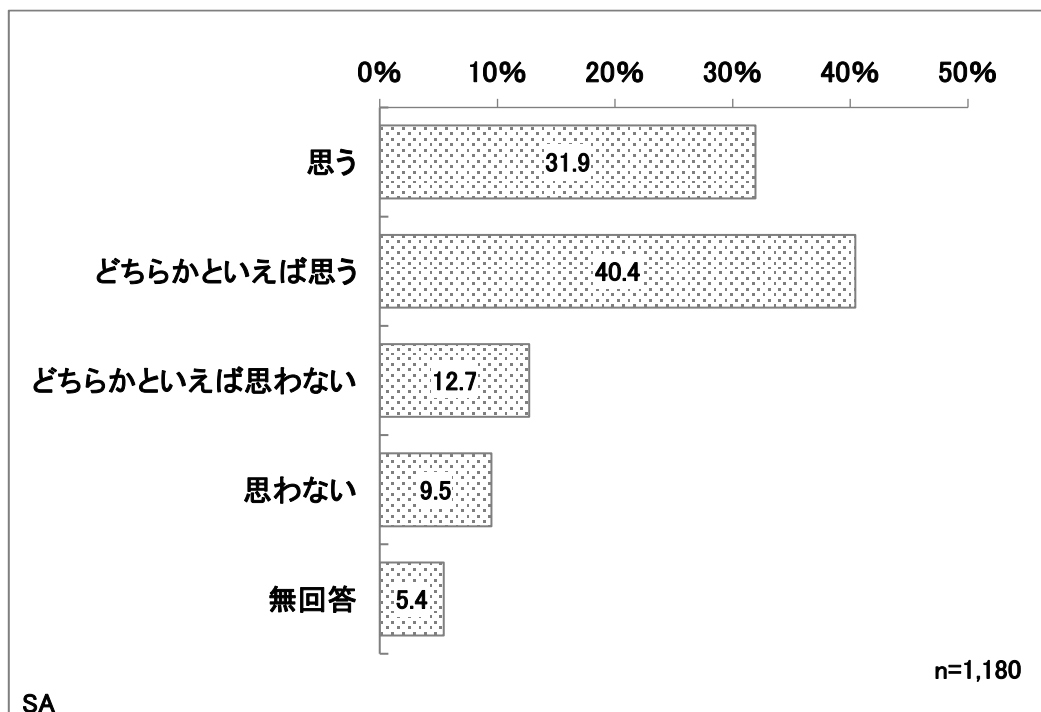
- ・「同性婚を認めるなど、国の法整備の充実が必要」は、就学前、小学生、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人、学生で全体より10ポイント以上高い。
- ・「児童・生徒に対する教育の充実」は、就学前、小学生、中学生の子どもがいる人、契約・派遣社員、学生、今後働きたい人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「支援者・理解者を増やす」は、就学前の子どもがいる人、契約・派遣社員、学生、今後働きたい人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「相談窓口の充実と周知」は、中学生の子どもがいる人で全体より10ポイント以上低い。
- ・「講演会、研修会等の啓発活動により、正しい理解の促進に努める」は、学生で全体より10ポイント以上高い。
- ・「わからない」は、学生で全体より10ポイント以上低い。

※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問27 性的少数者(またはLGBT等)の方が生活しやすい社会になるために必要な対策	全体 (%)	子どもの有無		お子さんの年齢区分					職種					未就業者				今後の就業希望	
		いない	いる	就学前	小学生	中学生	未成年 中学卒業以上で	成人	正社員	正社員	自営業	契約派遣社員	アルバイト	主夫	主婦	学生	その他	不明	働きたい
n=	1,180	310	843	112	100	58	81	603	328	56	55	218	292	25	86	75	128	284	
同性婚を認めるなど、国の法整備の充実が必要	50.2	5.3	-1.3	19.5	11.8	8.5	11.6	-6.4	8.7	-9.1	4.4	2.6	-0.9	13.8	-10.6	-27.5	5.3	-8.3	
児童・生徒に対する教育の充実	47.9	0.8	0.2	20.9	19.1	15.9	2.7	-5.8	6.1	-8.6	10.3	3.0	-2.0	24.1	-16.5	-10.5	10.7	-9.9	
偏見や差別解消を目的とする法律や条例等の整備	41.5	-2.8	1.5	2.2	-4.5	6.8	4.2	3.1	2.7	-7.6	3.9	0.7	3.3	-5.5	-0.8	-14.9	0.7	0.4	
支援者・理解者を増やす	36.9	5.6	-1.7	14.8	4.1	-2.5	-3.6	-4.3	3.0	-3.0	10.3	-3.9	2.4	23.1	-7.9	-8.9	13.8	-4.9	
相談窓口の充実と周知	31.9	-3.8	1.5	4.7	1.1	-14.6	-4.7	2.0	-1.7	0.3	-1.0	-0.7	5.1	-7.9	-1.6	-2.5	8.8	0.9	
講演会、研修会等の啓発活動により、正しい理解の促進に努める	25.0	-0.8	0.3	-3.6	-6.0	-0.9	-2.8	0.9	-3.7	-8.9	4.1	-1.6	4.5	11.0	1.7	4.3	2.3	4.9	
対策の必要はない	3.0	-0.1	-0.0	1.5	1.0	-1.2	0.7	-0.1	1.6	0.6	-1.1	-0.2	-0.2	-3.0	-3.0	1.0	-0.6	-0.9	
わからない	13.6	-4.9	1.7	-9.2	-8.6	-5.0	-1.3	4.3	-5.1	6.0	-4.6	-2.6	0.4	-13.6	14.3	13.0	-5.1	6.4	
その他	2.1	1.4	-0.5	0.6	0.9	-0.4	-0.9	-0.6	-0.3	6.8	-0.3	-0.7	-0.4	1.9	0.2	-0.8	1.0	-0.7	
無回答	2.6	0.3	-0.6	-2.6	-2.6	-2.6	-2.6	0.2	-1.7	2.7	-2.6	-0.3	-0.6	-2.6	-0.3	4.0	-1.8	-0.5	

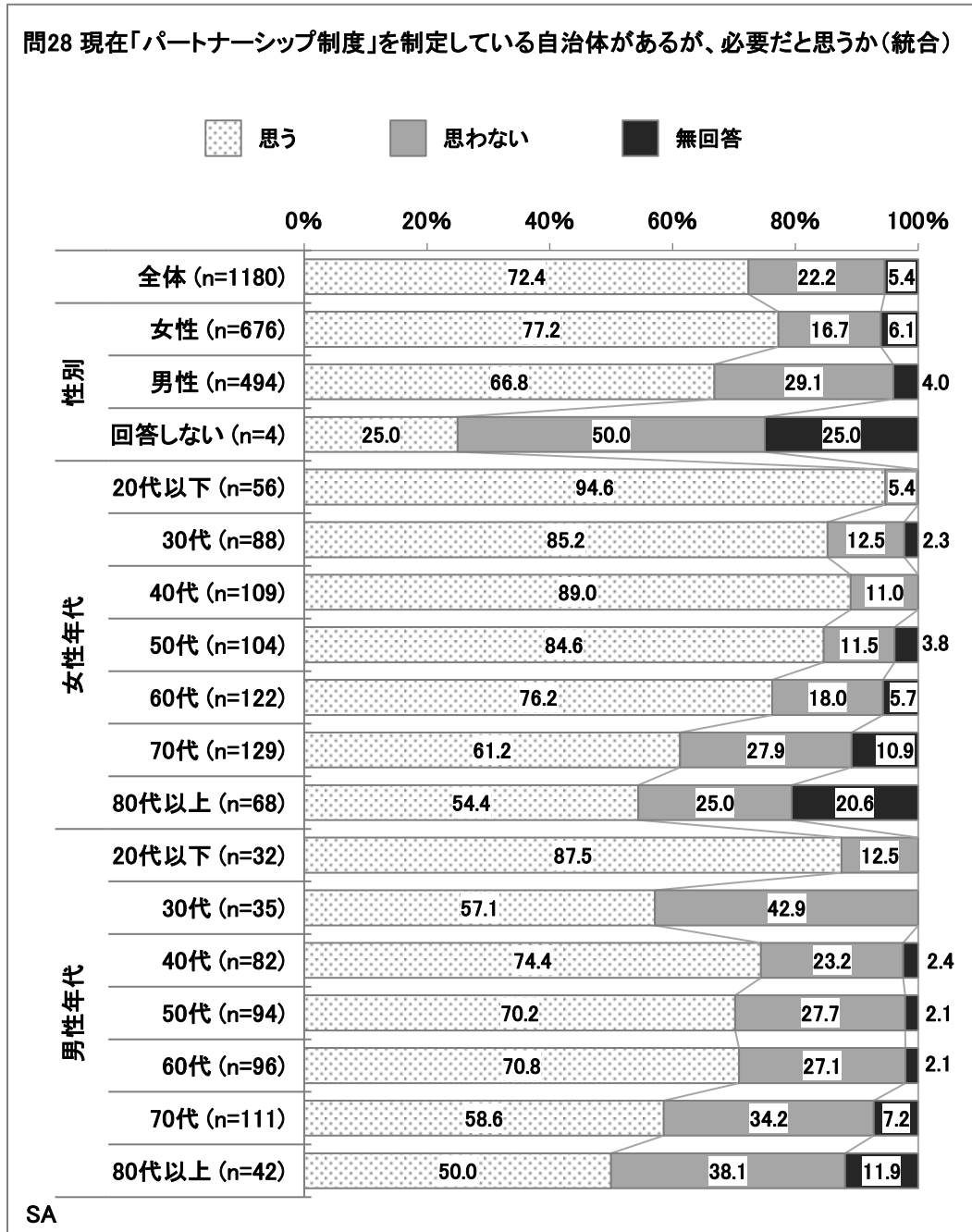
問 28 現在「パートナーシップ制度」を制定している自治体がありますが、必要だと思いますか。【○は1つ】

- ・「どちらかといえば思う」(40.4%)が最も多く、次いで「思う」(31.9%)が多い。
- ・「思う」「どちらかといえば思う」を合わせた“思う”は72.4%、「どちらかといえば思わない」「思わない」を合わせた“思わない”は22.2%である。



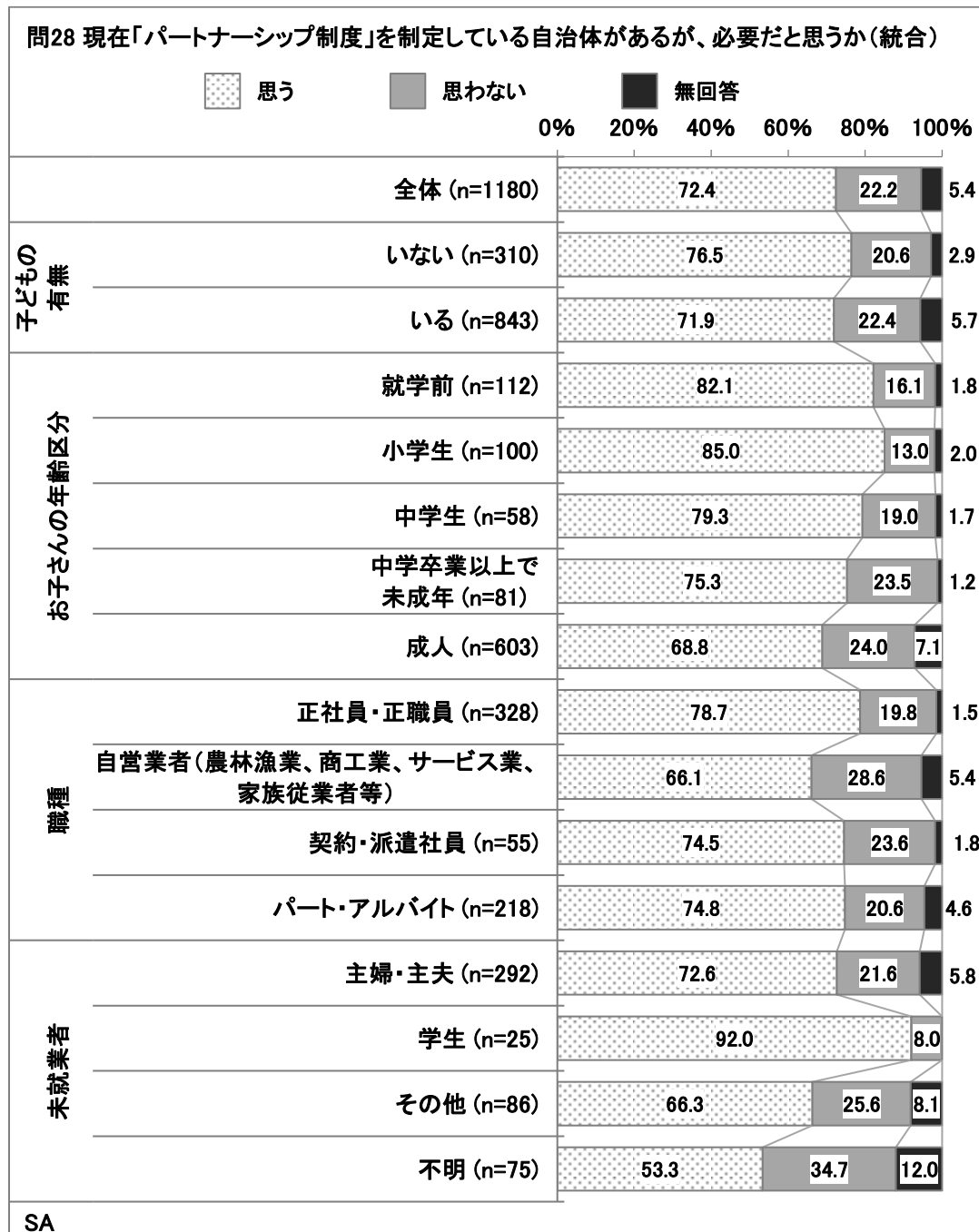
■ 性年代別 問28 現在「パートナーシップ制度」を制定している自治体があるが、必要だと思うか

- ・「思う」「どちらかといえば思う」を合わせて“思う”、「どちらかといえば思わない」「思わない」を合わせて“思わない”として見て見ると、“思う”は女性の20代以下から50代、男性の20代以下で全体より10ポイント以上高く、女性の70代、80代以上、男性の30代、70代、80代以上で低い。
- ・“思わない”は、男性の30代、70代、80代以上で全体より10ポイント以上高く、女性の20代以下、40代、50代で低い。



■ 子どもの有無、お子さんの年齢区分、職種、未就業者内訳別 問28 現在「パートナーシップ制度」を制定している自治体があるが、必要だと思うか

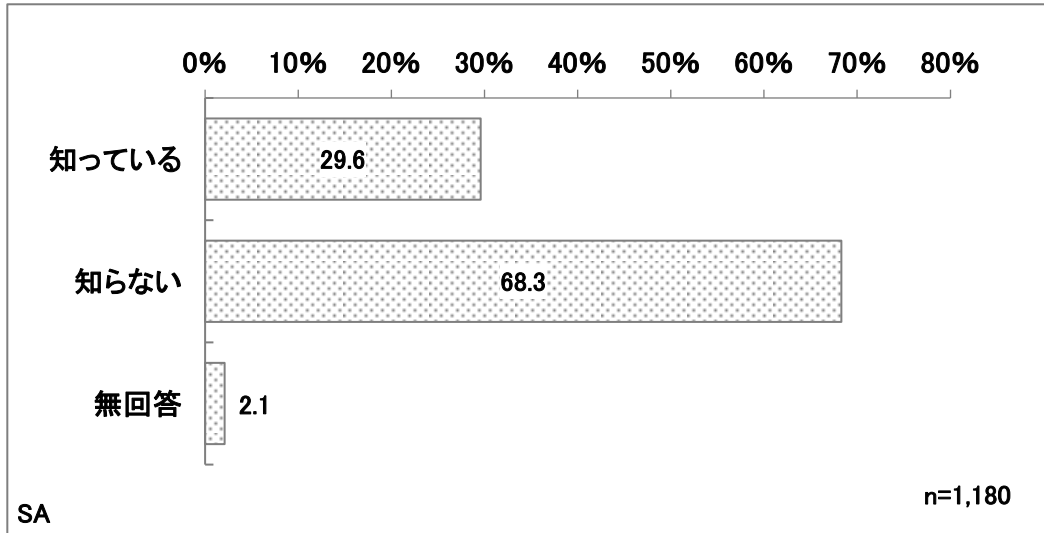
- ・ “思う” は小学生の子どもがいる人、学生、今後働きたい人で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・ “思わない” は、学生で全体より 10 ポイント以上低い。



## 5. 男女の人権について

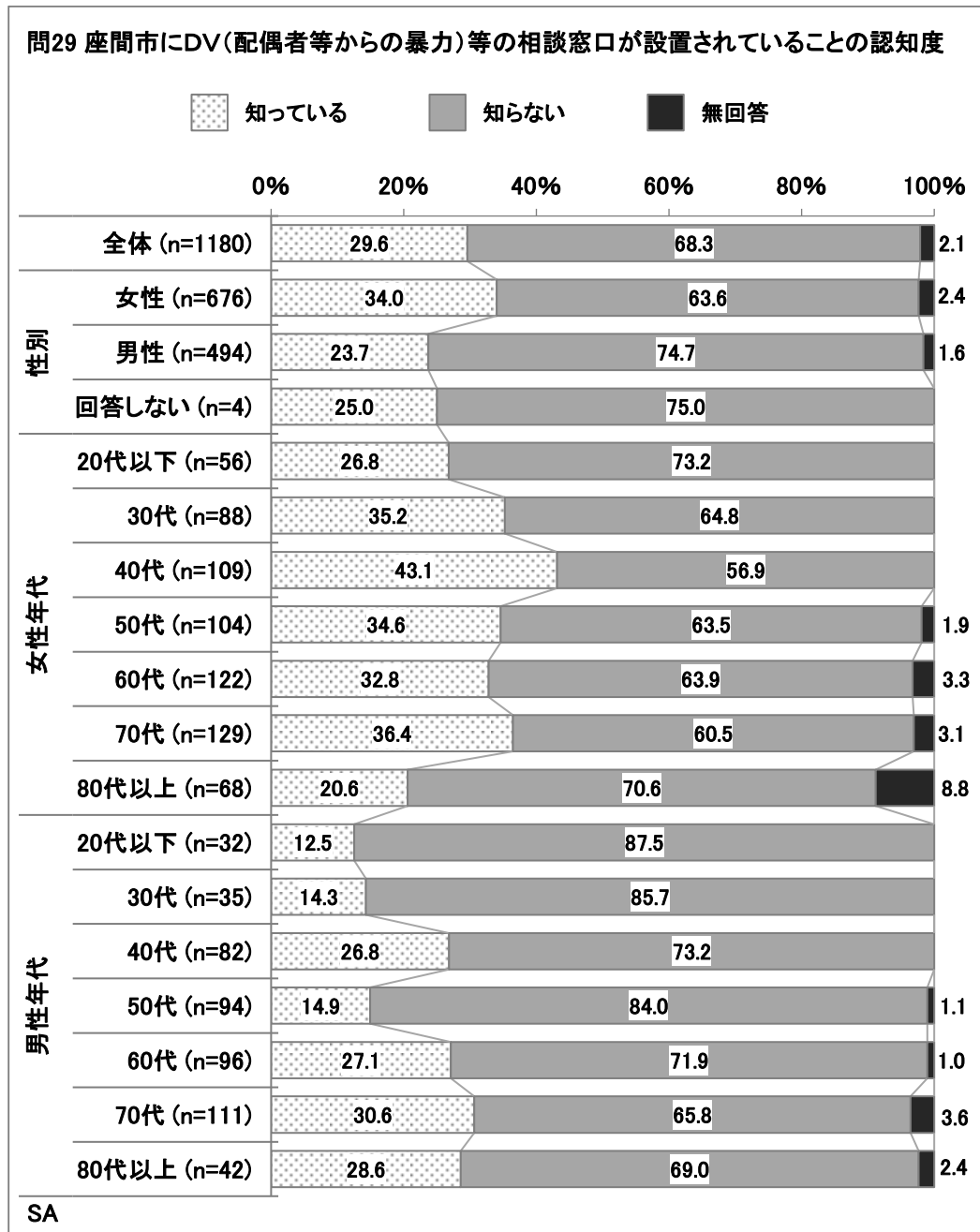
問 29 あなたは、座間市にDV（配偶者等からの暴力）等の相談窓口が設置されていることをご存知ですか。【〇は1つ】

- ・「知らない」（68.3%）が「知っている」（29.6%）を38.7ポイント上回っている。



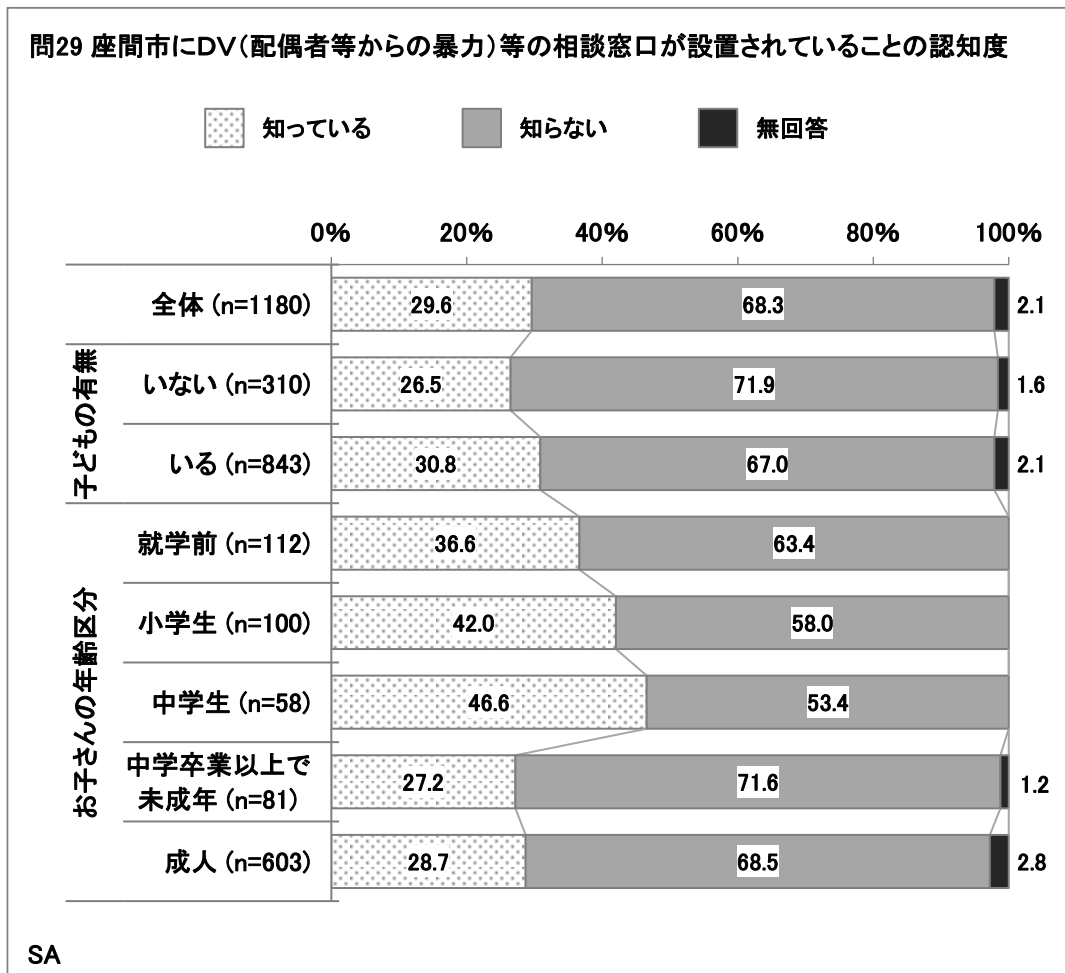
■ 性年代別 問 29 座間市にDV（配偶者等からの暴力）等の相談窓口が設置されていることの認知度

- ・「知っている」は女性の40代で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下、30代、50代で低い。「知らない」は男性の20代以下、30代、50代で全体より10ポイント以上高く、女性の40代で低い。



■ 子どもの有無、お子さんの年齢区分別 問29 座間市にDV（配偶者等からの暴力）等の相談窓口が設置されていることの認知度

- ・小学生、中学生の子どもがいる人では、「知っている」が全体より10ポイント以上高く、「知らない」が全体より10ポイント以上低い。

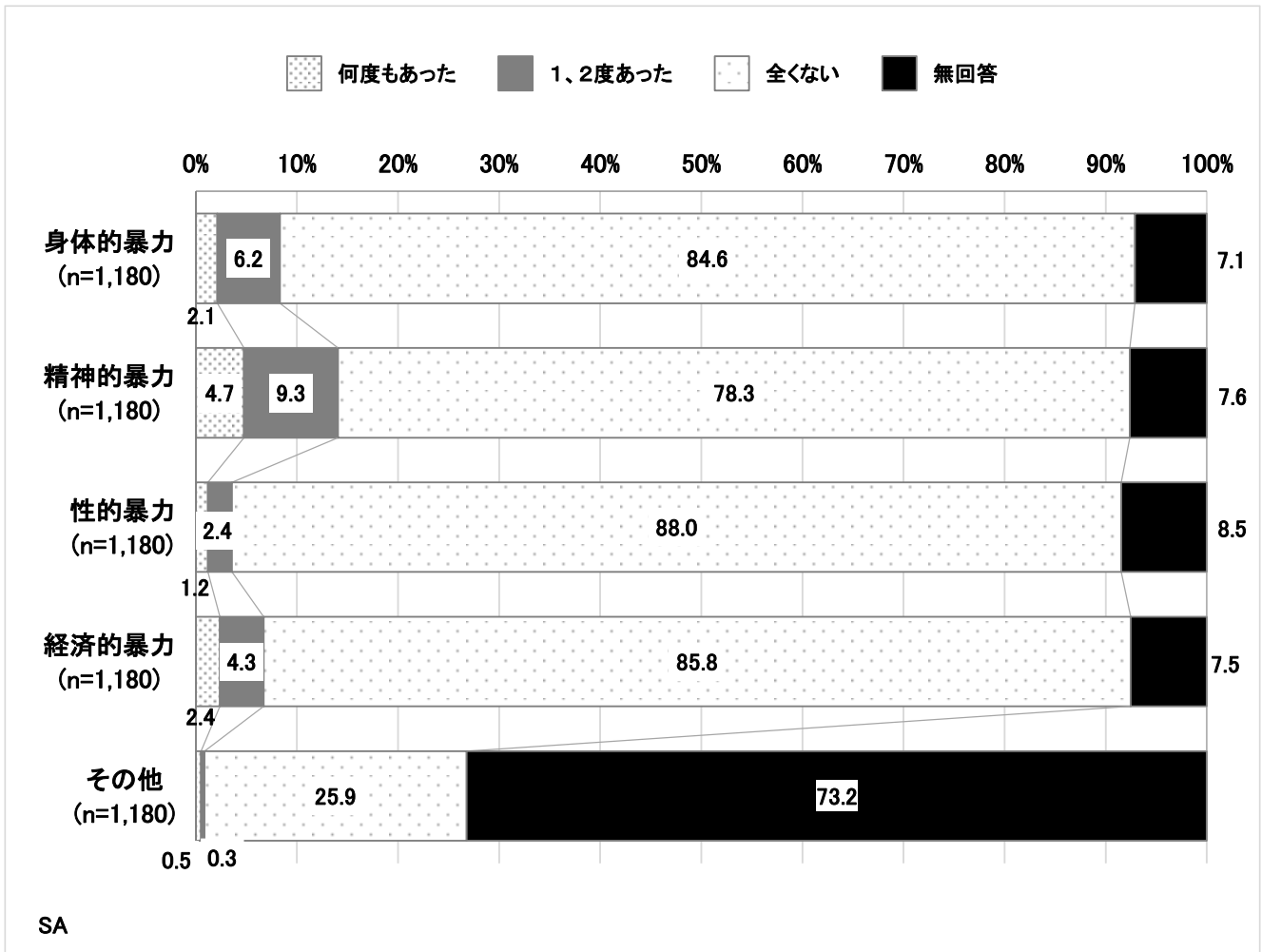


問 30 あなたはこれまでに、配偶者・パートナーから次のようなことをされたことはありますか。

【それぞれ、あてはまる番号に○】

- (1)身体的暴力（殴る/蹴る/物を投げる/髪を引っ張る/引きずり回す等）
- (2)精神的暴力（暴言を吐く/大切な物を壊す/交友関係を監視・制限する等）
- (3)性的暴力（性行為を強要する/避妊に協力しない/ポルノを見せる等）
- (4)経済的暴力（生活費を渡さない/仕事を制限する/借金を重ねる等）
- (5)その他

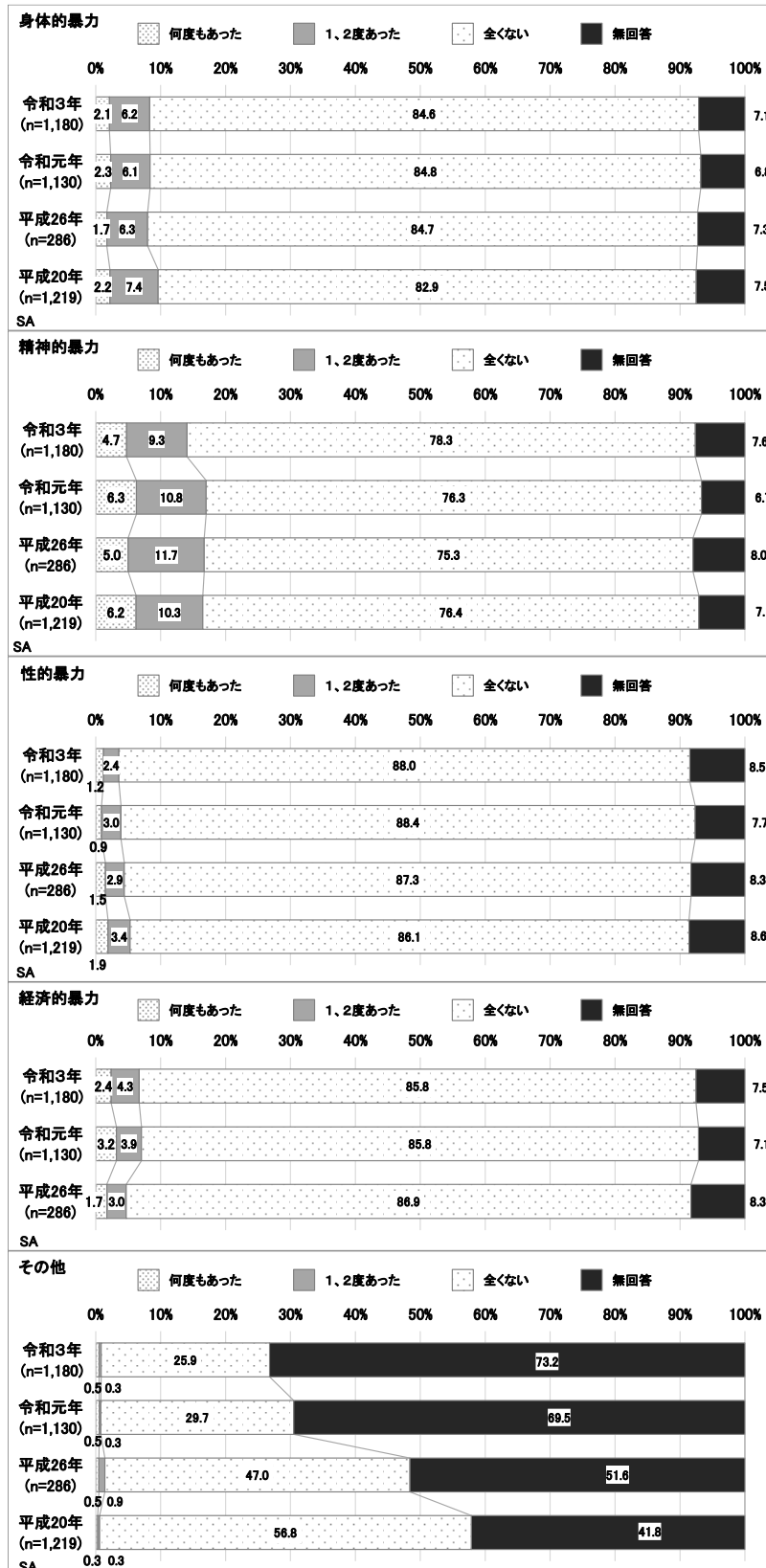
・いずれも「全くない」が最も多い。「何度もあった」、「1、2度あった」ともに最も多いのは精神的暴力で、「何度もあった」が4.7%、「1、2度あった」が9.3%である。





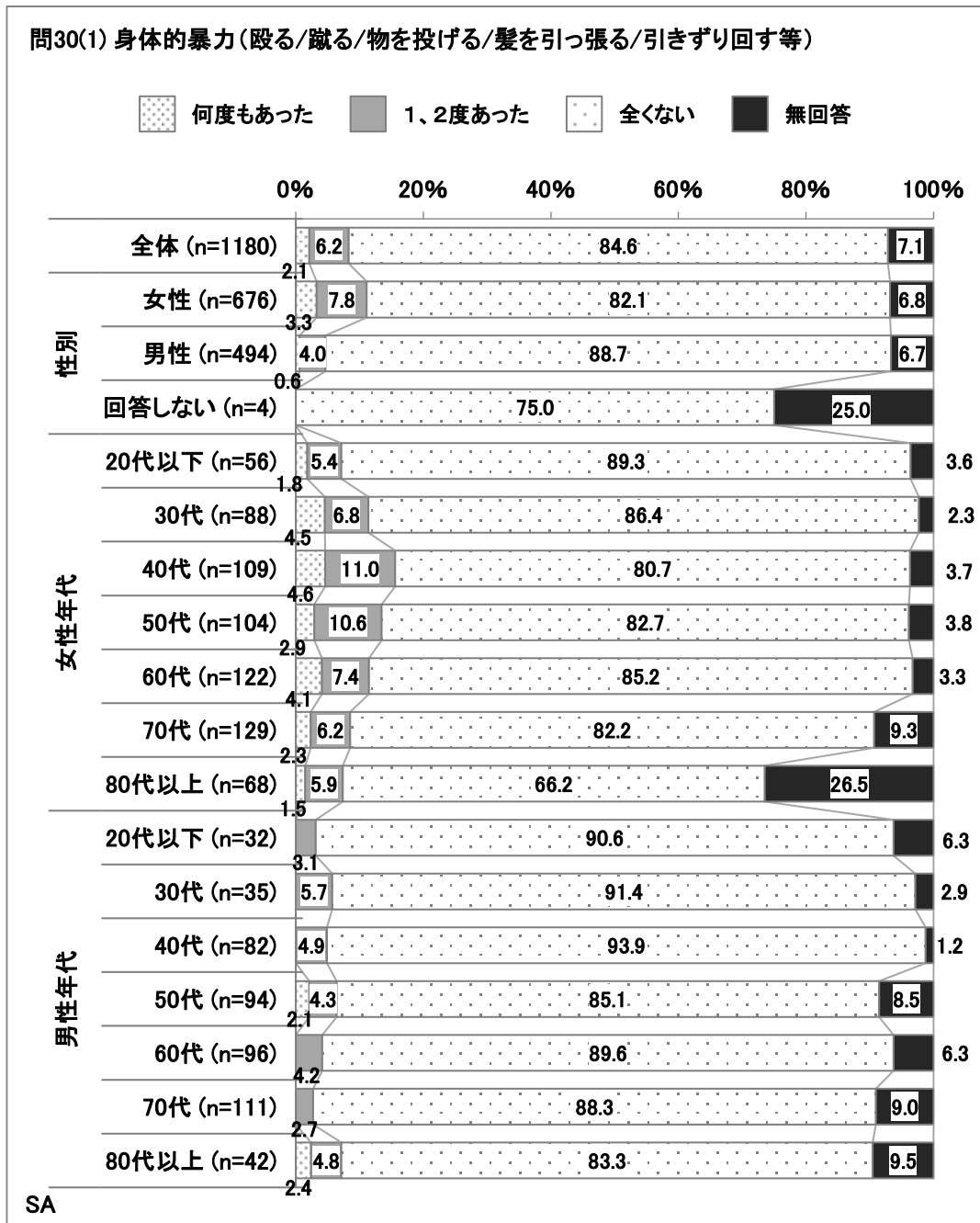
## <以前との比較>

- ・身体的暴力については、傾向に大きな変化は見られない。
- ・精神的暴力は、令和元年までは傾向に変化は見られなかったが、令和3年で「何度もあった」、「1、2度あった」が減少している。
- ・性的暴力は、「何度もあった」、「1、2度あった」は減少傾向にある。
- ・経済的暴力は平成26年から令和元年で「何度もあった」、「1、2度あった」が増加している（平成20年はデータなし）。



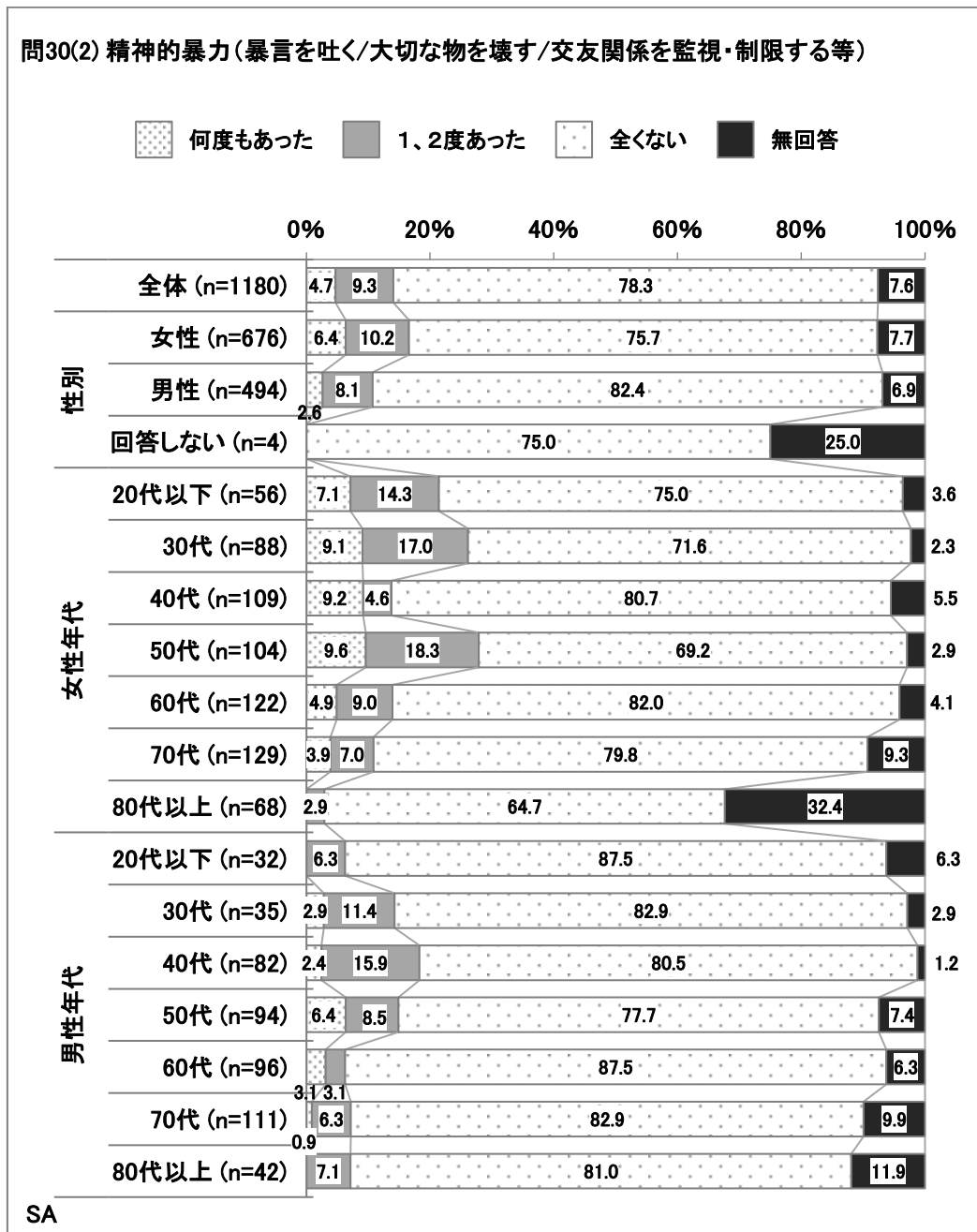
■ 性年代別 問30 (1) 身体的暴力 (殴る/蹴る/物を投げる/髪を引っ張る/引きずり回す等)

- ・男性に比べて女性の方が、「何度もあった」、「1、2度あった」割合が高い。
- ・女性の40代、50代で「1、2度あった」割合が他の年代より高い。



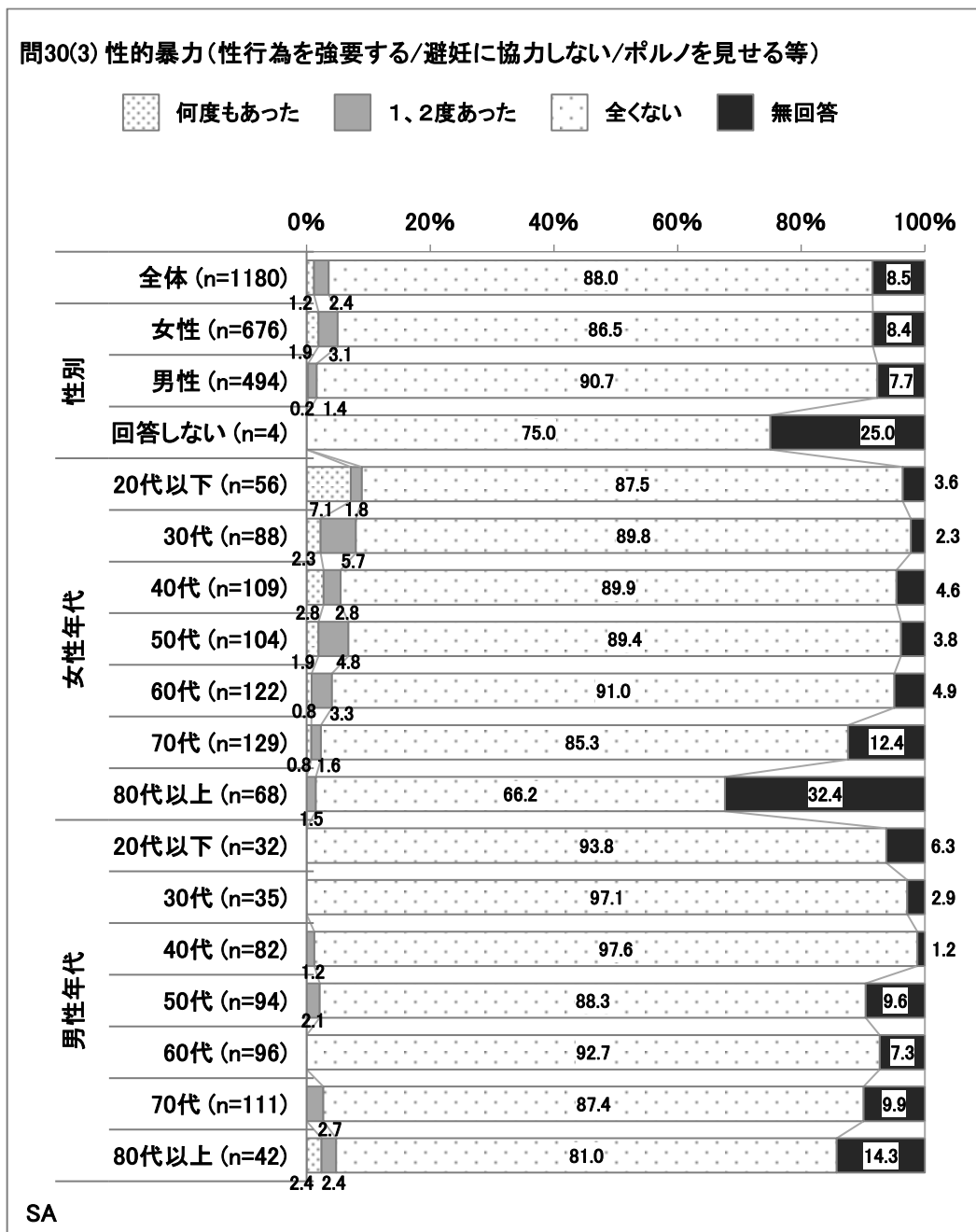
■ 性年代別 問30 (2)精神的暴力(暴言を吐く/大切な物を壊す/交友関係を監視・制限する等)

- ・男性に比べて女性の方が、「何度もあった」、「1、2度あった」割合が高い。
- ・女性の20代、30代、50代、男性の30代、40代で「1、2度あった」割合が他の年代より高い。



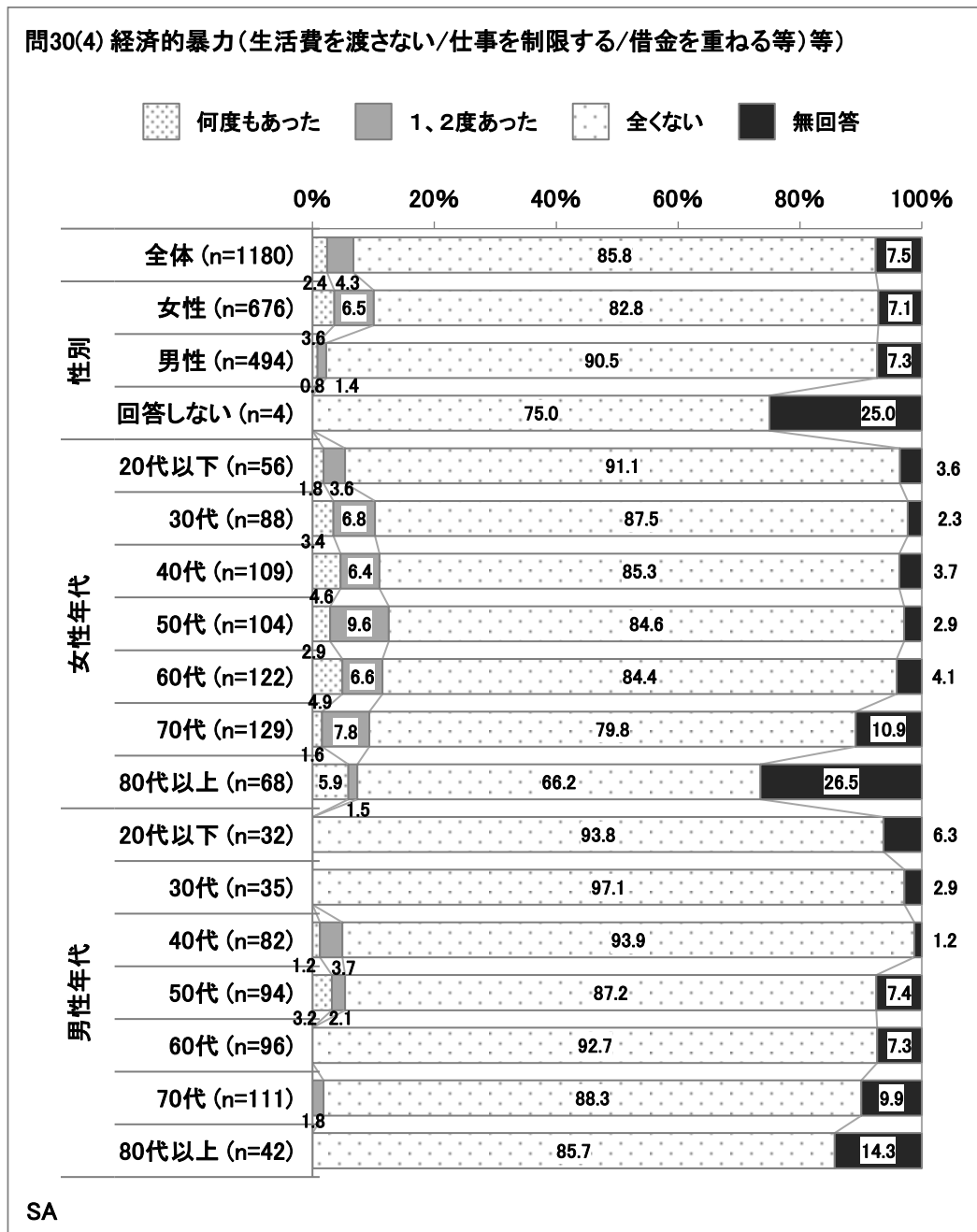
■ 性年代別 問30 (3)性的暴力(性行為を強要する/避妊に協力しない/ポルノを見せる等)

- ・男性に比べて女性の方が、「何度もあった」、「1、2度あった」割合が高い。
- ・女性の20代以下で「何度もあった」割合が他の年代より高い。女性の30代、50代で「1、2度あった」割合が他の年代より高い。



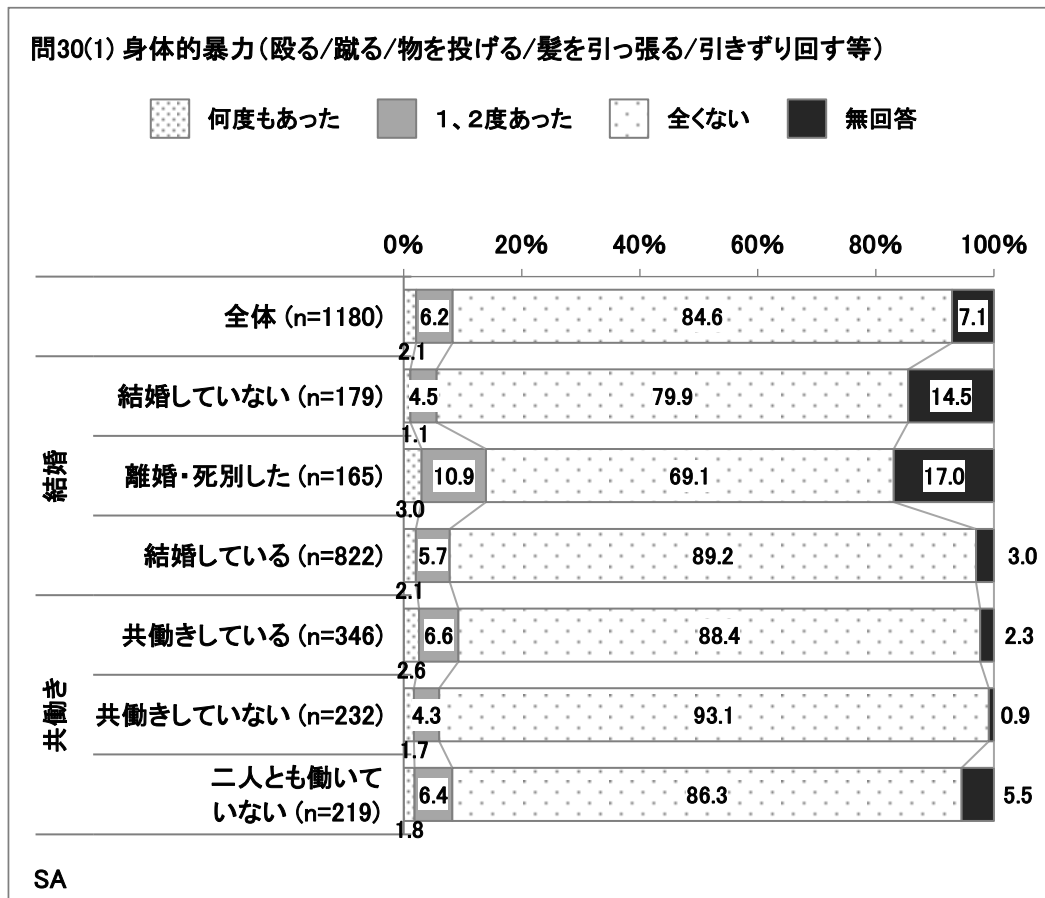
■ 性年代別 問30 (4)経済的暴力(生活費を渡さない/仕事を制限する/借金を重ねる等)

- ・男性に比べて女性の方が、「何度もあった」、「1、2度あった」割合が高い。
- ・女性の50代で「1、2度あった」割合が他の年代より高い。



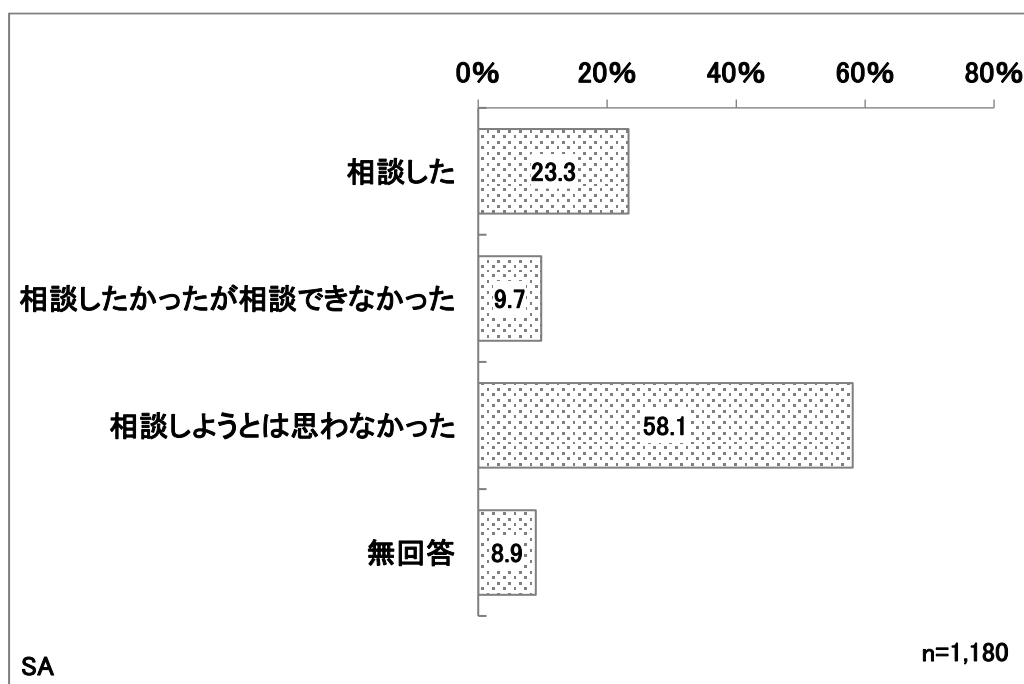
■ 結婚、共働き別 問 30 (1) 身体的暴力 (殴る/蹴る/物を投げる/髪を引っ張る/引きずり回す等)

・「離婚・死別した」人では「全くない」が全体より 10 ポイント以上低い。



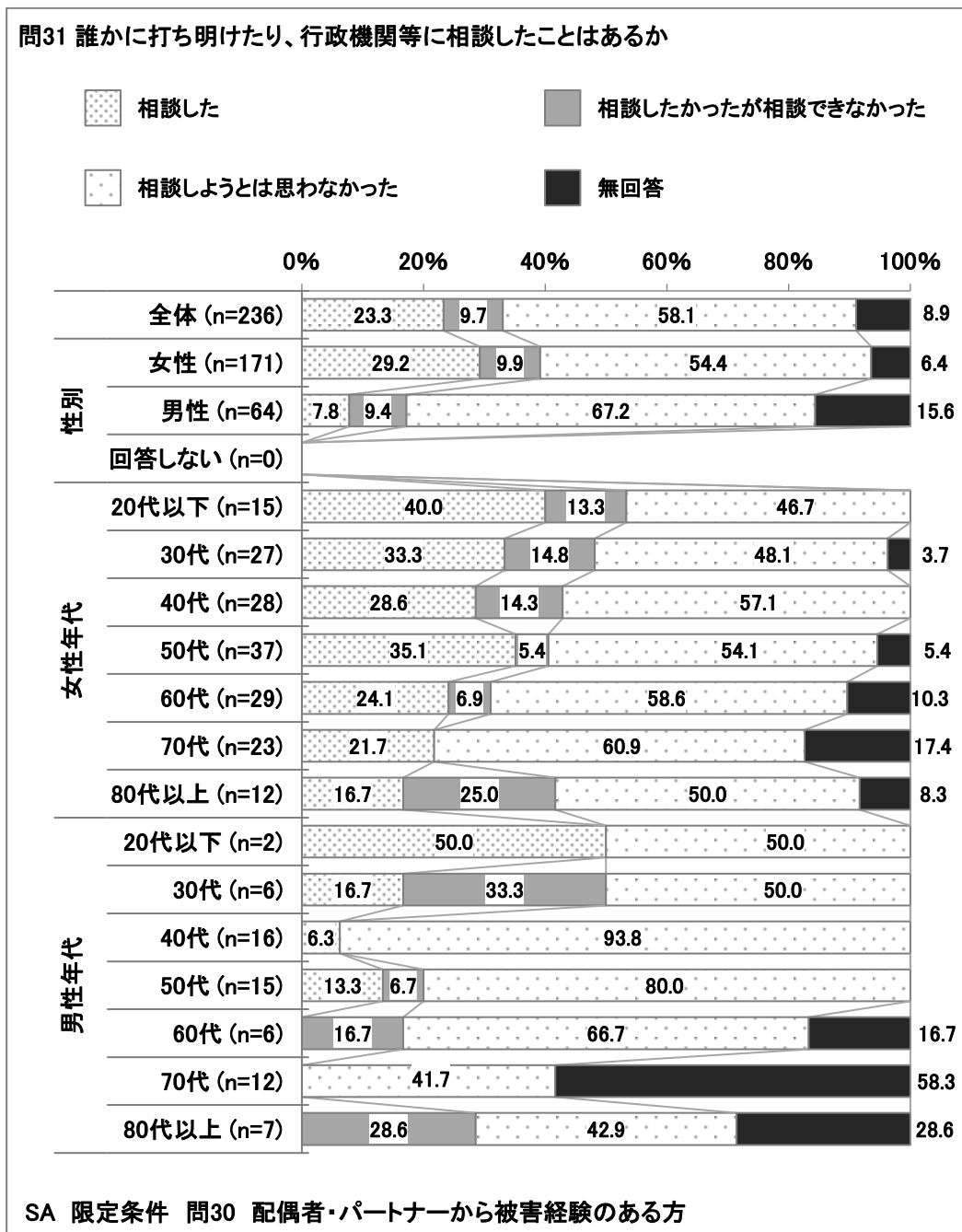
問 31 問 30 で被害にあった方に伺います。誰かに打ち明けたり、行政機関等に相談したことはありますか。【〇は1つ】

- ・「相談しようとは思わなかった」(58.1%)が最も多く、「相談した」(23.3%)、「相談したかったが相談できなかった」(9.7%)である。



■ 性年代別 問31 誰かに打ち明けたり、行政機関等に相談したことはあるか

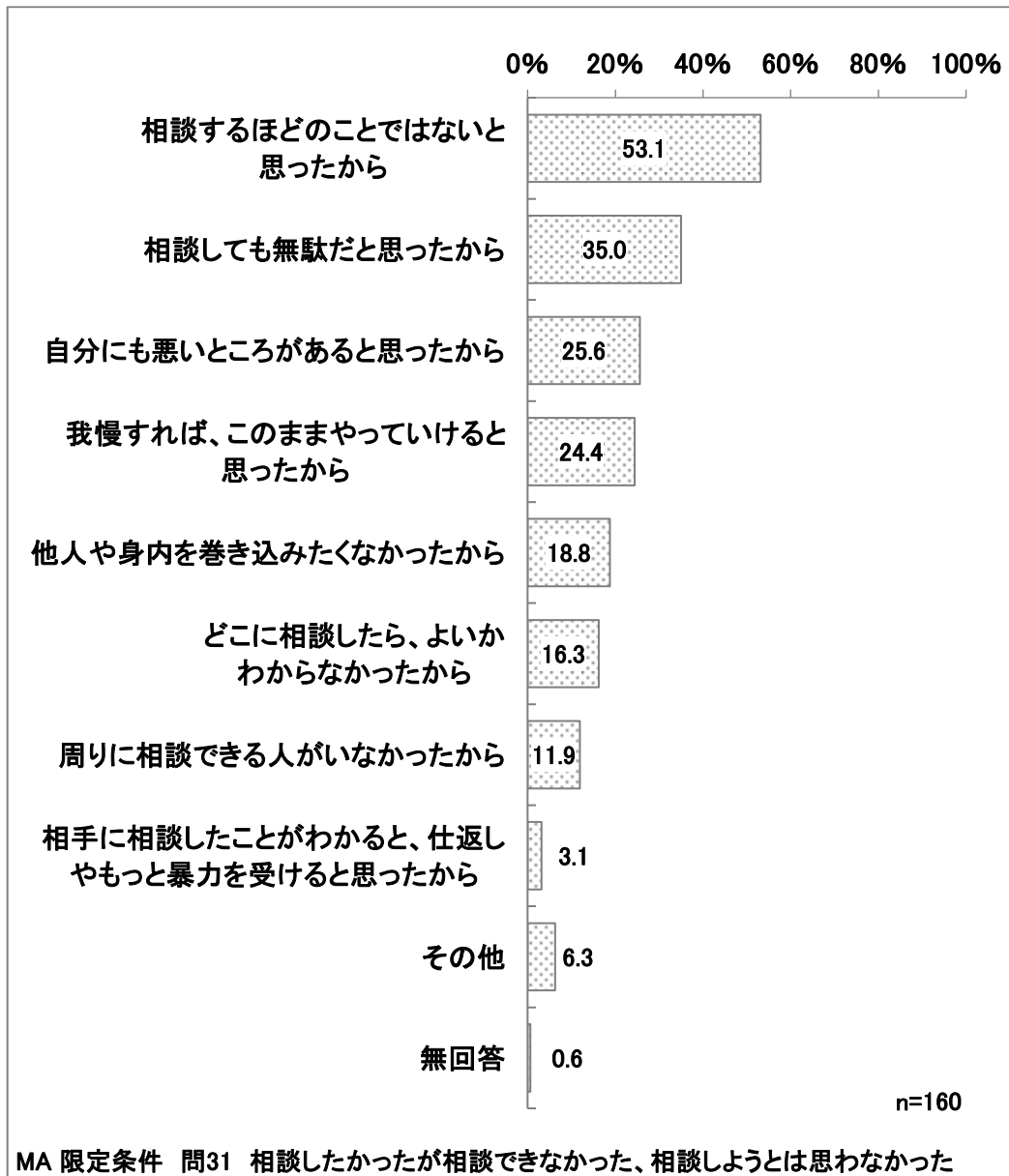
- ・女性に比べ男性は「相談した」が21.4ポイント低い。
- ・女性では、年代が高くなるほど「相談しようと思わなかった」割合が高い。
- ・「相談した」は、女性の20代以下、30代、50代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「相談したかったが相談できなかった」は女性の30代、40代で他の年代より高い。





問 32 問 31「2相談したかったが相談できなかった」または「3相談しようとは思わなかった」を選択された方に伺います。相談しなかったのは、なぜですか。【〇は複数可】

- ・「相談するほどのことではないと思ったから」(53.1%)が最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」(35.0%)、「自分にも悪いところがあったから」(25.6%)、「我慢すれば、このままやっていけると思ったから」(24.4%)と続く。



## ■ 性年代別 問32 相談しなかった理由（複数回答）

- ・性別に見ると、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が女性より10ポイント以上高い。
- ・「我慢すればこのままやっていけると思ったから」は40代女性で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問32 相談しなかった理由	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	160	110	49	0	9	17	20	22	19	14	9	1	5	15	13	5	5	5		
相談するほどのことではないと思ったから	53.1	-2.2	6.1	-33.1	2.4	-6.1	-3.1	1.4	0.0	-0.3	2.4	-33.1	-33.1	33.5	6.1	-13.1	-33.1	6.9		
相談しても無駄だと思ったから	35.0	1.4	-2.3	-35.0	9.4	-5.6	5.0	-3.2	7.1	7.9	-12.8	-35.0	25.0	-8.3	-1.9	25.0	5.0	-15.0		
自分にも悪いところがあると思ったから	25.6	-3.8	9.1	-25.6	7.7	-13.9	-5.6	-2.9	0.7	-8.5	18.8	-25.6	14.4	7.7	20.5	-5.6	4.4	-5.6		
我慢すれば、このままやっていけると思ったから	24.4	-2.6	6.2	-24.4	9.0	-0.8	0.6	-6.2	-3.3	-0.1	-24.4	-24.4	15.6	-11.0	6.4	35.6	35.6	-4.4		
他人や身内を巻き込みたくなかったから	18.8	0.3	-0.4	-18.8	4.6	-7.0	1.3	-0.6	-8.2	9.8	3.5	-18.8	1.3	1.3	-3.4	21.3	1.3	-18.8		
どこに相談したら、よいかわからなかったから	16.3	1.0	-4.0	-16.3	6.0	7.3	3.8	1.9	-5.7	-2.0	-5.1	-6.3	3.8	-9.6	-0.9	-16.3	-6.3	23.8		
周りに相談できる人がいなかったから	11.9	0.9	-1.7	-11.9	0.3	5.8	-6.9	6.3	-1.3	-1.9	10.3	-11.9	-11.9	-11.9	3.5	-11.9	-11.9	48.1		
相手に相談したことがわかると、仕返しやもっと暴力を受けると思ったから	3.1	-0.4	1.0	-3.1	-3.1	2.8	-3.1	1.4	-3.1	4.0	-3.1	-3.1	16.9	3.5	-3.1	-3.1	-3.1	-3.1		
その他	6.3	0.1	-0.1	-6.3	-6.3	-0.4	-1.3	-6.3	-1.0	5.2	4.9	93.8	-6.3	-6.3	1.4	13.8	-6.3	-6.3		
無回答	0.6	0.3	-0.6	-0.6	-0.6	5.3	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6		

## ■ 共働き、世帯構成、お子さんの年齢区分別 問32 相談しなかった理由（複数回答）

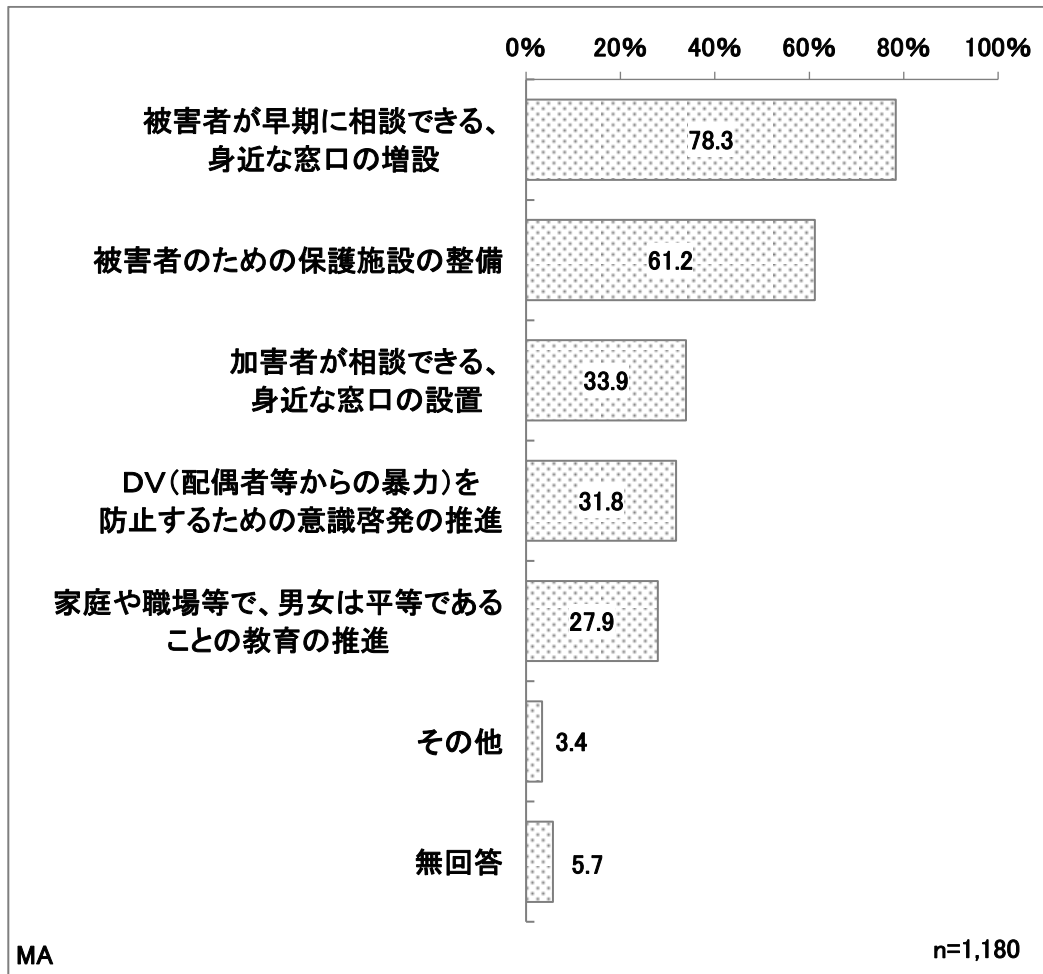
- ・共働きの有無で見ると、「相談しても無駄だと思ったから」は共働きしていない人で全体より10ポイント以上高く、結婚して二人とも働いていない人で低い。
- ・「我慢すれば、このままやっていけると思ったから」は、共働きしていない人で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問32 相談しなかった理由	全体 (%)	共働き			世帯構成				お子さんの年齢区分				
		共働きしている	共働きしていない	二人とも働いていない	一人暮らし	夫婦のみ	二世帯世帯	三世帯世帯他	就学前	小学生	中学生	中学卒業以上で未成年	成人
n=	160	49	29	25	19	43	88	8	20	19	15	16	71
相談するほどのことではないと思ったから	53.1	6.1	8.9	-9.1	4.8	-15.9	7.1	-3.1	11.9	-0.5	-13.1	3.1	1.8
相談しても無駄だと思ったから	35.0	-6.4	20.2	-11.0	17.6	13.8	-7.7	-22.5	5.0	-3.4	-1.7	-22.5	0.2
自分にも悪いところがあると思ったから	25.6	-3.2	8.9	-9.6	0.7	-11.7	3.9	24.4	19.4	-9.8	7.7	-6.9	-1.7
我慢すれば、このままやっていけると思ったから	24.4	0.1	13.6	-4.4	-13.8	3.5	2.9	-11.9	10.6	7.2	9.0	-5.6	-0.4
他人や身内を巻き込みたくなかったから	18.8	3.7	5.4	-2.8	-8.2	4.5	-0.6	6.3	11.3	2.3	1.3	6.3	-3.3
どこに相談したら、よいかわからなかったから	16.3	-8.1	7.9	-0.3	-11.0	0.0	0.8	8.8	3.8	-11.0	-9.6	-16.3	-0.8
周りに相談できる人がいなかったから	11.9	-3.7	1.9	4.1	3.9	-0.2	-0.5	-11.9	-1.9	-1.3	1.5	-5.6	0.8
相手に相談したことがわかると、仕返しやもっと暴力を受けると思ったから	3.1	-1.1	3.8	0.9	2.1	1.5	-0.9	-3.1	6.9	2.1	3.5	-3.1	-1.7
その他	6.3	-0.1	-2.8	1.8	-1.0	0.7	-1.7	6.3	-1.3	-1.0	-6.3	0.0	2.2
無回答	0.6	-0.6	-0.6	-0.6	4.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6

問 33 DV（配偶者等からの暴力）の被害対策に必要なと思うことはなんですか。【〇は複数可】

- ・「被害者が早期に相談できる、身近な窓口の増設」（78.3%）が最も多く、次いで「被害者のための保護施設の整備」（61.2%）が多く、これらは6割を超えている。



### ■ 性年代別 問33 DV（配偶者等からの暴力）の被害対策に必要なだと思うこと（複数回答）

- ・「被害者が早期に相談できる、身近な窓口の増設」は、男性の60代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上で低い。
- ・「被害者のための保護施設の整備」は、女性の30代、40代で全体より10ポイント以上高く、男女とも80代以上で低い。
- ・「加害者が相談できる、身近な窓口の設置」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「DV（配偶者等からの暴力）を防止するための意識啓発の推進」は、女性の50代で全体より10ポイント以上高く、80代以上で低い。
- ・「家庭や職場等で、男女は平等であることの教育の推進」は、男性の20代以下で全体より10ポイント以上高く、30代、40代で低い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■：全体より高い／■：全体より低い)

問33 DV(配偶者等からの暴力)の被害対策に必要なと思うこと	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
被害者が早期に相談できる、身近な窓口の増設	78.3	0.1	0.2	-28.3	-1.5	3.5	2.4	4.4	6.1	0.8	-25.4	-9.6	-6.9	8.3	5.7	10.2	-8.9	-9.3		
被害者のための保護施設の整備	61.2	1.8	-2.1	-36.2	6.7	4.9	10.4	8.0	2.7	-5.4	-30.3	-8.1	7.4	-5.1	9.0	9.6	-8.9	-32.6		
加害者が相談できる、身近な窓口の設置	33.9	0.9	-1.1	-8.9	0.0	1.6	1.9	7.4	-1.1	-5.2	-8.9	0.5	6.1	-1.0	8.7	-9.9	-3.3	-2.9		
DV(配偶者等からの暴力)を防止するための意識啓発の推進	31.8	1.5	-1.8	-31.8	2.1	4.6	4.9	10.5	7.6	-3.1	-24.4	-6.8	-8.9	-5.0	7.6	-7.8	0.7	1.8		
家庭や職場等で、男女は平等であることの教育の推進	27.9	1.6	-2.4	-2.9	6.0	6.2	1.5	5.8	-0.0	-3.1	-2.9	2.7	-16.5	-10.8	-8.7	0.2	7.3	-1.7		
その他	3.4	-0.3	0.5	-3.4	3.8	2.3	0.3	-1.5	-1.8	-0.3	-3.4	2.9	-3.4	3.9	-1.3	-0.3	0.2	1.4		
無回答	5.7	1.1	-2.0	19.3	-5.7	-5.7	-4.8	-2.8	-0.8	5.9	25.2	-2.6	-5.7	-4.5	-4.6	-3.6	0.6	6.2		

### ■ お子さんの年齢区分、職種、未就業者内訳、今後の就業希望別 問33 DV（配偶者等からの暴力）の被害対策に必要なと思うこと（複数回答）

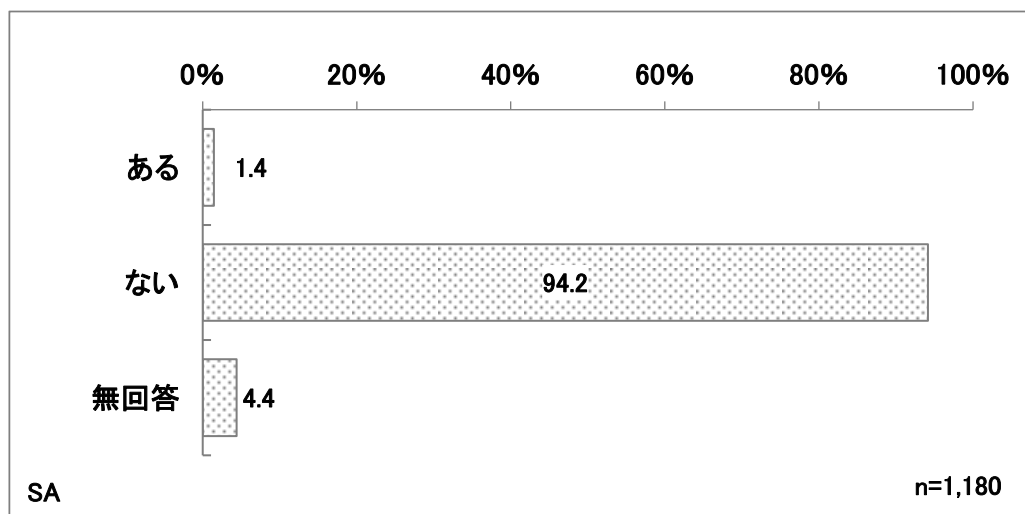
- ・「被害者が早期に相談できる、身近な窓口の増設」は、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高く、学生で低い。
- ・「被害者のための保護施設の整備」は、就学前、中学生、中学卒業以上で未成年の子どもがいる人、学生、今後働きたい人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「加害者が相談できる、身近な窓口の設置」は、自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、家族従業者等）で全体より10ポイント以上高い。
- ・「DV（配偶者等からの暴力）を防止するための意識啓発の推進」は、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高い。
- ・「家庭や職場等で、男女は平等であることの教育の推進」は、学生で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■：全体より高い／■：全体より低い)

問33 DV(配偶者等からの暴力)の被害対策に必要なと思うこと	全体 (%)	お子さんの年齢区分					職種					未就業者				今後の就業希望	
		就学前	小学生	中学生	で中学卒業以上	成人	正職社員	正社員	自営業	契約派遣社員	アルバイト	主婦主夫	学生	その他	不明	働きたい	働かないつもり
n=	1,180	112	100	58	81	603	328	56	55	218	292	25	86	75	128	284	
被害者が早期に相談できる、身近な窓口の増設	78.3	2.9	-2.3	-5.9	0.7	0.5	2.5	-6.9	4.4	2.4	-0.2	-10.3	3.1	-17.0	2.9	-3.7	
被害者のための保護施設の整備	61.2	10.2	7.8	11.2	1.7	-3.3	7.1	-4.0	0.6	-0.6	1.1	4.8	-7.7	-14.5	10.7	-6.3	
加害者が相談できる、身近な窓口の設置	33.9	7.2	1.1	-1.1	4.4	-1.7	1.5	10.7	9.7	0.5	-2.4	6.1	-3.7	-7.2	-0.3	-5.7	
DV(配偶者等からの暴力)を防止するための意識啓発の推進	31.8	3.0	-6.8	2.7	-0.9	2.2	0.2	7.5	10.0	2.6	-2.3	-3.8	-5.0	-5.1	1.8	-4.3	
家庭や職場等で、男女は平等であることの教育の推進	27.9	-0.2	-2.9	-2.0	-3.2	1.3	-5.3	-2.9	6.7	-1.3	4.0	20.1	-1.1	-1.2	2.6	2.8	
その他	3.4	1.1	-1.4	0.1	-0.9	-1.4	0.6	-3.4	3.9	-0.6	-0.7	4.6	0.1	0.6	0.5	-0.6	
無回答	5.7	-5.7	-4.7	-4.0	-2.0	1.8	-5.1	-0.3	-5.7	-1.1	0.1	-5.7	1.3	5.7	-4.1	3.1	

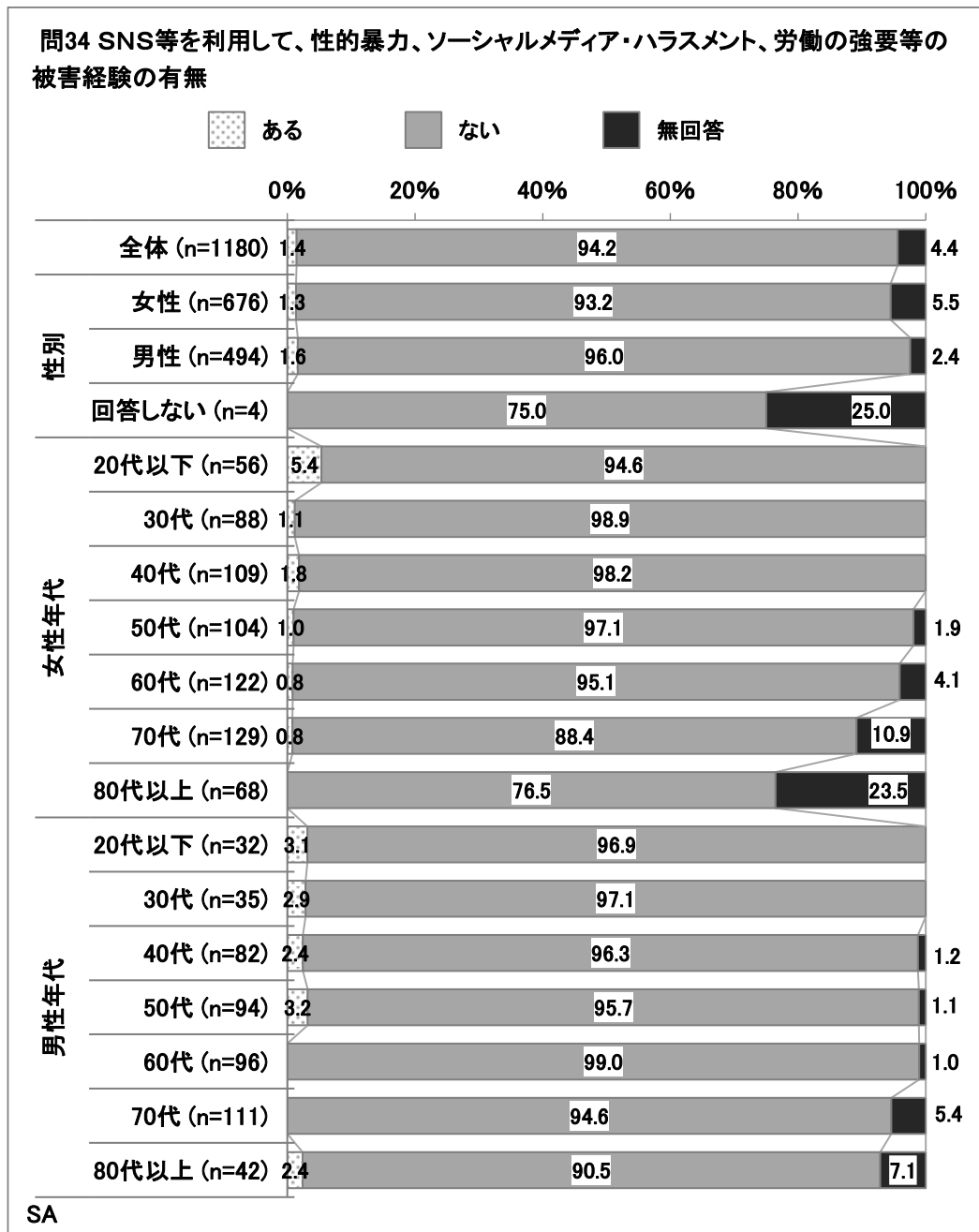
問 34 SNS等を利用して、性的暴力、ソーシャルメディア・ハラスメント、労働の強要等の被害にあったことはありますか。【〇は1つ】

- ・「ない」(94.2%)が9割を超えているが、「ある」も1.4%見られる。



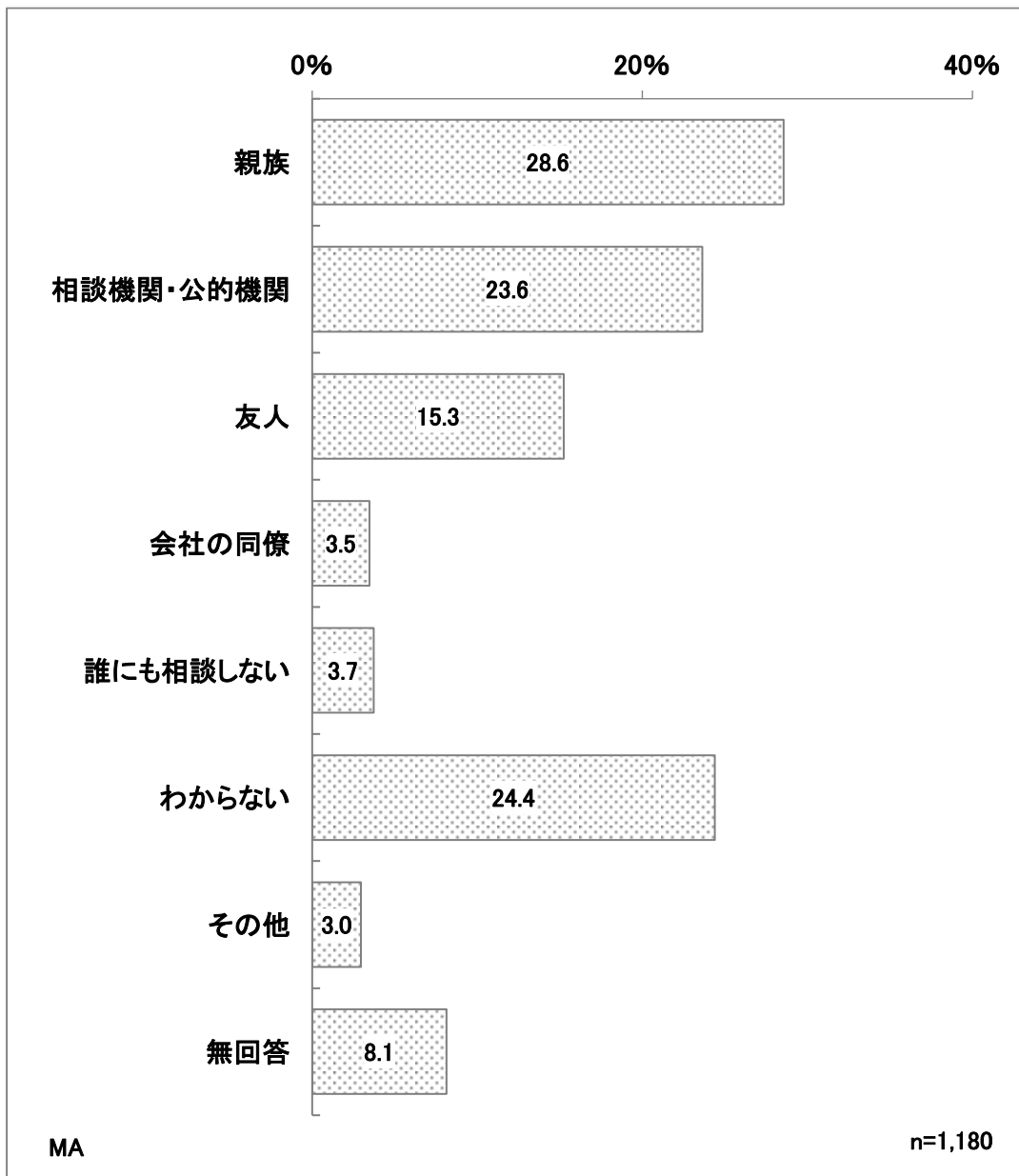
■ 性年代別 問34 SNS等を利用して、性的暴力、ソーシャルメディア・ハラスメント、労働の強要等の被害経験の有無

- ・ いずれも「ない」が80～90%台を占める。女性の80代以上では「ない」が全体より10ポイント以上低い。これは無回答が多いためと考えられる。
- ・ 女性の20代以下で「ある」の割合が他の年代より高い。



問 35 SNS等を利用して、性的暴力、ソーシャルメディア・ハラスメント、労働の強要等の被害にあった場合、誰に相談しますか。【〇は複数可】

- ・「親族」(28.6%)が最も多く、次いで「相談機関・公的機関」(23.6%)、「友人」(15.3%)と続く。「わからない」は24.4%、「誰にも相談しない」は3.7%である。



■ 性年代別 問35 SNS等を利用して、性的暴力、ソーシャルメディア・ハラスメント、労働の強要等の被害にあった場合、相談する相手（複数回答）

- ・「親族」は女性の20代以下、30代、40代で全体より10ポイント以上高く、男性の70代以上で低い。
- ・「相談機関・公的機関」は男性の80代以上で全体より10ポイント以上高い。
- ・「友人」は、男女とも20代以下で全体より10ポイント以上高く、男性の60代、80代以上で低い。
- ・「わからない」は男性の50代で全体より10ポイント以上高く、女性の20代以下、80代以上で低い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問35 SNS等を利用して、性的暴力、ソーシャルメディア・ハラスメント、労働の強要等の被害にあった場合、相談する相手	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
親族	28.6	4.7	-6.1	-3.6	17.9	11.2	12.7	7.0	0.1	-5.3	-3.6	-9.8	-2.8	6.8	-9.4	-0.4	-14.1	-14.3		
相談機関・公的機関	23.6	-3.5	4.9	-23.6	-5.8	-7.7	-4.4	2.3	-2.3	-1.9	-8.9	-4.9	-9.4	-0.5	4.0	9.7	9.7	12.1		
友人	15.3	3.7	-4.7	-15.3	29.4	0.7	9.5	6.9	-0.5	-5.2	-3.5	19.1	1.9	-0.6	-4.6	-10.0	-8.9	-12.9		
会社の同僚	3.5	-0.1	0.2	-3.7	3.7	1.1	1.1	2.3	-0.2	-3.5	-3.5	-0.3	-0.6	1.4	4.0	-2.4	-1.7	1.3		
誰にも相談しない	3.7	-1.5	2.1	-3.5	-0.2	2.0	-1.0	-1.8	-3.7	-2.2	-2.3	8.8	7.7	6.0	2.7	-0.6	-0.1	-3.7		
わからない	24.4	-2.8	3.7	25.6	-10.1	-2.8	-6.1	-5.2	5.9	1.9	-12.6	-8.8	9.9	-1.2	11.8	4.8	5.3	-5.4		
その他	3.0	-0.7	1.1	-3.0	0.6	-1.8	-2.0	-1.0	-1.3	-0.6	2.9	3.3	-3.0	-0.5	0.2	0.2	3.3	4.2		
無回答	8.1	1.8	-3.1	16.9	-6.3	-3.6	-5.4	-1.4	-2.4	10.5	22.7	-5.0	-8.1	-4.5	-6.0	-6.1	-0.9	10.9		

■ 結婚、お子さんの年齢区分、未就業者内訳、今後の就業希望別 問35 SNS等を利用して、性的暴力、ソーシャルメディア・ハラスメント、労働の強要等の被害にあった場合、相談する相手（複数回答）

- ・「親族」は就学前、小学生、中学生の子どもがいる人、学生、今後働きたい人で全体より10ポイント以上高く、結婚していたが離婚・死別した人で低い。
- ・「友人」は、結婚していない人、学生で全体より10ポイント以上高い。
- ・「誰にも相談しない」は学生で全体より10ポイント以上高い。
- ・「わからない」は就学前の子どもがいる人、学生で全体より10ポイント以上低い。

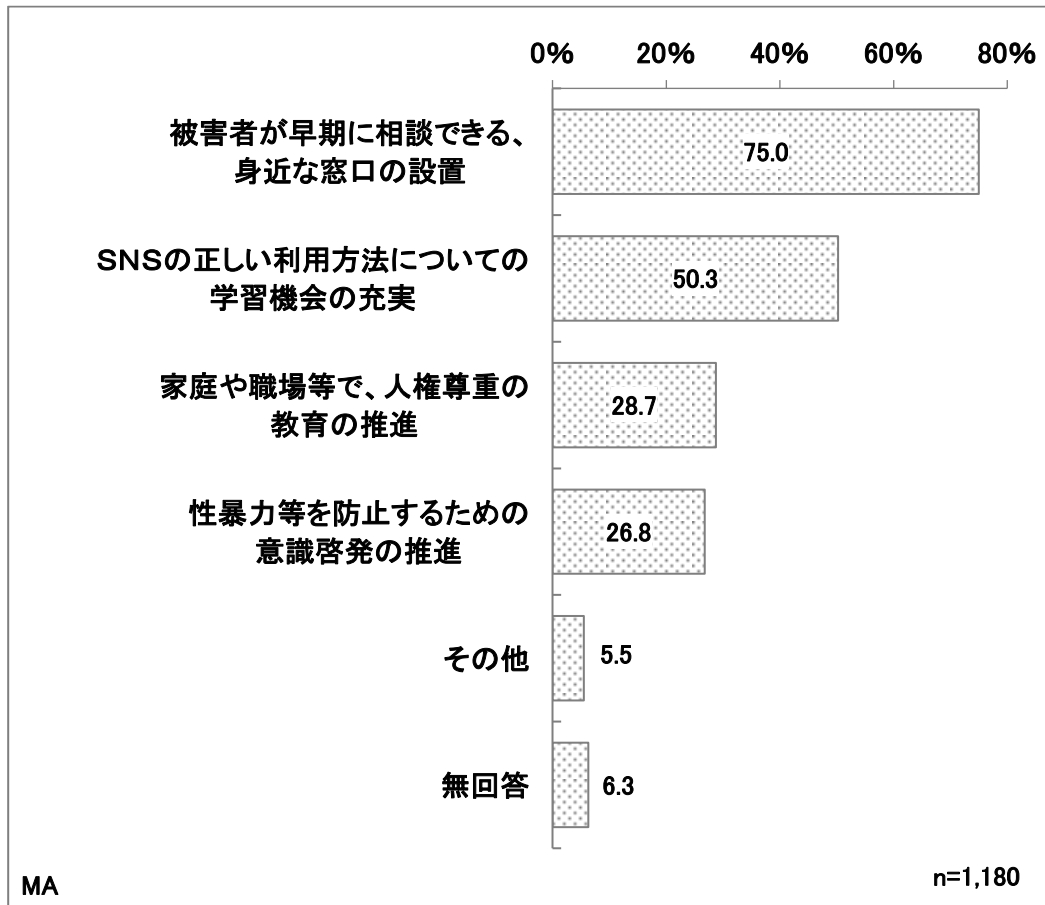
※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問35 SNS等を利用して、性的暴力、ソーシャルメディア・ハラスメント、労働の強要等の被害にあった場合、相談する相手	全体 (%)	結婚			お子さんの年齢区分					未就業者				今後の就業希望	
		ない	結婚している	離婚・死別	結婚している	就学前	小学生	中学生	で未成年以上	成人	主婦	学生	その他	不明	働きたい
n=	1,180	179	165	822	112	100	58	81	603	292	25	86	75	128	284
親族	28.6	-8.4	-10.4	4.4	21.4	17.4	12.8	6.0	-0.9	6.4	11.4	-8.1	-5.9	12.8	-2.9
相談機関・公的機関	23.6	2.1	-1.8	-0.2	-4.9	-0.6	-1.2	-5.1	0.1	-1.0	-7.6	6.6	1.7	-3.3	3.1
友人	15.3	12.1	-0.1	-2.4	6.2	-2.3	0.3	5.7	-4.0	-1.6	32.7	-8.3	-11.3	9.7	-7.5
会社の同僚	3.5	-1.2	0.8	0.2	2.8	2.5	1.7	0.2	-0.5	-2.8	0.5	-2.3	-2.1	-1.9	-2.4
誰にも相談しない	3.7	3.0	-1.3	-0.3	4.3	-1.7	-2.0	-0.0	-1.7	-2.4	12.3	-0.2	1.6	1.7	-2.3
わからない	24.4	0.7	-0.2	-0.1	-12.8	-4.4	3.2	1.5	1.8	-2.5	-12.4	7.0	-9.7	-7.2	0.6
その他	3.0	1.5	0.7	-0.5	-3.0	-1.0	-3.0	-3.0	0.5	-0.9	5.0	4.0	5.0	0.9	0.6
無回答	8.1	-3.7	11.3	-2.1	-6.3	-5.1	-4.7	-2.0	2.5	1.8	-8.1	3.5	14.5	-5.8	5.2



問 36 SNS等の被害対策に必要だと思うことはなんですか。【〇は複数可】

- ・「被害者が早期に相談できる、身近な窓口の設置」(75.0%)が最も多く、次いで「SNSの正しい利用方法についての学習機会の充実」(50.3%)が多い。



## ■ 性年代別 問36 SNS等の被害対策に必要なだと思うこと（複数回答）

- 「被害者が早期に相談できる、身近な窓口の設置」は、女性の30代、男性の60代で全体より10ポイント以上高く、女性80代以上、男性の20代以下で低い。
- 「SNSの正しい利用方法についての学習機会の充実」は、女性の30代、40代、男性の20代以下で全体より10ポイント以上高く、女性80代以上、男性の30代、80代以上で低い。
- 「性暴力等を防止するための意識啓発の推進」は、女性80代以上で全体より10ポイント以上低い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問36 SNS等の被害対策に必要なと思うこと	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
被害者が早期に相談できる、身近な窓口の設置	75.0	2.2	-2.1	-80.0	5.4	12.5	6.7	7.7	4.5	-4.5	-20.6	-25.0	-3.6	-6.7	2.7	11.5	-4.7	-8.3		
SNSの正しい利用方法についての学習機会の充実	50.3	2.7	-3.9	-0.3	3.3	15.7	13.0	4.8	1.4	0.1	-26.7	12.2	-10.3	-0.3	1.9	-6.5	-6.1	-16.9		
家庭や職場等で、人権尊重の教育の推進	28.7	2.3	-3.2	-3.7	7.0	5.4	7.1	1.1	6.5	-4.7	-5.2	-3.7	-5.9	-6.8	-4.3	-0.6	-0.8	-2.5		
性暴力等を防止するための意識啓発の推進	26.8	0.6	-0.7	-26.8	8.9	7.3	4.4	0.1	4.4	-6.6	-13.5	4.5	1.8	-4.8	-0.2	0.3	0.2	-3.0		
その他	5.5	-1.4	2.0	-5.5	7.0	0.2	-0.9	-2.6	-3.0	-4.0	-1.1	0.7	3.1	3.0	5.1	-0.3	1.7	-0.7		
無回答	6.3	0.1	-0.4	18.7	-6.3	-5.1	-5.4	-3.4	-0.5	3.8	20.2	-3.1	-3.4	-3.8	-4.1	-4.2	3.6	15.2		

## ■ お子さんの年齢区分、職種別 問36 SNS等の被害対策に必要なと思うこと（複数回答）

- 「被害者が早期に相談できる、身近な窓口の設置」は、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高い。
- 「家庭や職場等で、人権尊重の教育の推進」は、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高い。
- 「SNSの正しい利用方法についての学習機会の充実」は、就学前、小学生の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高い。

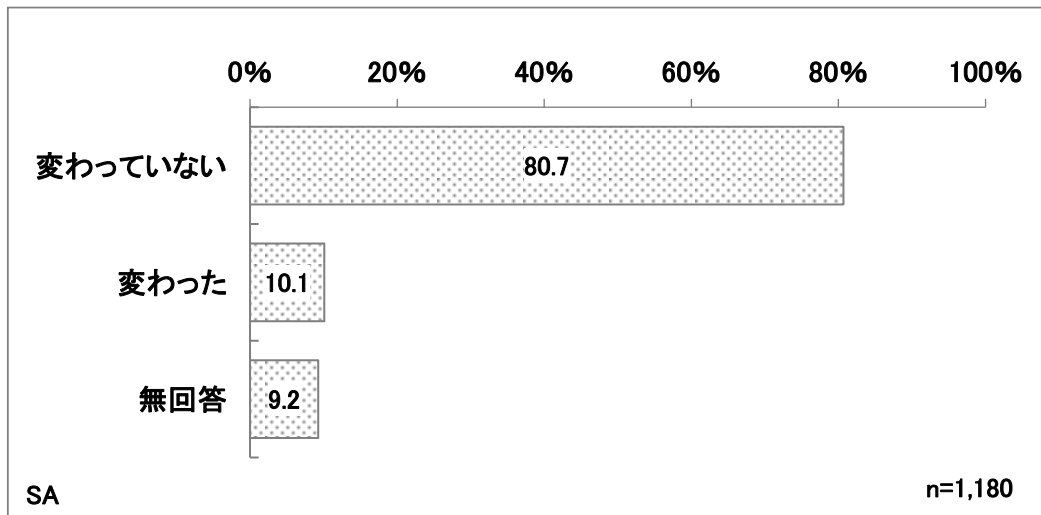
※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問36 SNS等の被害対策に必要なと思うこと	全体 (%)	お子さんの年齢区分					職種				
		就学前	小学生	中学生	で中 学 成 年 以 上	成人	正 正 職 社 員	自 営 業	員 契 約 派 遣 社	ア パ ル ー パ ト イ ト	
n=	1,180	112	100	58	81	603	328	56	55	218	
被害者が早期に相談できる、身近な窓口の設置	75.0	0.0	3.0	6.0	9.0	0.8	-1.2	5.4	14.1	-0.2	
SNSの正しい利用方法についての学習機会の充実	50.3	12.2	11.7	8.4	1.6	-2.2	3.7	5.1	6.1	5.3	
家庭や職場等で、人権尊重の教育の推進	28.7	6.1	2.3	2.3	-5.3	0.1	-1.9	-5.5	11.3	2.0	
性暴力等を防止するための意識啓発の推進	26.8	3.6	-3.8	2.5	-0.9	-1.2	-3.0	1.8	9.6	-0.6	
その他	5.5	-1.9	-3.5	-3.8	-1.8	-1.0	1.8	-0.2	3.6	-2.3	
無回答	6.3	-5.4	-3.3	-2.8	-2.6	1.0	-4.4	-0.9	-6.3	-1.7	

## 6. 新型コロナウイルス感染症拡大による生活環境の変化について

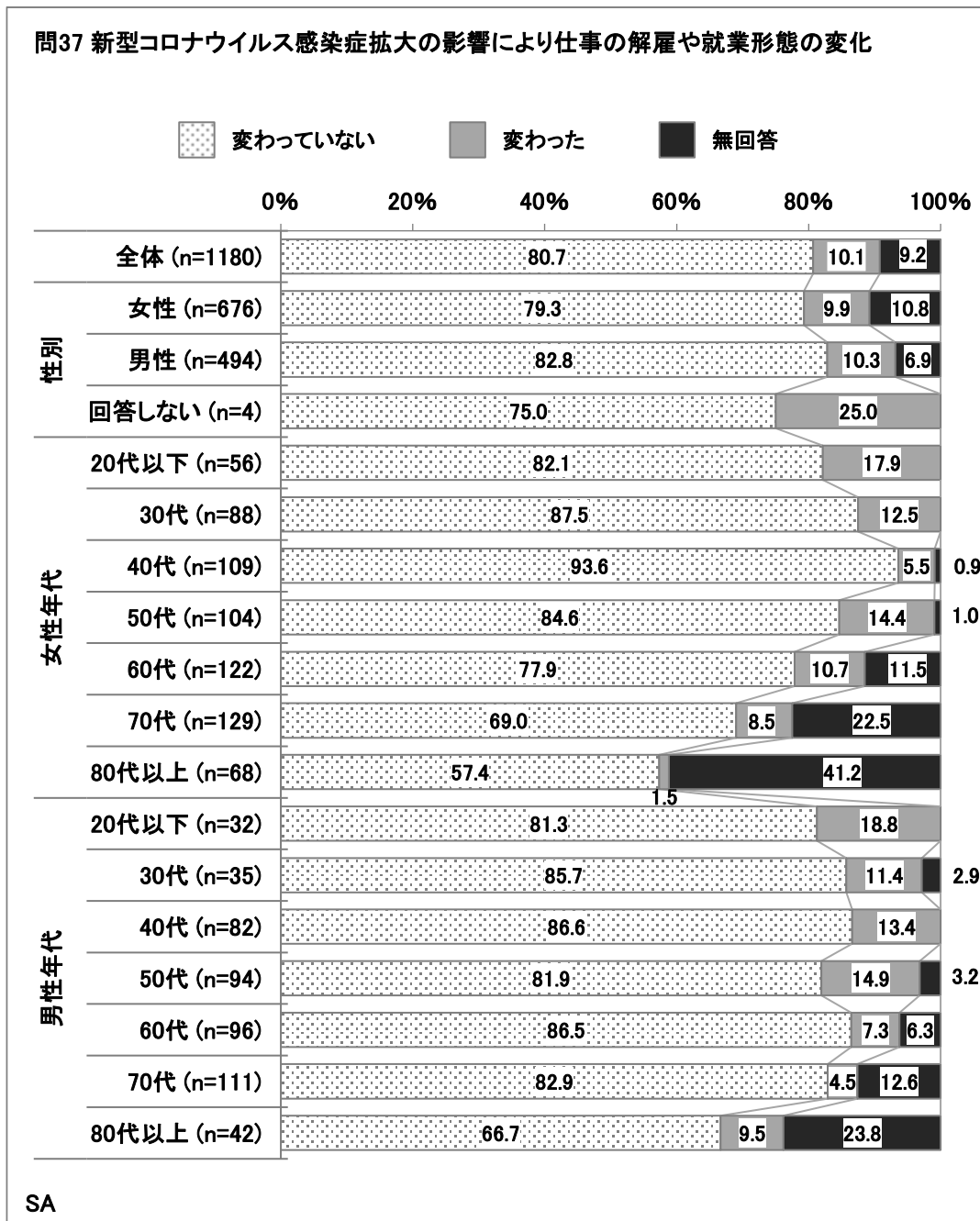
問 37 あなたは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により仕事を解雇されたり、就業形態が変わりましたか。【〇は1つ】

- ・「変わっていない」（80.7%）が全体の8割以上を占めるが、「変わった」（10.1%）が1割見られる。



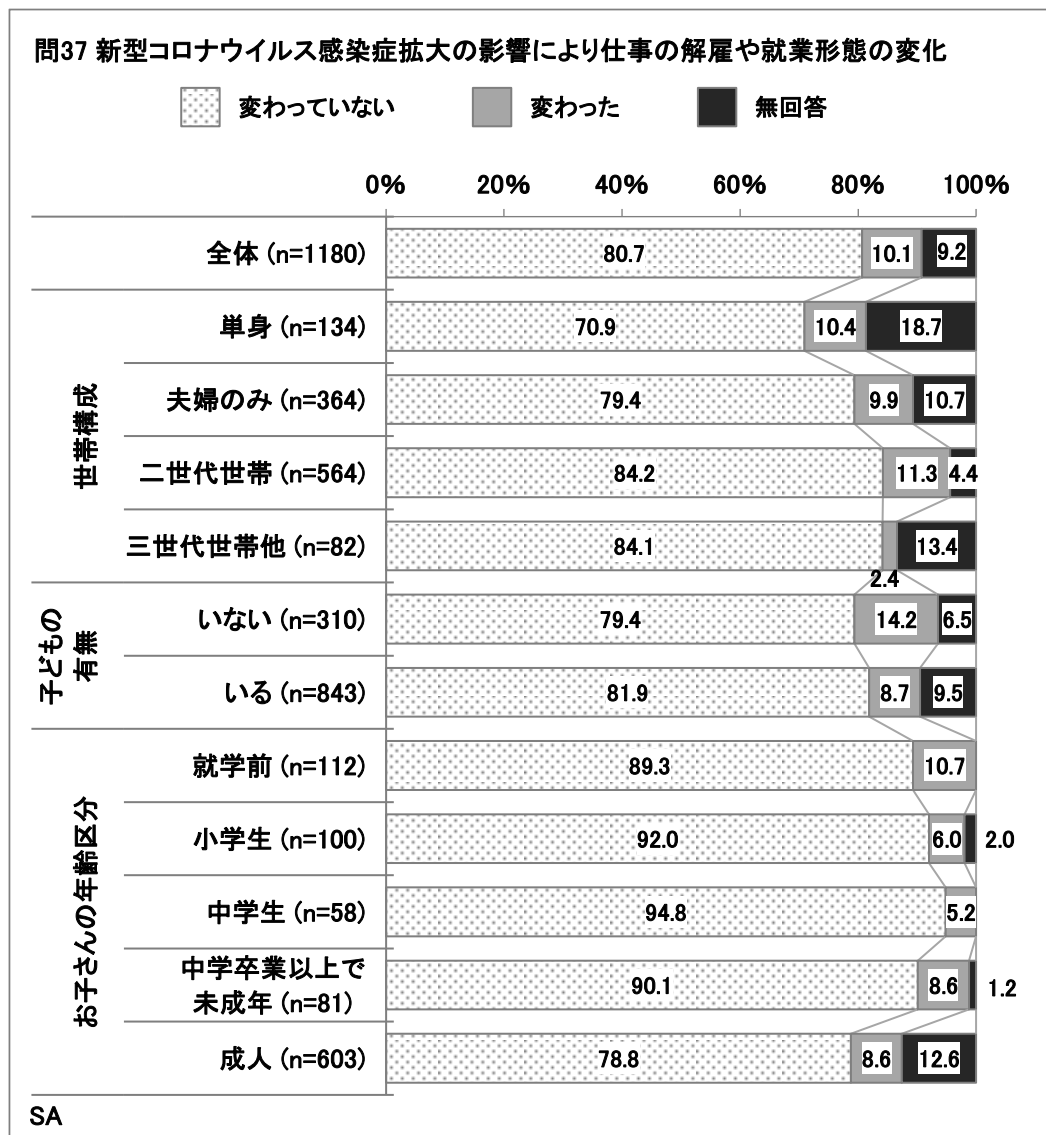
■ 性年代別 問 37 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により仕事の解雇や就業形態の変化

・「変わっていない」は女性の40代で全体より10ポイント以上高い。



■ 世帯構成、子どもの有無、お子さんの年齢区分別 問 37 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により仕事の解雇や就業形態の変化

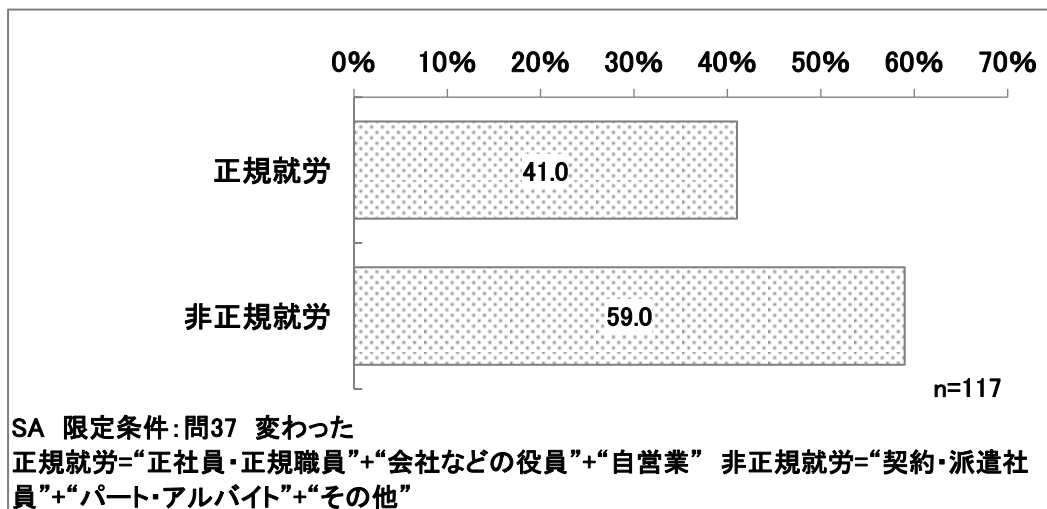
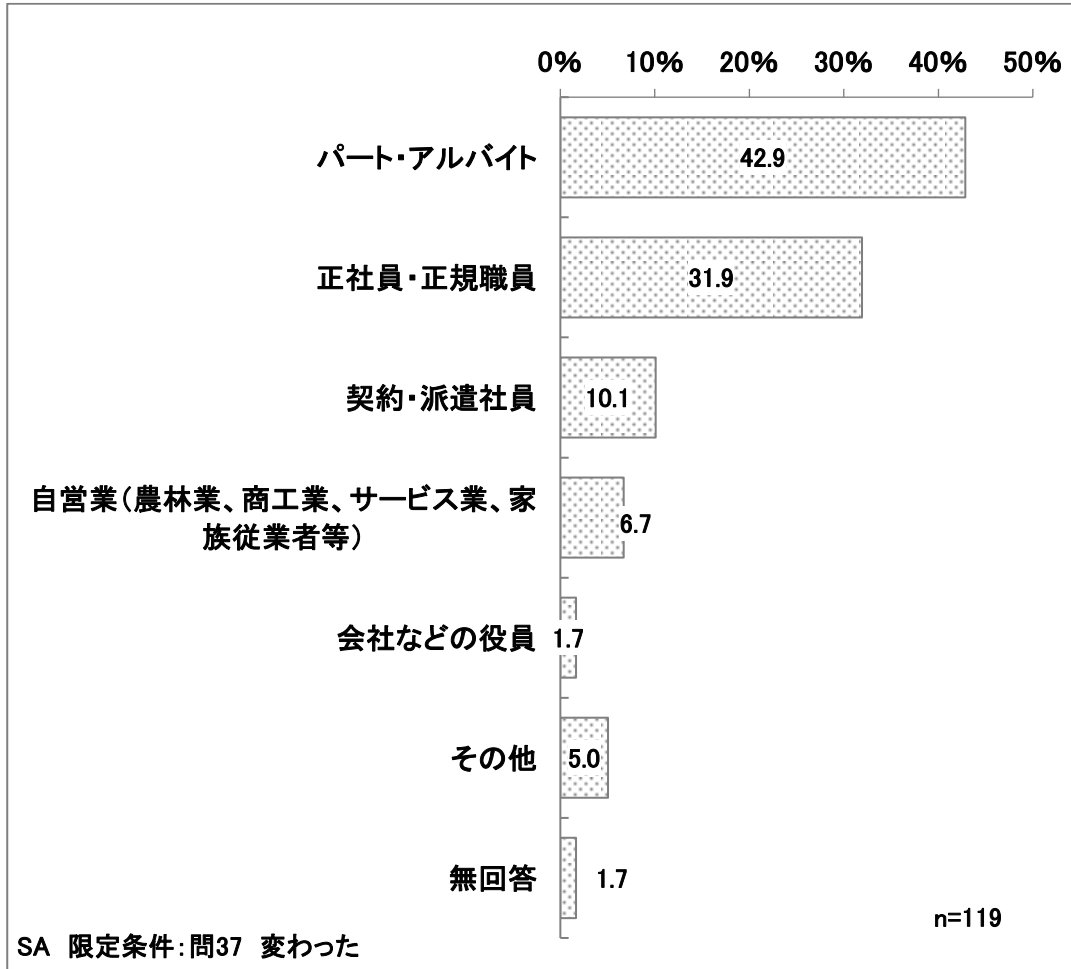
- ・「変わっていない」は小学生、中学生の子どもがいる人で、全体より 10 ポイント以上高い。



問 38 問 37「2変わった」と選択された方にお伺いします。以前の就業形態を選択してください。

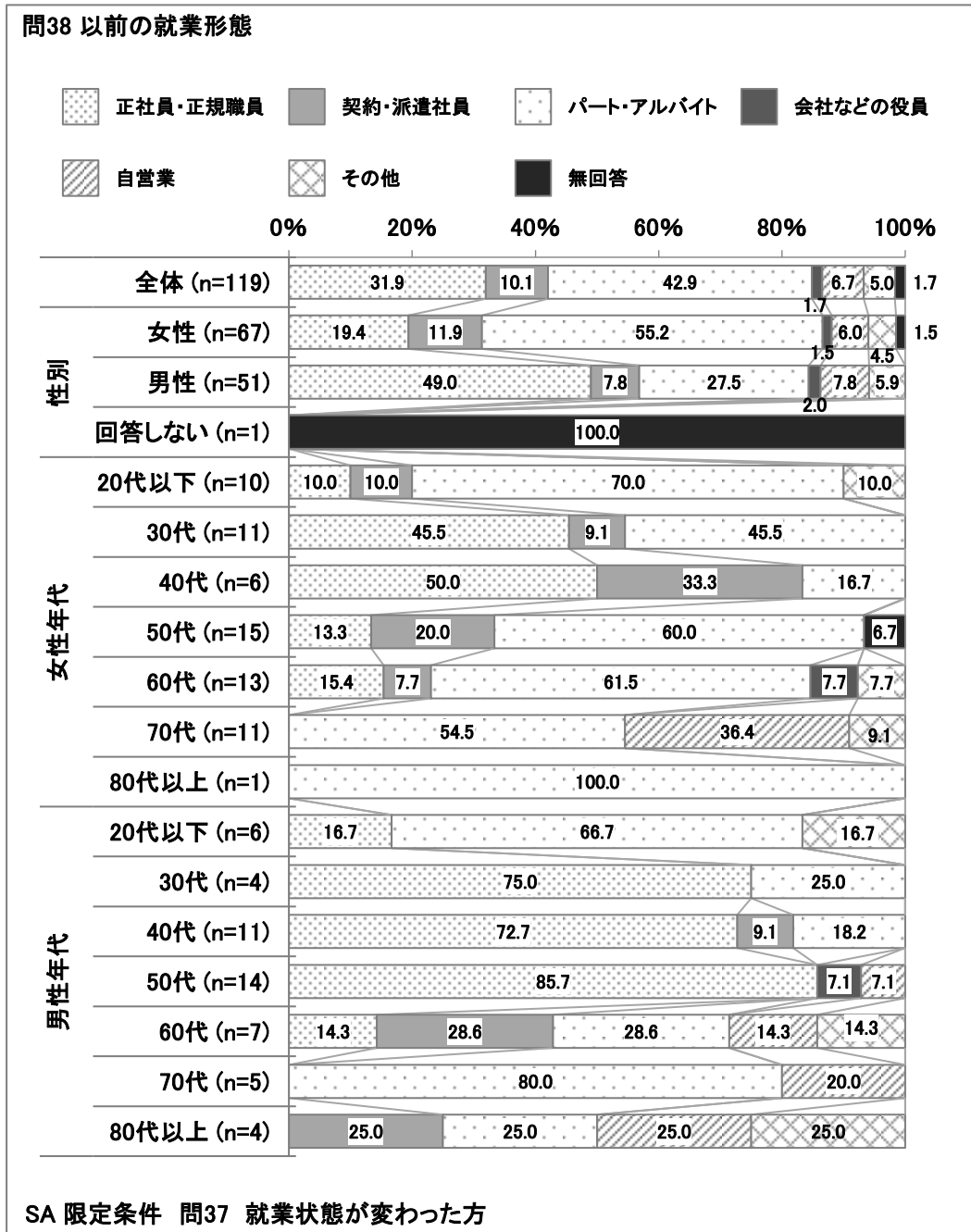
【〇は1つ】

- ・「パート・アルバイト」（42.9%）が最も多く、次いで「正社員・正規職員」（31.9%）、「契約・派遣社員」（10.1%）と続く。
- ・「正社員・正規職員」「会社などの役員」「自営業」を「正規就労」、「契約・派遣社員」「パート・アルバイト」「その他」を「非正規就労」として見ると、「非正規就労」（59.0%）が「正規就労」（41.0%）を17.9ポイント上回っている。



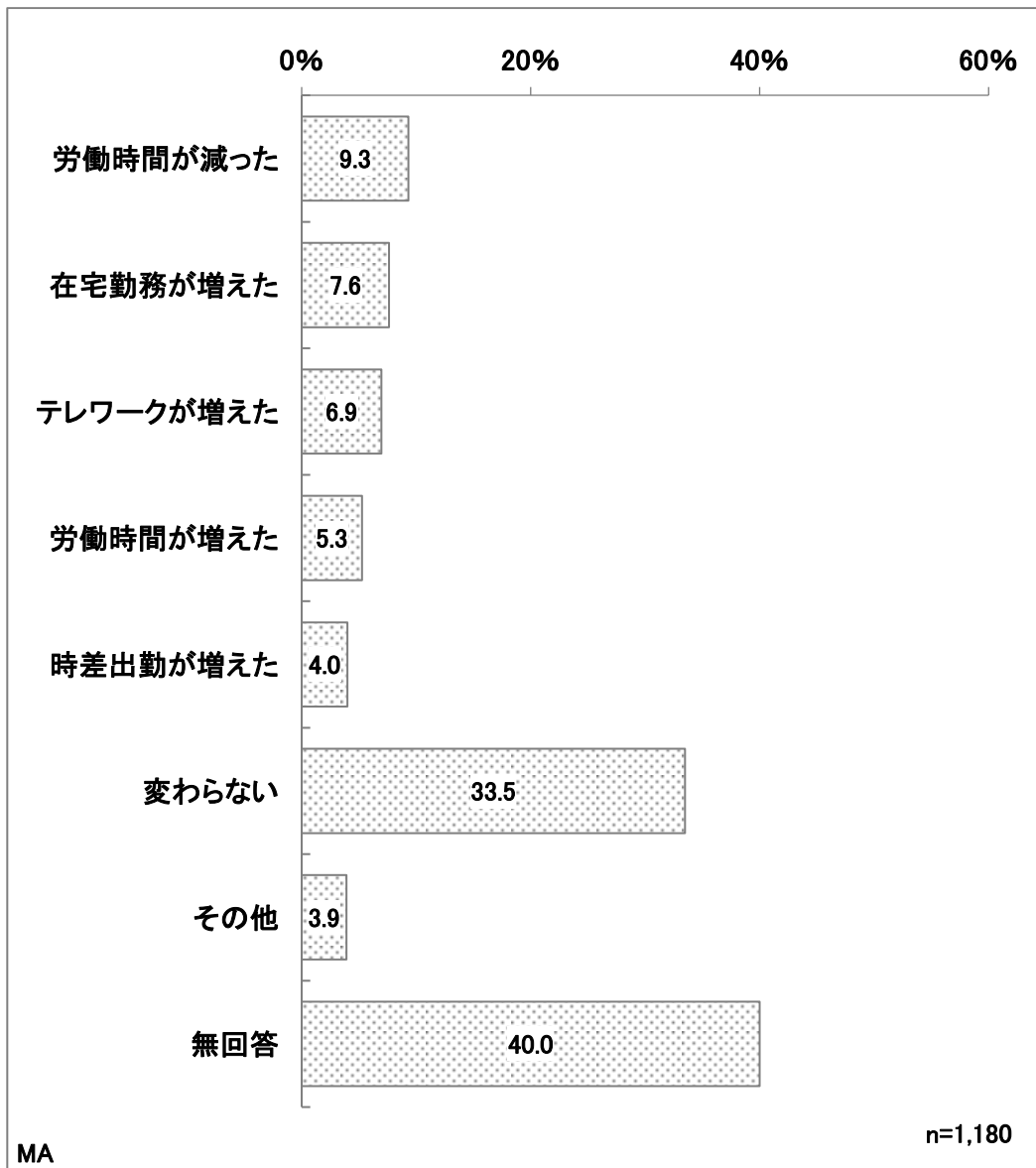
■ 性年代別 問38 以前の就業形態

- ・女性に比べ男性は「正社員・正規職員」が 29.6 ポイント高く、「パート・アルバイト」が 27.7 ポイント低い。
- ・「正社員・正規職員」、女性の 30 代、40 代で、男性の 30 代、40 代、50 代で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「契約・派遣社員」は女性の 40 代で、男性の 60 代、80 代以上で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「パート・アルバイト」は女性の 50 代以上で、男性の 20 代以下、70 代で全体より 10 ポイント以上高い。
- 「自営業」は女性の 70 代で、男性の 70 代以上で全体より 10 ポイント以上高い。



問 39 現在、仕事をされている方にお伺いします。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたの働き方に変化はありましたか。【〇は複数可】

- ・「変わらない」(33.5%)、無回答(40.0%)を除くと、「労働時間が減った」(9.3%)、「在宅勤務が増えた」(7.6%)、「テレワークが増えた」(6.9%)の順である。





## ■ 性年代別 問39 新型コロナウイルス感染症拡大の影響での働き方の変化（複数回答）

- ・「労働時間が減った」は、男性の30代、40代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「在宅勤務が増えた」は、男性の40代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「テレワークが増えた」は、男性の30代、40代、50代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「時差出勤が増えた」は、男性の50代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「変わらない」は、女性の40代、男性の30代で全体より10ポイント以上高く、女性の70代、男女とも80代以上で低い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問39 新型コロナウイルス感染症拡大の影響での働き方の変化	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
労働時間が減った	9.3	-0.9	1.4	-9.3	8.5	-0.2	-3.8	4.1	0.5	-4.7	-7.9	0.1	10.7	15.1	-2.9	0.1	-3.9	-6.9		
在宅勤務が増えた	7.6	-2.9	4.1	-7.6	3.1	2.6	-4.9	3.9	-6.0	-7.6	-7.6	1.7	9.5	16.8	7.3	8.0	-7.6	-7.6		
テレワークが増えた	6.9	-4.9	6.8	-6.9	-5.2	-3.5	-4.2	-0.2	-6.9	-6.9	-6.9	8.7	10.2	17.4	16.6	4.5	-5.1	-6.9		
労働時間が増えた	5.3	-0.4	0.6	-5.3	0.1	0.4	8.5	0.5	-2.8	-4.5	-5.3	4.1	9.0	5.7	5.4	-4.2	-4.4	-5.3		
時差出勤が増えた	4.0	-2.4	3.3	-4.0	-4.0	-0.6	-3.1	1.8	-3.2	-4.0	-4.0	5.4	1.7	8.2	14.1	0.2	-4.0	-4.0		
変わらない	33.5	0.4	-0.7	16.5	9.4	7.4	16.1	7.9	-0.7	-14.1	-23.2	7.2	12.2	-0.5	4.8	4.0	-3.7	-31.1		
その他	3.9	-0.6	1.0	-3.9	3.2	0.6	1.6	0.9	-3.1	-3.1	-2.4	2.4	-3.9	2.2	4.6	-1.8	1.5	-1.5		
無回答	40.0	6.2	-8.8	10.0	-20.4	-9.3	-17.1	-11.2	12.5	34.4	46.8	-15.0	-37.1	-38.8	-29.4	-9.8	18.6	52.9		

## ■ 共働き、職種別 問39 新型コロナウイルス感染症拡大の影響での働き方の変化（複数回答）

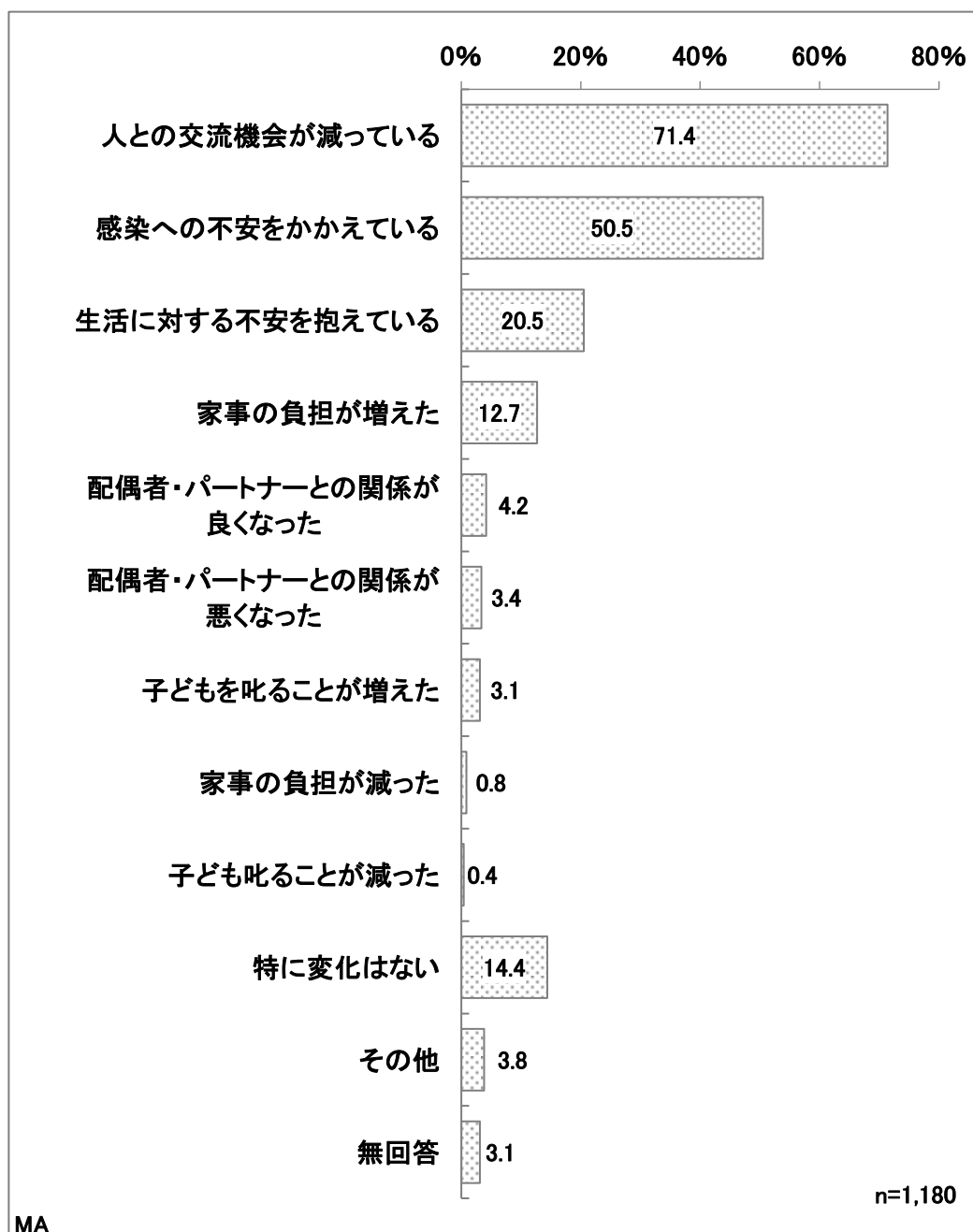
- ・「労働時間が減った」は、自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、家族従業者等）で全体より10ポイント以上高い。
- ・「在宅勤務が増えた」は、正社員・正職員、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高い。
- ・「テレワークが増えた」は、正社員・正職員、契約・派遣社員で全体より10ポイント以上高い。
- ・「変わらない」は、共働きしている人、正社員・正職員、自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、家族従業者等）、契約・派遣社員、パート・アルバイトで全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問39 新型コロナウイルス感染症拡大の影響での働き方の変化	全体 (%)	共働き			職種			
		共働きしている	共働きしていない	二人とも働いていない	正社員 正職員	自営業	契約派遣社員	パート アルバイト
n=	1,180	346	232	219	328	56	55	218
労働時間が減った	9.3	5.7	-1.1	-8.4	1.7	15.7	7.0	9.9
在宅勤務が増えた	7.6	6.5	3.1	-7.6	12.8	-2.3	16.0	-5.8
テレワークが増えた	6.9	5.8	3.0	-6.5	13.5	-5.2	11.2	-6.0
労働時間が増えた	5.3	4.6	-0.1	-5.3	7.6	0.1	0.2	0.3
時差出勤が増えた	4.0	4.1	0.3	-4.0	8.8	-4.0	1.5	-3.1
変わらない	33.5	20.0	-4.2	-28.5	13.2	23.7	13.8	34.0
その他	3.9	1.0	-2.6	-1.6	1.9	-0.3	1.6	0.2
無回答	40.0	-38.0	5.3	51.8	-39.1	-34.6	-40.0	-36.8

**問 40 新型コロナウイルス感染症拡大の影響前と比べて、あなたの生活や行動、心身に変化はありますか。【〇は複数可】**

・「人との交流機会が減っている」(71.4%)が最も多く、次いで「感染への不安をかかえている」(50.5%)が多い。「特に変化はない」は14.4%である。



■ 性年代別 問40 新型コロナウイルス感染症拡大の影響前と比べた生活や行動、心身の変化（複数回答）

- ・「人との交流機会が減っている」は女性の70代で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下、80代以上で低い。
- ・「感染への不安をかかえている」は女性の70代で全体より10ポイント以上高く、男性の20代以下、30代で低い。
- ・「生活に対する不安を抱えている」は女性の20代以下、30代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「家事の負担が増えた」は女性の50代で全体より10ポイント以上高く、男性の80代以上で低い。
- ・「子どもを叱ることが増えた」は女性の30代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「特に変化はない」は、男性の20代以下で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問40 新型コロナウイルス感染症拡大の影響前と比べた生活や行動、心身の変化	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
人との交流機会が減っている	71.4	2.5	-3.1	-21.4	0.1	2.5	-4.4	2.7	4.1	13.9	-9.6	-15.1	-2.8	7.9	-1.1	0.5	-7.4	-18.6		
感染への不安をかかえている	50.5	5.4	-6.8	-50.5	-0.5	6.3	7.3	3.3	7.7	11.5	-6.4	-16.1	-16.2	-7.8	-5.8	-3.6	-3.7	-5.3		
生活に対する不安を抱えている	20.5	2.9	-3.7	-20.5	13.4	13.6	7.9	1.6	-3.3	-1.9	-5.8	-4.9	-3.4	-3.4	-0.3	-5.9	-3.4	-8.6		
家事の負担が増えた	12.7	3.6	-4.8	12.3	-2.0	7.7	9.3	17.1	1.2	-6.5	-3.9	-0.2	-4.1	0.7	-3.1	-6.5	-8.2	-10.3		
配偶者・パートナーとの関係が良くなった	4.2	-0.8	1.1	-4.2	-0.6	-0.7	-1.4	-1.3	-0.1	-1.1	0.3	2.1	-1.3	-1.7	5.4	1.1	0.4	0.6		
配偶者・パートナーとの関係が悪くなった	3.4	1.0	-1.6	21.6	2.0	9.1	1.2	0.5	-0.9	-0.3	-3.4	-0.3	-0.5	-2.2	-0.2	-2.3	-2.5	-3.4		
子どもを叱ることが増えた	3.1	0.6	-0.7	-3.1	-1.3	12.8	6.0	-3.1	-3.1	-3.1	-3.1	-3.1	2.6	6.6	-2.1	-3.1	-2.2	-3.1		
家事の負担が減った	0.8	0.3	-0.4	-0.8	-0.8	1.4	1.9	0.1	-0.0	-0.8	0.6	-0.8	2.0	0.4	-0.8	-0.8	-0.8	-0.8		
子ども叱ることが減った	0.4	0.0	-0.0	-0.4	-0.4	0.7	0.5	-0.4	-0.4	-0.4	1.0	2.7	2.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4		
特に変化はない	14.4	-3.2	4.2	10.6	-0.1	-6.5	0.3	0.0	-5.4	-7.4	0.3	10.6	2.7	-2.2	5.8	2.3	6.3	9.4		
その他	3.8	0.9	-1.2	-3.8	8.7	4.1	1.7	1.0	0.3	-3.0	-2.3	-0.7	-3.8	1.1	-1.7	-1.7	-1.1	-1.4		
無回答	3.1	-0.2	-0.1	21.9	-3.1	-3.1	-3.1	-2.2	1.0	-0.8	13.0	3.1	-3.1	-3.1	-3.1	-1.1	1.4	8.8		

■ 子どもの有無、お子さんの年齢区分、職種、未就業者内訳、今後の就業希望別 問40 新型コロナウイルス感染症拡大の影響前と比べた生活や行動、心身の変化（複数回答）

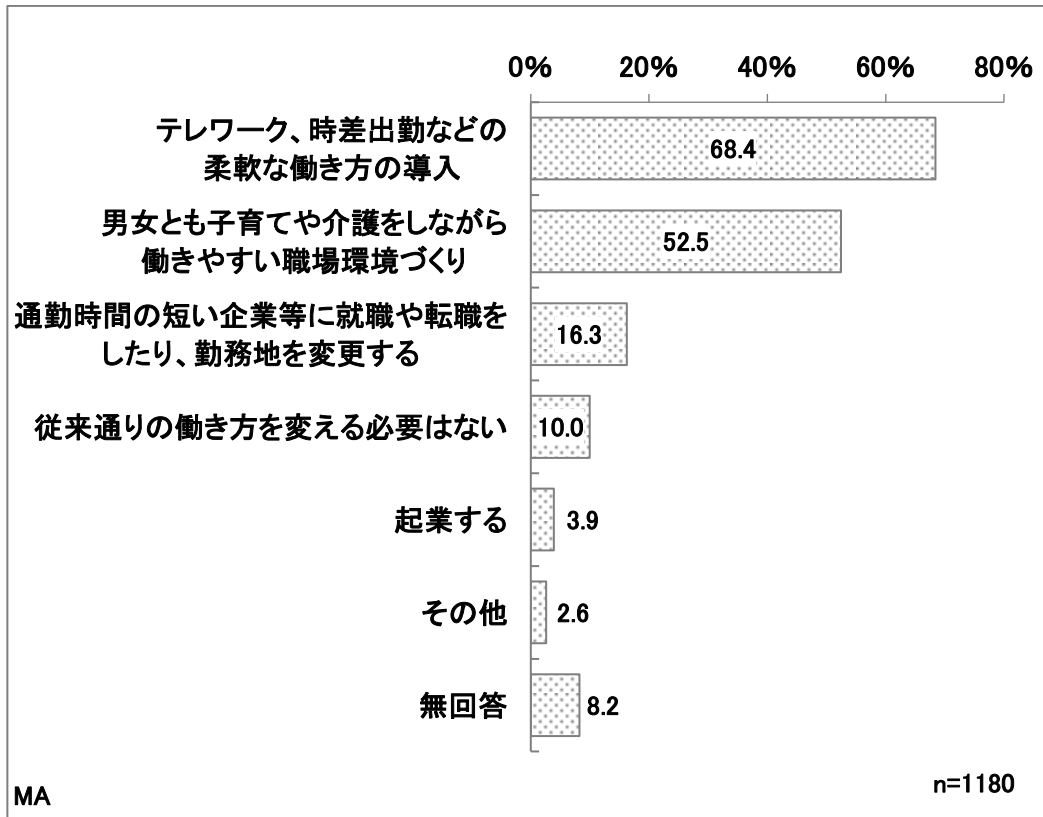
- ・「家事の負担が増えた」は小学生の子どもがいる人、今後働きたい人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「子どもを叱ることが増えた」は就学前、小学生の子どもがいる人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「生活に対する不安を抱えている」は今後働きたい人で全体より10ポイント以上高い。
- ・「感染への不安をかかえている」は主婦・主夫、今後働きたい人で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/□:全体より低い)

問40 新型コロナウイルス感染症拡大の影響前と比べた生活や行動、心身の変化	全体 (%)	子どもの有無		お子さんの年齢区分					職種				未就業者				今後の就業希望	
		いない	いる	就学前	小学生	中学生	未成年 中学卒業以上	成人	正社員 正職員	自営業	契約派遣社員	アルバイト	主婦 主夫	学生	その他	不明	働きたい	働いてくつもりは
n=	1,180	310	843	112	100	58	81	603	328	56	55	218	292	25	86	75	128	284
人との交流機会が減っている	71.4	-4.6	2.0	4.5	4.6	6.2	-7.2	0.5	1.2	-3.5	1.4	-3.0	9.8	4.6	-2.1	-10.0	8.3	2.9
感染への不安をかかえている	50.5	-0.2	0.3	-0.5	-0.5	1.2	-6.1	0.4	-8.1	-7.7	-6.9	-0.5	12.8	9.5	-0.5	-1.2	14.3	7.6
生活に対する不安を抱えている	20.5	6.6	-1.9	6.3	2.5	5.4	0.5	-3.6	-5.6	8.1	4.9	3.8	2.8	-0.5	1.6	-5.8	20.9	-6.1
家事の負担が増えた	12.7	-0.5	0.6	8.7	11.3	9.7	8.3	-2.4	-3.3	-0.2	-1.8	3.8	5.8	3.3	-3.4	-8.7	14.6	-4.3
配偶者・パートナーとの関係が良くなった	4.2	-1.9	0.7	0.3	0.8	-4.2	2.0	0.8	1.0	3.0	-2.3	-0.5	-0.0	-4.2	-0.7	-0.2	-2.6	0.4
配偶者・パートナーとの関係が悪くなった	3.4	-0.2	0.2	5.5	2.6	3.5	2.8	-1.4	-0.6	2.0	-3.4	1.2	0.7	4.6	-1.1	-0.7	4.4	-0.9
子どもを叱ることが増えた	3.1	-3.1	1.3	17.4	16.9	8.9	0.6	-3.0	2.0	2.2	-3.1	-0.4	0.6	-3.1	-3.1	-3.1	4.7	-2.8
家事の負担が減った	0.8	-0.5	0.2	1.8	2.2	0.9	-0.8	-0.3	1.0	-0.8	1.0	-0.4	-0.8	-0.8	-0.8	0.5	-0.8	-0.5
子ども叱ることが減った	0.4	-0.4	0.2	2.3	1.6	-0.4	-0.4	-0.3	0.5	-0.4	-0.4	-0.4	-0.1	-0.4	-0.4	0.9	-0.4	0.3
特に変化はない	14.4	0.8	-0.3	-1.9	-3.4	-5.8	6.6	0.9	3.3	8.8	-3.5	1.2	-7.6	-2.4	4.2	0.3	-8.9	-2.8
その他	3.8	2.3	-0.7	0.7	0.2	-0.4	-1.3	-1.0	0.5	-0.2	1.6	-1.5	-0.0	16.2	-1.5	-1.1	3.2	-0.6
無回答	3.1	-0.2	-0.3	-3.1	-3.1	-3.1	-1.9	0.5	-2.8	0.4	-3.1	-0.8	-0.1	-3.1	1.5	7.5	-2.4	1.4

問 41 新型コロナウイルス感染症の収束後であっても、今後どのような働き方が重要だと思いますか。【〇は複数可】

- ・「テレワーク、時差出勤などの柔軟な働き方の導入」(68.4%)が最も多く、次いで「男女とも子育てや介護をしながら働きやすい職場環境づくり」(52.5%)が多い。これらは半数以上が挙げている。



## ■ 性年代別 問41 新型コロナウイルス感染症の収束後の働き方として重要なこと（複数回答）

- ・「テレワーク、時差出勤などの柔軟な働き方の導入」は、女性の20代以下、30代、50代、男性の20代以下、40代で全体より10ポイント以上高く、男女とも70代以上で低い。
- ・「男女とも子育てや介護をしながら働きやすい職場環境づくり」は、女性の20代以下、30代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の20代以下、70代以上で低い。
- ・「通勤時間の短い企業等に就職や転職をしたり、勤務地を変更する」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高く、男女とも80代以上で低い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問41 新型コロナウイルス感染症の収束後の働き方として重要なこと	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
テレワーク、時差出勤などの柔軟な働き方の導入	68.4	0.8	0.0	-69.4	12.0	19.4	5.9	10.5	7.8	-13.4	-39.1	16.0	0.2	19.3	7.1	9.5	-14.6	-30.3		
男女とも子育てや介護をしながら働きやすい職場環境づくり	52.5	5.2	-8.9	-2.5	20.8	22.5	9.0	2.4	8.2	-5.2	-17.2	-18.1	-1.0	-1.2	-1.4	-4.5	-10.1	-21.5		
通勤時間の短い企業等に就職や転職をしたり、勤務地を変更する	16.3	1.3	-1.5	-16.3	9.7	13.3	2.1	5.8	-1.5	-5.4	-10.4	5.6	3.7	5.7	-2.4	-3.8	-1.9	-13.3		
起業する	3.9	0.1	-0.1	-3.9	1.5	4.1	2.5	-0.1	0.2	-3.1	-3.9	8.6	7.5	1.0	0.4	-2.9	-3.0	-3.9		
従来通りの働き方を変える必要はない	10.0	-2.5	3.0	15.0	-3.2	-3.6	0.1	-2.3	-3.4	3.2	-5.6	-0.6	7.1	-2.7	1.7	3.5	6.2	4.3		
その他	2.6	-0.7	1.0	-2.6	-0.8	1.9	-1.7	-0.7	-1.8	-1.9	1.8	-2.6	3.1	-0.2	1.6	1.5	1.0	2.1		
無回答	8.2	0.5	-1.1	16.8	-3.4	-3.2	-3.2	-3.3	-1.7	3.8	30.0	-5.1	-3.2	-7.0	-7.2	-3.1	5.3	27.5		

## ■ お子さんの年齢区分、介護・看護が必要な家族、職種、未就業者内訳、今後の就業希望別 問41 新型コロナウイルス感染症の収束後の働き方として重要なこと（複数回答）

- ・「テレワーク、時差出勤などの柔軟な働き方の導入」は、介護・看護が必要な家族がいるが同居はしていない人、契約・派遣社員、学生で全体より10ポイント以上高く、介護・看護が必要な家族と同居している人で低い。
- ・「男女とも子育てや介護をしながら働きやすい職場環境づくり」は、就学前、小学生、中学生の子もがいる人、学生、今後働きたい人で全体より10ポイント以上高い。

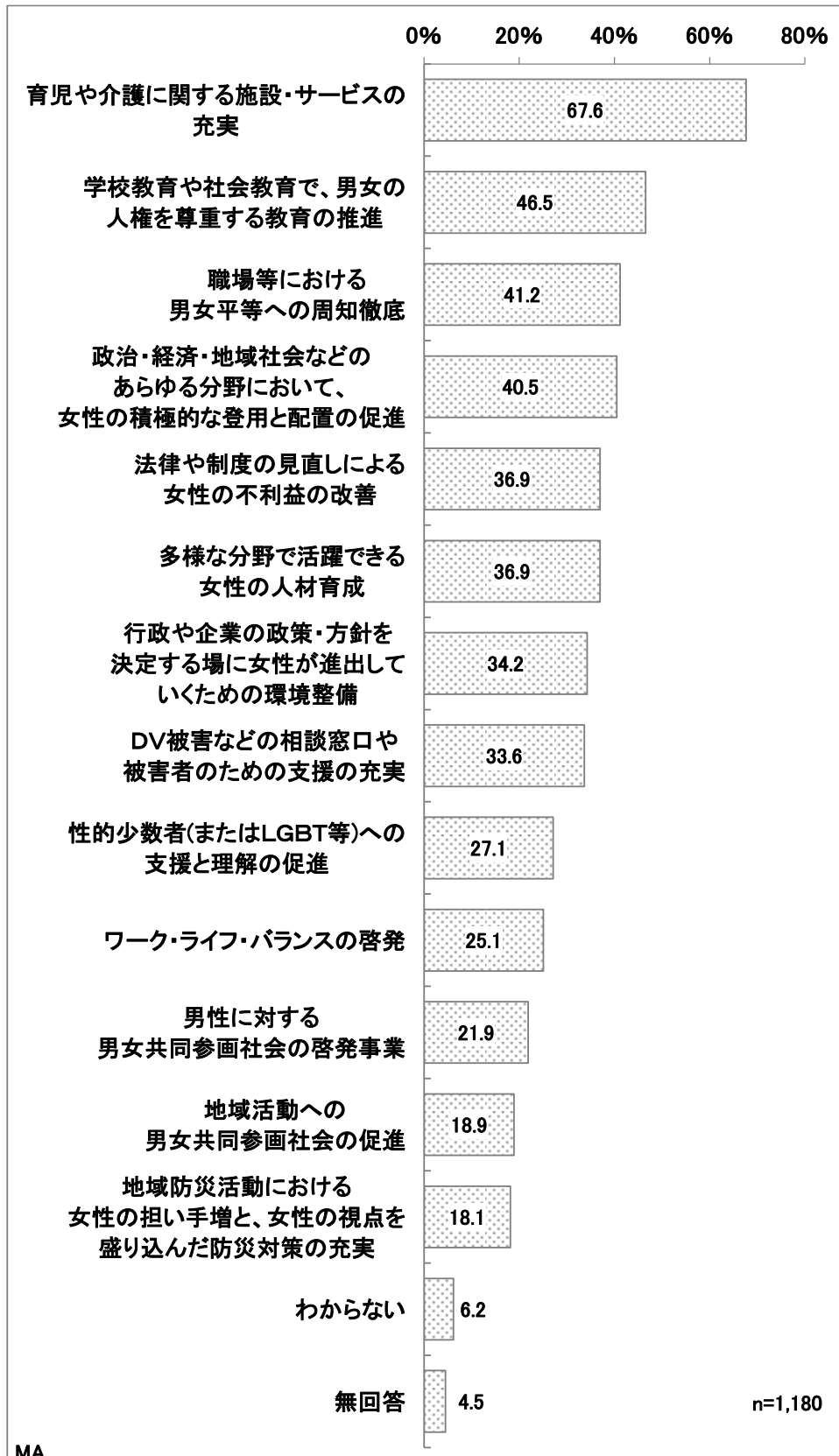
※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問41 新型コロナウイルス感染症の収束後の働き方として重要なこと	全体 (%)	お子さんの年齢区分					介護・看護が必要な家族			職種				未就業者				今後の就業希望		
		就学前	小学生	中学生	未成年	中学生以上	成人	同居している	同居していない	いない	正社員	正職員	自営業	契約派遣社員	アルバイト	主夫	主婦	学生	その他	不明
n=	1,180	112	100	58	81	603	76	165	916	328	56	55	218	292	25	86	75	128	284	
テレワーク、時差出勤などの柔軟な働き方の導入	68.4	9.3	8.6	4.0	-1.7	-5.2	-14.4	10.4	-0.0	8.7	4.8	17.1	-9.3	-2.0	19.6	-4.4	-29.1	8.2	-9.2	
男女とも子育てや介護をしながら働きやすい職場環境づくり	52.5	19.9	13.5	13.1	3.1	-2.9	8.1	7.5	-1.6	3.3	-4.2	-1.5	2.1	4.0	11.5	-3.6	-21.8	13.2	-6.0	
通勤時間の短い企業等に就職や転職をしたり、勤務地を変更する	16.3	4.3	4.7	6.1	2.2	-4.2	3.5	1.9	-0.3	2.9	5.2	1.9	-0.2	-1.9	3.7	-4.6	-2.9	5.6	-5.7	
起業する	3.9	4.1	4.1	-2.2	-2.7	-2.2	1.4	1.6	-0.4	-0.2	6.8	3.4	-0.2	-0.1	-3.9	-0.4	-2.6	1.6	-2.1	
従来通りの働き方を変える必要はない	10.0	-3.8	-5.0	-6.6	2.3	1.3	-2.1	-3.9	0.9	1.3	7.9	-4.5	4.2	-4.2	-6.0	-6.5	2.0	-6.9	-2.3	
その他	2.6	0.1	-1.6	-2.6	-1.4	-0.5	4.0	-0.2	-0.4	0.1	-0.8	1.0	-1.7	-0.6	-2.6	3.2	2.7	-0.3	0.5	
無回答	8.2	-7.3	-8.2	-8.2	-7.0	3.1	7.6	-4.6	-0.4	-7.6	-2.9	-3.2	-4.1	4.1	-3.2	6.9	19.8	-6.7	16.4	

## 7. 男女共同参画社会に必要な施策について

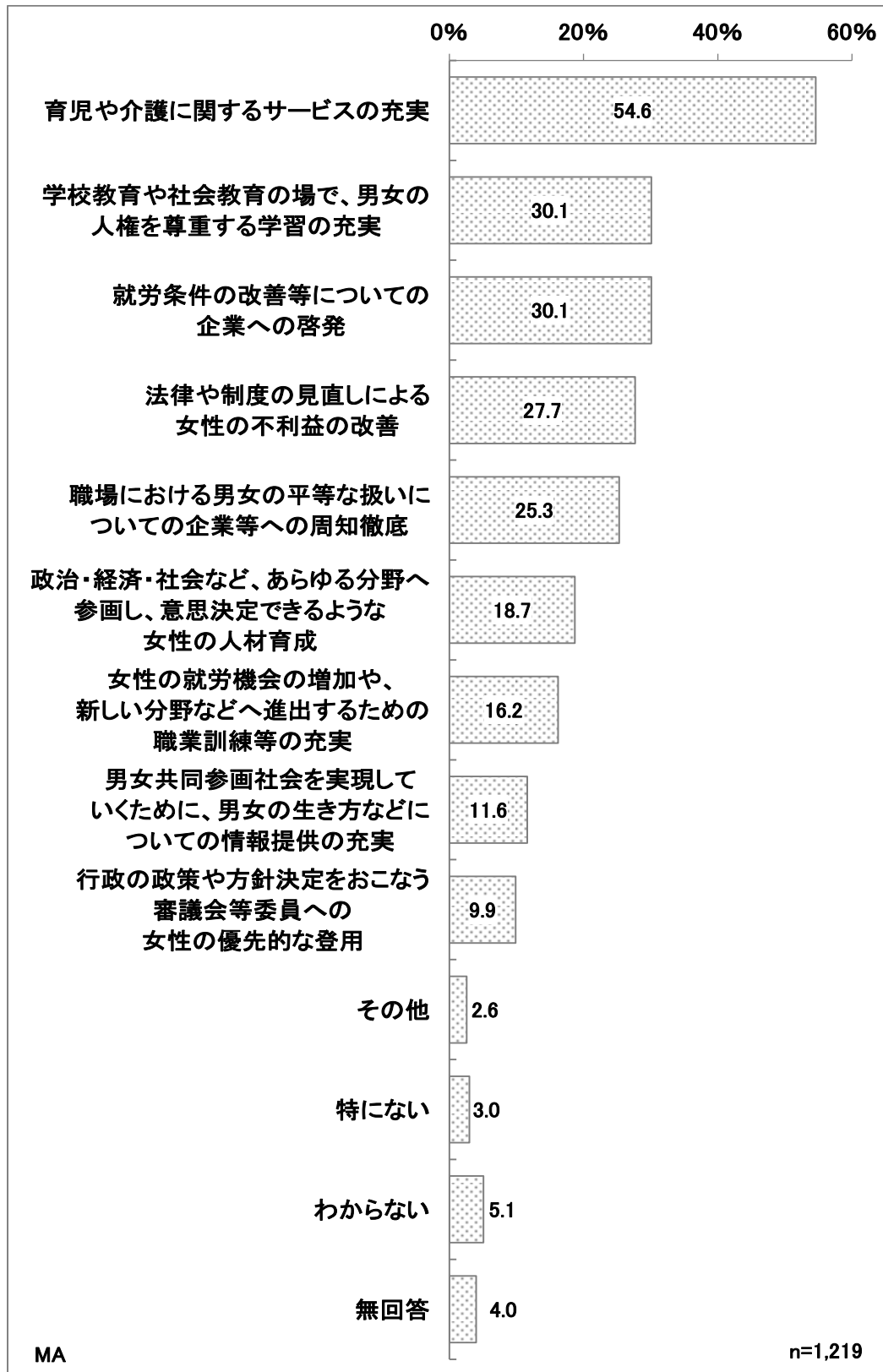
### 問 42 男女共同参画社会の実現に向けて行政の取組で何が必要だと思いますか。【〇は複数可】

- ・「育児や介護に関する施設・サービスの充実」(67.6%)が最も多く、「学校教育や社会教育で、男女の人権を尊重する教育の推進」(46.5%)、「職場等における男女平等への周知徹底」(41.2%)、「政治・経済・地域社会などのあらゆる分野において、女性の積極的な登用と配置の促進」(40.5%)と続く。



＜参考 平成 20 年調査＞

・選択肢が異なるため、参考として平成 20 年調査をみて見ると、「育児や介護に関する施設・サービスの充実」(54.6%) が最も多く、次いで「学校教育や社会教育で、男女の人権を尊重する教育の推進」(30.1%) が多い。「職場における男女の平等な扱いについての企業等への周知徹底」(25.3%) の順位が令和 3 年度調査に比べて低い。



【設問】 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、あなたは行政に対してどのようなことを望みますか。【3つまで選択】



■ 性年代別 問42 男女共同参画社会の実現に向けて行政の取組で必要だと思うこと（複数回答）

- ・「育児や介護に関する施設・サービスの充実」は、女性の20代以下、30代で全体より10ポイント以上高く、男女とも80代以上で低い。
- ・「学校教育や社会教育で、男女の人権を尊重する教育の推進」は、女性の80代以上、男性の20代以下で低い。
- ・「職場等における男女平等への周知徹底」は、女性の20代以下で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上と男性の20代以下で低い。
- ・「政治・経済・地域社会などのあらゆる分野において、女性の積極的な登用と配置の促進」は、男性の20代以下、30代で全体より10ポイント以上低い。
- ・「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」は、女性の20代以下で全体より10ポイント以上高く、女性の70代以上と男性の80代以上で低い。
- ・「多様な分野で活躍できる女性の人材育成」は、男性の20代以下で全体より10ポイント以上低い。
- ・「行政や企業の政策・方針を決定する場に女性が進出していくための環境整備」は、男性の30代で全体より10ポイント以上低い。
- ・「DV被害などの相談窓口や被害者のための支援の充実」は、女性の20代以下と男性の60代で全体より10ポイント以上高く、女性の80代以上、男性の20代以下、30代で低い。
- ・「性的少数者(またはLGBT等)への支援と理解の促進」は、女性の20代以下、30代、50代で全体より10ポイント以上高く、70代以上で低い。
- ・「ワーク・ライフ・バランスの啓発」は、女性の20代以下、30代、男性の30代で全体より10ポイント以上高く、男女とも80代以上で低い。
- ・「地域活動への男女共同参画社会の促進」は男性の70代で全体より10ポイント以上高い。
- ・「地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実」は、女性の30代で全体より10ポイント以上高い。

※全体は回答の%、性年代別は全体との差を表す(■:全体より高い/■:全体より低い)

問42 男女共同参画社会の実現に向けて行政の取組で必要だと思うこと	全体 (%)	性別			女性								男性							
		女性	男性	回答しない	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
n=	1,180	676	494	4	56	88	109	104	122	129	68	32	35	82	94	96	111	42		
育児や介護に関する施設・サービスの充実	67.6	2.6	-3.3	-17.6	12.7	15.3	4.8	7.4	0.4	0.6	-25.0	7.4	0.9	0.7	-3.8	-2.0	-8.2	-10.5		
学校教育や社会教育で、男女の人権を尊重する教育の推進	46.5	-0.5	1.0	-46.5	7.0	3.5	-2.5	5.4	2.7	-1.6	-21.5	-25.3	-3.7	3.5	1.3	2.4	5.7	-1.3		
職場等における男女平等への周知徹底	41.2	1.0	-1.3	-41.2	14.2	9.9	-7.2	8.8	-3.5	3.8	-17.7	-31.1	-9.8	1.5	2.4	0.5	1.2	-7.9		
政治・経済・地域社会などのあらゆる分野において、女性の積極的な登用と配置の促進	40.5	-0.1	0.4	-15.5	-4.8	1.5	-6.6	4.7	1.3	3.7	-5.2	-25.5	-17.7	1.0	7.4	-2.0	5.4	2.3		
法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善	36.9	-0.3	0.5	-11.9	11.3	7.4	1.6	6.3	-0.1	-11.4	-11.9	-2.6	-2.7	-1.6	3.5	9.9	-0.0	-15.5		
多様な分野で活躍できる女性の人材育成	36.9	0.8	-1.3	-11.9	7.7	4.0	-4.8	-2.3	2.4	4.9	-6.1	-25.1	-5.5	0.9	-1.8	0.6	2.7	-3.6		
行政や企業の政策・方針を決定する場に女性が進出していくための環境整備	34.2	-1.2	1.8	-9.2	-0.3	3.3	-4.9	2.3	1.0	-2.5	-9.2	-9.2	-11.4	2.3	4.1	2.2	9.0	-3.3		
DV被害などの相談窓口や被害者のための支援の充実	33.6	1.0	-1.1	-33.6	12.8	9.5	7.6	9.6	-5.0	-6.5	-18.9	-14.9	-13.6	-1.9	-0.7	10.1	0.6	-7.5		
性的少数者(またはLGBT等)への支援と理解の促進	27.1	1.6	-1.8	-27.1	21.1	17.2	5.0	11.3	-2.5	-11.6	-22.7	1.0	-7.1	-0.3	1.6	3.1	-6.4	-8.1		
ワーク・ライフ・バランスの啓発	25.1	0.2	-0.2	-25.1	12.4	14.7	-1.2	7.6	-3.0	-9.6	-13.3	9.3	12.1	6.6	4.7	-1.1	-9.8	-13.2		
男性に対する男女共同参画社会の啓発事業	21.9	-1.0	1.2	3.1	-5.8	6.5	-3.5	2.2	0.3	-1.7	-8.6	-3.1	-7.6	3.7	2.6	0.0	7.0	-7.6		
地域活動への男女共同参画社会の促進	18.9	-0.9	1.3	-18.9	-8.2	-3.0	-7.9	1.3	-2.5	7.5	3.2	-9.5	1.1	-9.1	6.6	-3.3	10.8	4.9		
地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実	18.1	0.8	-1.1	-18.1	-0.3	10.3	0.2	2.1	-3.4	0.5	-3.4	3.7	-6.7	2.6	2.1	-4.6	-1.9	-6.2		
わからない	6.2	0.2	-0.1	-6.2	-4.4	-6.2	3.0	-4.3	2.8	0.8	8.5	3.2	5.2	-1.3	3.4	-6.2	0.1	1.0		
無回答	4.5	-0.2	-0.0	20.5	-4.5	-3.4	-4.5	-1.6	1.2	-1.4	16.1	-1.4	-4.5	-3.3	-2.4	-0.3	0.9	12.2		

■ 子どもの有無、介護・看護が必要な家族、お子さんの年齢区分、職種、未就業者内訳別 問 42  
男女共同参画社会の実現に向けて行政の取組で必要だと思うこと（複数回答）

- ・「育児や介護に関する施設・サービスの充実」は、就学前の子どもがいる人、学生で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「学校教育や社会教育で、男女の人権を尊重する教育の推進」は、契約・派遣社員で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「職場等における男女平等への周知徹底」は、学生で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」は、契約・派遣社員、学生で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「多様な分野で活躍できる女性の人材育成」は、契約・派遣社員で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「DV被害などの相談窓口や被害者のための支援の充実」は、契約・派遣社員で全体より 10 ポイント以上高く、学生で低い。
- ・「性的少数者(またはLGBT等)への支援と理解の促進」は、契約・派遣社員、覚醒で全体より 10 ポイント以上高い。
- ・「ワーク・ライフ・バランスの啓発」は、就学前の子どもがいる人、学生で全体より 10 ポイント以上高い。

※全体は回答の%、区分別は全体との差を表す(■ :全体より高い/□ :全体より低い)

問42 男女共同参画社会の実現に向けて行政の取組で必要だと思うこと	全体 (%)	子どもの有無		お子さんの年齢区分					介護・看護が必要な家族			職種				未就業者			
		いない	いる	就学前	小学生	中学生	未成年 中学生以上	成人	同居している	同居していない	いない	正社員 正職員	自営業	契約派遣社員	アルバイト	主婦 主夫	学生	その他	不明
n=	1,180	310	843	112	100	58	81	603	76	165	916	328	56	55	218	292	25	86	75
育児や介護に関する施設・サービスの充実	67.6	-3.8	1.9	19.9	2.4	6.5	6.4	-2.3	-5.8	5.1	0.4	4.6	-3.3	1.5	2.6	3.9	2.4	-10.7	-22.3
学校教育や社会教育で、男女の人権を尊重する教育の推進	46.5	-1.7	0.9	5.3	-2.5	-8.6	-5.8	0.6	-7.1	2.0	0.6	1.3	7.0	15.3	-3.4	3.5	9.5	-10.5	-9.2
職場等における男女平等への周知徹底	41.2	1.4	-0.5	3.5	-2.2	-3.3	-9.1	-0.6	-8.3	1.2	0.6	-2.8	-1.9	4.3	-2.7	3.3	14.8	-1.7	2.8
政治・経済・地域社会などのあらゆる分野において、女性の積極的な登用と配置の促進	40.5	-2.1	1.2	2.3	-2.5	0.9	5.2	1.8	1.6	0.7	0.2	-1.8	-1.2	6.8	-1.1	4.0	-0.5	2.5	-1.8
法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善	36.9	5.3	-1.7	5.9	-9.9	-7.6	1.3	-1.8	2.5	7.3	-1.3	1.2	5.9	12.1	-1.6	-1.0	15.1	3.7	-22.9
多様な分野で活躍できる女性の人材育成	36.9	-3.1	1.1	7.7	-0.9	-4.2	-2.4	0.7	-2.7	-2.4	0.8	-1.9	0.6	10.3	-3.0	6.9	7.1	2.6	-5.6
行政や企業の政策・方針を決定する場に女性が進出していくための環境整備	34.2	1.9	-0.7	5.0	-3.2	-3.2	-3.4	-0.6	2.6	-0.3	0.4	-2.2	-2.1	2.1	-0.8	2.4	5.8	5.3	0.4
DV被害などの相談窓口や被害者のための支援の充実	33.6	2.5	-0.7	4.7	-0.6	-2.6	2.2	-1.1	3.2	1.5	-0.1	-0.7	5.6	11.8	0.8	0.6	-3.6	0.1	-7.0
性的少数者(またはLGBT等)への支援と理解の促進	27.1	5.1	-1.5	8.6	0.9	5.6	6.2	-4.6	4.5	6.8	-1.2	2.8	1.5	12.9	0.9	-1.8	28.9	-6.2	-22.5
ワーク・ライフ・バランスの啓発	25.1	6.2	-2.4	11.5	4.9	-2.7	0.8	-6.2	-5.3	2.8	0.1	7.8	-5.4	7.6	-3.1	-5.9	10.9	7.5	-3.1
男性に対する男女共同参画社会の啓発事業	21.9	-0.6	0.4	2.2	1.1	-2.9	-0.9	0.0	-3.4	-0.7	0.5	-0.2	-4.0	-1.9	0.2	2.1	2.1	1.4	-3.2
地域活動への男女共同参画社会の促進	18.9	-1.8	0.4	-2.8	-7.9	-6.8	-2.8	2.3	6.1	-0.1	-0.2	-4.6	6.1	1.1	-3.3	4.4	-2.9	0.9	9.1
地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実	18.1	3.5	-1.4	1.5	-0.1	4.3	-2.1	-2.4	5.5	0.0	-0.1	-2.0	6.9	-3.6	-2.1	3.4	9.9	0.5	-3.5
わからない	6.2	-0.1	-0.0	-2.6	-0.2	0.7	-0.0	1.1	-2.2	-2.6	0.3	-1.3	-0.8	-2.6	0.2	-0.0	-6.2	-1.5	3.1
無回答	4.5	-0.6	-0.1	-4.5	-2.5	-2.8	0.4	1.0	4.7	-0.9	-0.8	-3.0	-0.9	-2.7	-1.3	-0.0	-4.5	3.6	10.2

## 自由記述

問 43 座間市での男女共同参画社会実現のためのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

- ・ 256 件の記述があり、396 件の意見が出された。
- ・ 大分野別に見ると、「市政」(94 件)、「環境の整備」(49 件)、「男女共同参画の推進」(47 件)、「意識改革」(44 件)、「子育て」(34 件)、「教育」(26 件)、「アンケートについて」(25 件)、「女性の負担軽減」(24 件)、「啓発」(22 件)、「女性の起用」(11 件)の順である。
- ・ 中分類別に見ると、「市政(市政)」(48 件)、「職場環境(環境の整備)」(41 件)、「意識を変える(意識改革)」(38 件)の順である。

大分類	件数	中分類	件数
市政	94	市政	48
		市長	28
		施策	7
		市議会	6
		市の姿勢	3
		広報	1
		行政の支援	1
環境の整備	49	職場環境	41
		社会環境	8
男女共同参画の推進	47	目指す姿	16
		方策	14
		課題	4
		疑問	4
		その他	9
意識改革	44	意識を変える	38
		柔軟な考え方	3
		その他	3
子育て	34	育児支援	26
		産休・育休	4
		子育て環境の整備	1
		その他	3
教育	26	学校教育	16
		社会人教育	10
アンケートについて	25	アンケートについて	25
女性の負担軽減	24	女性の負担軽減	14
		介護負担	10
啓発	22	啓発	22
女性の起用	11	採用枠	8
		女性管理職起用	2
		その他	1
その他	20	その他	20
総計			396

大分類		中分類		細分類		
市政	94	市政	48	市政への不満・要望など	31	
				市政への期待・評価	17	
		市長	28	女性市長に期待	28	
		施策	7		パートナーシップ制度の充実	2
					制度を変える	2
					調査項目の全てが必要な行政の取組と思う	1
					法的同等性の整備を	1
				選択的夫婦別姓の実現	1	
		市議会	6	市議会議員のクオーター制度・男女同数	6	
市の姿勢	3		バランスの良い市政運営を	1		
			政策を根気よく続けていく	1		
		市の積極的な取り組み	1			
広報	1	市の施策・その効果を明らかにしてほしい	1			
行政の支援	1	家庭・学校の教育を行政が支援する	1			
環境の整備	49	職場環境	41	職場環境の整備・働きやすい環境の整備	14	
				能力を重視し適正に認められる	11	
				機会均等が重要	6	
				性差によらず適材適所に	3	
				男女での採用枠事体が性差別	2	
				育児や介護と仕事の両立ができる社会	2	
				介護離職後の再就職が不安	1	
				女性が働きたいと思う企業招致	1	
				適性・実績による登用がよい	1	
					1	
		社会環境	8	社会のサポート体制の充実	2	
				コミュニケーションが大切	2	
				女性が意見を出せる場	2	
				男性トイレをすべて個室にする	1	
		男女間の身体的有利不利等の差を埋める	1			
男女共同参画の推進	47	目指す姿	16	互いに協力し、助け合うことが大切	3	
				男性と女性の能力に差はない	2	
				誰もが平等で生活できる世の中	2	
				女性の活躍を増やす	2	
				女性の活躍ではなく、実力ある人が活躍すべき	2	
				男女共同参画は必然的なこと	1	
				広まるとよい	1	
				LGBTの方の活躍	1	
				女性だけの負担が重くなる事は避けてほしい	1	
				男女に関わらず困っている人に観点を向ける	1	
		方策	14	若者の意見もとり入れる	4	
				女性が自ら行動する	2	
				課題が多すぎるので、優先順位が必要	1	
				男女両方に対する施策を同時に行うべき	1	
				世の中の変動により流動的に考案する	1	
				根元的思索が必要	1	
課題	4	全ての分野で男女比5対5にしてみる	1			
		自由に出入り出来る場所が必要	1			
		コスト・パフォーマンスを考える	1			
		実体を知る力をやしなう	1			
		時間がかかる	2			
疑問	4	性差により同等になれない	1			
		女性の防災活動に不安	1			
その他	9	男女平等にして本当に良いのか	2			
		男女という言葉で目標を掲げる事に違和感	2			
		時代とともに進展している	5			
		少子化対策	2			
		障害者の議員、非常任の役職の検討	1			
		テレワーク普及で男性が地域や育児に参加	1			

大分類		中分類		細分類	
意識改革	44	意識を変える	38	市民・市職員の意識改革	10
				多様性の理解	6
				性差の表現がなくなることがよい	4
				意識を変える	4
				社会のリーダーの意識改革	4
				企業人の意識改革	2
				LGBTへの意識改善	2
				女性の意識を変える	2
				年寄り中心の考え方の軸の転換	1
				市職員の一般企業研修	1
				国民の意識が変わらないと実現しない	1
				女性の特別扱いを甘受してはいけない	1
		柔軟な考え方	3	役割は「枠」にはめこまずに考える	2
		柔軟な考え方ができるような人材	1		
その他	3	LGBTは認めるが難しい問題もある	3		
子育て	34	育児支援	26	保育所や学童保育を増やす・整備する	12
				育児支援	7
				安心して子育てができる社会	3
				ファミリーサポートの補助	1
				夜間保育環境の整備	1
				ひとり親への経済、社会支援	1
				子育ての経済支援	1
		産休・育休	4	男性の産休育休は女性の負担になる	2
				育児休暇の負担軽減・権利の乱用阻止	1
				産休・育休時に経済的に困らない社会	1
子育て環境の整備	1	小さい子供の遊ぶ所を増やして欲しい	1		
その他	3			共働きによる子供の成長への影響が心配	1
				負担軽減のためPTAを廃止	1
				男性保育士の育成	1
教育	26	学校教育	16	幼少期からの教育	13
				小中学校の女性校長を増やす	1
				学校教育への不満・要望	1
				教育現場での性的少数者生徒への配慮	1
		社会人教育	10	教育の充実(社会人も含む)	8
		若手の頃からの教育	2		
アンケートについて	25	アンケートについて	25	アンケートへの疑問・不満	19
				アンケート結果・考察・対策の公表	2
				差別の存在を前提としたアンケート	2
				アンケートを評価	2
女性の負担軽減	24	女性の負担軽減	14	男性の家事負担意識を高める	8
				子育てや家事、介護などの負担が大きい	5
		介護負担	10	介護サービスの充実・老人保健施設の充実	9
		介護負担の軽減	1		
啓発	22	啓発	22	情報発信の強化・啓発	17
				正しく理解する	4
				ワークライフバランスの有り方の広報	1
女性の起用	11	採用枠	8	数合わせの登用はおかしい	8
		女性管理職起用	2	女性の管理職の起用	1
				座間市職員の女性管理職起用	1
その他	20	その他	20	年功序列制度の廃止	1
				男女共同参画以外の意見	19
				流行に流されない	1
<b>総意見数</b>					<b>396</b>

意見提出数

256

# 調查票

# 令和3年度男女共同参画に関する市民意識調査

## 調査票

—ご協力をお願い—



日頃より市政にご協力いただきありがとうございます。

この調査は、市民の皆さまの男女共同参画社会に対する意識を把握し、次期「ざま男女共同参画プラン」策定や男女共同社会実現に向けての市政運営や政策立案の基礎資料として活用するために、実施します。

調査の実施に当たっては、18歳以上の市民の皆さまの中から、3,000人を無作為に選ばせていただきました。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和3年11月 座間市

### ● ご記入に当たってのお願い

- 1 この調査は、宛て名のご本人（代筆可）がお答えください。
- 2 筆記用具はどのようなものでも構いません。
- 3 各質問の指示（【○は1つ】【○は複数可】など）に従い、当てはまる番号を○で囲んでください。
- 4 「その他」を選択した場合は、（ ）内になるべく具体的な内容をお書きください。

※この調査は、無記名で回答していただくものであり、個人が特定されることはありません。また、回答結果は統計的に処理し、この調査の目的以外には使用しません。

### 【 返送方法 】

記入していただいた調査票は、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、令和3年12月20日（月）までに投函してください。

問合せ先：座間市役所（市民部広聴人権課）






〒252-8566 座間市緑ヶ丘一丁目1番1号

電話：046-252-8087（直通）

046-255-1111（代表）

あなた自身についてお伺いします。

【問1～7について当てはまるものに1つ○】

問1 性別	1 女性	2 男性	3 その他	4 回答しない
問2 年齢	1 10歳代 2 20歳代	3 30歳代 4 40歳代	5 50歳代 6 60歳代	7 70歳代 8 80歳以上
問3 結婚	1 結婚していない			
	2 結婚していたが離婚・死別した			
	3 結婚している（事実婚含む）	 1 共働きしている 2 共働きしていない 3 二人とも働いていない		
問4 世帯構成	1 単身（一人暮らし） 2 夫婦のみ（事実婚・パートナーを含む）	3 二世帯世帯（親と子供） 4 三世帯世帯（親と子ども世帯と孫） 5 その他（ ）		
問5 子ども	1 いない	2 いる  お子さんの年齢区分を教えてください（あてはまるものすべて） 1 就学前 2 小学生 3 中学生 4 中学卒業以上で未成年 5 成人		
問6 介護・看護が必要な家族	1 介護・看護が必要な家族と同居している			
	2 介護・看護が必要な家族がいるが同居はしていない			
	3 いない			
問7 就業	1 している	 1 正社員・正職員 2 会社などの役員 3 自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、家族従業者等） 4 契約・派遣社員 5 パート・アルバイト		
	2 していない	 1 主婦・主夫 2 学生 3 その他（ ）  今後の就業希望について教えてください。 1 すぐにでも働きたい 2 いずれ働きたい 3 働くつもりはない		



## 男女共同参画社会についてお伺いします。

問 8 次の言葉を知っているまたは、見たり、聞いたことがありますか。【〇は複数可】

- 1 男女共同参画社会（男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）
- 2 ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）
- 3 ダイバーシティ（多様性）
- 4 イクメン（子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のこと）
- 5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- 6 DV（配偶者等からの暴力）
- 7 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
- 8 SDGs（持続可能な開発目標）
- 9 セクシャル・ハラスメント（セクハラ）
- 10 デートDV（交際相手からの暴力）

問 9 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて、あなたはどのように考えますか。【〇は1つ】

- |              |              |         |
|--------------|--------------|---------|
| 1 反対         | 3 賛成         | 5 わからない |
| 2 どちらかといえば反対 | 4 どちらかといえば賛成 |         |

問 10 問 9 で「1 反対」または「2 どちらかといえば反対」を選択された方に伺います。  
その理由は次のどれですか。【〇は1つ】

- 1 生まれつき男女の役割は決められているものではないから
- 2 従来の経験や習慣では、押し量れない状況となっているから
- 3 現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから
- 4 一般に、家事時間が減って自由時間が増えたから
- 5 女性も仕事に就くことは当たり前のことだから
- 6 その他（ ）

問 11 問 9 で「3 賛成」または「4 どちらかといえば賛成」を選択された方に伺います。  
その理由は次のどれですか。【〇は1つ】

- 1 それが男女それぞれの生まれつきの特性だから
- 2 従来の経験や習慣から
- 3 子供を育てるには、女性が家庭にいたほうが良いから
- 4 女性は仕事をもっても不利な条件に置かれているから
- 5 その他（ ）

問 12 女性が職業を持つことについて、あなたの考えに近いものを次の中から一つだけ選択してください。【〇は1つ】

- 1 ずっと職業を持っている方がよい
- 2 結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい
- 3 子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい
- 4 子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい
- 5 女性は職業を持たない方がよい
- 6 わからない

問 13 今の社会は女性にとって、働きやすい環境であると思いますか。【〇は1つ】

- 1 働きやすい
- 2 やや働きやすい
- 3 やや働きにくい
- 4 働きにくい
- 5 どちらともいえない

問 14 問 13 で3、4と答えた方にお伺いします。女性が働きやすい環境になるには、どのような取組や支援が必要だと思えますか。【〇は複数可】

- 1 保育・介護のための施設やサービスの充実
- 2 ワーク・ライフ・バランスに対する上司や職場の理解
- 3 再雇用制度の充実
- 4 求人情報の提供、資格支援などの再就職の技能訓練の充実
- 5 仕事の分担など、職場での男女平等の推進
- 6 男女問わず、介護・育児休業制度の定着と支援体制の整備
- 7 パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備
- 8 男性の地域社会や家庭生活への積極的な参加の啓発
- 9 男女格差のない労働条件の推進
- 10 時差出勤、テレワーク<sup>(※)</sup>などの多様な働き方の導入
- 11 保育サービスなどの子育て支援の充実
- 12 わからない

(※) テレワークとは

情報通信技術を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方（在宅勤務等）

## 仕事と家庭の両立についてお伺いします。

問 15 あなたの家庭（単身者を除く）では次における家庭の仕事について、主に現在誰が担っていますか。【それぞれ、あてはまる番号に○】

	主に夫	主に妻	夫婦で協力・分担	夫婦以外の家族	家族で交代・分担	家族以外の人、またはサービスを利用	わからない	あてはまらない
(1) 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	7	8
(2) 食事の支度、片付け	1	2	3	4	5	6	7	8
(3) 育児	1	2	3	4	5	6	7	8
(4) 介護・看護	1	2	3	4	5	6	7	8
(5) 自治会・町内会への参加	1	2	3	4	5	6	7	8

問 16 あなたは、次における家庭の仕事について、主に誰が担当するのが、一番望ましいと考えますか。すべての方がお答えください。【それぞれ、あてはまる番号に○】

	主に夫	主に妻	夫婦で協力・分担	夫婦以外の家族	家族で交代・分担	家族以外の人、またはサービスを利用	わからない
(1) 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	7
(2) 食事の支度、片付け	1	2	3	4	5	6	7
(3) 育児	1	2	3	4	5	6	7
(4) 介護・看護	1	2	3	4	5	6	7
(5) 自治会・町内会への参加	1	2	3	4	5	6	7

問 17 あなた自身の「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）<sup>(※)</sup>」はどの程度、実現されていますか。【〇は1つ】

- 1 仕事と生活の調和がとれている
- 2 どちらかといえば仕事と生活の調和がとれている
- 3 どちらかといえば仕事と生活の調和がとれていない
- 4 仕事と生活の調和はとれていない

(※) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは  
だれもが、仕事、家庭生活、地域社会、自己実現など、様々な活動について自らが希望する調和のとれた暮らしができる社会

問 18 男女ともに育児休暇・介護休暇の取得率を上げるにはどのような対策が必要だと思いますか。【〇は複数可】

- 1 休業中の経済的な保障の充実
- 2 男女がともに育児・介護するべきだという考え方の普及
- 3 職場内、上司、事業主の理解
- 4 休業期間の延長
- 5 休業後、スムーズに介護サービス・保育所等を利用できる体制の整備
- 6 短時間勤務制度等、休業後に復帰しやすい体制の整備
- 7 育児休暇・介護休暇制度についての普及啓発
- 8 わからない



## 女性の活躍推進についてお伺いします。

問 19 国では「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位<sup>(※)</sup>に女性が占める割合を30%程度にする」という目標を掲げていましたが、そのことを知っていましたか。【〇は1つ】

- |         |        |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

(※)「指導的地位」の定義

(1) 議会議員、(2) 法人・団体等における課長相当職以上の者、(3) 専門的・技術的な職業のうち特に専門性が高い職業に従事する者

問 20 あなたは、政治・経済・地域などのあらゆる分野で女性のリーダーが少ない理由について、あなたの考えとして近いものを選択してください。【〇は複数可】

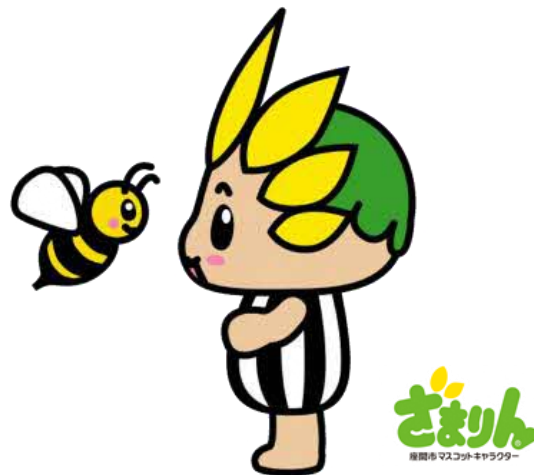
- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 リーダーには男性の方が向いているという考え方が根強いから        |
| 2 政治・経済・地域等で女性がリーダーになれる研修制度等が不足しているから |
| 3 家庭の支援が十分ではないから                      |
| 4 経営者や周囲の人の理解が不足しているから                |
| 5 女性のリーダーをサポートできる働き方や福利厚生が充実していないから   |
| 6 女性が責任ある地位に就きたがらないから                 |

問 21 女性が増えた方が良いと思う職業や役職はなんですか。【〇は複数可】

- |                            |
|----------------------------|
| 1 国会議員・地方議会議員              |
| 2 企業の管理職                   |
| 3 閣僚（国務大臣）、都道府県・市（区）町村の首長  |
| 4 小中学校・高校の教頭、副校長、校長        |
| 5 国家公務員・地方公務員の管理職          |
| 6 医師・歯科医師                  |
| 7 技術者・研究者                  |
| 8 自治会・町内会長                 |
| 9 裁判官・検察官・弁護士              |
| 10 スポーツ指導者・監督              |
| 11 独立行政法人・公益財団法人などの各種団体の役員 |
| 12 地方自治体の各種審議会の委員          |
| 13 その他（ )                  |

問 22 あらゆる分野において女性の参画が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響があると思いますか。【〇は複数可】

- 1 人材・労働力が確保され、社会全体に活力を与えることができる
- 2 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
- 3 各分野に女性の声が反映されやくなる
- 4 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
- 5 男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる
- 6 労働時間の短縮、テレワークなどの働き方の見直しが進む
- 7 男性の家事・育児・介護などへの積極的な参加が増える
- 8 会社の業務に支障が出たり、男性が活躍しづらくなる
- 9 保育・介護サービスなどへの公的サービスへの必要性が増大し、家計負担や公的負担が増大する
- 10 わからない
- 11 その他 ( )



## 性の多様性についてお伺いします。

問 23 性的少数者（またはLGBT等）という言葉を知っていますか。【〇は1つ】

- |         |        |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問 24 今までに、自分や身近な人の身体の性や心の性、または性的指向（好きになる性）に悩んだり、あなたの周りに悩んでいる人はいましたか。【〇は複数可】

- |                              |
|------------------------------|
| 1 自分が悩んだことがある、あるいは悩んでいる      |
| 2 知人や家族が悩んでいたことがある、あるいは悩んでいる |
| 3 特にない                       |

問 25 性的少数者（またはLGBT等）の方々にとって、今の社会は生活しづらいと思いますか。【〇は1つ】

- |              |                |         |
|--------------|----------------|---------|
| 1 思う         | 3 どちらかといえば思わない | 5 わからない |
| 2 どちらかといえば思う | 4 思わない         |         |



問 26 問 25 で「1 思う」「2 どちらかといえば思う」と答えた方にお伺いします。それは、どのような理由からですか。【〇は複数可】

- |  |
|--|
| 1 いじめ（悪口やいやがらせ）や差別等を受けているから                  |
| 2 自らが認識する性とは異なる性のふるまい（服装、言葉遣いなど）を強要されるから     |
| 3 性別で区分された設備（トイレ、更衣室など）を使いづらいから              |
| 4 書類等で性別の記入を強要されているから                        |
| 5 家族や友人等に相談しづらい状況にあるから                       |
| 6 パートナーとの関係を法的に認めてもらえないから                    |
| 7 アウティング（本人の秘密を、本人の同意なく他人に伝えること）に対しての不安があるから |
| 8 行政機関などの相談・支援体制が不十分だから                      |
| 9 性的少数者のことを理解されていないから                        |
| 10 その他（<br>）                                 |







**問 33 DV（配偶者等からの暴力）の被害対策に必要なだと思うことはなんですか。【○は複数可】**

- 1 被害者が早期に相談できる、身近な窓口の増設
- 2 DV（配偶者等からの暴力）を防止するための意識啓発の推進
- 3 家庭や職場等で、男女は平等であることの教育の推進
- 4 被害者のための保護施設の整備
- 5 加害者が相談できる、身近な窓口の設置
- 6 その他（ ）

**問 34 SNS<sup>(※1)</sup>等を利用して、性的暴力、ソーシャルメディア・ハラスメント<sup>(※2)</sup>、労働の強要等の被害にあったことはありますか。【○は1つ】**

- |      |      |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

(※1) SNSとは

ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービス

(※2) ソーシャルメディア・ハラスメントとは

パワーハラスメントの一種とされ、職場の上下関係を背景にして行われるSNSでの嫌がらせ行為を指す言葉

**問 35 SNS等を利用して、性的暴力、ソーシャルメディア・ハラスメント、労働の強要等の被害にあった場合、誰に相談しますか。【○は1つ】**

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1 親族        | 5 誰にも相談しない |
| 2 友人        | 6 わからない    |
| 3 会社の同僚     | 7 その他（ ）   |
| 4 相談機関・公的機関 |            |

**問 36 SNS等の被害対策に必要なだと思うことはなんですか。【○は複数可】**

- 1 被害者が早期に相談できる、身近な窓口の設置
- 2 性暴力等を防止するための意識啓発の推進
- 3 家庭や職場等で、人権尊重の教育の推進
- 4 SNSの正しい利用方法についての学習機会の充実
- 5 その他（ ）

**新型コロナウイルス感染症拡大による生活環境の変化についてお伺いします。**

問 37 あなたは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により仕事を解雇されたり、就業形態が変わりましたか。【〇は1つ】

1 変わっていない

2 変わった



問 38 問 37「2 変わった」と選択された方にお伺いします。以前の就業形態を選択してください。【〇は1つ】

1 正社員・正規職員

5 自営業（農林業、商工業、サービス業、家族従業者等）

2 契約・派遣社員

6 その他（ ）

3 パート・アルバイト

4 会社などの役員

問 39 現在、仕事をされている方にお伺いします。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたの働き方に変化はありましたか。【〇は複数可】

1 在宅勤務が増えた

2 テレワークが増えた

3 時差出勤が増えた

4 労働時間が増えた

5 労働時間が減った

6 変わらない

7 その他（ ）

**問 40 新型コロナウイルス感染症拡大の影響前と比べて、あなたの生活や行動、心身に変化はありますか。【○は複数可】**

- 1 家事の負担が増えた
- 2 家事の負担が減った
- 3 子どもを叱ることが増えた
- 4 子ども叱ることが減った
- 5 配偶者・パートナーとの関係が悪くなった
- 6 配偶者・パートナーとの関係が良くなった
- 7 生活に対する不安を抱えている
- 8 感染への不安をかかえている
- 9 人との交流機会が減っている
- 10 特に変化はない
- 11 その他 ( )

**問 41 新型コロナウイルス感染症の収束後であっても、今後どのような働き方が重要だと思いますか。【○は複数可】**

- 1 テレワーク、時差出勤などの柔軟な働き方の導入
- 2 男女とも子育てや介護をしながら働きやすい職場環境づくり
- 3 通勤時間の短い企業等に就職や転職をしたり、勤務地を変更する
- 4 起業する
- 5 従来通りの働き方を変える必要はない
- 6 その他 ( )

## 男女共同参画社会に必要な施策についてお伺いします。

問 42 男女共同参画社会の実現に向けて行政の取組で何が必要だと思いますか。【〇は複数可】

- 1 育児や介護に関する施設・サービスの充実
- 2 学校教育や社会教育で、男女の人権を尊重する教育の推進
- 3 法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善
- 4 職場等における男女平等への周知徹底
- 5 多様な分野で活躍できる女性の人材育成
- 6 地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実
- 7 DV被害などの相談窓口や被害者のための支援の充実
- 8 男性に対する男女共同参画社会の啓発事業
- 9 地域活動への男女共同参画社会の促進
- 10 ワーク・ライフ・バランスの啓発
- 11 性的少数者(またはLGBT等)への支援と理解の促進
- 12 行政や企業の政策・方針を決定する場に女性が進出していくための環境整備
- 13 政治・経済・地域社会などのあらゆる分野において、女性の積極的な登用と配置の促進
- 14 わからない

## 最後に、全体を通した自由な意見をお聞かせください。

問 43 座間市での男女共同参画社会実現のためのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

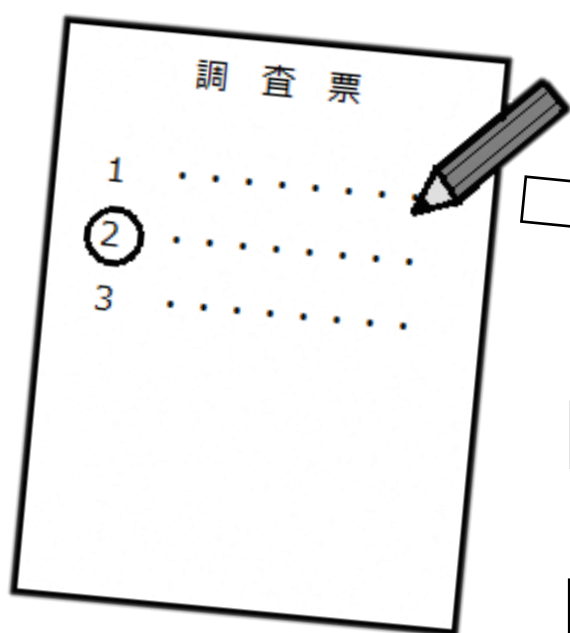
調査にご協力いただきありがとうございました。

記入していただいた調査票は、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、令和3年12月20日（月）までに投函してください。

市民の皆さまのご意見やご要望を市政に反映するために  
調査にご協力をお願いします。

① 無記名で、調査票に回答

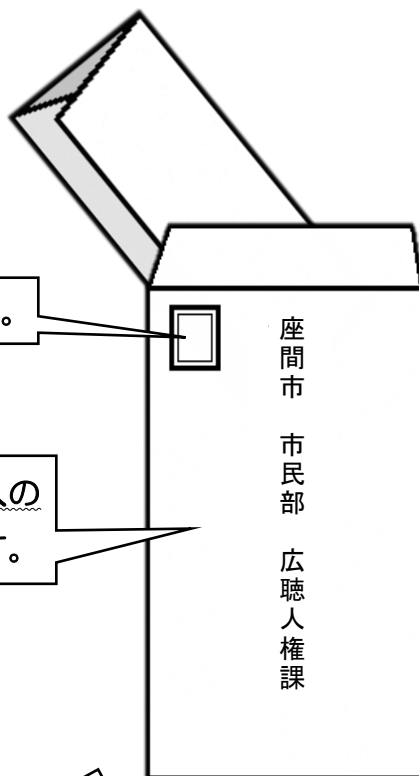
各質問のあてはまる番号を○で囲んでください。



② この調査票を、そのまま三つ折りにして  
同封の返信用封筒へ

切手は不要です。

宛て名や差出人の  
記入も不要です。



令和3年12月20日（月）までに  
投函してください。



令和3年度  
男女共同参画に関する市民意識調査  
報告書

発行日：令和4年3月

発行者：座間市

編集：座間市市民部広聴人権課

郵便 252-8566 座間市緑ヶ丘一丁目1番1号

電話 046-255-1111（代表）

調査実施：株式会社 地域環境計画

郵便 220-0005 横浜市西区南幸2丁目9番9号

電話 045-311-3546